

大田区政に関する世論調査

平成27年7月実施

大 田 区

今後の区政運営のために

大田区は、平成 20 年 10 月に「大田区基本構想」を策定し、20 年後のめざすべき将来像を「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」としています。この将来像を実現するため、平成 21 年 3 月に「おおた未来プラン 10 年」、平成 26 年 3 月に「おおた未来プラン 10 年（後期）」を策定し、さまざまな施策を推進しております。

区は、将来像の実現に向けて着実に歩みを進めるために、区民の皆様のご意見・ご要望を的確に把握していくことが重要であると考えております。

この「大田区政に関する世論調査」は、広聴事業のひとつとして隔年で実施していましたが、今回から毎年実施といたしました。35 回目となる今回の調査では、「定住意向」、「生活環境の満足度」、「特に力を入れてほしい区の施策」など経年的に変化を把握するために毎回調査している項目に加え、「東京オリンピック・パラリンピック大会」、「国際交流」、「観光」、「防犯対策」などの項目についても調査いたしました。

調査の結果は、「おおた未来プラン 10 年（後期）」の中で、各施策のモノサシ（指標）に示した目標値の達成度の把握や、今後の区政運営のための貴重な資料として活用してまいります。

「大田区政に関する世論調査」にご協力くださった区民の皆様に、改めて厚くお礼申し上げます。

平成 27 年 12 月

大田区長 松原 忠義

I 調査の概要

1. 調査の目的	3
2. 調査項目	3
3. 調査の設計	3
4. 回収の結果	3
5. この報告書の見方	4
6. 標本誤差について	4
7. 調査対象者の抽出	6

II 調査結果の概要

1. 回答者の属性	11
2. 質問と回答	13

III 調査結果の分析

1. 定住性	31
(1) 居住開始時期	31
(2) 定住意向	34
(3) 住みたい理由	39
(4) 住んでいるまちが魅力的か	42
2. 暮らしやすさ	45
(1) 生活環境の満足度	45
(2) 住んでいるまちの暮らしやすさ	51

《基本目標1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち》

3. 健康に暮らせるまち	54
(1) 人生の最終段階まで安心して暮らしていくために重要なこと	54
4. バリアフリー・ユニバーサルデザイン	57
(1) 「バリアフリー」、「ユニバーサルデザイン」の認知度	57
(2) 「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を進めるために必要な区の 取組み	62
(3) 駅周辺のバリアフリー化	65
5. 生きがいと誇りをもって暮らせるまち	68
(1) この1年間に行った生涯学習	68
(2) 生涯学習を通じて身につけた知識・技能の活用	71

目 次

6. スポーツを通じて健康で豊かに暮らせるまち	73
(1) 東京オリンピック・パラリンピック大会が身近になってきたと感じているか	73
(2) 東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて区に期待する取組み	75
(3) この1年間の運動・スポーツ活動の頻度	78
7. 安定した暮らしと人権	80
(1) 男女の地位平等	80
≪基本目標2 まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市≫	
8. 潤いとやすらぎのあるまち	87
(1) 身近な場所で水や緑に親しめると感じているか	87
9. 国際交流	90
(1) 大田区は国際交流、多文化共生が進んだまちと感じているか	90
(2) 文化事業の満足度	93
10. 大田区の観光	100
(1) 区外や外国人の方々に対して誇れるものやアピールしたいもの	100
(2) 観光を振興するうえで必要なこと	117
≪基本目標3 地域力と行政の連携がつくる人と地球に優しいまち≫	
11. 地域力の土台づくり	120
(1) 参加したことがある地域活動	120
12. 災害に強いまちづくり	124
(1) 大震災発生時に不安だと思えるもの	124
(2) 震災対策の実施状況	127
(3) 災害情報の入手手段	131
13. 防犯に強いまちづくり	134
(1) 力を入れてほしい防犯施策	134
14. 地球環境	137
(1) 「清潔で美しい大田区をつくる条例」の認知度	137
(2) 喫煙マナーを周知徹底するための取組み	140
(3) 「生物多様性」の認知度	142
(4) 「コアジサシ」の認知度	144
15. ごみのない循環のまち	146
(1) 紙ごみの分別状況	146

16. 区政への関心と要望	149
(1) 区の制度・施策・施設の認知度	149
(2) 区の情報を知るために利用する媒体	152
(3) 区の情報公開	155
(4) 施策要望	158
17. 自由意見	162
基本目標1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち	162
基本目標2 まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市	167
基本目標3 地域力と行政の連携がつくる人と地球に優しいまち	174
IV 調査結果の概観	
1. 定住性	185

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

大田区の各行政分野における区民の意向・要望・生活実態を把握するとともに、今後の大田区政の設計や方向性を検討する際の基礎資料とする。

2. 調査項目

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| (1) 定住性 | (9) 国際交流 |
| (2) 暮らしやすさ | (10) 大田区の観光 |
| (3) 健康に暮らせるまち | (11) 地域力の土台づくり |
| (4) バリアフリー・ユニバーサルデザイン | (12) 災害に強いまちづくり |
| (5) 生きがいと誇りをもって暮らせるまち | (13) 防犯に強いまちづくり |
| (6) スポーツを通じて健康で豊かに暮らせるまち | (14) 地球環境 |
| (7) 安定した暮らしと人権 | (15) ごみのない循環のまち |
| (8) 潤いとやすらぎのあるまち | (16) 区政への関心と要望 |

3. 調査の設計

- | | |
|----------|--|
| (1) 調査地域 | 大田区全域 |
| (2) 調査対象 | 大田区内に在住する満20歳以上の男女個人（外国人を含む） |
| (3) 標本数 | 2,000人 |
| (4) 抽出法 | 層化無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送調査。ただし、回収方法は郵送回収に加え、携帯電話およびパソコンを利用した電子申請からの回答も実施 |
| (6) 調査期間 | 平成27年7月17日～8月5日 |
| (7) 調査機関 | 株式会社エスピー研 |

4. 回収の結果

- | | | |
|-----------|--------------------|---------------|
| (1) 回収数 | 1,070人（電子申請118件含む） | （回収率 53.5%） |
| (2) 有効回収数 | 1,069人 | （有効回収率 53.5%） |

5. この報告書の見方

- (1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答率を合計しても100%にならず、1%の範囲で増減することがある。
- (2) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数nとして算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) クロス集計の図表では、分析軸となる質問(性別、性/年齢別等)に無回答だった人については掲載していない。そのため、各層のnの合計が総数とは一致しない場合がある。
- (4) 回答者数が30に満たないものについては、図示するに留め、この報告書の中では特に取りあげていない場合がある。
- (5) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。

6. 標本誤差について

この調査の基本誤差(サンプル誤差)はおおよそ下記の表のとおりである。基本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、①比率算出の基数(n)、及び②回答の比率(P)によって異なる。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差
N = 母集団数(大田区の満20歳以上の男女個人)
n = 比率算出の基数(サンプル数)
P = 回答の比率(%)

※後にかかげる表は $\frac{N - n}{N - 1} \div 1$ として算出した。本調査は層化を行っているため誤差はこの表よりやや小さくなる。

たとえば、回答者総数(1,069人)を100%とする比率について、ある質問の回答率が50%で

あった場合の標本誤差を計算すると、 $b = \pm 2 \sqrt{\frac{0.5 \times (1 - 0.5)}{1,069}} = \pm 3.1\%$ となる。

つまり、回答者総数(1,069人)を100%とする比率について、ある質問の回答率が50%の時、大田区民(満20歳以上の男女)の真の値は46.9%~53.1%の間にあると考えられる。ただし、信頼度は95%であるので、95%の確率で間違いないと判断できるという意味である。

nとPを上記の式に代入すれば、必要な標本誤差はすべて計算できる。

標本誤差早見表は下記の図のとおりである。

図1 標本誤差早見表 (信頼度 95%)

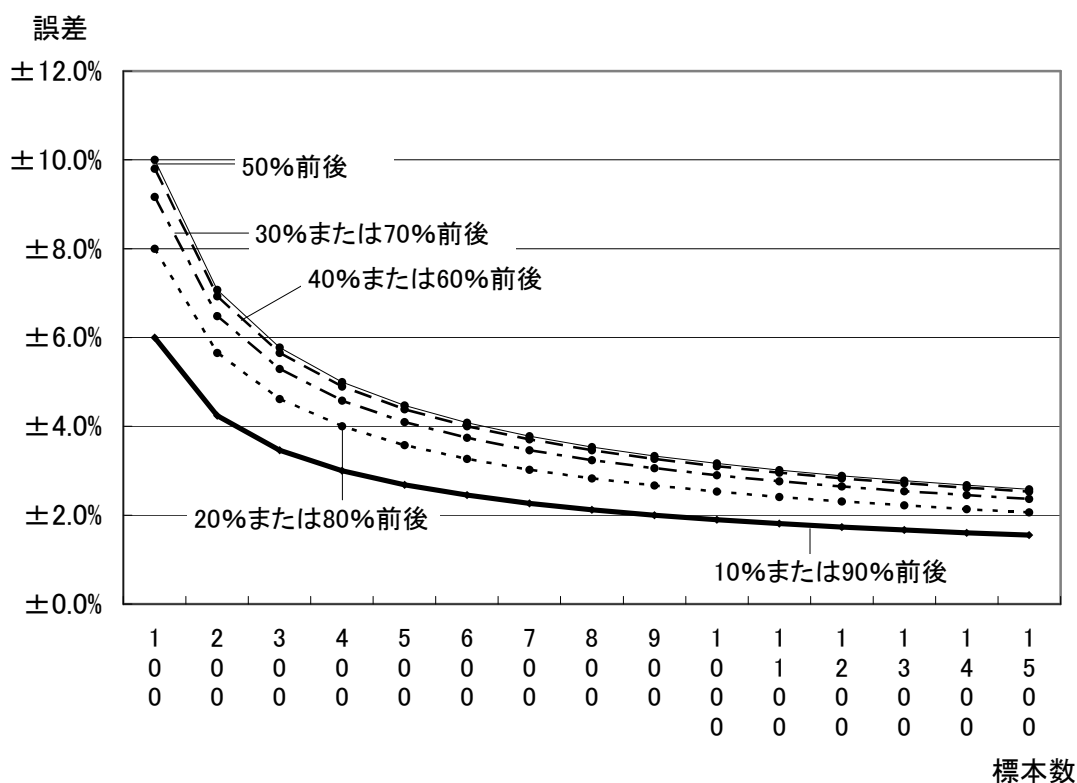


図2 本調査における標本誤差一覧 (信頼度 95%)

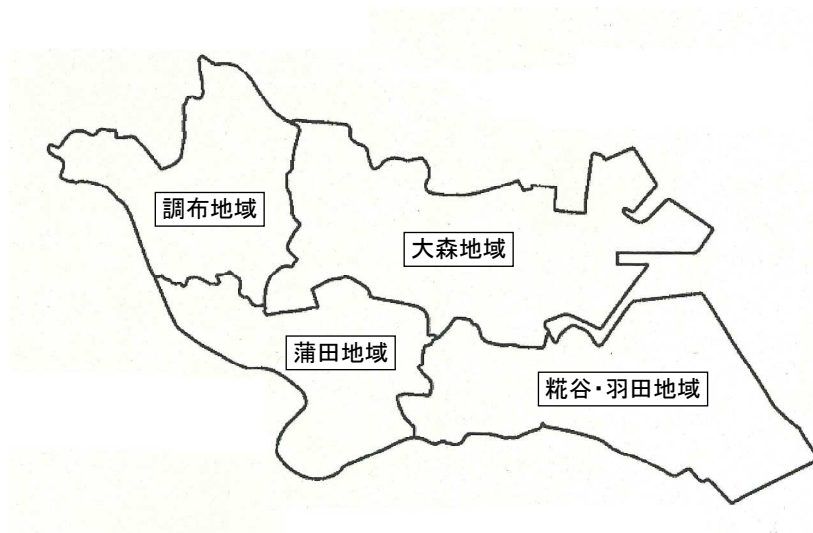
基数 (n)		回答の比率 (P)					
		10%または90%前後	20%または80%前後	30%または70%前後	40%または60%前後	50%前後	
全体		1,069	±1.8%	±2.4%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
地域別	大森地域	363	±3.1%	±4.2%	±4.8%	±5.1%	±5.2%
	調布地域	286	±3.5%	±4.7%	±5.4%	±5.8%	±5.9%
	蒲田地域	298	±3.5%	±4.6%	±5.3%	±5.7%	±5.8%
	糀谷・羽田地域	97	±6.1%	±8.1%	±9.3%	±9.9%	±10.2%
性別	男性	440	±2.9%	±3.8%	±4.4%	±4.7%	±4.8%
	女性	603	±2.4%	±3.3%	±3.7%	±4.0%	±4.1%
性/年代別	男性20代	46	±8.8%	±11.8%	±13.5%	±14.4%	±14.7%
	男性30代	67	±7.3%	±9.8%	±11.2%	±12.0%	±12.2%
	男性40代	92	±6.3%	±8.3%	±9.6%	±10.2%	±10.4%
	男性50代	83	±6.6%	±8.8%	±10.1%	±10.8%	±11.0%
	男性60代	83	±6.6%	±8.8%	±10.1%	±10.8%	±11.0%
	男性70歳以上	69	±7.2%	±9.6%	±11.0%	±11.8%	±12.0%
	女性20代	49	±8.6%	±11.4%	±13.1%	±14.0%	±14.3%
	女性30代	95	±6.2%	±8.2%	±9.4%	±10.1%	±10.3%
	女性40代	124	±5.4%	±7.2%	±8.2%	±8.8%	±9.0%
	女性50代	102	±5.9%	±7.9%	±9.1%	±9.7%	±9.9%
	女性60代	94	±6.2%	±8.3%	±9.5%	±10.1%	±10.3%
	女性70歳以上	137	±5.1%	±6.8%	±7.8%	±8.4%	±8.5%

7. 調査対象者の抽出

- (1) 母集団 大田区内に在住する満 20 歳以上の男女個人（外国人を含む）
（平成 27 年 4 月 1 日時点）
- (2) 抽出台帳 大田区住民基本台帳
- (3) 標本数 2,000
- (4) 抽出法 層化無作為抽出法
- (5) 地域区分 区内を、4 地域（大森、調布、蒲田、糎谷・羽田）に分類し、それぞれを層とした。

地域名	所管区域
大森地域	大森東特別出張所管内、大森西特別出張所管内、入新井特別出張所管内、馬込特別出張所管内、池上特別出張所管内、新井宿特別出張所管内
調布地域	嶺町特別出張所管内、田園調布特別出張所管内、鶯の木特別出張所管内、久が原特別出張所管内、雪谷特別出張所管内、千束特別出張所管内
蒲田地域	六郷特別出張所管内、矢口特別出張所管内、蒲田西特別出張所管内、蒲田東特別出張所管内
糎谷・羽田地域	糎谷特別出張所管内、羽田特別出張所管内

図 3 地域図



- (6) 標本数の配分 各地域における 20 歳以上の人口（平成 27 年 4 月 1 日現在）に応じて標本数を比例分配した。
- (7) 対象者抽出 1 地域ごとに、「(6)」で設定した標本数を無作為抽出した。

以上の結果、地域別の標本数及び有効回収数は次のとおりである。

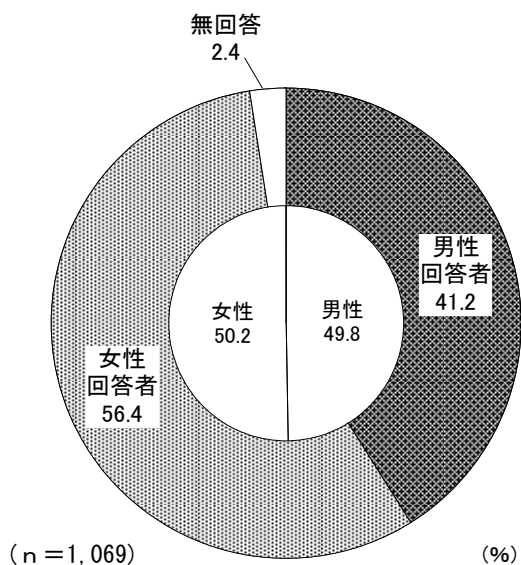
地域名	20歳以上人口(構成比)	標本数	有効回収数(率)
大森地域	200,897 (33.3%)	665	363 (54.6%)
調布地域	154,427 (25.6%)	512	286 (55.9%)
蒲田地域	182,871 (30.3%)	606	298 (49.2%)
糀谷・羽田地域	65,395 (10.8%)	217	97 (44.7%)
無 回 答			25
合 計	603,590 (100.0%)	2,000	1,069 (53.5%)

Ⅱ 調査結果の概要

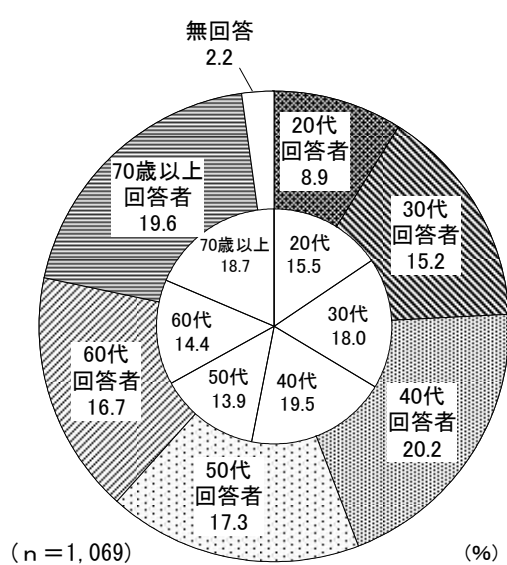
II 調査結果の概要

1. 回答者の属性

(1) 性別

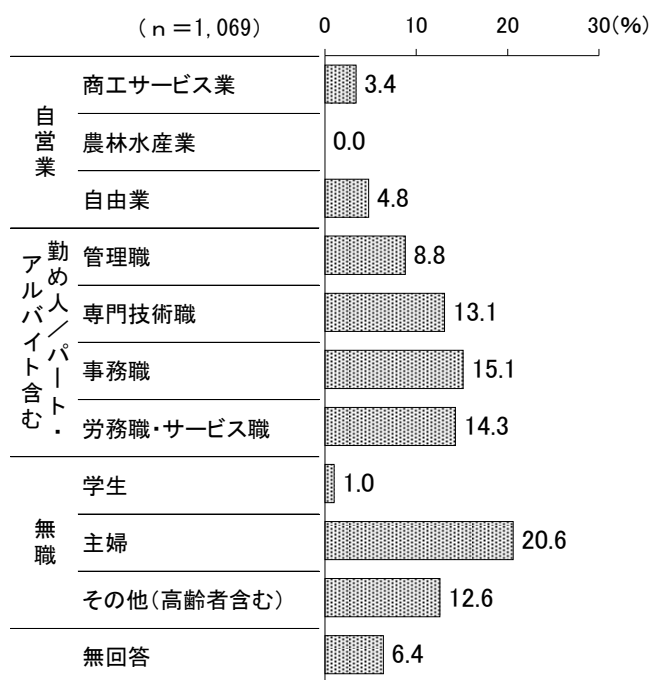


(2) 年齢

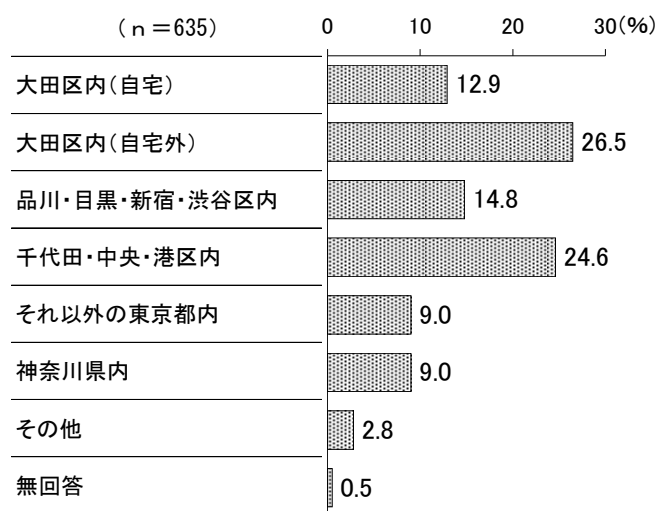


※内円は母集団の、外円は調査回答者の構成比を表している

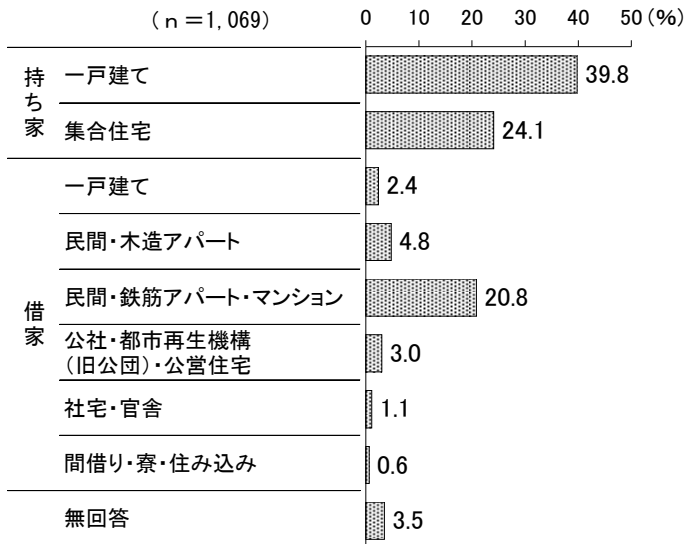
(3) 職業



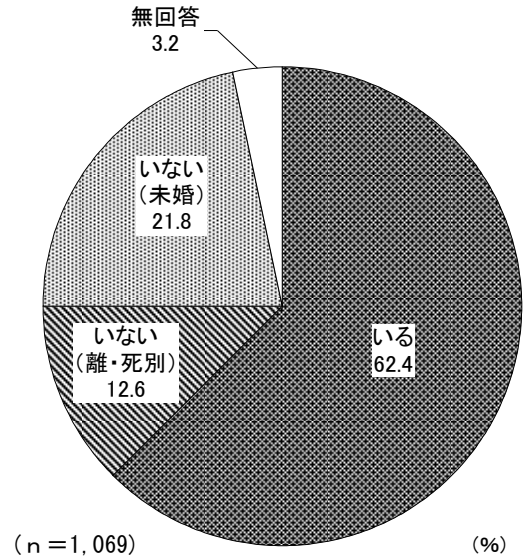
(4) 就業場所 (自営業・勤め人)



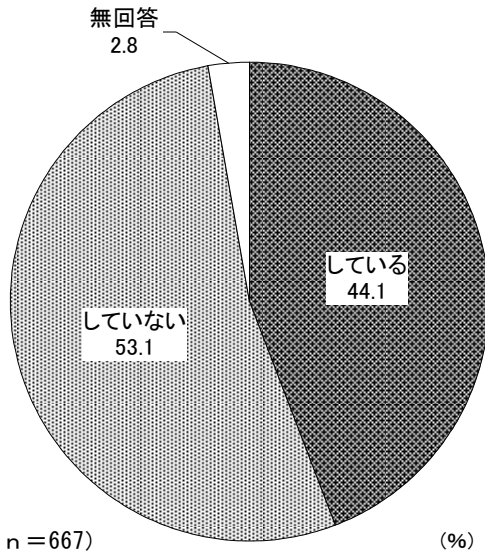
(5) 住居形態



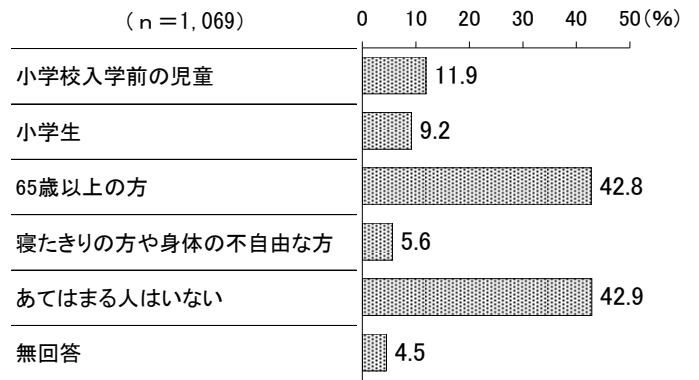
(6) 配偶者の有無



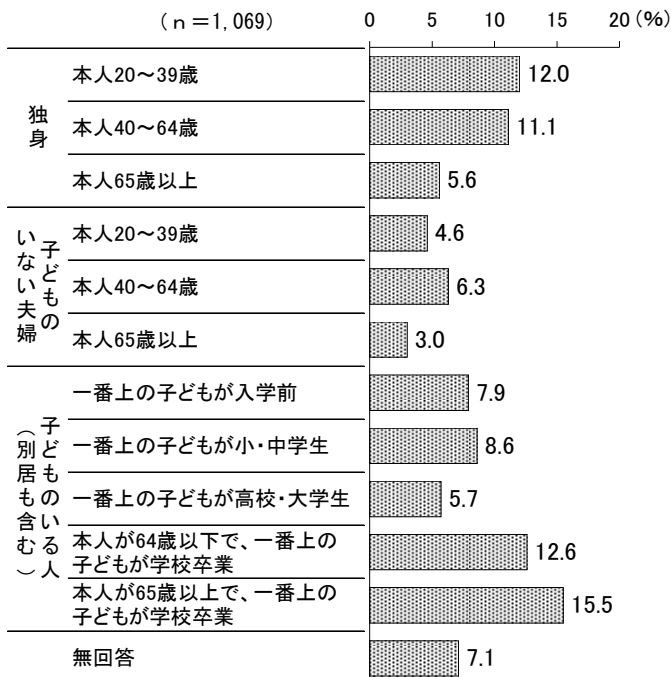
(7) 共働きの有無(配偶者「いる」)



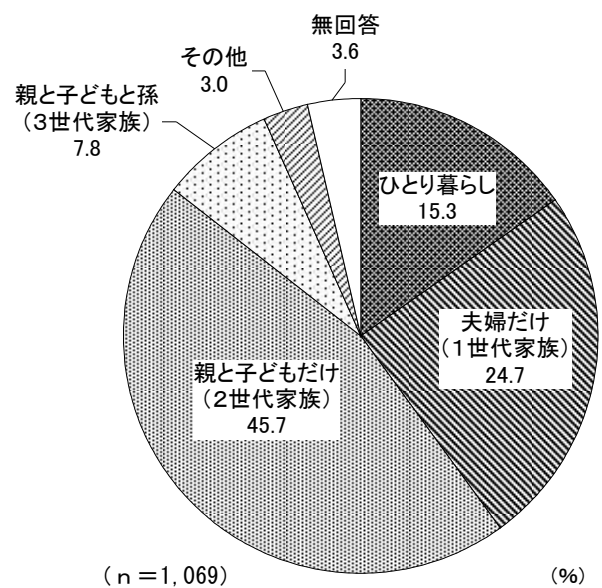
(8) 同居家族



(9) ライフステージ



(10) 家族構成



2. 質問と回答

<定住性>

居住開始時期

問1 あなたは、いつ頃から大田区に住んでいますか。(○は1つだけ)

n=1,069

1	昭和30年以前から	12.3%	6	平成13年～平成17年	8.0%
2	昭和31年～昭和50年	23.7%	7	平成18年～平成22年	8.7%
3	昭和51年～昭和60年	12.1%	8	平成23年～平成25年	9.4%
4	昭和61年～平成7年	12.1%	9	平成26年以降	7.4%
5	平成8年～平成12年	6.1%		無回答	0.4%

定住意向

問2 あなたは、これからも大田区に住みたいと思いますか。(○は1つだけ)

n=1,069

1	ずっと住み続けたい	47.3%	3	できれば大田区外へ移りたい	3.2%	} 問3へ
2	当分は住み続けたい	39.6%	4	大田区外へ移りたい	1.3%	
			5	わからない	8.0%	
				無回答	0.7%	

(問2で、「1」「2」と回答した方に)

問2-1 これからも大田区に住みたい理由は何ですか。(○はいくつでも)

n=929

1	出身地だから	27.3%	6	子どもの教育のため	5.9%
2	配偶者の出身地だから	12.7%	7	住環境がよいから	36.8%
3	仕事、通勤に都合が良いから	42.3%	8	その他(具体的に)	6.0%
4	土地、建物を持っているから	45.4%	9	わからない	0.3%
5	都心よりも家賃が安いから	5.9%		無回答	0.3%

問3 あなたは、住んでいるまちが魅力的であると感じていますか。(○は1つだけ)

n=1,069

1	感じている	27.1%	4	感じていない	2.4%
2	やや感じている	40.5%	5	どちらともいえない	15.1%
3	あまり感じていない	12.5%		無回答	2.3%

暮らしやすさ

問4 住んでいるまちの生活環境について、どの程度満足していますか。

(○はそれぞれ1つ) n=1,069

	満足している	ほぼ満足している	少し不満である	不満である	わからない	無回答
(1) 緑の多さ	14.2%	44.5%	22.9%	9.0%	2.5%	6.8%
(2) 道路の整備	11.2%	46.7%	22.6%	10.8%	2.4%	6.3%
(3) 公園や子どもの遊び場	9.4%	39.0%	22.1%	10.3%	13.2%	6.1%
(4) 通勤・通学の便	29.4%	45.4%	12.6%	3.5%	3.5%	5.7%
(5) 買い物の便	27.9%	46.0%	15.9%	5.7%	0.2%	4.3%
(6) 家並み、町並み	10.7%	50.5%	22.1%	7.3%	3.8%	5.6%
(7) 交通の安全性	9.6%	43.9%	28.2%	10.5%	2.8%	5.1%
(8) 災害時の安全性	5.3%	28.1%	28.7%	11.5%	21.1%	5.2%
(9) 周辺環境の状況	9.6%	52.4%	22.5%	6.9%	3.7%	4.9%
(10) 治安のよさ	14.0%	51.1%	19.1%	7.3%	3.6%	4.9%
(11) 医者や病院の便	21.9%	50.3%	16.3%	4.2%	2.9%	4.4%
(12) スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ	6.7%	34.4%	25.7%	12.0%	15.9%	5.2%
(13) あなたご自身の住宅事情	14.7%	46.2%	24.0%	9.4%	1.4%	4.3%
(14) 近所付き合い	9.4%	51.4%	14.6%	4.7%	15.4%	4.4%
(15) バリアフリー	5.0%	29.0%	26.9%	11.5%	22.6%	5.0%

問5 現在住んでいるまちの暮らしやすさを、どのように感じていますか。(○は1つだけ) n=1,069

1 とても暮らしやすいと感じている	9.4%	4	暮らしにくいと感じている	1.7%
2 暮らしやすいと感じている	67.8%	5	どちらともいえない	9.0%
3 あまり暮らしやすいと感じない	8.3%		無回答	3.7%

<基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち>

誰もが健康に暮らせるまちをつくります

問6 住み慣れた地域で、人生の最終段階まで安心して暮らしていくためには、何が重要だと思いますか。(〇はいくつでも) n=1,069

1	バランスの良い食生活を送ること	57.0%
2	日常的に適度な運動を行うこと	60.3%
3	町会やサークルなどを通じて、地域とのつながりがあること	38.1%
4	医療や介護に関する相談窓口が身近にあること	51.0%
5	高齢者福祉・介護サービスが充実していること	60.0%
6	診療所(かかりつけ医)が身近にあること	58.4%
7	高度な医療技術や専門性を有する病院が身近にあること	37.1%
8	その他(具体的に)	5.1%
	無回答	3.1%

ユニバーサルデザインのまちづくりを進めます

問7 「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」という言葉をご存知ですか。(〇はそれぞれ1つ)

(1) 「バリアフリー」

高齢者や障がいのある方が生活を営む上での障壁(バリア)を取り除く考え方 n=1,069

1	定義までよく理解している	33.8%	4	初めて聞いた言葉である	2.5%
2	定義はなんとなく理解している	45.7%		無回答	3.6%
3	聞いたことはあるが定義がよくわからない	14.5%			

(2) 「ユニバーサルデザイン」

バリアフリーの考え方を一歩進め、年齢、性別、国籍(言語)、個人の能力に関わらず、あらかじめできるだけ多くの人々が利用しやすいように生活環境を構築する考え方 n=1,069

1	定義までよく理解している	15.5%	4	初めて聞いた言葉である	23.3%
2	定義はなんとなく理解している	28.5%		無回答	3.6%
3	聞いたことはあるが定義がよくわからない	29.0%			

問8 バリアフリーやユニバーサルデザインの視点でまちづくりを進めるにあたり、広報や啓発活動で区としてどのような取り組みが必要だと思いますか。(〇はいくつでも) n=1,069

1	ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布	34.5%
2	広報誌、ホームページ、ケーブルテレビなどを利用したPR活動	27.4%
3	行政情報の入手のしやすさの向上	30.2%
4	行政相談窓口の一本化	25.2%
5	学校教育・社会教育の充実	34.0%
6	区の職員の意識啓発	29.7%
7	区民の意識啓発	30.7%
8	商店街などの事業主の意識啓発	26.8%
9	鉄道事業者の意識啓発	22.4%
10	高齢者や障がいのある方などの区民が交流できる場や機会の設置	27.0%
11	その他(具体的に)	3.0%
12	広報や啓発では特にない	5.0%
	無回答	4.3%

問9 駅周辺のバリアフリー化が進んだと感じていますか。(○は1つだけ)

n=1,069

1 感じている	14.2%	4 感じていない	7.0%
2 やや感じている	36.4%	5 どちらともいえない	8.2%
3 あまり感じていない	32.7%	無回答	1.4%

生きがいと誇りをもって暮らせるまちをつくります

問10 この1年間にどのような生涯学習の活動を行いましたか。(○はいくつでも)

n=1,069

※「生涯学習」とは、人々が生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校教育や区が行う講座などの学習機会に限らず、自ら進んで行う学習、文化、スポーツ、趣味、ボランティア活動などにおけるさまざまな学習活動のことをいいます。

1 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、園芸など)	31.0%
2 教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)	15.6%
3 社会問題に関するもの(社会・時事、国際、環境問題など)	8.0%
4 地域社会に関するもの(地域の歴史・自然・文化など)	5.1%
5 健康づくり・スポーツ	35.5%
6 家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、編み物など)	10.8%
7 子育て、教育に関するもの	10.6%
8 職業上必要な知識・技能・資格取得	14.7%
9 パソコンやインターネットの知識や技術	12.3%
10 ボランティア活動のために必要な知識や技能	3.7%
11 学校(高等・専門・各種学校、大学、大学院など)の正規課程での学習	4.9%
12 その他(具体的に)	1.6%
13 何もしていない → 問11へ	24.8%
無回答	3.6%

(問10で、「1」～「12」と回答した方に)

▶ 問10-1 生涯学習を通じて身につけた知識・技能を、どのように活かしていますか。

(○はいくつでも) n=765

1 自分の人生がより豊かになっている	48.1%
2 家庭・日常の生活に活かしている	32.8%
3 自分の健康を維持・増進している	46.0%
4 仕事や就職に活かしている	26.8%
5 地域や社会での活動に活かしている(学習・文化・スポーツ活動などの指導やボランティア活動など)	9.0%
6 その他(具体的に)	2.2%
7 活かしていない	1.7%
無回答	8.5%

スポーツ健康都市宣言にふさわしい、スポーツを通じて健康で豊かに暮らせるまちをつくります

問 11 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会の成功に向け、大田区は積極的に事業に取り組んでいますが、大会が身近になってきたと感じていますか。(○は1つだけ) n=1,069

1 感じている	4.8%	3 あまり感じていない	47.8%	5 どちらともいえない	5.1%
2 やや感じている	12.7%	4 感じていない	27.1%	無回答	2.5%

問 12 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて、大田区に期待する取組みを教えてください。(○はいくつでも) n=1,069

1 スポーツの振興(国際試合の誘致、障がい者スポーツの振興など)	18.0%
2 スポーツによる健康の増進(子どもの体力向上、高齢者の健康維持など)	34.1%
3 国際都市おおたの観光推進(訪日外国人受入環境の整備、観光情報センターなど)	24.4%
4 都市機能の向上(空港跡地の活用、新空港線の整備など)	34.1%
5 まちの魅力の向上 ー美しいまち おおたー(水辺環境の改善、ユニバーサルデザインの推進など)	38.1%
6 大会開催への協力(オリンピックレーンの無電柱化、オリンピック教育の推進など)	20.2%
7 開催気運の盛り上げ(イベントへのアスリート出演、パラリンピックの普及など)	12.5%
8 会場の誘致等(競技会場や事前キャンプの誘致、誘致に伴う施設の整備など)	11.9%
9 セキュリティ対策(来訪者にとり安全なまちづくりなど)	46.3%
10 その他(具体的に)	3.2%
11 特にない	11.2%
無回答	3.6%

問 13 この1年間に、どれくらいの頻度で運動・スポーツ活動をしましたか。
なお、運動には30分程度の散歩なども含まれます。(○は1つだけ)

n=1,069

1 週に1回以上	44.5%	3 年に数回	12.4%	無回答	1.6%
2 月に1~3回	22.3%	4 していない	19.2%		

安定した暮らしと人権を守ります

問 14 以下の分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(○はそれぞれ1つ) n=1,069

	女性が優遇 されている	やや女性が優遇 されている	平等に なっている	やや男性が優遇 されている	男性が優遇 されている	無回答
(1) 家庭生活	3.0%	10.9%	43.6%	28.8%	7.6%	6.2%
(2) 職場	1.4%	5.1%	28.7%	38.8%	15.2%	10.8%
(3) 教育の場	0.6%	3.1%	70.4%	11.3%	3.6%	10.9%
(4) 政治の場	0.6%	2.3%	16.9%	39.7%	32.4%	8.1%
(5) 法律や制度	1.3%	4.8%	43.5%	27.9%	13.2%	9.4%
(6) 社会通念や慣習	1.3%	3.5%	23.3%	45.7%	18.1%	8.2%

<基本目標2 まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市>

潤いとやすらぎのあるまちをつくりまします

問15 身近な場所で水や緑に親しめると感じていますか。(○は1つだけ)

n=1,069

1 感じている	17.5%	4 感じていない	10.1%
2 やや感じている	34.8%	5 どちらともいえない	7.7%
3 あまり感じていない	29.0%	無回答	0.9%

国際都市として交流を育みます

問16 大田区は国際交流、多文化共生が進んだまちと感じていますか。(○は1つだけ) n=1,069

※多文化共生：国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

1 感じている	4.1%	4 感じていない	16.5%
2 やや感じている	19.7%	5 どちらともいえない	16.1%
3 あまり感じていない	42.0%	無回答	1.6%

問17 区が行っている文化事業に関することについて、どの程度満足していますか。

(○はそれぞれ1つ) n=1,069

	満足している	やや満足している	やや不満である	不満である	わからない	無回答
(1) 区が行う区民参加型の文化事業 (例)郷土博物館の体験教室、大森 海苔のふるさと館での体験学習会等	4.0%	25.6%	9.6%	2.0%	53.0%	5.7%
(2) 区主催の美術、芸術、コンサート等の事業 (例)龍子記念館の特別展、区民ホールアブリコでのコンサート等	5.8%	32.2%	10.9%	3.6%	42.7%	4.9%
(3) 文化施設で開催される講演会や講習会などの催し	3.0%	22.3%	12.0%	2.5%	54.1%	6.2%
(4) 文化事業の <u>土日</u> での開催について	3.9%	22.1%	9.7%	3.9%	54.8%	5.5%
(5) 文化事業の <u>平日</u> での開催について	2.3%	16.6%	13.1%	3.6%	58.5%	6.0%
(6) 区ホームページ又は広報誌での文化事業に関する情報	3.3%	26.0%	12.3%	4.0%	49.1%	5.3%

大田区の観光を世界に発信します

問 18 以下の項目について、大田区で区外や外国人の方々に対して、誇れるもの、アピールしたいもの
だと思いませんか。(〇はそれぞれ1つ) n=1,069

	思う	やや思う	あまり思わない	思わない	わからない	無回答
(1) 公園・自然景観 (多摩川・洗足池などの水風景、池上梅園、桜坂などの花見風景など)	21.7%	46.8%	14.8%	4.5%	7.3%	5.0%
(2) まちなみ・建築 (田園調布などのまちなみなど)	10.5%	29.3%	33.7%	8.8%	13.1%	4.7%
(3) 歴史文化 (本門寺などの神社・仏閣、郷土博物館などの文化財、史跡など)	25.6%	47.2%	13.0%	2.8%	7.4%	3.9%
(4) 食べ物・食文化 (大森・蒲田駅周辺の居酒屋、B級グルメ、大森の海苔など)	11.9%	32.4%	32.8%	9.6%	9.3%	4.0%
(5) 交通網 (羽田空港、鉄道、バスなど)	26.6%	43.9%	14.6%	5.1%	5.2%	4.7%
(6) ものづくり・産業施設 (町工場などのものづくりのまちなど)	31.5%	38.7%	13.8%	3.1%	8.9%	3.9%
(7) 地域に密着した生活・文化 (黒湯温泉、地域のお祭り、商店街など)	13.8%	38.3%	25.9%	6.2%	11.8%	4.1%
(8) おもてなしの心・やさしさ	12.1%	29.7%	26.3%	8.3%	19.5%	4.2%

問 19 大田区の観光を振興するうえで必要なことは何だと思いませんか。もっとも必要だと思うことから3つまで順位をつけて、下の記入欄に番号を記入してください。 n=1,069

1位～3位					
までの累計	第1位	第2位	第3位		
45.0%	21.1%	13.5%	10.4%	1	主要観光エリアにおける観光案内所の設置
34.6%	9.6%	12.1%	13.0%	2	ボランティアガイドなどによる観光案内の充実
32.1%	9.4%	12.0%	10.7%	3	散策ルートやウォーキングイベントなどの充実
28.8%	8.2%	11.0%	9.5%	4	人が集まる駅前等での定期的な観光イベントの実施
29.5%	9.6%	11.0%	8.8%	5	SNSの活用などのインターネットでの情報発信
29.8%	7.0%	11.3%	11.5%	6	自由に回遊するための観光案内サインの充実
30.0%	12.2%	9.6%	8.2%	7	公衆無線LAN (Wi-Fi環境) の整備促進
20.7%	8.0%	5.0%	7.7%	8	大型観光施設等の誘致
3.6%	1.9%	0.7%	1.0%	9	その他 (具体的に)
6.6%	2.5%	0.8%	3.3%	10	特にない
10.3%	10.3%	13.0%	15.9%		無回答

第1位	第2位	第3位

＜基本目標3 地域力と行政の連携がつくる人と地球に優しいまち＞

地域力の土台づくりを進めます

問20 今まで、大田区内の地域活動に一度でも参加したことがありますか。参加したことのある活動をお答えください。(〇はいくつでも) n=1,069

1	清掃やリサイクル活動	14.4%
2	お祭りや地域行事	51.1%
3	文化・スポーツ・レクリエーション	18.7%
4	地域の防災訓練	21.0%
5	子育てや子どもの健全育成	9.4%
6	交通安全	14.3%
7	通学路や公園などで子どもを見守ったことや、地域安全・安心パトロールなどの活動	15.4%
8	高齢者や障がいのある方に対する支援	4.5%
9	地域のまちづくり	2.7%
10	国際交流・国際協力	1.9%
11	人権・平和	1.1%
12	募金	33.0%
13	献血	13.2%
14	学校、児童館などが開いた講座・教室や催し物	20.8%
15	自治会・町会活動	24.6%
16	P T A活動	18.7%
17	その他(具体的に)	1.0%
18	参加したことがない	23.3%
	無回答	4.0%

地域力を活かし、災害に強いまちづくりを進めます

問21 今後、東京に大震災が発生した場合、あなたが特に不安だと思うものは何ですか。

(〇は3つまで) n=1,069

1	火災の発生	62.8%	8	医療体制の確保	14.4%
2	建物の倒壊	45.6%	9	ガスもれ	4.5%
3	停電・断水・電話の不通	40.1%	10	家具の転倒	2.9%
4	食糧・水の確保	37.8%	11	その他(具体的に)	1.7%
5	家族の安否確認、情報取得手段	31.2%	12	特になし	0.4%
6	浸水・津波、地盤の液状化	18.7%		無回答	2.1%
7	避難場所・避難路の安全性、通行車両による道路の混乱	23.7%			

問 22 国の中央会議では、「自助※1」「共助※2」の重要性を踏まえて備蓄を推奨しています。あなたの家庭で、大地震に備えて普段から特に心がけていることは何ですか。

(○はいくつでも) n=1,069

※1「自助」とは、災害発生直後「自分の命と安全は自分で守ること」が防災の基本であり、自分が怪我をしなければ大切な家族を守ることができるということです。

※2「共助」とは、地域を守ることは自分や家族を守ることにつながるため、隣近所の協力や地域で支え合い、助け合うことが大事であるということです。

1	3日分以上の食糧の準備	24.8%
2	3日分未満の食糧の準備	30.9%
3	3日分以上の水の準備 (大人1人1日3ℓ)	27.6%
4	3日分未満の水の準備 (大人1人1日3ℓ)	28.8%
5	災害用(簡易)トイレの準備	19.4%
6	貴重品の持ち出し袋の用意	23.8%
7	家族との連絡方法の確認	32.6%
8	近所の人とのつきあい・声掛け	15.8%
9	タンスなどの大型家具の転倒防止対策	29.0%
10	避難方法・避難所・避難場所の把握	28.1%
11	ポリバケツやお風呂などの生活用水のためおき	22.4%
12	消火器や救急セットの用意	21.9%
13	防災訓練などへの定期的な参加	9.3%
14	屋根瓦・ブロック塀などの定期点検	2.1%
15	感電ブレーカーの設置	4.3%
16	その他(具体的に)	0.7%
17	特にない	11.9%
	無回答	2.3%

問 23 災害時に、災害情報を次のどの手段で入手しますか。(○はいくつでも)

n=1,069

1	区ホームページ	11.2%
2	区公式ツイッター	2.3%
3	区民安全・安心メール	8.7%
4	防災行政無線	16.6%
5	広報車	18.6%
6	家族・友人・知人・近所	37.0%
7	緊急速報メール(エリアメールなど)	48.6%
8	インターネット	46.4%
9	テレビ(ケーブルテレビ)	54.4%
10	ラジオ	43.2%
11	SNS(ツイッター、フェイスブックなど)	16.3%
12	その他(具体的に)	0.8%
	無回答	2.6%

地域力を活かし、防犯に強いまちづくりを進めます

問 24 犯罪被害に遭わないようにするための防犯施策として、区が今後、力を入れてほしいことは何ですか。(〇はいくつでも) n=1,069

1	「振り込め詐欺」防止の啓発活動	33.2%
2	「ひったくり」防止の用品配布や啓発活動	33.1%
3	「自転車盗難」防止の鍵かけ啓発活動や放置自転車撤去活動	21.2%
4	「街頭防犯カメラ」の設置補助	67.3%
5	「子どもの安全確保」のための「こどもSOSの家」の充実、不審者情報の提供活動	39.6%
6	通学路や公園での「パトロールの充実」	52.8%
7	「万引きをしないさせない」ための環境づくり	25.4%
8	その他(具体的に)	3.5%
	無回答	3.7%

地球環境をみんなで守り未来へ引き継ぎます

問 25 大田区では、環境美化を促進するために、「清潔で美しい大田区をつくる条例」を制定し、道路、公園、広場その他の公共の場所では歩行中に喫煙しないよう努めることを定めています。また、公共の場所に吸い殻などを捨てることを禁止しています。

(1) このことについて知っていますか。(〇は1つだけ) n=1,069

1	知っている	53.7%	2	知らない	44.1%
				無回答	2.2%

(2) こうした喫煙マナーを周知徹底するために、区では以下の取組みを行っています。あなたがご存知なものを挙げてください。(〇はいくつでも) n=1,069

1	喫煙マナー啓発指導員による巡回	19.5%
2	喫煙マナー啓発用路面表示シートの路上等への貼付	34.9%
3	自治会・町会や事業者等との協力による喫煙マナーアップキャンペーンの実施	11.3%
4	区民の方への歩きたばこ、ポイ捨て禁止のステッカーやポスターの配付の実施	28.1%
5	その他(具体的に)	8.5%
	無回答	31.6%

問 26 大田区では、平成 24 年 3 月に大田区環境基本計画を作成し、生物多様性の保全に取り組んでいます。あなたは、「生物多様性」をご存知ですか。(○は 1 つだけ) n=1,069

※「生物多様性」とは、あらゆる生物種の多さと、生態系の豊かさやバランスが保たれている状態を言い、さらに、生物の遺伝子の多様さまでを含めた幅広い概念です。

1 知っている	13.9%	3 知らない	56.0%
2 聞いたことがある	27.4%	無回答	2.6%

問 27 生物多様性の保全の取組みのひとつとして、絶滅の恐れのある渡り鳥「コアジサシ」※1の営巣地の整備作業をNPOと一緒にしています。「コアジサシ」をご存知ですか。(○は 1 つだけ) n=1,069

※1「コアジサシ」とは、日本には夏鳥として渡ってきて、海岸の砂浜や河川の河原・中州でコロニーと呼ばれる集団を作り、繁殖します。環境省レッドリスト※2では、「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」に指定されています。

※2「環境省レッドリスト」とは、環境省が整理した保護が必要な生物のリスト。危険度が高い順にEX、EW、CR、VU、NT、DD、LPの7ランクで評価。

1 知っている	12.3%	3 知らない	66.1%
2 聞いたことがある	19.4%	無回答	2.2%

ごみのない循環のまちをつくりま

問 28 あなたの家庭では、資源化できる紙ごみの分別はしていますか。(○は 1 つだけ) n=1,069

※区が収集した可燃ごみの中には、資源化できるトイレットペーパーやラップの芯・包装紙・封筒・菓子箱・ティッシュの箱・紙袋などの紙ごみ(雑がみ)が17%入っています。雑がみは、紙袋に入れてしばって「資源」の日に出していただくとごみの減量と資源化を進めることができます。

1 している	60.0%	3 あまりしていない	13.0%
2 時々している	13.1%	4 していない	12.3%
		無回答	1.7%

区政への関心と要望

問 29 以下の大田区の制度、施策、施設のうち、あなたをご存知なものをすべて挙げてください。

(○はいくつでも) n=1,069

《基本目標1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち》

- | | |
|--|-------|
| 1 「保育サービスアドバイザー」：保育施設の情報提供や子育てに関する相談窓口 | 12.3% |
| 2 「放課後ひろば（小学校における放課後児童の居場所づくり事業）」：放課後の児童の安全・安心な居場所づくりを推進する事業 | 23.1% |
| 3 「さぼーとぴあ（障がい者総合サポートセンター）」：障がいのある方の暮らしを総合的にサポートする施設 | 14.3% |
| 4 「さわやかサポート（地域包括支援センター）」：介護保険サービスや高齢者の総合相談窓口 | 31.0% |

《基本目標2 まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市^{まち}》

- | | |
|---|-------|
| 5 「ふれあいパーク活動」：身近な公園を区民の皆さんが地域の庭として、清掃・花壇づくり・各種イベントなどを行う活動 | 12.8% |
| 6 「たまちゃんバス」：交通不便地域を解消するため、大田区内で初めて導入されたコミュニティバス | 34.3% |
| 7 「耐震化助成制度」：昭和56年5月以前の耐震基準で建てられた住宅やマンションに対し、耐震診断や耐震改修工事等を行う際、費用の一部を助成する制度 | 24.0% |
| 8 「大田区観光サポーター」：大田区の魅力やWEBサイト「ぐるたび」を通じて広く情報発信を行う方々 | 5.9% |

《基本目標3 地域力と行政の連携がつくる人と地球に優しいまち》

- | | |
|--|-------|
| 9 「消費者生活センター」：事業者との契約トラブル、悪質商法、商品やサービスなどに対する各種消費者相談窓口 | 47.6% |
| 10 「学校防災活動拠点」：避難所を機能拡充する事業 | 10.3% |
| 11 「区民安全・安心メール」：防犯情報、防災情報、地震情報、気象情報、防災行政無線情報などをメールで配信 | 19.6% |
| 12 「太陽エネルギー利用機器設置費用助成」：住宅に太陽エネルギー利用機器を設置される方に対し、費用の一部を助成する制度 | 14.1% |
| 13 「生垣造成費用助成」：道路や隣地に接した生垣を作る方に対し、工事費等の一部費用を助成する制度 | 7.0% |
| 14 「小型家電リサイクル事業」：平成25年10月から開始した携帯電話等の小型家電10品目を回収する事業 | 18.1% |
| 15 どれも知らない | 14.2% |
| 無回答 | 6.1% |

問 30 大田区の制度、施策、施設などの区の情報を知りたいとき、何を利用しますか。
(○はいくつでも) n=1,069

1 区報	57.0%	6 テレビ	8.9%
2 区ホームページ	56.8%	7 新聞(一般紙)	8.7%
3 区公式ツイッター	1.0%	8 家族・知人など	12.8%
4 デジタルサイネージ (電子掲示板)	0.3%	9 区の窓口にお問い合わせる	26.2%
5 ポスターなど掲示物	19.2%	10 その他(具体的に)	1.6%
		無回答	2.2%

問 31 区政情報が適切に公開されていると感じていますか。(○は1つだけ) n=1,069

1 感じている	9.5%	4 感じていない	6.7%
2 やや感じている	22.9%	5 どちらともいえない	27.3%
3 あまり感じていない	30.6%	無回答	2.9%

問 32 大田区の施策の中で、特に何に力を入れてほしいと思いますか。(○はいくつでも) n=1,069

《基本目標1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち》		15 公園・児童遊園の整備	28.3%
1 児童福祉(子育て支援・保育等)	41.9%	16 交通安全対策	28.2%
2 学校教育	32.2%	17 住宅対策	20.2%
3 青少年の健全育成	21.5%	18 国際交流の推進	9.5%
4 保健・健康(休日診療を含む)	38.3%	19 産業振興	16.4%
5 食品衛生	14.0%	《基本目標3 地域力と行政の連携がつくる人と地球に優しいまち》	
6 心身障がい者(児)福祉	16.8%	20 地域活動活性化の推進	15.2%
7 生涯学習の推進	15.7%	21 消費者問題対策	10.2%
8 スポーツの振興	14.9%	22 文化事業の推進	10.1%
9 男女平等の推進	5.1%	23 防災対策	54.5%
10 低所得世帯の援護	22.9%	24 防犯対策	51.5%
11 高齢者福祉	43.4%	25 緑化推進	34.7%
《基本目標2 まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市》		26 公害対策	20.1%
12 都市再開発の推進	14.3%	27 清掃・リサイクルの推進	29.3%
13 道路の整備	26.8%	28 その他の施策(具体的に)	1.9%
14 公共交通網の整備	24.2%	29 特にない	2.1%
		無回答	2.8%

自由意見

大田区政についてのご意見・ご要望がありましたら、どのようなことでも結構ですのでご記入ください。

フェイスシート

- 最後に、これまでのお答えの内容を統計的に分類するために必要なことをおたずねします。あなたご自身のことについて、さしさわりのない範囲でお答えください。

F 1 性別（○は1つだけ）

n=1,069

1 男性	41.2%	2 女性	56.4%	無回答	2.4%
------	-------	------	-------	-----	------

F 2 年齢／あなたのお年は満でいくつですか。（○は1つだけ）

n=1,069

1 20～29歳	8.9%	4 50～54歳	9.2%	7 65～69歳	8.6%
2 30～39歳	15.2%	5 55～59歳	8.1%	8 70～74歳	6.9%
3 40～49歳	20.2%	6 60～64歳	8.0%	9 75歳以上	12.6%
				無回答	2.2%

F 3 本人職業／あなたのご職業は何ですか。（○は1つだけ）

n=1,069

自営業	1 商工サービス業	3.4%	} F 3-1へ	
	2 農林水産業	-		
	3 自由業	4.8%		
勤め人／パート・アルバイト含む	4 管理職	8.8%		
	5 専門技術職	13.1%		
	6 事務職	15.1%		
	7 労務職・サービス職	14.3%		
無職	8 学生	1.0%		} F 4へ
	9 主婦	20.6%		
	10 その他（高齢者含む）	12.6%		
	無回答	6.4%		

(F3で、「1」～「7」と回答した方に)

F3-1 就業場所／あなたが仕事をしているところはどこですか。(○は1つだけ) n=635

1 大田区内 (自宅)	12.9%	5 それ以外の東京都内	9.0%
2 大田区内 (自宅外)	26.5%	6 神奈川県内	9.0%
3 品川・目黒・新宿・渋谷区内	14.8%	7 その他 (具体的に)	2.8%
4 千代田・中央・港区内	24.6%	無回答	0.5%

F4 住居形態／住宅の種類は、次のどれでしょうか。(○は1つだけ) n=1,069

持ち家	1 一戸建て	39.8%
	2 集合住宅	24.1%
借家	3 一戸建て	2.4%
	4 民間・木造アパート	4.8%
	5 民間・鉄筋アパート・マンション	20.8%
	6 公社・都市再生機構 (旧公団) ・公営住宅	3.0%
	7 社宅・官舎	1.1%
	8 間借り・寮・住み込み	0.6%
	無回答	3.5%

F5 配偶者の有無／配偶者の方はいらっしゃいますか。(○は1つだけ) n=1,069

1 いる	62.4%	2 いない (離・死別)	12.6%	} F6へ
		3 いない (未婚)	21.8%	
		無回答	3.2%	

(F5で、「1」と回答した方に)

F5-1 共働きの有無／お宅では共働きをされていますか。(○は1つだけ) n=667

1 している	44.1%	2 していない	53.1%	無回答	2.8%
--------	-------	---------	-------	-----	------

F6 同居家族／現在一緒に暮らしているご家族の中で、あなたご自身を含めて、あてはまる方をすべてあげてください。 n=1,069

1 小学校入学前の児童	11.9%	4 寝たきりの方や身体の不自由な方	5.6%
2 小学生	9.2%	5 あてはまる人はいない	42.9%
3 65歳以上の方	42.8%	無回答	4.5%

F7 ライフステージ／人間の人生にはさまざまな段階がありますが、現在のあなたご自身は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ) n=1,069

独身	1 本人 20～39 歳	12.0%
	2 本人 40～64 歳	11.1%
	3 本人 65 歳以上	5.6%
子どものいない夫婦	4 本人 20～39 歳	4.6%
	5 本人 40～64 歳	6.3%
	6 本人 65 歳以上	3.0%
子どものいる人 (別居も含む)	7 一番上の子どもが入学前	7.9%
	8 一番上の子どもが小・中学生	8.6%
	9 一番上の子どもが高校・大学生	5.7%
	10 本人が 64 歳以下で、一番上の子どもが学校卒業	12.6%
	11 本人が 65 歳以上で、一番上の子どもが学校卒業	15.5%
	無回答	7.1%

F8 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ) n=1,069

1 ひとり暮らし	15.3%	4 親と子どもと孫 (3世代家族)	7.8%
2 夫婦だけ (1世代家族)	24.7%	5 その他 (具体的に)	3.0%
3 親と子どもだけ (2世代家族)	45.7%	無回答	3.6%

F9 あなたのお住まいの地域はどちらですか。各地域の () 内は、管轄する特別出張所です。
(○は1つだけ) n=1,069

1 大森地域 (大森東、馬込、大森西、入新井、池上、新井宿)	34.0%
2 調布地域 (嶺町、田園調布、鷺の木、雪谷、久が原、千束)	26.8%
3 蒲田地域 (蒲田東、六郷、矢口、蒲田西)	27.9%
4 糺谷・羽田地域 (糺谷、羽田)	9.1%
無回答	2.3%

長時間ご協力いただき、ありがとうございました。

Ⅲ 調査結果の分析

Ⅲ 調査結果の分析

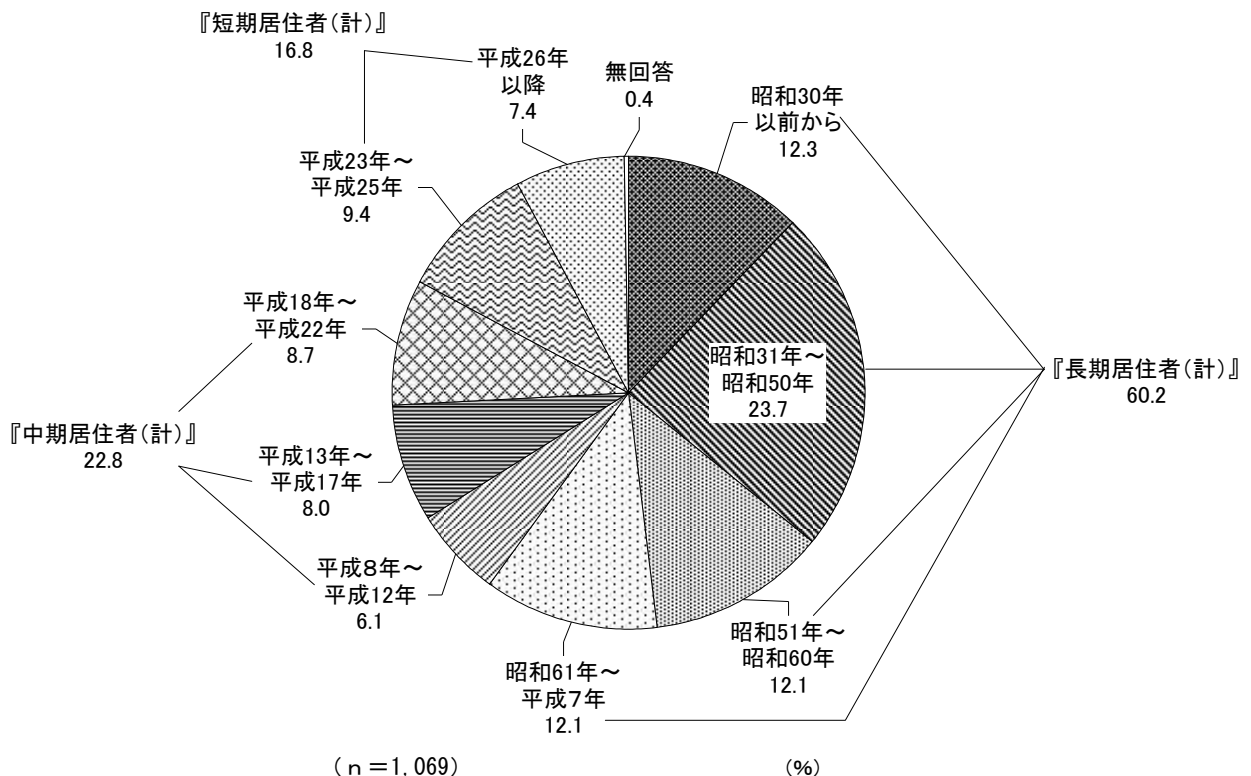
1. 定住性

(1) 居住開始時期

◇「平成7年以前から住んでいる方」を表す『長期居住者(計)』は6割

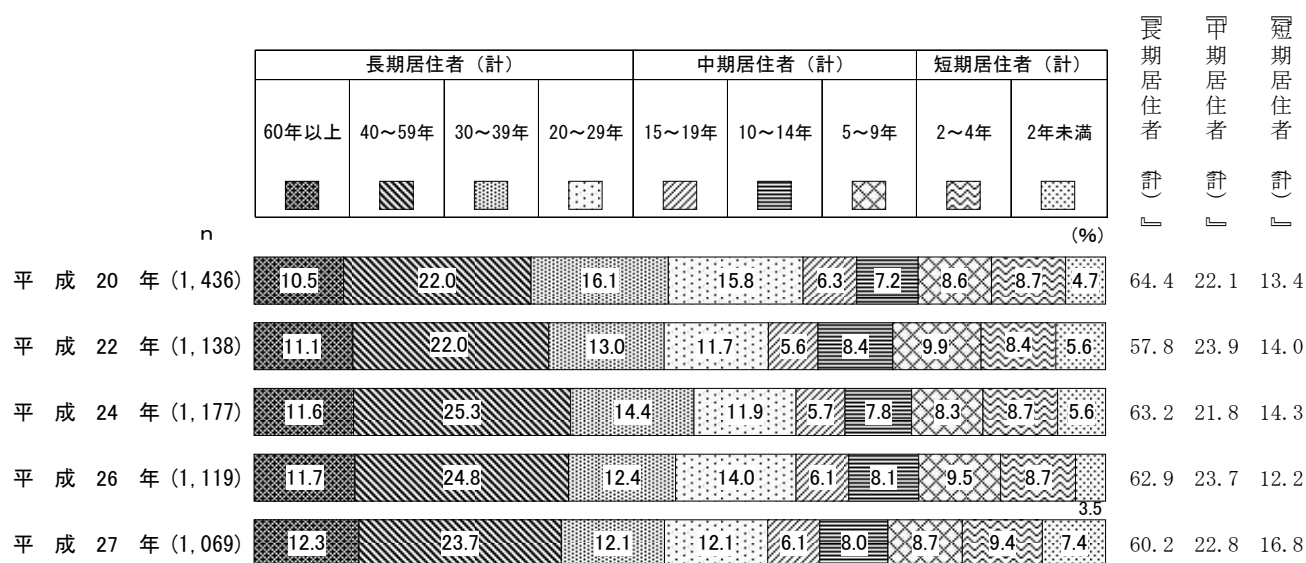
問1 あなたは、いつ頃から大田区に住んでいますか。(○は1つだけ)

図1-1-1



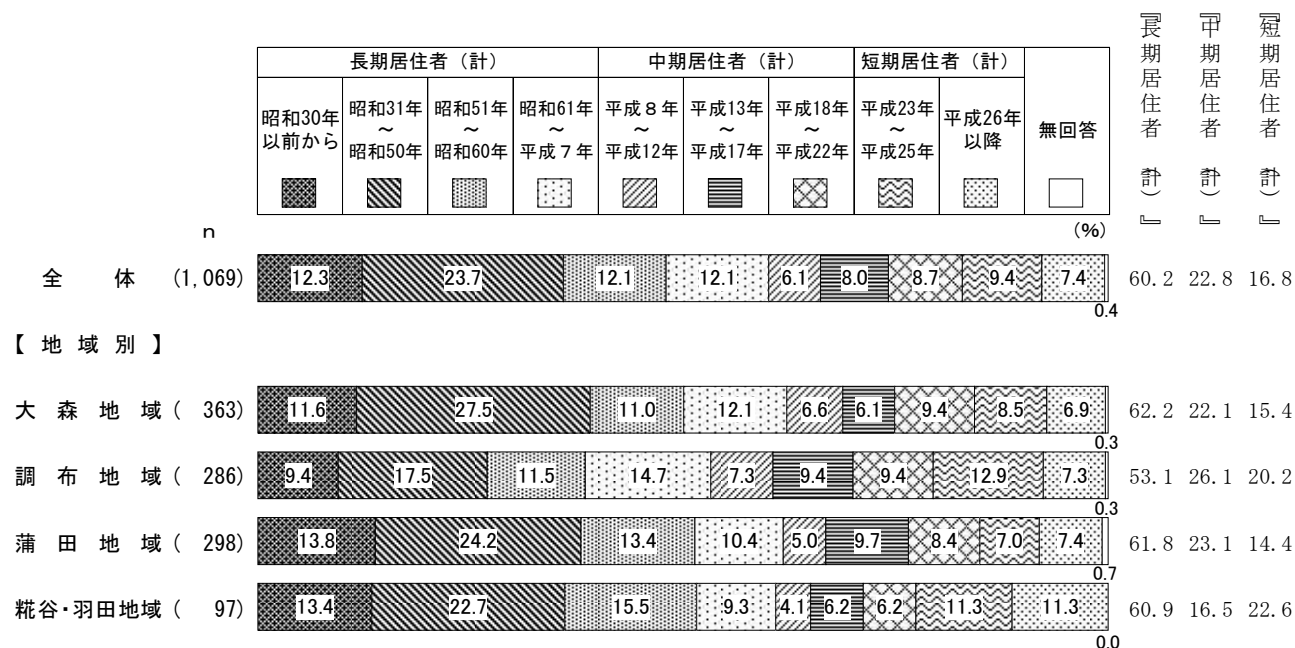
居住開始時期を聞いたところ、「昭和31年～昭和50年」(23.7%)が2割を超えて最も高く、これに「昭和30年以前から」(12.3%)、「昭和51年～昭和60年」(12.1%)、「昭和61年～平成7年」(12.1%)を合わせた『長期居住者(計)(居住年数20年以上)』(60.2%)は6割となっている。また、「平成8年～平成12年」(6.1%)、「平成13年～平成17年」(8.0%)、「平成18年～平成22年」(8.7%)を合わせた『中期居住者(計)(居住年数5年以上20年未満)』(22.8%)は2割を超え、「平成23年～平成25年」(9.4%)と「平成26年以降」(7.4%)を合わせた『短期居住者(計)(居住年数5年未満)』(16.8%)は2割近くとなっている。(図1-1-1)

図 1-1-2 居住開始時期（居住年数）一経年比較



大田区への居住開始時期を居住年数に換算して経年比較をした。『長期居住者（計）』は平成24年以降減少傾向にあり、前回より2.7ポイント減少している。また、『中期居住者（計）』は前回より微減、『短期居住者（計）』は前回より4.6ポイント増加している。（図 1-1-2）

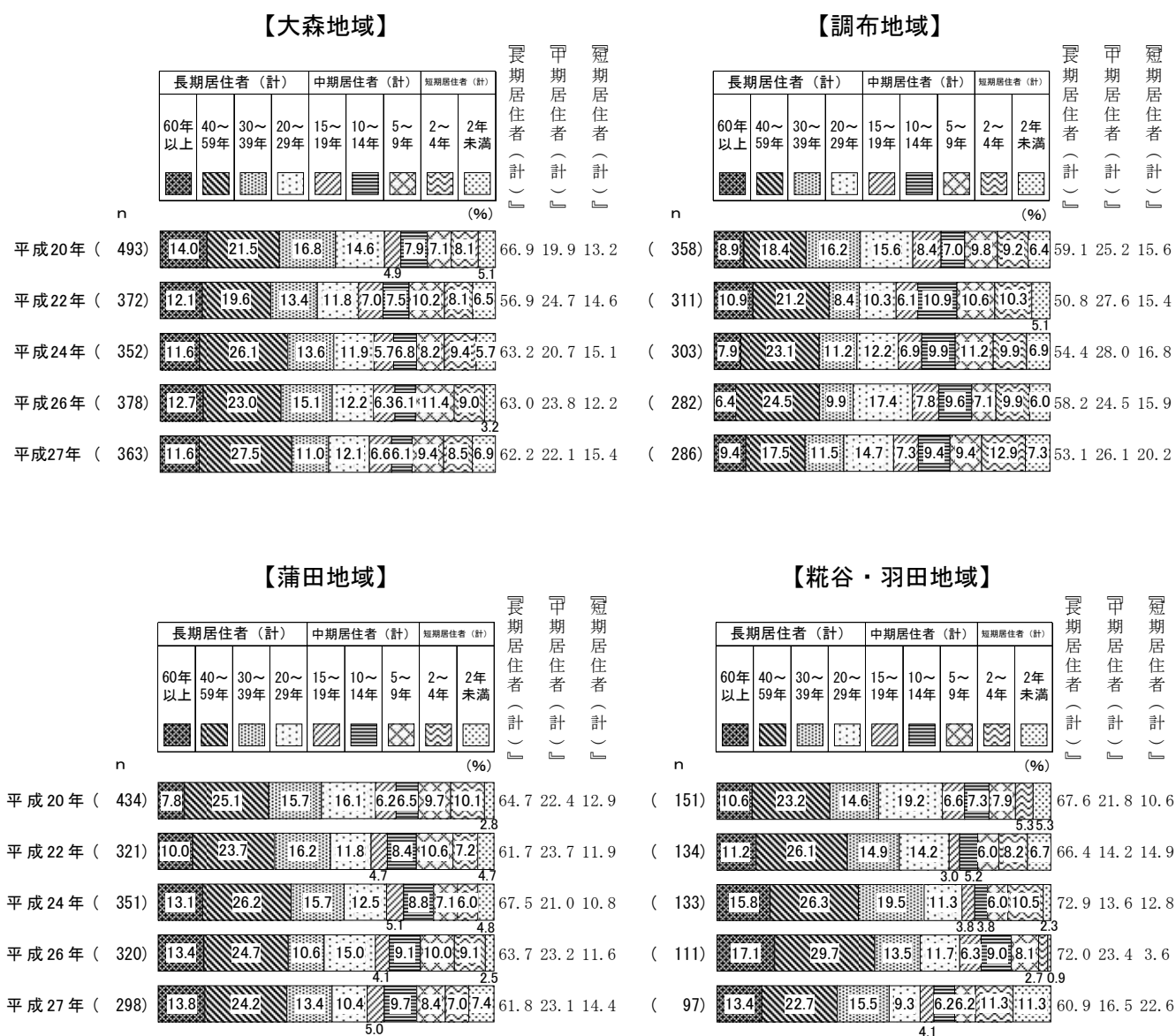
図 1-1-3 居住開始時期一地域別



地域別で見ると、『長期居住者（計）』は調布地域（53.1%）を除く全ての地域で6割台と高くなっている。一方、『短期居住者（計）』は糞谷・羽田地域（22.6%）で2割を超えている。

（図 1-1-3）

図 1-1-4 居住開始時期—地域別（経年比較）



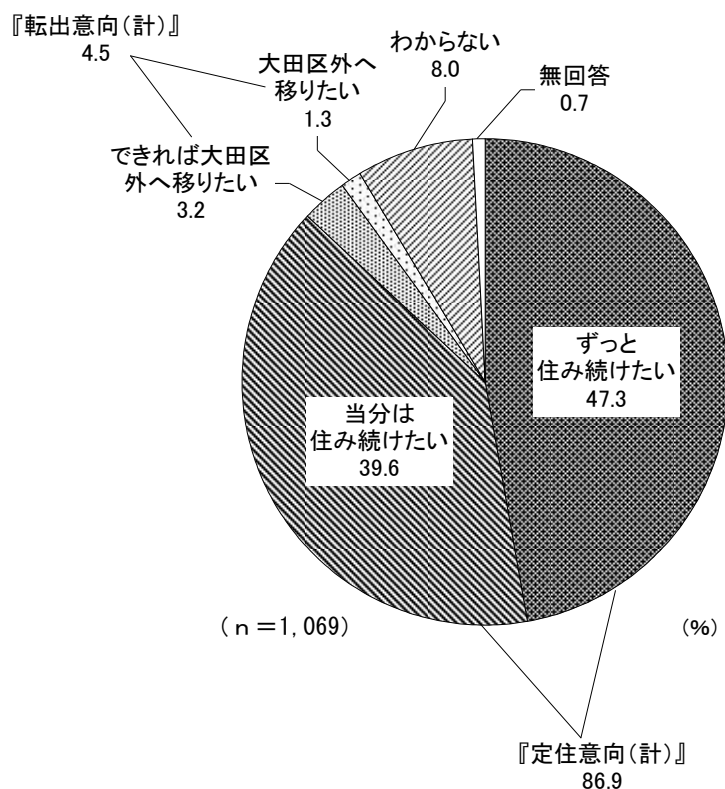
地域別に経年比較すると、『長期居住者 (計)』は糀谷・羽田地域で前回より 11.1 ポイント、調布地域で前回より 5.1 ポイント、それぞれ減少している。また、『中期居住者 (計)』は糀谷・羽田地域で前回より 6.9 ポイント減少、『短期居住者 (計)』は糀谷・羽田地域で前回より 19.0 ポイント増加している。(図 1-1-4)

(2) 定住意向

◇「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合わせた『定住意向(計)』は9割近く

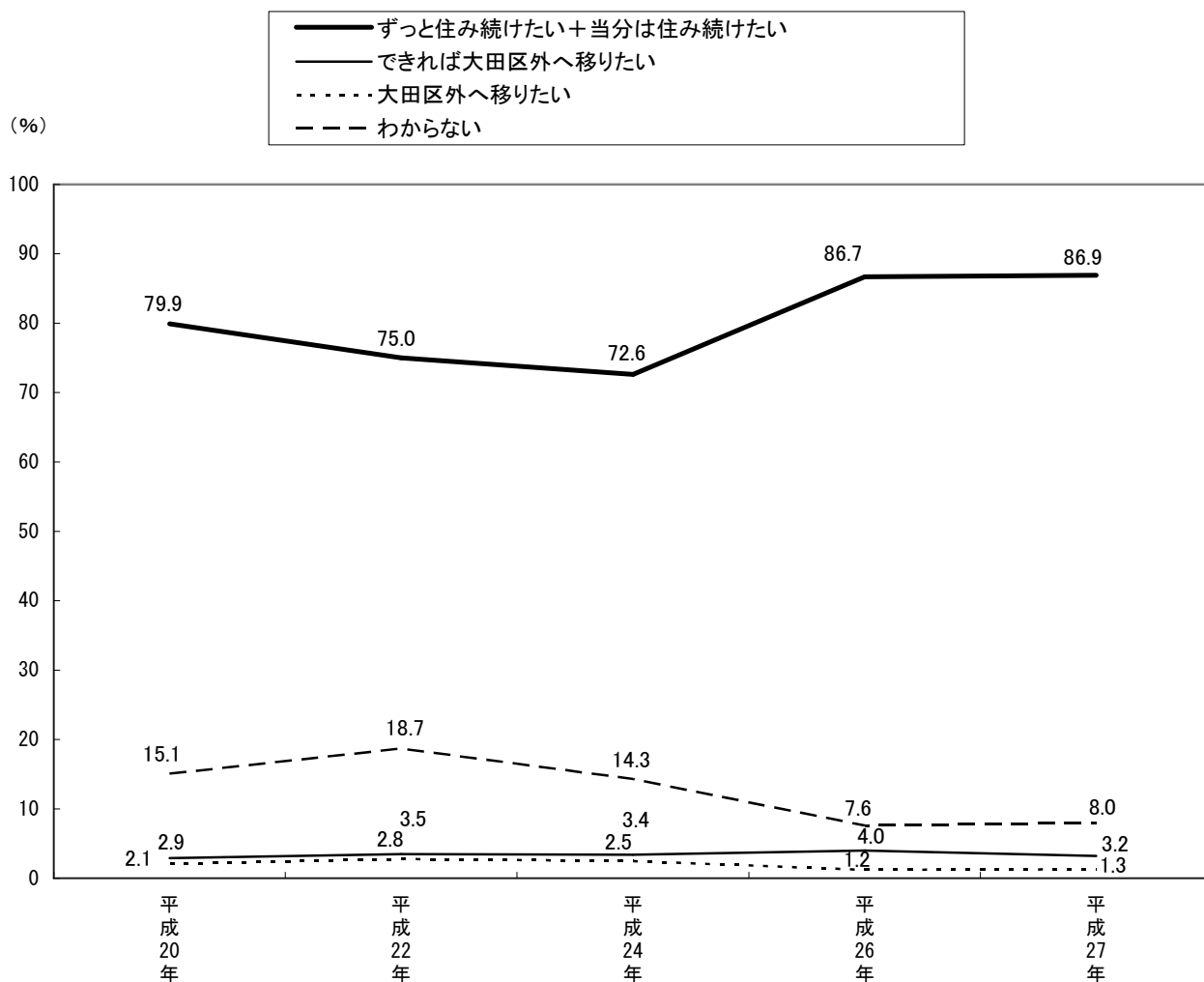
問2 あなたは、これからも大田区に住みたいと思いますか。(○は1つだけ)

図1-2-1



定住意向を聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(47.3%)が5割近くで最も高く、これに「当分は住み続けたい」(39.6%)を合わせた『定住意向(計)』(86.9%)は9割近くとなっている。一方、「できれば大田区外へ移りたい」(3.2%)と「大田区外へ移りたい」(1.3%)を合わせた『転出意向(計)』(4.5%)はわずかとなっている。(図1-2-1)

図 1-2-2 定住意向一経年比較



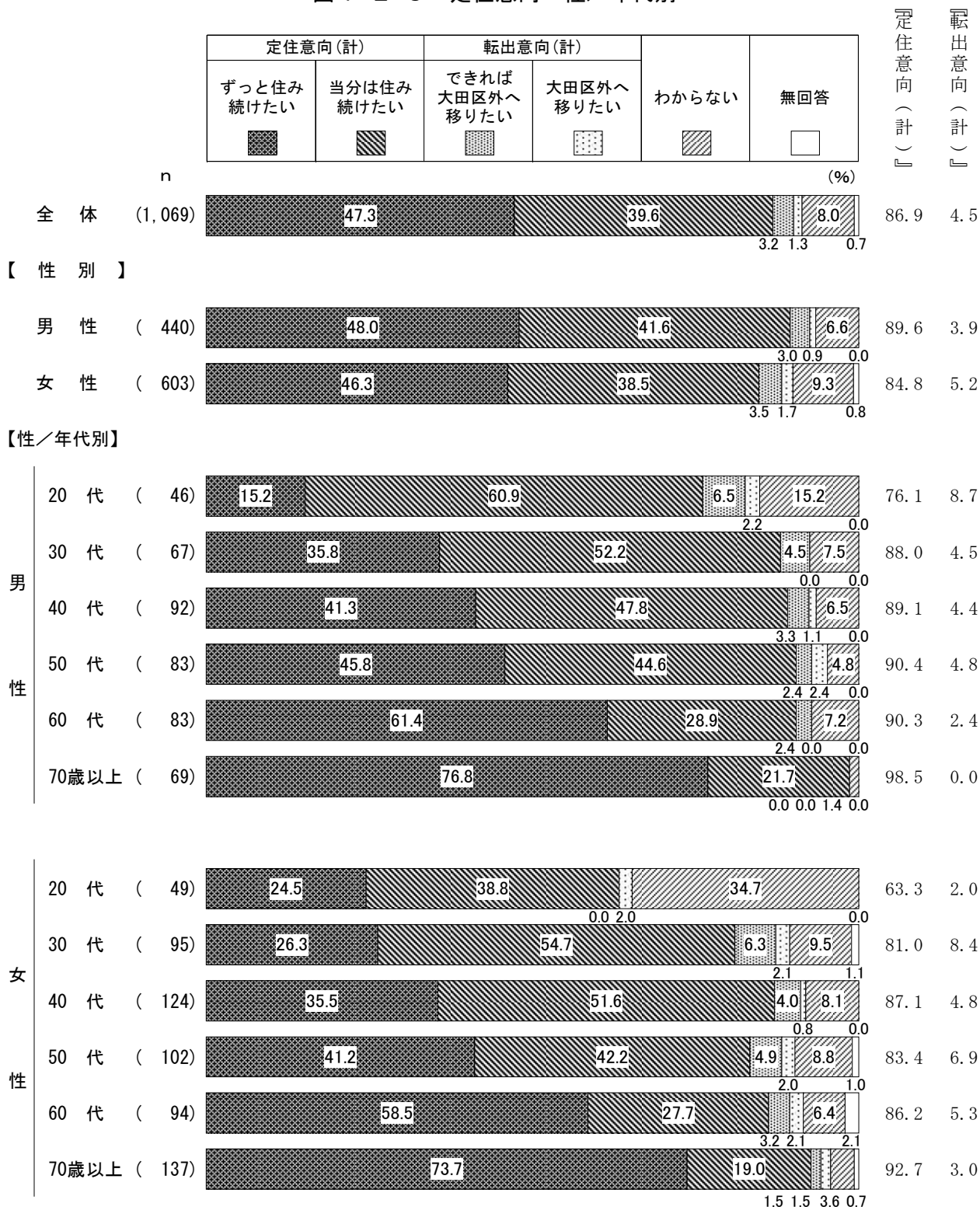
[※1]平成 26 年から選択肢を 4 肢[※2]から 5 肢へ変更したため、「ずっと住みたい」と「当分は住みたい」を合計し、平成 24 年以前の「これからも住みたい」と比較した。また、「できれば大田区外へ移りたい」は平成 24 年以前の「あまり長く住みたくない」と比較した。

[※2]平成 24 年以前の選択肢「これからも住みたい」「あまり長く住みたくない」「大田区外へ移りたい」「わからない」

定住意向の経年比較は、過年度の調査と選択肢を変更しているため、参考までに図示する。

(図 1-2-2)

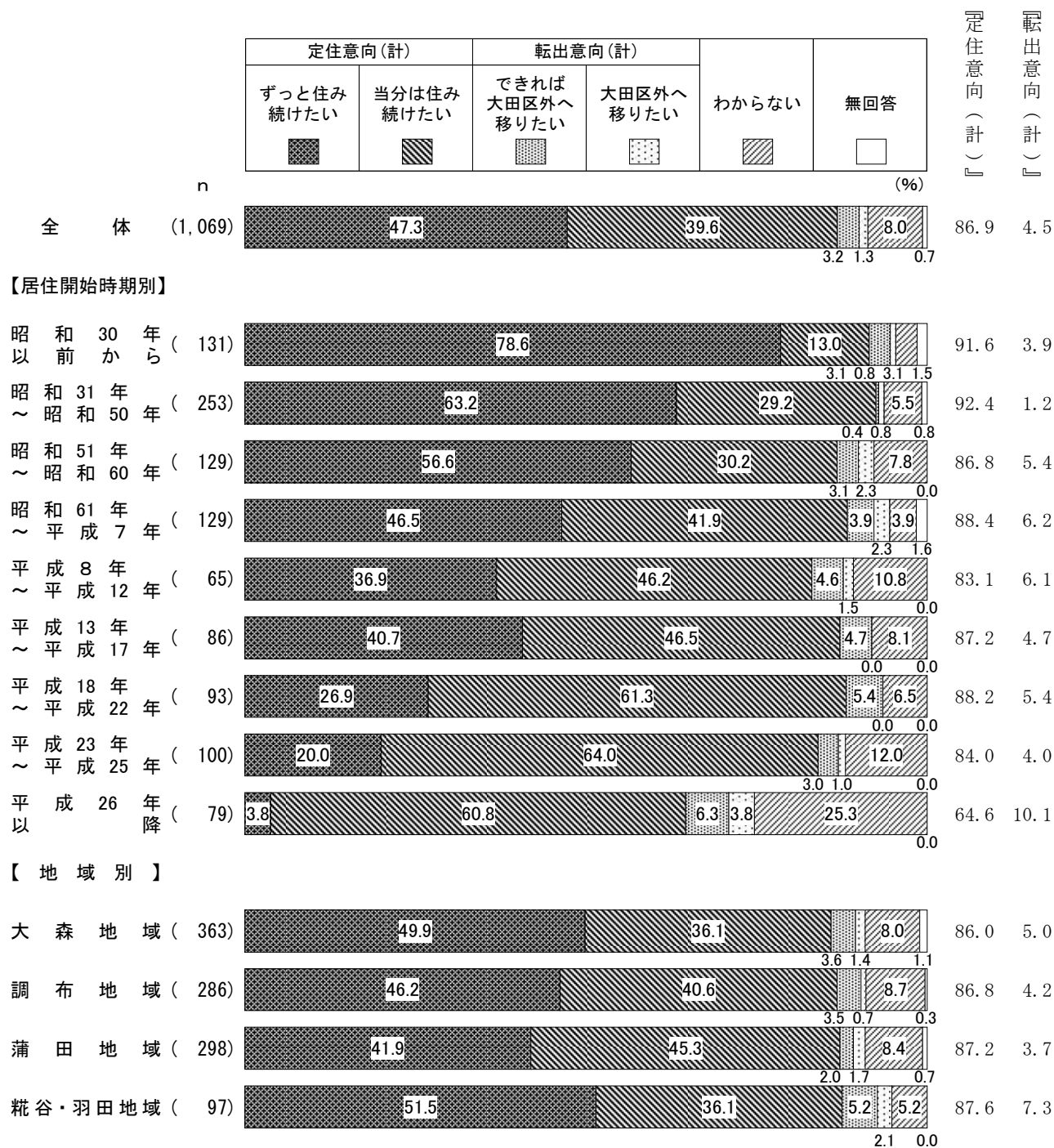
図 1-2-3 定住意向一性／年代別



性別でみると、『定住意向(計)』は男性(89.6%)が女性(84.8%)より4.8ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「ずっと住み続けたい」は男女ともに年代が高くなるほど割合が高く、男性70歳以上(76.8%)と女性70歳以上(73.7%)で7割台となっている。また、『定住意向(計)』は男性の50代(90.4%)、60代(90.3%)、70歳以上(98.5%)と女性70歳以上(92.7%)で9割台と高くなっている。(図1-2-3)

図 1-2-4 定住意向—居住開始時期別、地域別

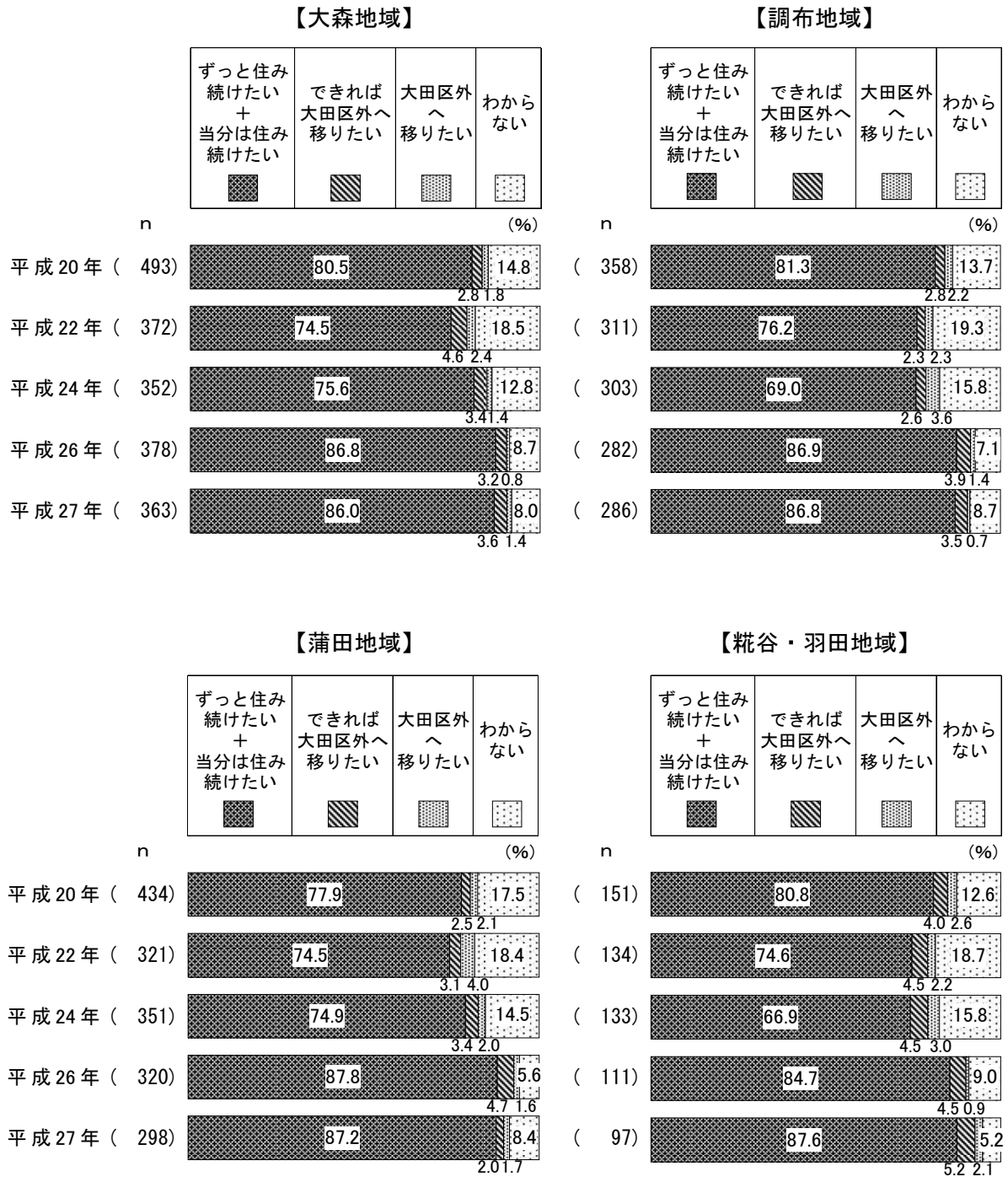


居住開始時期別で見ると、「ずっと住み続けたい」はおおむね居住年数が長くなるほど割合が高く、“昭和30年以前から（居住年数60年以上）”（78.6%）で8割近くとなっている。また、『定住意向（計）』は“昭和30年以前から（居住年数60年以上）”（91.6%）と“昭和31年～昭和50年（居住年数40～59年）”（92.4%）で9割を超えて高くなっている。

地域別で見ると、「ずっと住み続けたい」は糞谷・羽田地域（51.5%）で5割を超えている。

(図 1-2-4)

図 1-2-5 定住意向—地域別（経年比較）



【※ 1】平成 26 年から選択肢を 4 肢【※ 2】から 5 肢へ変更したため、「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合計し、平成 24 年以前の「これからも住みたい」と比較した。また、「できれば大田区外へ移りたい」は平成 24 年以前の「あまり長く住みたくない」と比較した。

【※ 2】平成 24 年以前の選択肢「これからも住みたい」「あまり長く住みたくない」「大田区外へ移りたい」「わからない」

地域別の定住意向の経年比較は、過年度の調査と選択肢を変更しているため、参考までに図示する。(図 1-2-5)

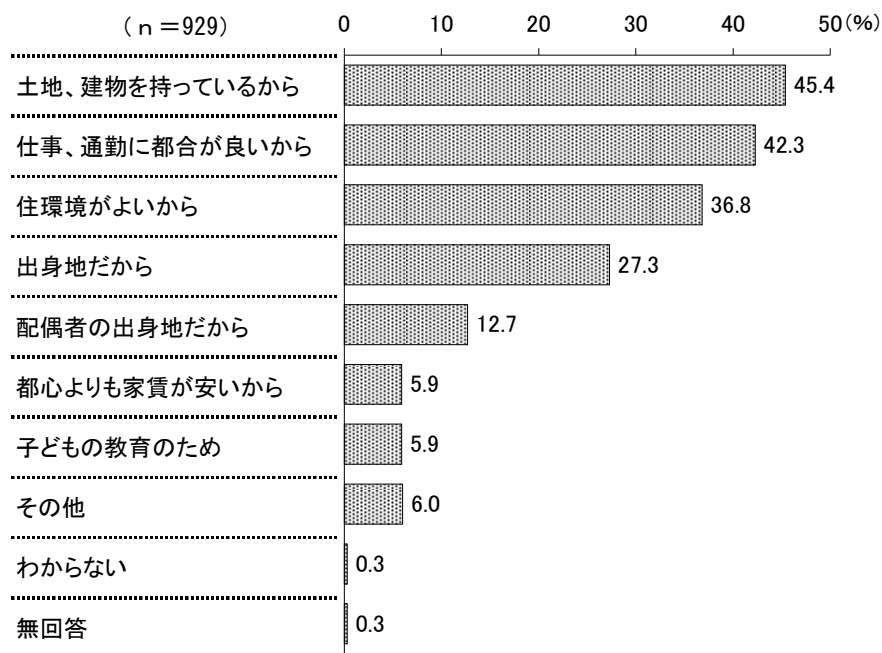
(3) 住みたい理由

◇「土地、建物を持っているから」が4割半ば

(問2で、「1」「2」と回答した方に)

問2-1 これからも大田区に住みたい理由は何ですか。(〇はいくつでも)

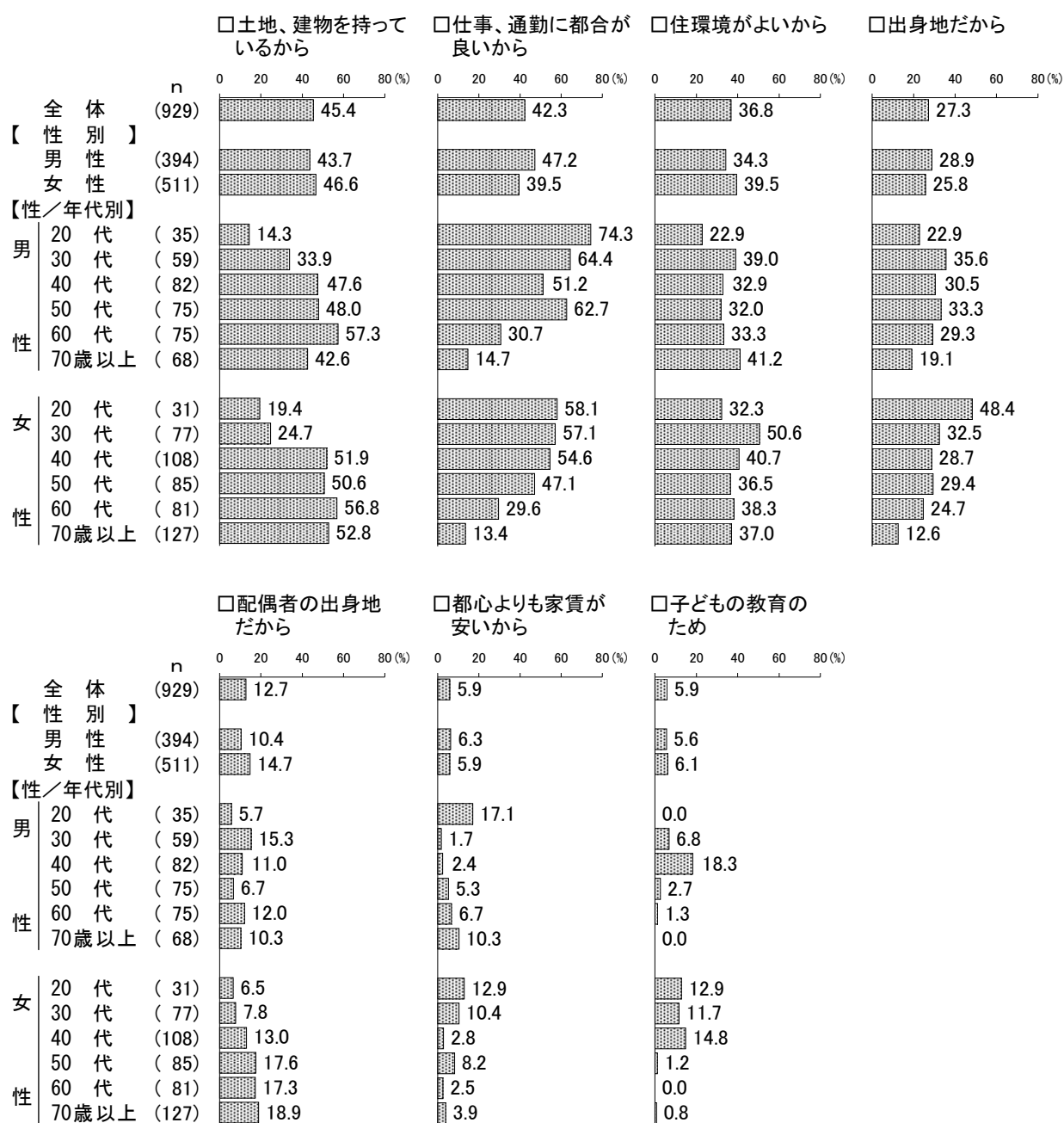
図1-3-1



これからも大田区に「ずっと住みたい」、「当分は住みたい」と答えた人(929人)に、その理由を聞いたところ、「土地、建物を持っているから」(45.4%)が4割半ばで最も高く、次いで「仕事、通勤に都合が良いから」(42.3%)、「住環境がよいから」(36.8%)、「出身地だから」(27.3%)、「配偶者の出身地だから」(12.7%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「交通の便が良い」、「地域(近所)のつながりが良い」、「親戚・友人が住んでいる」、「物価が安い」などがあげられている。(図1-3-1)

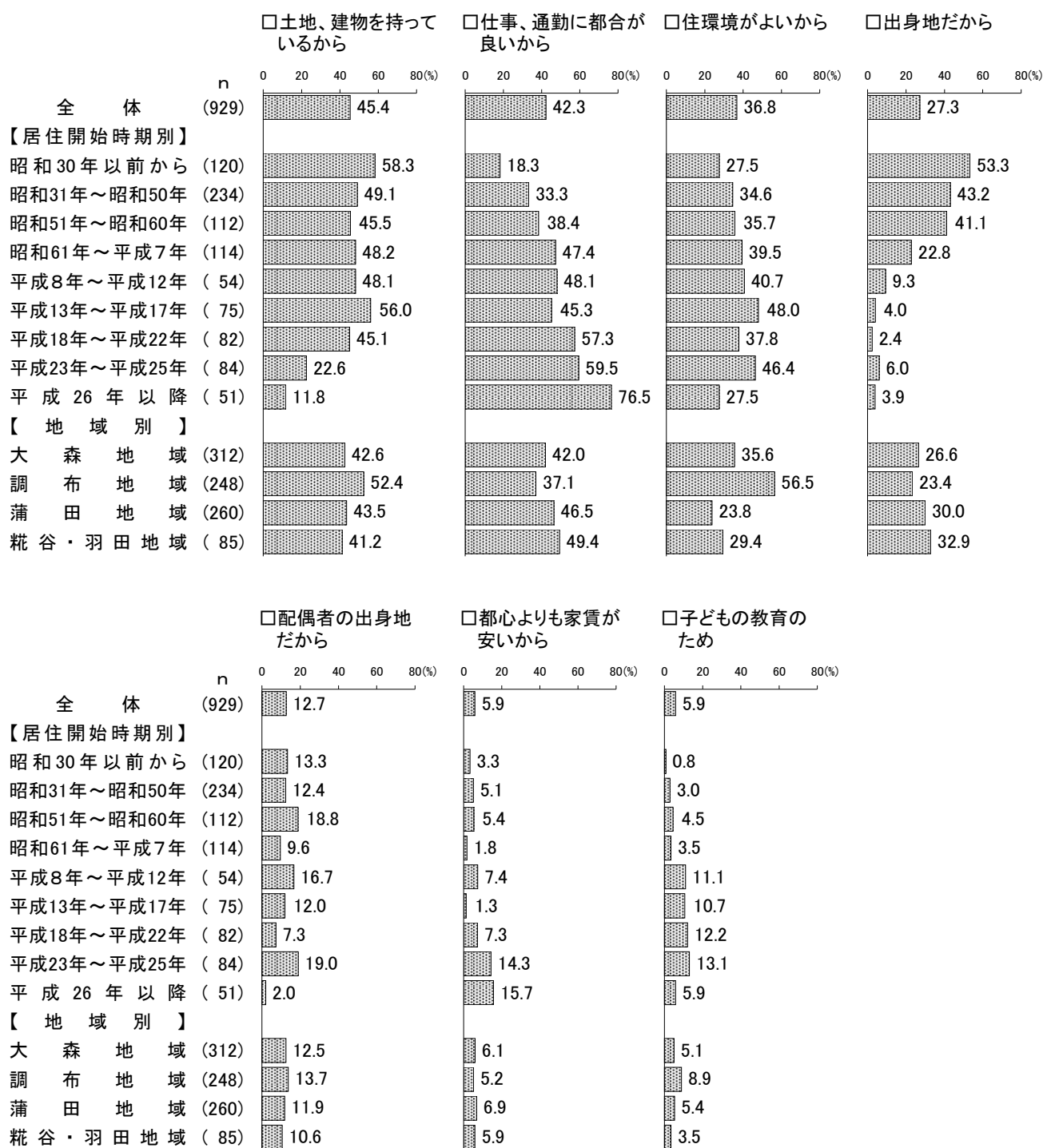
図 1-3-2 住みたい理由－性／年代別



性別でみると、「仕事、通勤に都合が良いから」は男性（47.2%）が女性（39.5%）より7.7ポイント高くなっている。一方、「住環境がよいから」は女性（39.5%）が男性（34.3%）より5.2ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「土地、建物を持っているから」は男性60代（57.3%）と女性60代（56.8%）で6割近くと高くなっている。「仕事、通勤に都合が良いから」は男女ともにおおむね年代が低くなるほど割合が高く、男性20代（74.3%）で7割半ばとなっている。また、「出身地だから」は女性20代（48.4%）で5割近くとなっている。（図1-3-2）

図 1-3-3 住みたい理由－居住開始時期別、地域別



居住開始時期別で見ると、「土地、建物を持っているから」は“昭和30年以前から（居住年数60年以上）”（58.3%）で6割近くと高くなっている。また、「仕事、通勤に都合が良いから」はおおむね居住年数が短くなるほど割合が高く、“平成26年以降（居住年数2年未満）”（76.5%）で8割近くとなっている。

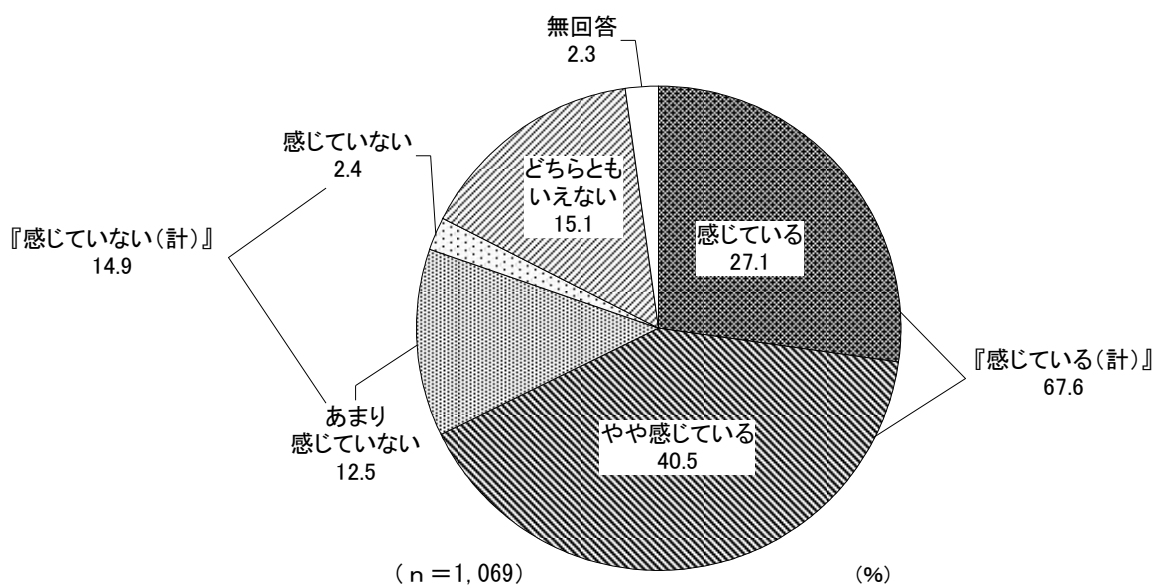
地域別で見ると、「土地、建物を持っているから」は調布地域（52.4%）で5割を超え、「住環境がよいから」は調布地域（56.5%）で6割近くと高くなっている。（図1-3-3）

(4) 住んでいるまちが魅力的か

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は7割近く

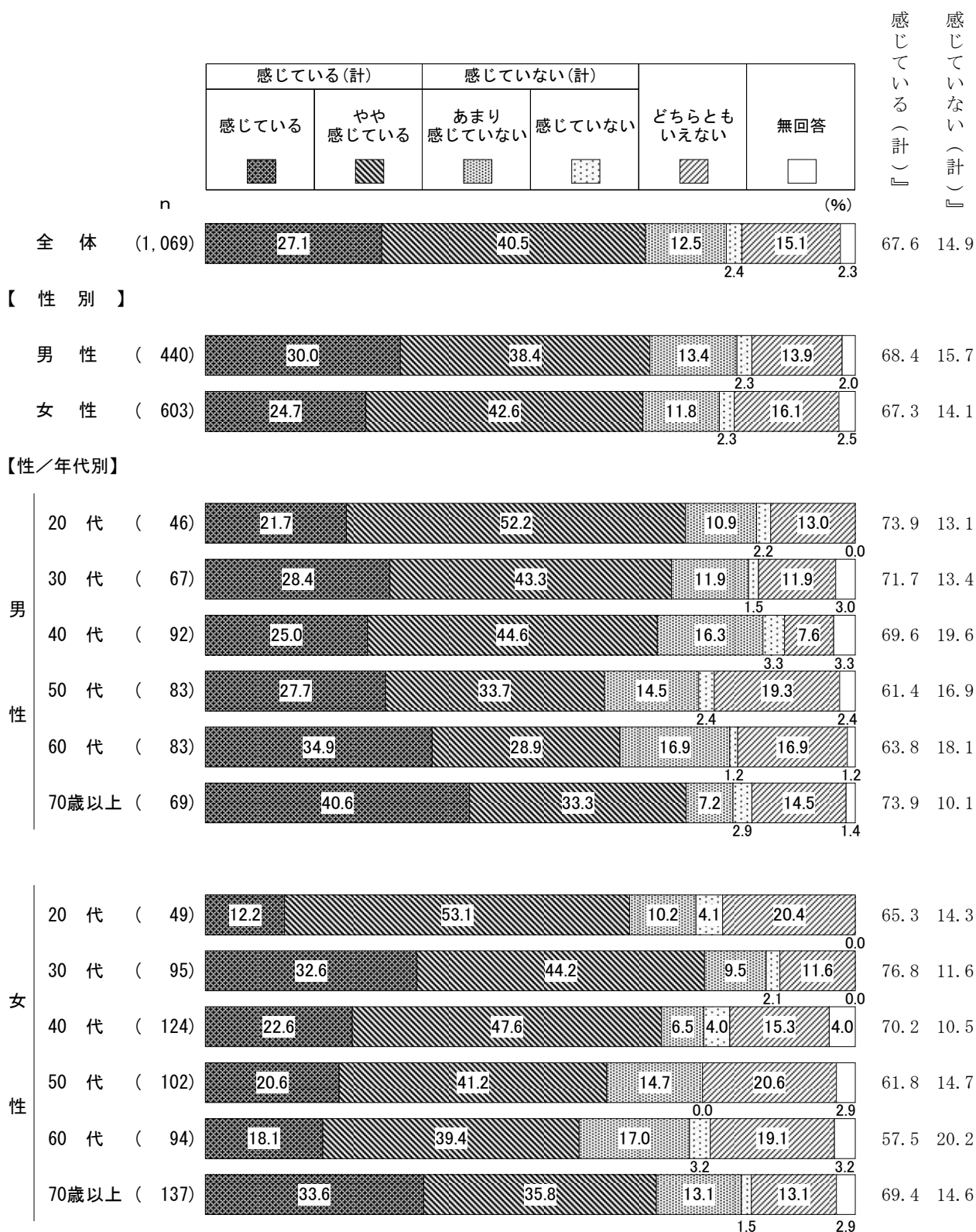
問3 あなたは、住んでいるまちが魅力的であると感じていますか。(○は1つだけ)

図1-4-1



住んでいるまちが魅力的であると感じているか聞いたところ、「やや感じている」(40.5%)が約4割で最も高く、これに「感じている」(27.1%)を合わせた『感じている(計)』(67.6%)は7割近くとなっている。一方、「あまり感じていない」(12.5%)と「感じていない」(2.4%)を合わせた『感じていない(計)』(14.9%)は1割半ばとなっている。(図1-4-1)

図 1-4-2 住んでいるまちが魅力的かー性／年代別

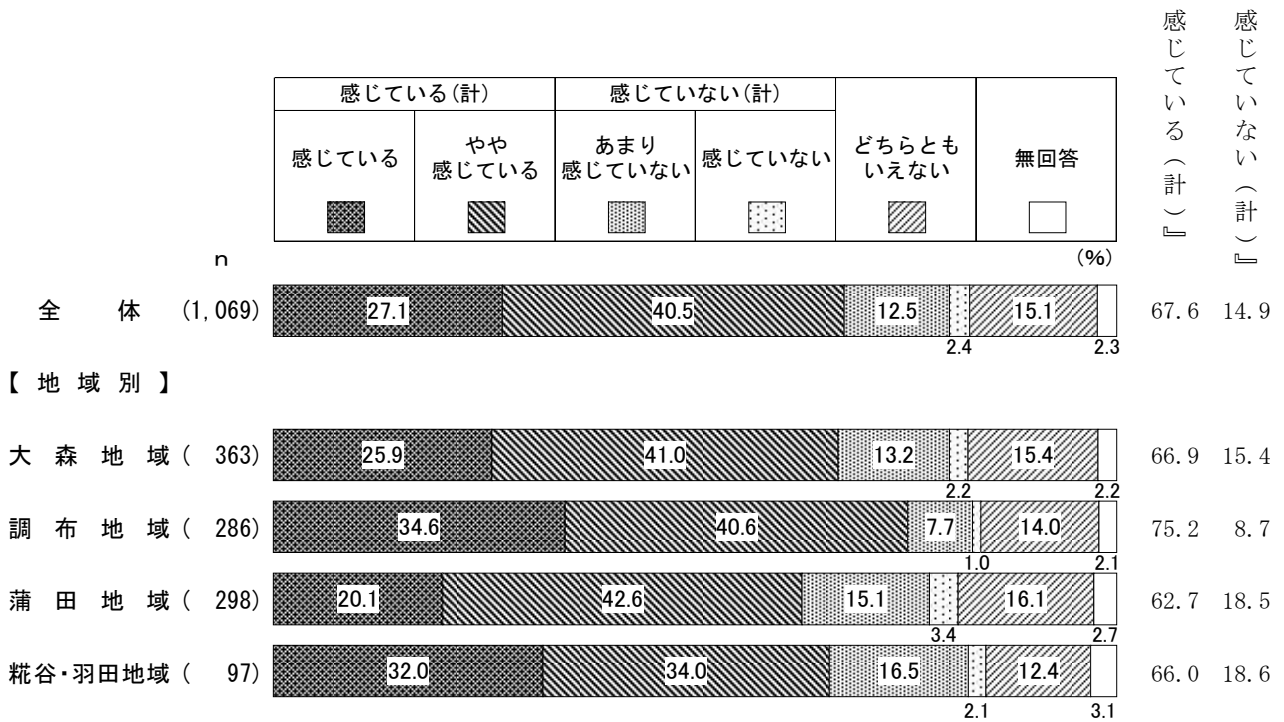


性別でみると、「感じている」は男性（30.0%）が女性（24.7%）より5.3ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『感じている（計）』は女性30代（76.8%）で8割近くと高くなっている。一方、『感じていない（計）』は女性60代（20.2%）と男性40代（19.6%）で2割となっている。

（図 1-4-2）

図 1-4-3 住んでいるまちが魅力的かー地域別



地域別でみると、『感じている(計)』は調布地域(75.2%)で7割半ばと高くなっている。一方、『感じていない(計)』は糞谷・羽田地域(18.6%)と蒲田地域(18.5%)で2割近くとなっている。(図1-4-3)

2. 暮らしやすさ

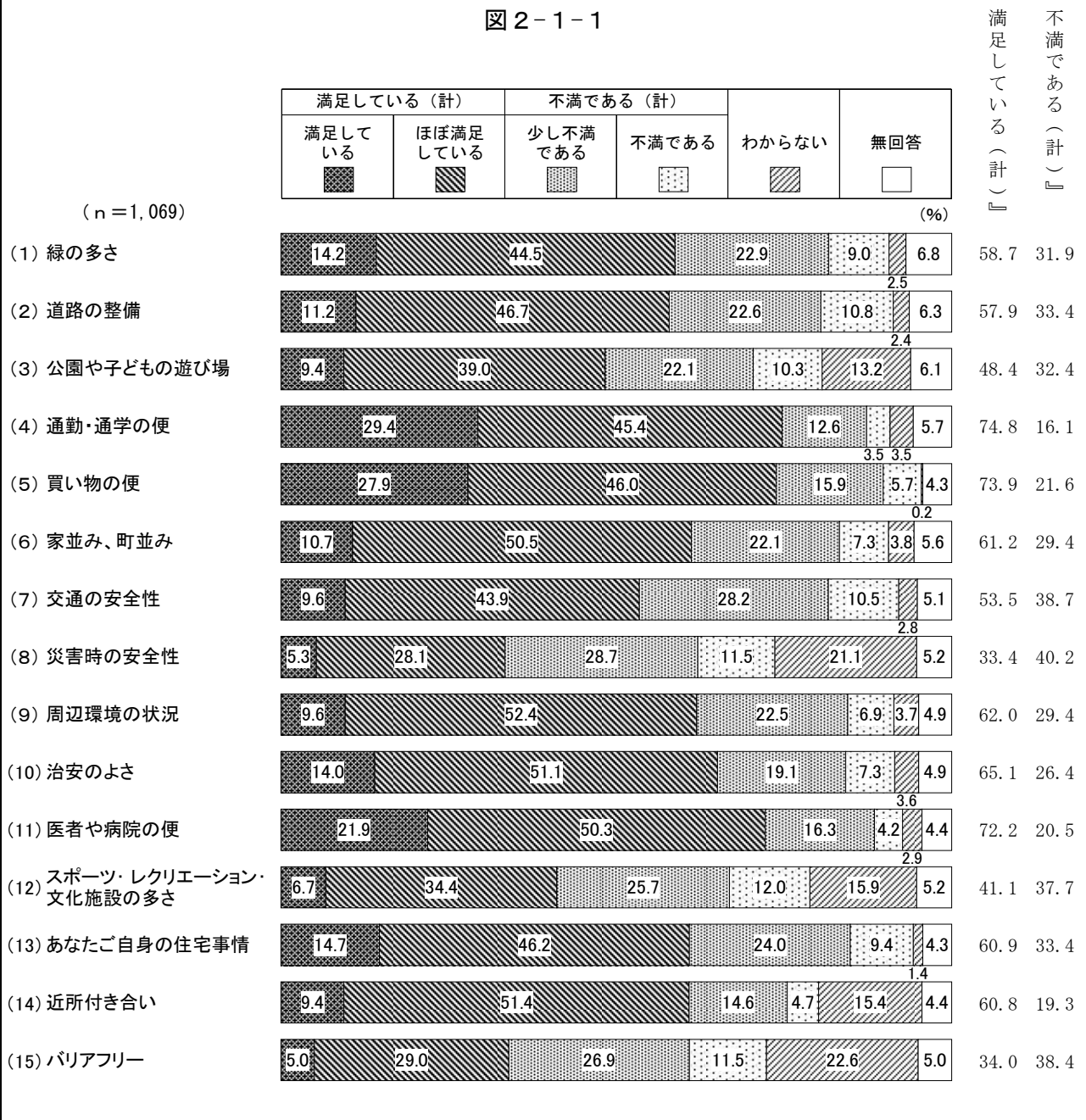
(1) 生活環境の満足度

◇「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた『満足している（計）』は“通勤・通学の便”で7割半ば

問4 住んでいるまちの生活環境について、どの程度満足していますか。

(○はそれぞれ1つ)

図2-1-1



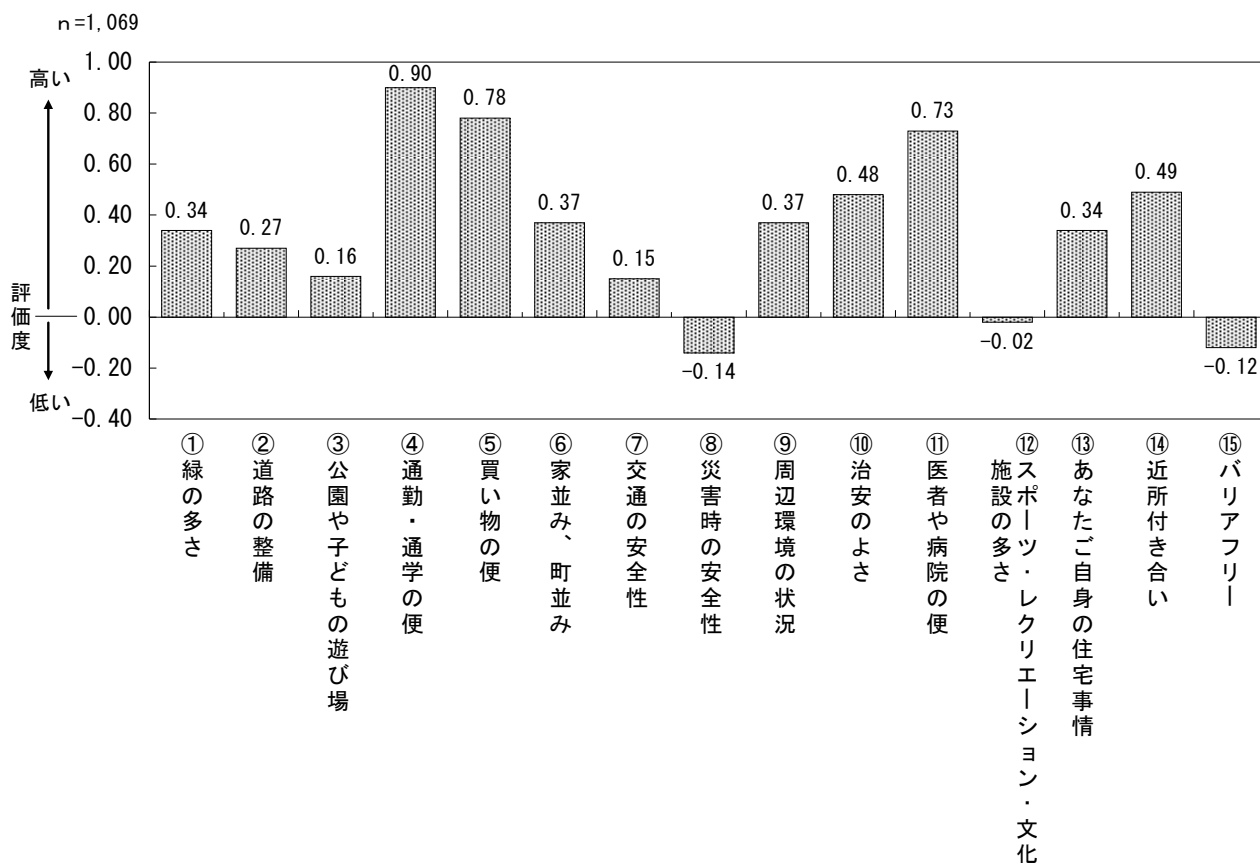
住んでいるまちの生活環境について聞いたところ、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた『満足している（計）』は“通勤・通学の便”（74.8%）で7割半ばと最も高くなっている。一方、「少し不満である」と「不満である」を合わせた『不満である（計）』は“災害時の安全性”（40.2%）で4割となっている。（図2-1-1）

15項目にわたる生活環境の満足度の比較をしやすくするため、それぞれの回答を点数化し、下記の計算式で各項目の評価点を求めた。なお、「わからない」は計算から除外した。

$$\text{評価点} = \frac{\text{「満足している」} \times 2 + \text{「ほぼ満足している」} \times 1 + \text{「少し不満である」} \times (-1) + \text{「不満である」} \times (-2)}{\text{回答者数}}$$

15項目の生活環境の満足度を評価点で見ると、評価が高いのは「通勤・通学の便」(0.90)、「買い物の便」(0.78)、「医者や病院の便」(0.73)の順となっている。一方、評価が低いのは「災害時の安全性」(-0.14)、「バリアフリー」(-0.12)、「スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ」(-0.02)の順となっている。(図2-1-2)

図2-1-2 生活環境の満足度（評価点）



以下、生活環境の満足度の評価点を地域別にみる。地域ごとに、全体と比べて評価の高いベスト3の項目と、評価の低いワースト3の項目を表に掲げた。

【大森地域】

全体と比較すると、「医者や病院の便」が 0.11 ポイント、「スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ」が 0.09 ポイント、「買い物の便」が 0.04 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、今回ベスト3に入っている上位2項目は前回と同様の項目となっている。また、前回では「あなたご自身の住宅事情」が3位であったが、今回は「買い物の便」が3位となっている。一方、ワースト3では前回3位であった「交通の安全性」が1位、「周辺環境の状況」が前回に引き続き2位となっている。また、前回のワースト3にはなかった項目の「公園や子どもの遊び場」が3位となっている。(図2-1-3、表2-1-1)

図2-1-3 生活環境の満足度－【大森地域】(全体との評価点の比較)

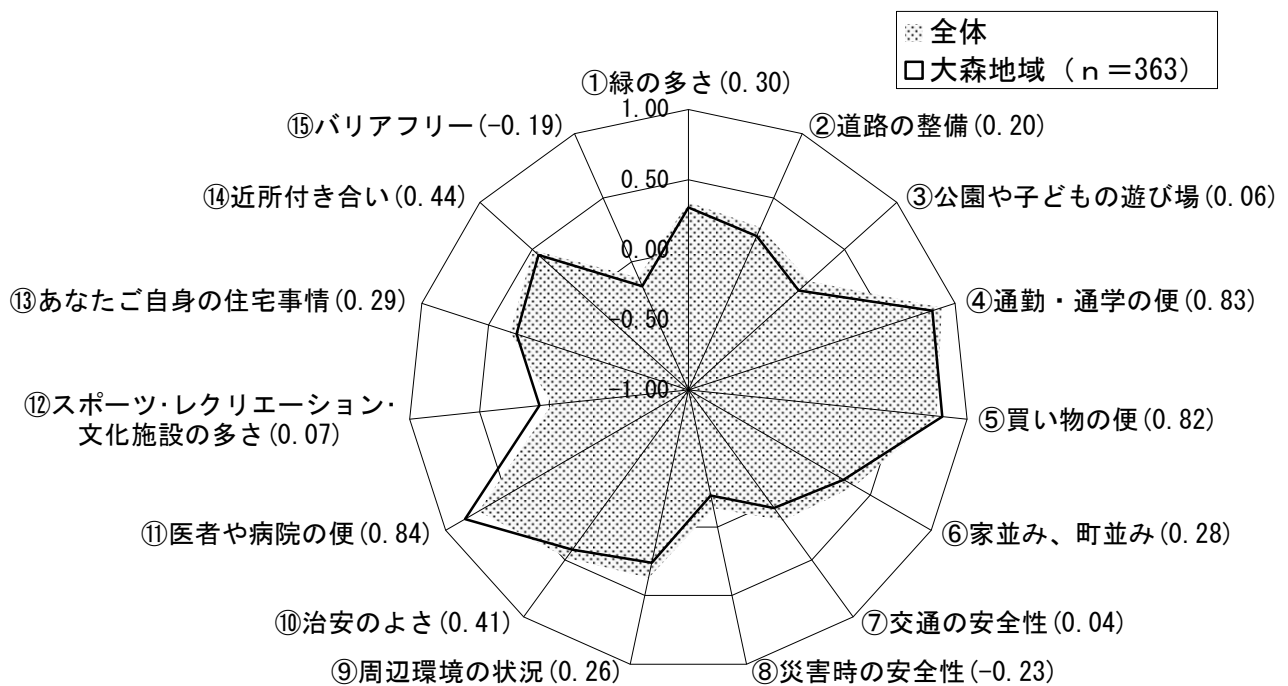


表2-1-1 生活環境の満足度－【大森地域】(全体との評価点の差ベスト3・ワースト3)

全体との差	1位	2位	3位
ベスト3	⑪ 医者や病院の便 0.11	⑫ スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ 0.09	⑤ 買い物の便 0.04
ワースト3	⑦ 交通の安全性 -0.11	⑨ 周辺環境の状況 -0.11	③ 公園や子どもの遊び場 -0.10

※同ポイントの項目は選択肢の順に記載

【調布地域】

全体と比較すると、「家並み、町並み」が 0.40 ポイント、「治安のよさ」が 0.37 ポイント、「周辺環境の状況」が 0.33 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、ベスト3では項目は前回と同様となっており、「家並み、町並み」が前回2位から今回1位、「治安のよさ」が前回3位から今回2位、「周辺環境の状況」が前回1位から今回3位となっている。一方、ワースト3では前回2位であった「スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ」が1位、前回1位であった「買い物の便」が2位となっている。また、前回のワースト3にはなかった項目の「医者や病院の便」が3位となっている。(図2-1-4、表2-1-2)

図2-1-4 生活環境の満足度－【調布地域】(全体との評価点の比較)

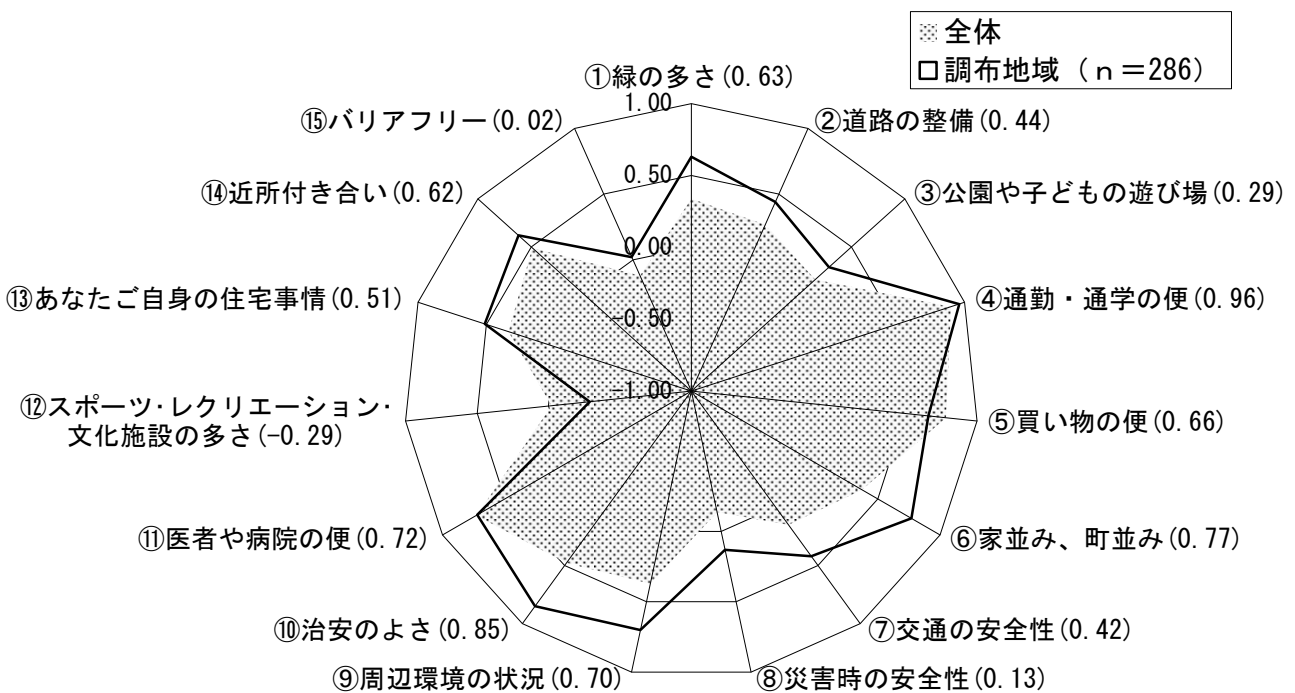


表2-1-2 生活環境の満足度－【調布地域】(全体との評価点の差ベスト3・ワースト3)

全体との差	1位	2位	3位
ベスト3	⑥家並み、町並み 0.40	⑩治安のよさ 0.37	⑨周辺環境の状況 0.33
ワースト3	⑫スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ -0.27	⑤買い物の便 -0.12	⑪医者や病院の便 -0.01

【蒲田地域】

全体と比較すると、「治安のよさ」が 0.22 ポイント、「緑の多さ」が 0.21 ポイント、「家並み、町並み」が 0.17 ポイント下回っている。

前回調査と比べると、ベスト3では前回3位であった「買い物の便」が1位、前回2位であった「スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ」が3位となっている。また、前回のベスト3にはなかった項目の「通勤・通学の便」が2位となっている。一方、ワースト3では項目は前回と同様となっており、「治安のよさ」が前回に引き続き1位、「緑の多さ」が前回3位から今回2位、「家並み、町並み」が前回2位から今回3位となっている。(図2-1-5、表2-1-3)

図2-1-5 生活環境の満足度－【蒲田地域】(全体との評価点の比較)

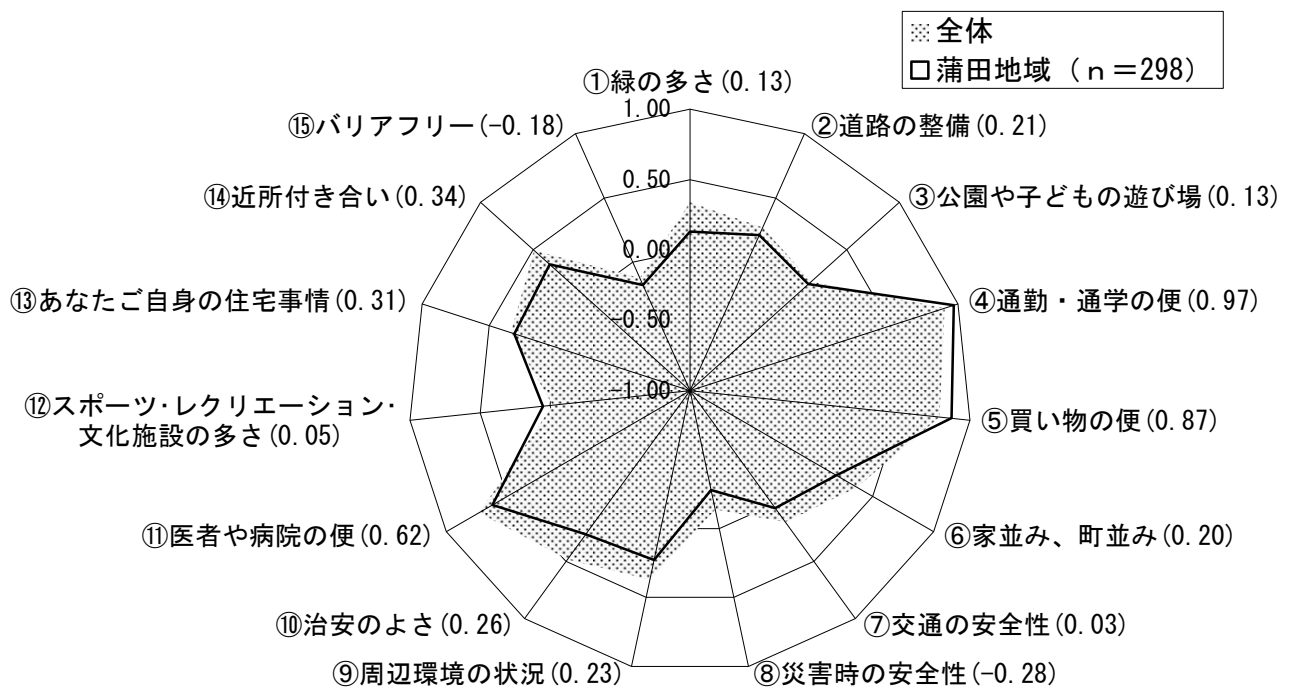


表2-1-3 生活環境の満足度－【蒲田地域】(全体との評価点の差ベスト3・ワースト3)

全体との差	1位	2位	3位
ベスト3	⑤買い物の便 0.09	④通勤・通学の便 0.07	⑫スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ 0.07
ワースト3	⑩治安のよさ -0.22	①緑の多さ -0.21	⑥家並み、町並み -0.17

※同ポイントの項目は選択肢の順に記載

【糀谷・羽田地域】

全体と比較すると、「スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ」が 0.20 ポイント、「近所付き合い」が 0.20 ポイント、「公園や子どもの遊び場」が 0.11 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、ベスト3では「公園や子どもの遊び場」が前回1位から今回3位となっている。また、前回のベスト3にはなかった項目の「スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ」が1位、「近所付き合い」が2位となっている。一方、ワースト3では「家並み、町並み」が前回3位から今回1位となっている。また、前回のワースト3にはなかった項目の「治安のよさ」が2位、「通勤・通学の便」が3位となっている。(図2-1-6、表2-1-4)

図2-1-6 生活環境の満足度－【糀谷・羽田地域】(全体との評価点の比較)

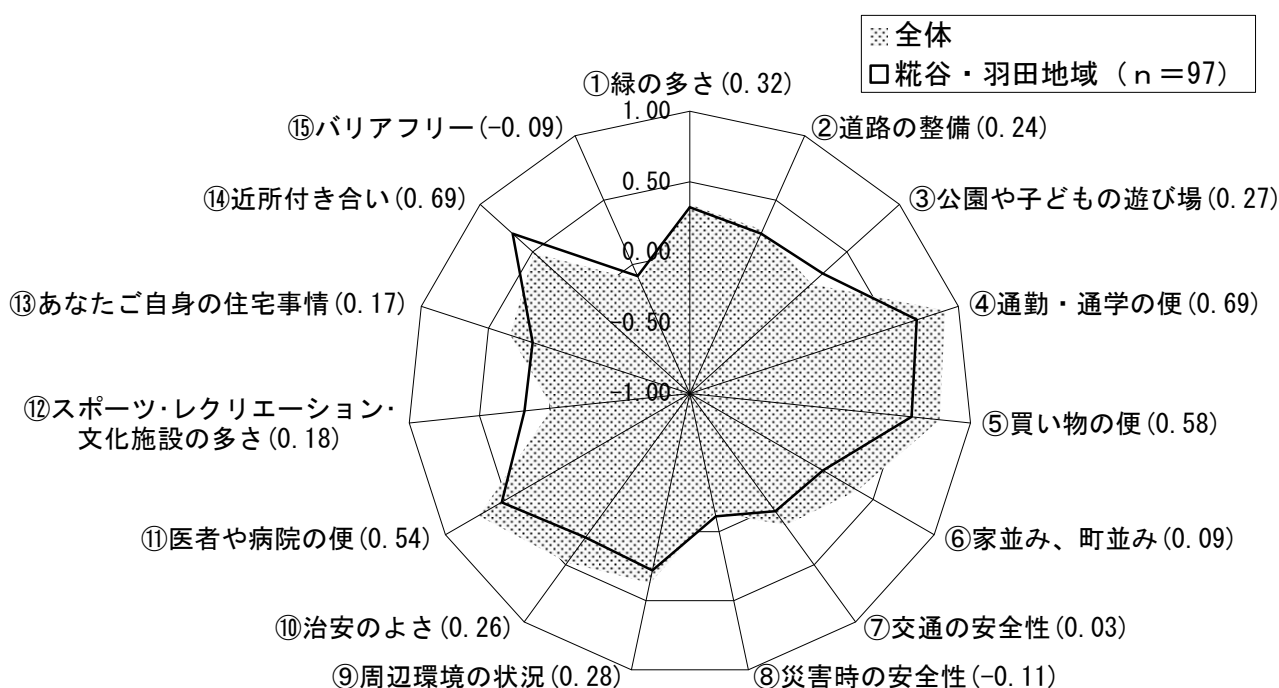


表2-1-4 生活環境の満足度－【糀谷・羽田地域】(全体との評価点の差ベスト3・ワースト3)

全体との差	1位	2位	3位
ベスト3	⑫スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ 0.20	⑭近所付き合い 0.20	③公園や子どもの遊び場 0.11
ワースト3	⑥家並み、町並み -0.28	⑩治安のよさ -0.22	④通勤・通学の便 -0.21

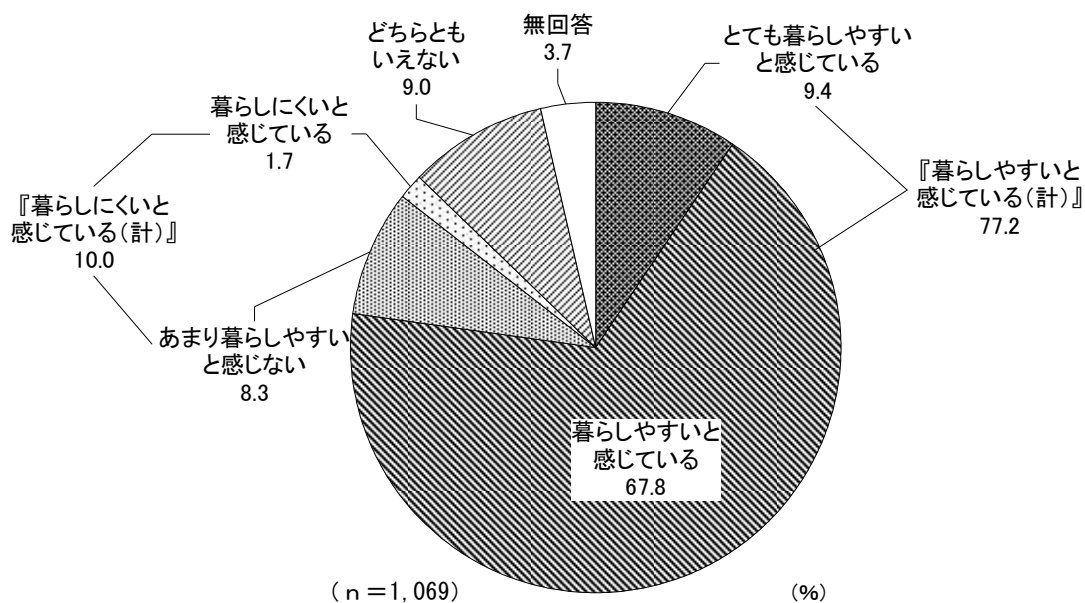
※同ポイントの項目は選択肢の順に記載

(2) 住んでいるまちの暮らしやすさ

◇「とても暮らしやすいと感じている」と「暮らしやすいと感じている」を合わせた『暮らしやすいと感じている(計)』は8割近く

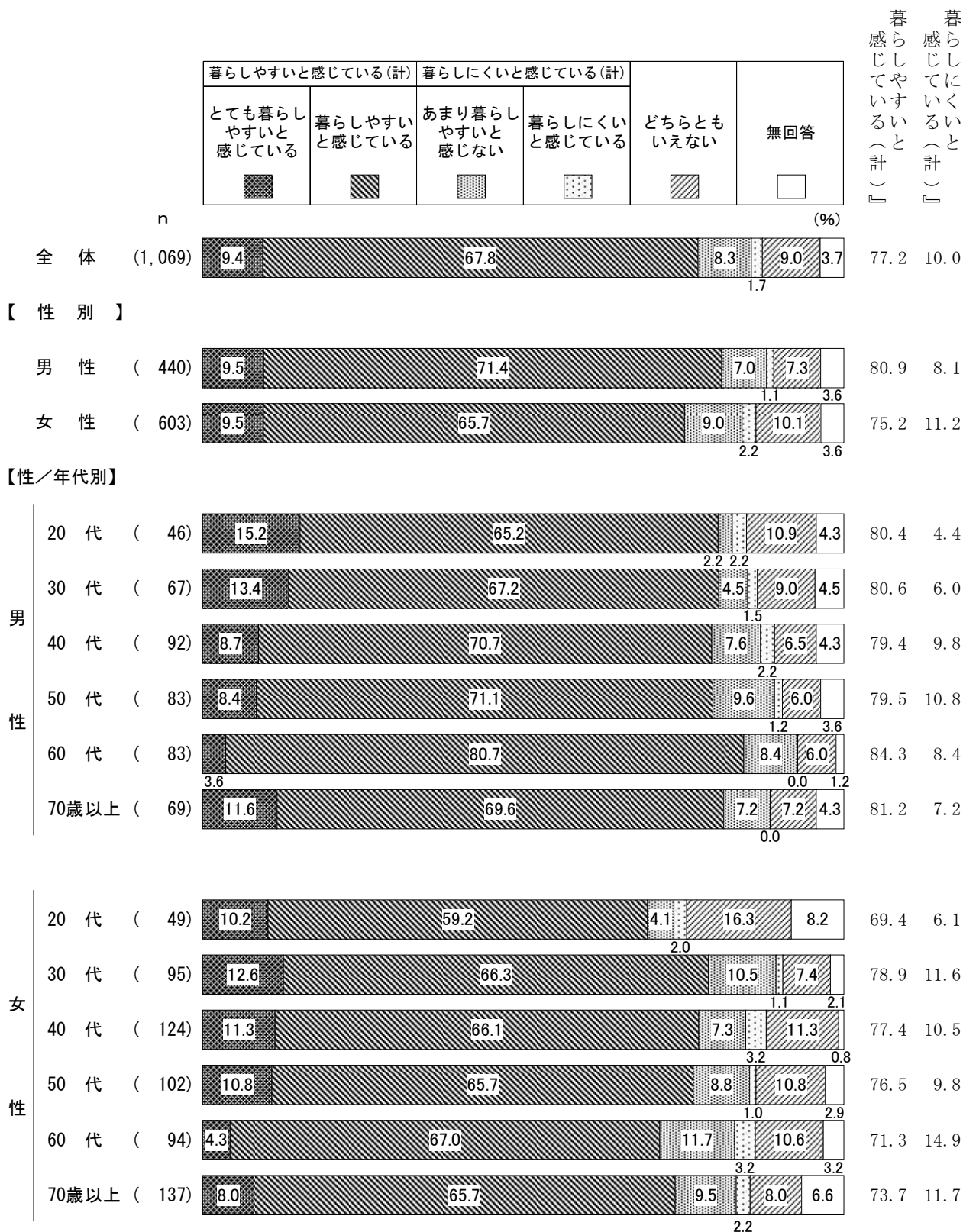
問5 現在住んでいるまちの暮らしやすさを、どのように感じていますか。(○は1つだけ)

図2-2-1



現在住んでいるまちの暮らしやすさについて聞いたところ、「暮らしやすいと感じている」(67.8%)が7割近くで最も高く、これに「とても暮らしやすいと感じている」(9.4%)を合わせた『暮らしやすいと感じている(計)』(77.2%)は8割近くとなっている。また、「あまり暮らしやすいと感じない」(8.3%)と「暮らしにくいと感じている」(1.7%)を合わせた『暮らしにくいと感じている(計)』(10.0%)は1割となっている。(図2-2-1)

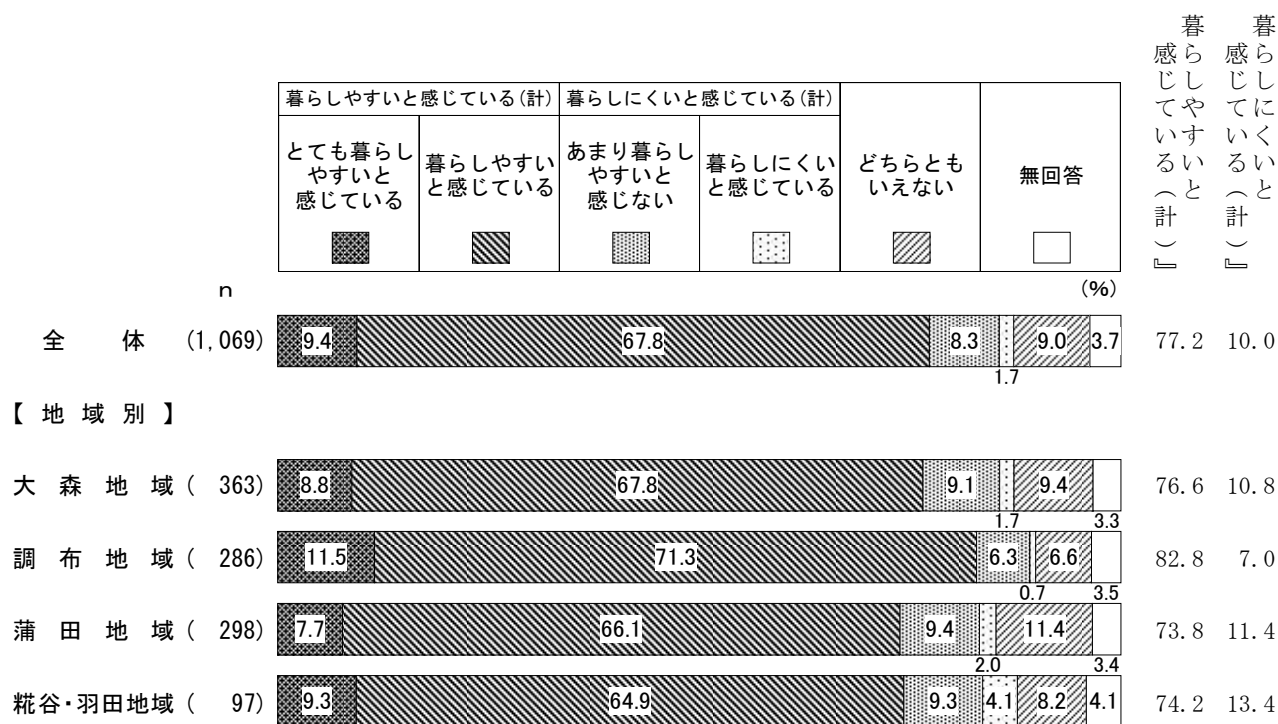
図2-2-2 住んでいるまちの暮らしやすさ—性／年代別



性別でみると、『暮らしやすいと感じている(計)』は男性(80.9%)が女性(75.2%)より5.7ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『暮らしやすいと感じている(計)』は男性60代(84.3%)で8割半ばと高くなっている。一方、『暮らしにくいと感じている(計)』は女性60代(14.9%)で1割半ばとなっている。(図2-2-2)

図 2-2-3 住んでいるまちの暮らしやすさ—地域別



地域別でみると、『暮らしやすいと感じている(計)』は調布地域(82.8%)で8割を超えて高くなっている。(図 2-2-3)

《基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち》

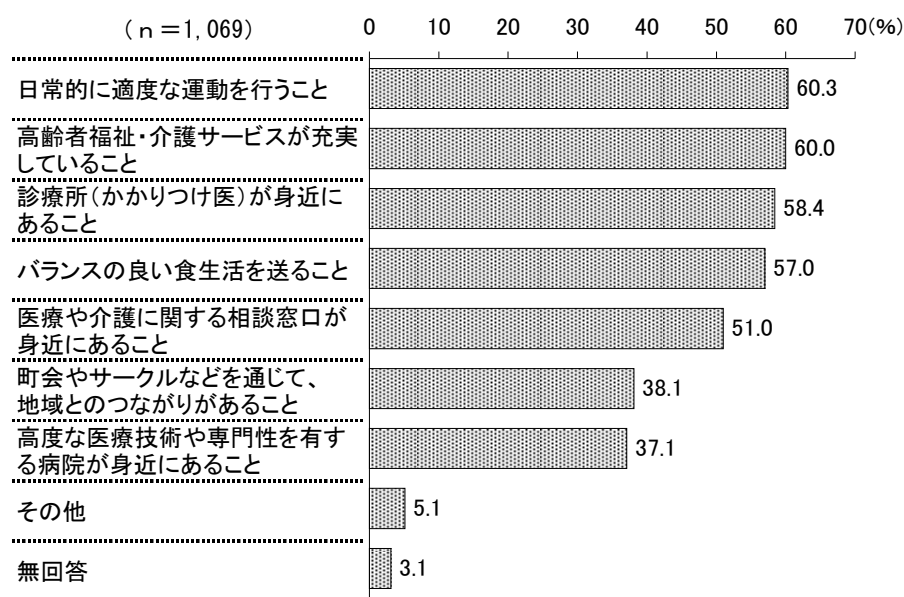
3. 健康に暮らせるまち

(1) 人生の最終段階まで安心して暮らしていくために重要なこと

◇「日常的に適度な運動を行うこと」と「高齢者福祉・介護サービスが充実していること」が6割

問6 住み慣れた地域で、人生の最終段階まで安心して暮らしていくためには、何が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

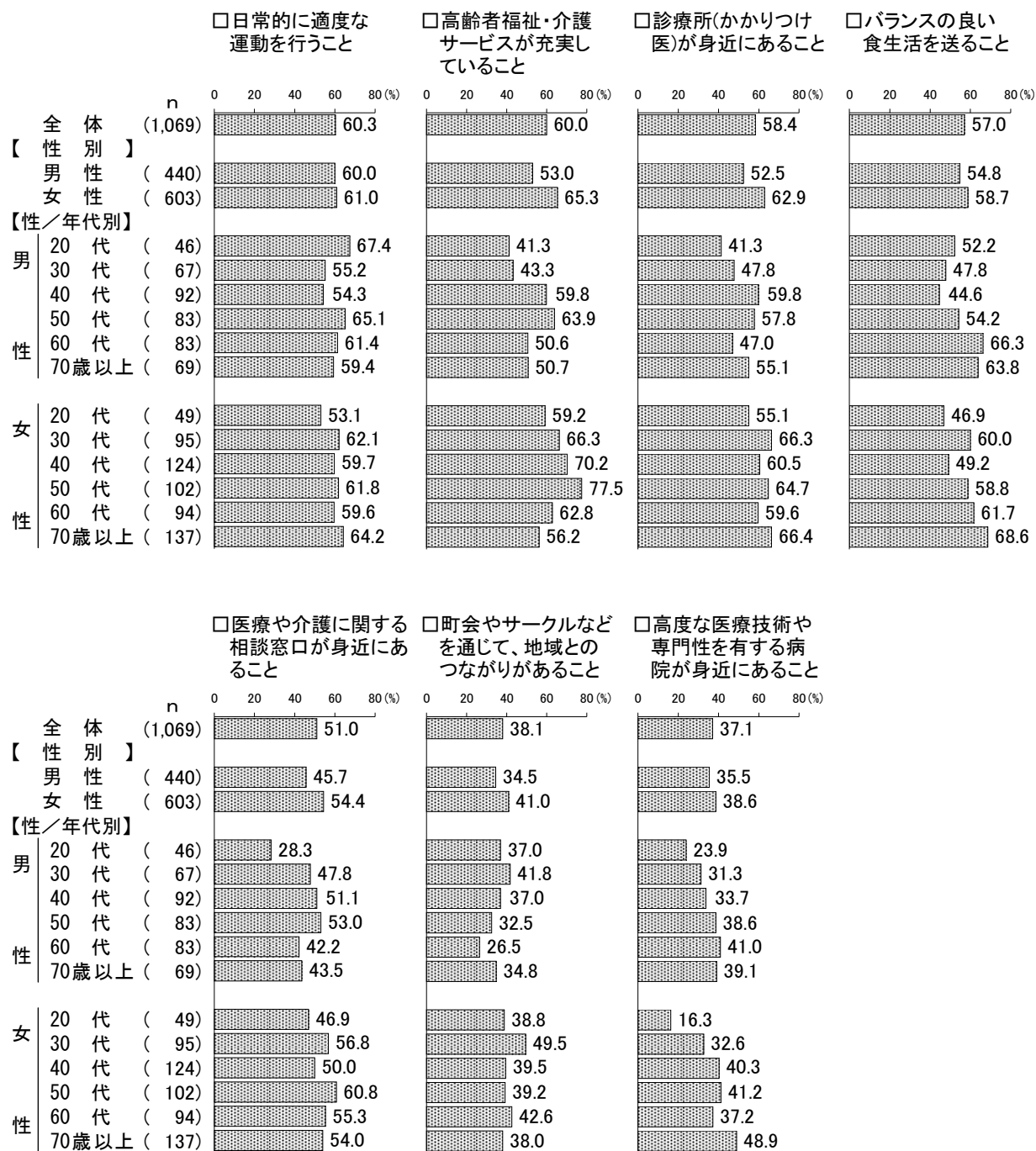
図 3-1-1



人生の最終段階まで安心して暮らしていくために重要なことを聞いたところ、「日常的に適度な運動を行うこと」(60.3%)と「高齢者福祉・介護サービスが充実していること」(60.0%)が6割で高く、次いで「診療所(かかりつけ医)が身近にあること」(58.4%)、「バランスの良い食生活を送ること」(57.0%)、「医療や介護に関する相談窓口が身近にあること」(51.0%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「治安が良いこと」、「経済的に不安がないこと」、「交通の便が良いこと」などがあげられている。(図 3-1-1)

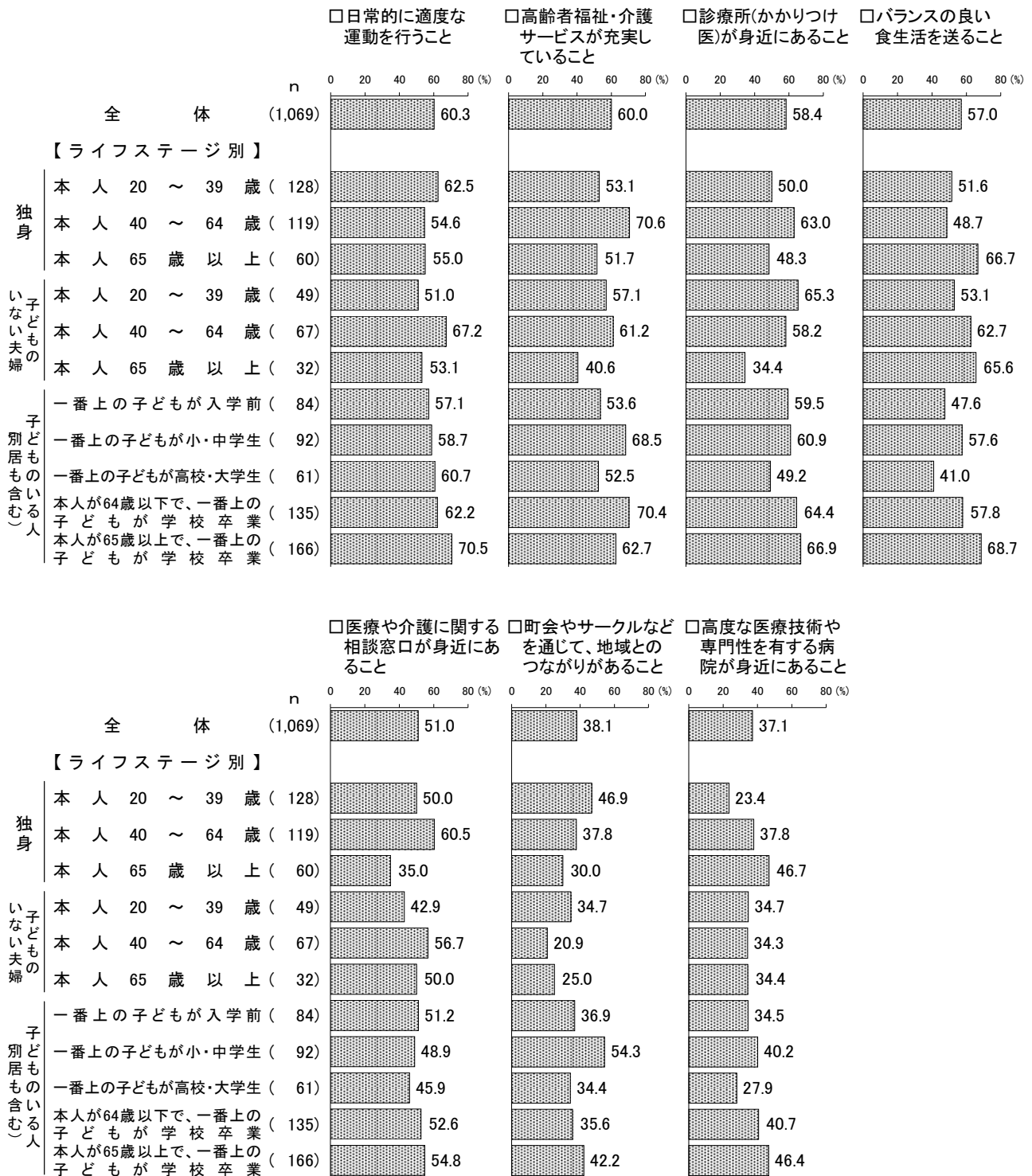
図3-1-2 人生の最終段階まで安心して暮らしていくために重要なことー性／年代別



性別でみると、全ての項目で女性が男性を上回っており、「高齢者福祉・介護サービスが充実していること」は女性（65.3%）が男性（53.0%）より12.3ポイント高く、「診療所（かかりつけ医）が身近にあること」は女性（62.9%）が男性（52.5%）より10.4ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「日常的に適度な運動を行うこと」は男性20代（67.4%）で7割近くと高くなっている。また、「高齢者福祉・介護サービスが充実していること」は女性50代（77.5%）で8割近くと高く、「バランスの良い食生活を送ること」は女性70歳以上（68.6%）で7割近くと高くなっている。（図3-1-2）

図3-1-3 人生の最終段階まで安心して暮らしていくために重要なことーライフステージ別

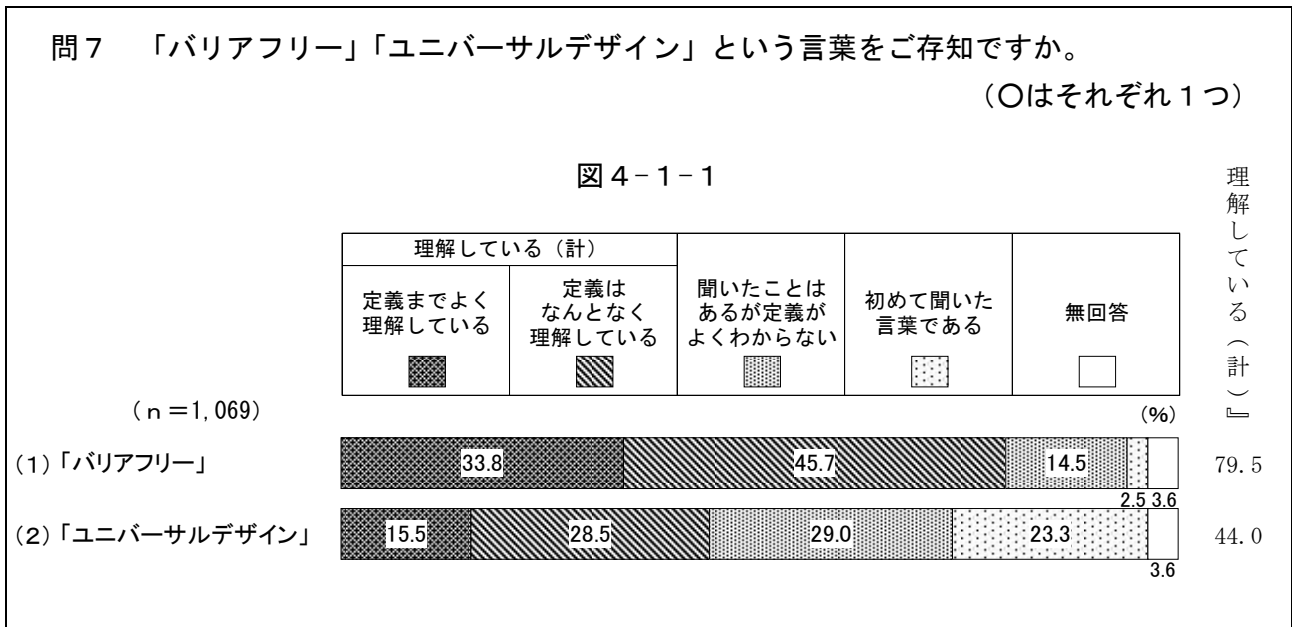


ライフステージ別でみると、「日常的に適度な運動を行うこと」は子どものいる人（別居も含む）/本人が65歳以上で、一番上の子どもが学校卒業（70.5%）で約7割と高くなっている。また、「高齢者福祉・介護サービスが充実していること」は独身/本人40～64歳（70.6%）と子どものいる人（別居も含む）/本人が64歳以下で、一番上の子どもが学校卒業（70.4%）で約7割と高くなっている。（図3-1-3）

4. バリアフリー・ユニバーサルデザイン

(1) 「バリアフリー」、「ユニバーサルデザイン」の認知度

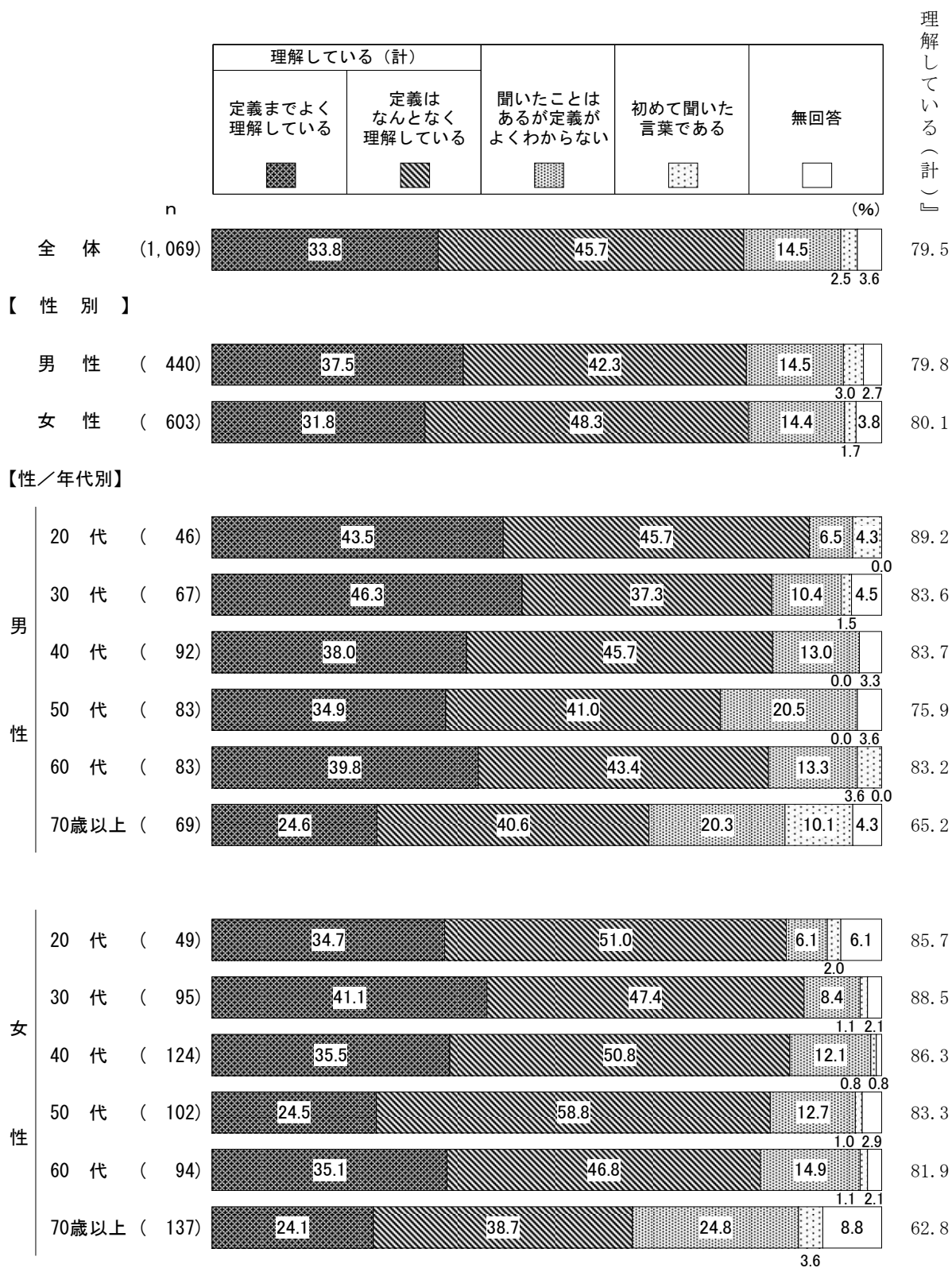
◇「定義までよく理解している」と「定義はなんとなく理解している」を合わせた『理解している(計)』は「バリアフリー」が8割、「ユニバーサルデザイン」が4割半ば



「バリアフリー」という言葉を知っているか聞いたところ、「定義はなんとなく理解している」(45.7%)が4割半ばで最も高く、これに「定義までよく理解している」(33.8%)を合わせた『理解している(計)』(79.5%)は8割となっている。また、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」(14.5%)は1割半ば、「初めて聞いた言葉である」(2.5%)はわずかとなっている。

「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っているか聞いたところ、「定義までよく理解している」(15.5%)と「定義はなんとなく理解している」(28.5%)を合わせた『理解している(計)』(44.0%)は4割半ばとなっている。また、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」(29.0%)は約3割、「初めて聞いた言葉である」(23.3%)は2割を超えている。(図4-1-1)

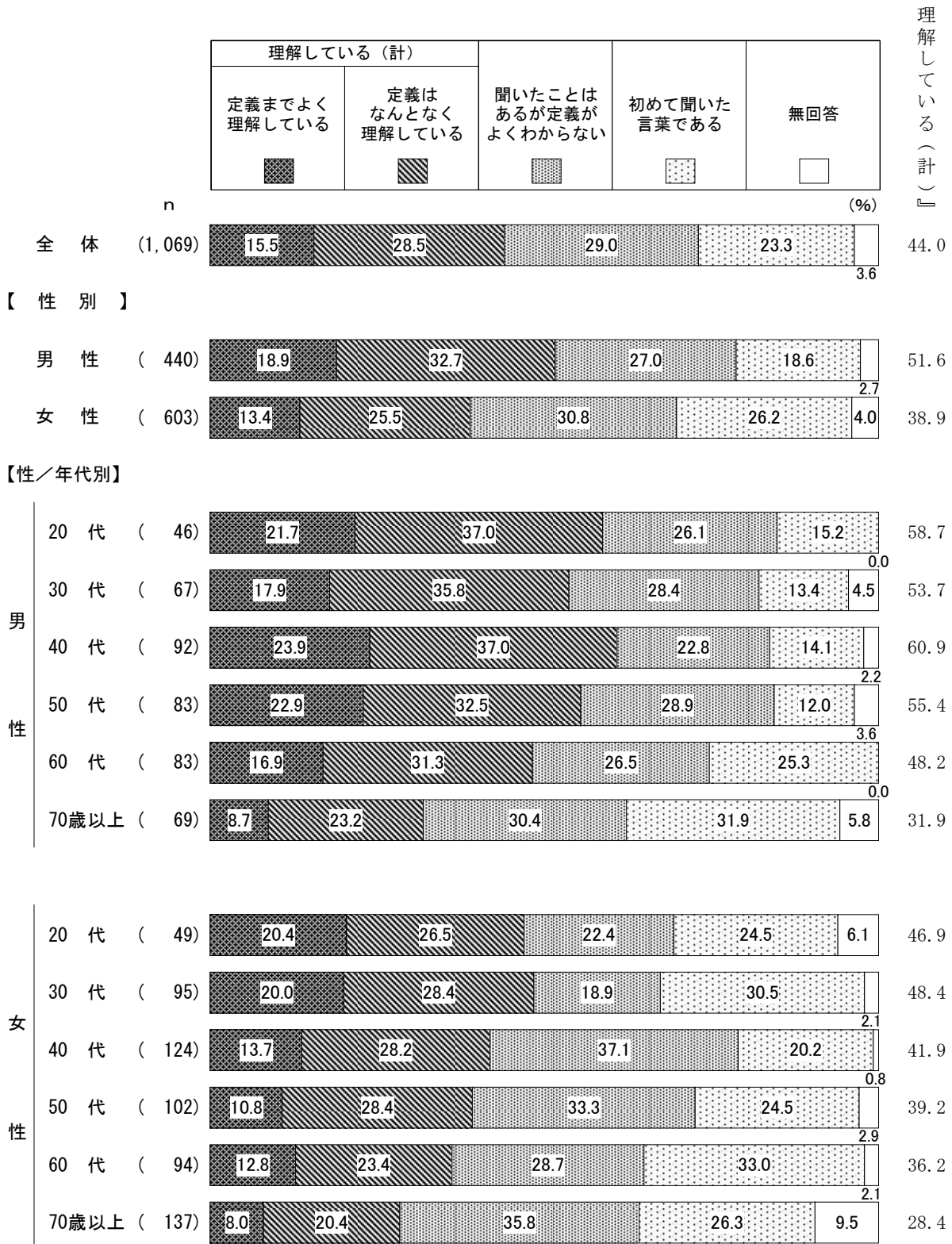
図 4-1-2 「バリアフリー」の認知度—性／年代別



「バリアフリー」の認知度を性別でみると、「定義までよく理解している」は男性（37.5%）が女性（31.8%）より5.7ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『理解している（計）』は男性20代（89.2%）で約9割と高くなっている。また、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」は女性70歳以上（24.8%）で2割半ばとなっている。（図4-1-2）

図 4-1-3 「ユニバーサルデザイン」の認知度—性／年代別

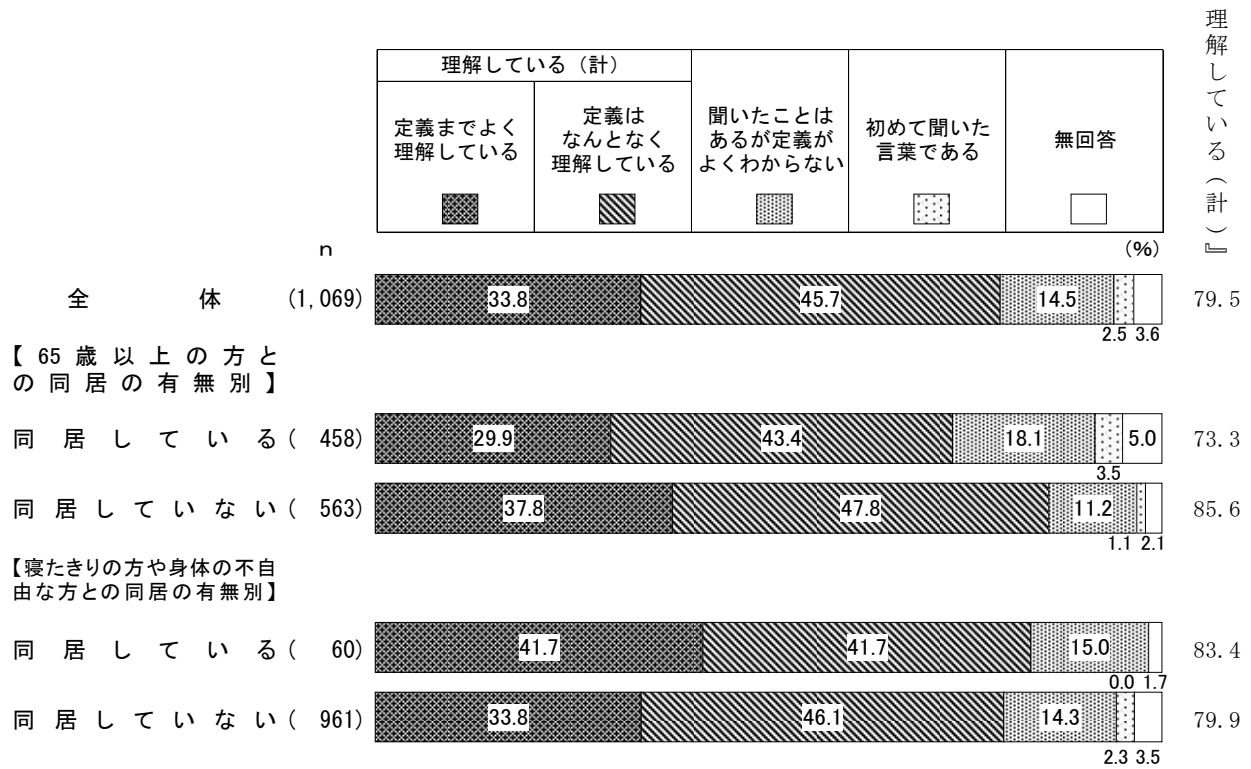


「ユニバーサルデザイン」の認知度を性別で見ると、『理解している (計)』は男性 (51.6%) が女性 (38.9%) より12.7ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『理解している (計)』は男性40代 (60.9%) で約6割と高くなっている。一方、「初めて聞いた言葉である」は女性の30代 (30.5%) と60代 (33.0%)、男性70歳以上 (31.9%) で3割台となっている。(図 4-1-3)

図 4-1-4 「バリアフリー」の認知度

-65歳以上の方との同居の有無別、寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別

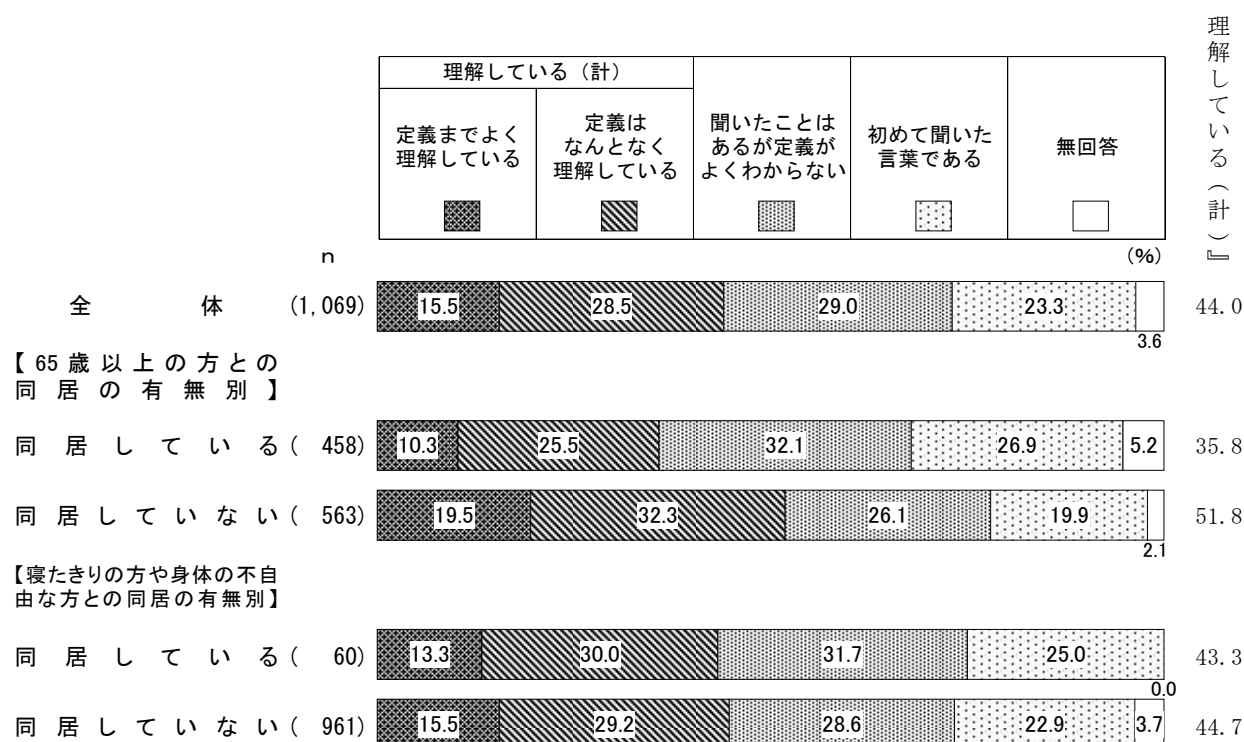


「バリアフリー」の認知度を65歳以上の方との同居の有無別で見ると、『理解している (計)』は同居していない人 (85.6%) が同居している人 (73.3%) より12.3ポイント高くなっている。

寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別で見ると、『理解している (計)』は同居している人 (83.4%) が同居していない人 (79.9%) より3.5ポイント高くなっている。(図 4-1-4)

図4-1-5 「ユニバーサルデザイン」の認知度

—65歳以上の方との同居の有無別、寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別



「ユニバーサルデザイン」の認知度を65歳以上の方との同居の有無別でみると、『理解している (計)』は同居していない人 (51.8%) が同居している人 (35.8%) より16.0ポイント高くなっている。一方、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」は同居している人 (32.1%) が同居していない人 (26.1%) より6.0ポイント高くなっている。

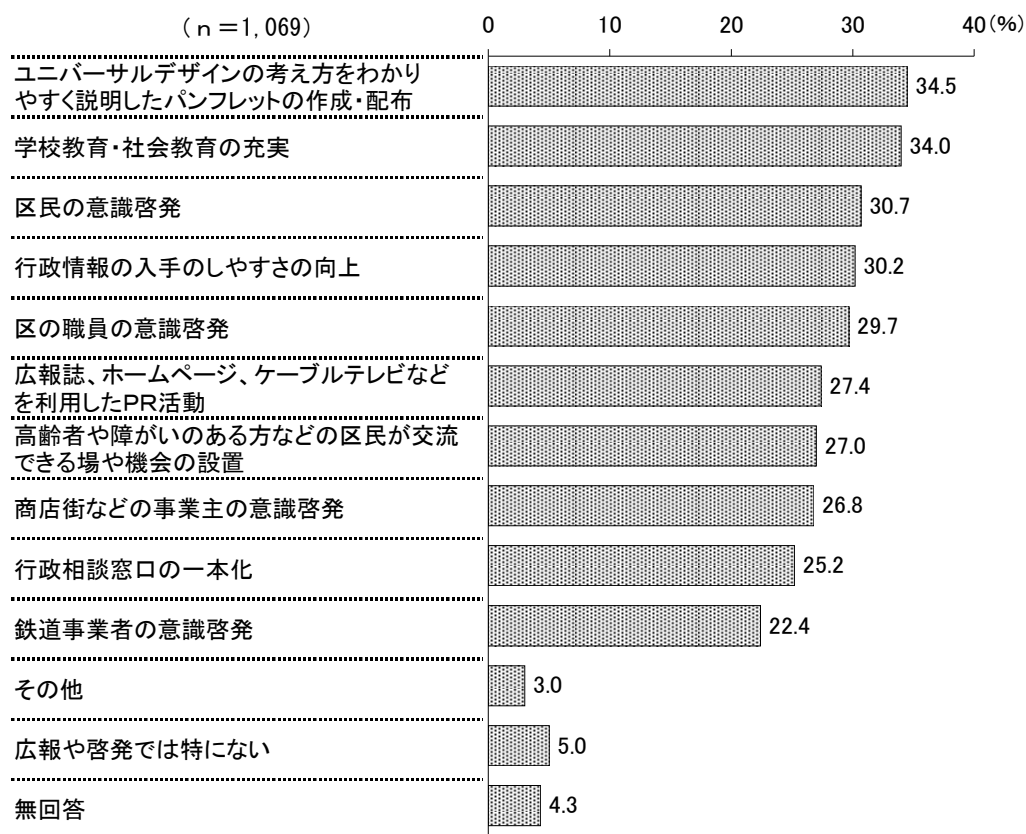
寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別でみると、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」は同居している人 (31.7%) が同居していない人 (28.6%) より3.1ポイント高くなっている。(図4-1-5)

(2) 「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を進めるために必要な区の実施

◇「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」と「学校教育・社会教育の充実」が3割半ば

問8 バリアフリーやユニバーサルデザインの視点でまちづくりを進めるにあたり、広報や啓発活動で区としてどのような取り組みが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

図4-2-1

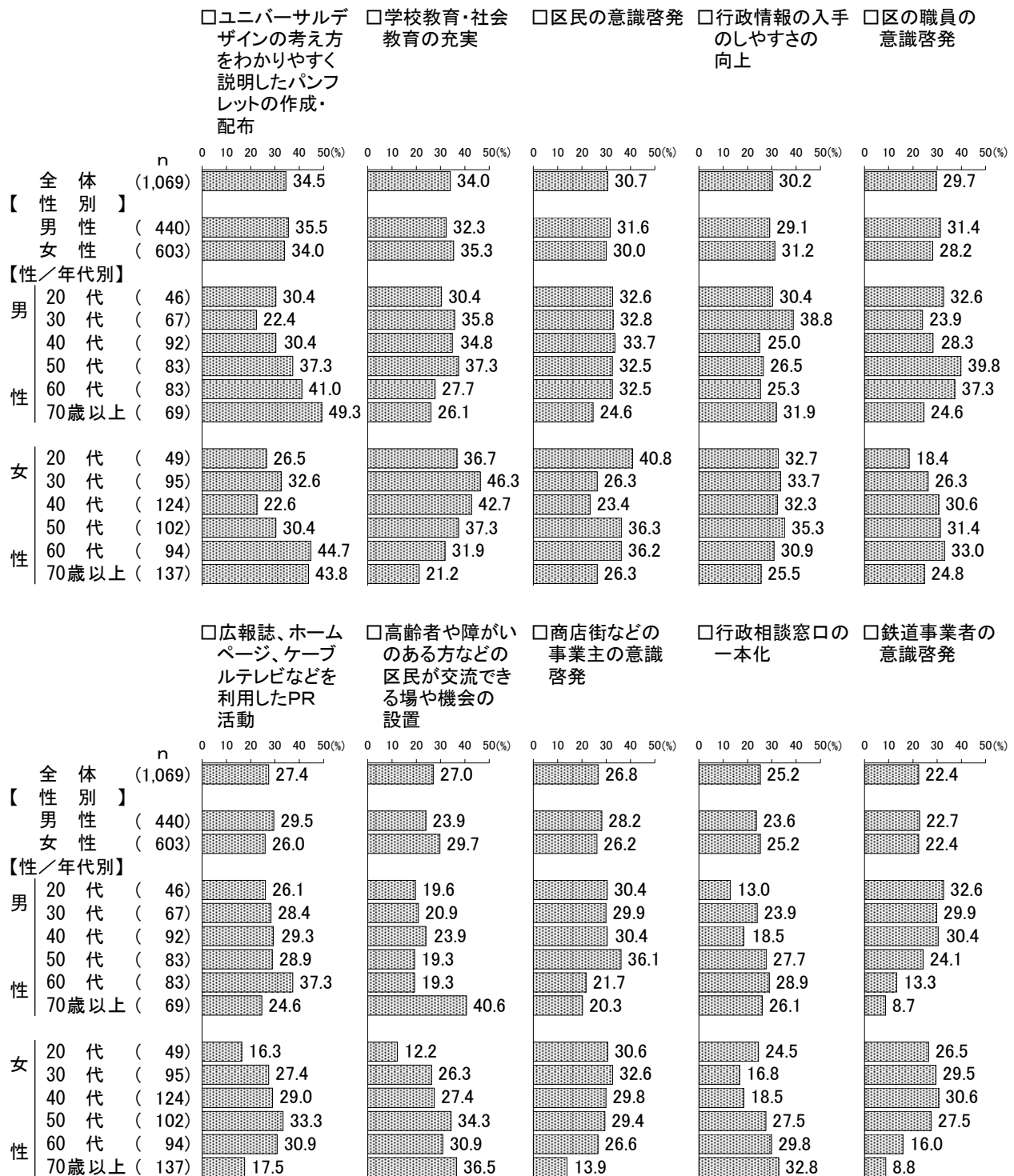


「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を進めるために必要な区の実施について聞いたところ、「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」(34.5%)と「学校教育・社会教育の充実」(34.0%)が3割半ばで高く、次いで「区民の意識啓発」(30.7%)、「行政情報の入手のしやすさの向上」(30.2%)、「区の職員の意識啓発」(29.7%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「バリアフリー、ユニバーサルデザインを体験できるモデル施設づくり」、「ニュースや情報番組などテレビ放送」などがあげられている。(図4-2-1)

図 4-2-2 「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を進めるために必要な区の実施

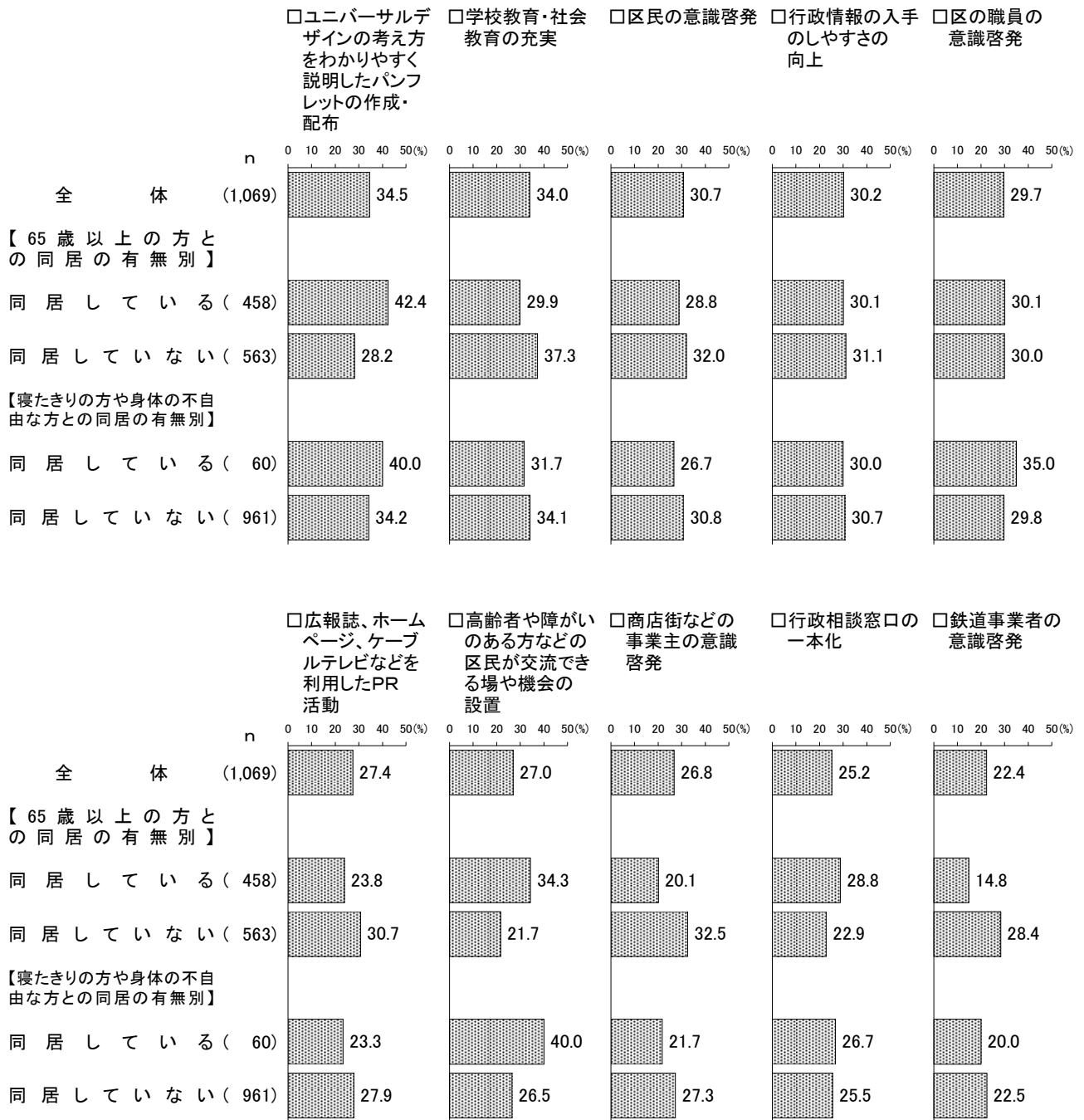
—性／年代別



性別で見ると、「高齢者や障がいのある方などの区民が交流できる場や機会の設置」は女性（29.7%）が男性（23.9%）より5.8ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」は男性70歳以上（49.3%）で約5割となり、「学校教育・社会教育の充実」は女性30代（46.3%）で4割半ばとなっている。（図4-2-2）

図4-2-3 「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を進めるために必要な区の実施事項
 -65歳以上の方との同居の有無別、寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別



65歳以上の方との同居の有無別でみると、「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」は同居している人（42.4%）が同居していない人（28.2%）より14.2ポイント高くなっている。一方、「鉄道事業者の意識啓発」は同居していない人（28.4%）が同居している人（14.8%）より13.6ポイント高くなっている。

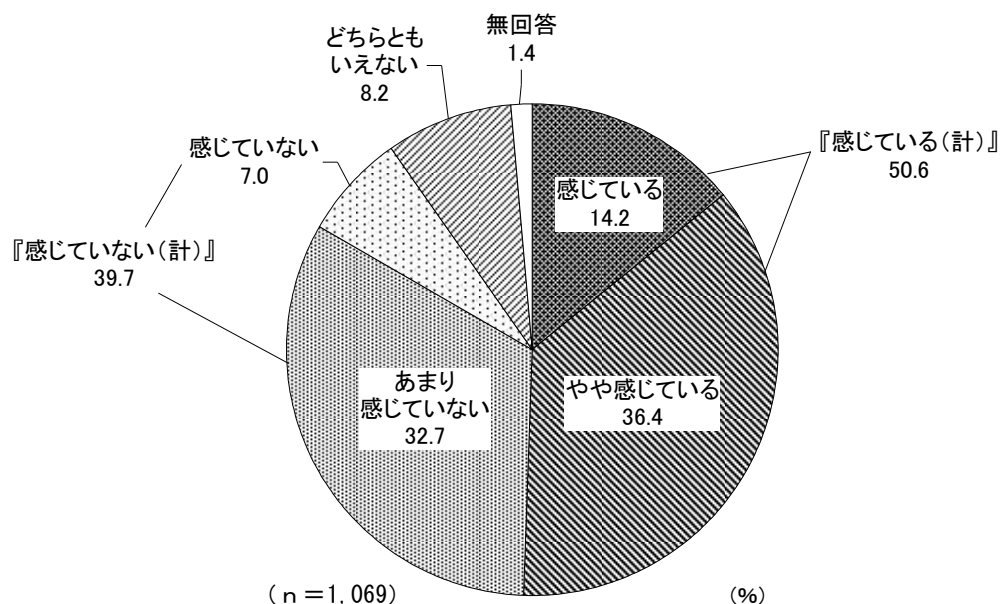
寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別でみると、「高齢者や障がいのある方などの区民が交流できる場や機会の設置」は同居している人（40.0%）が同居していない人（26.5%）より13.5ポイント高くなっている。（図4-2-3）

(3) 駅周辺のバリアフリー化

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は約5割

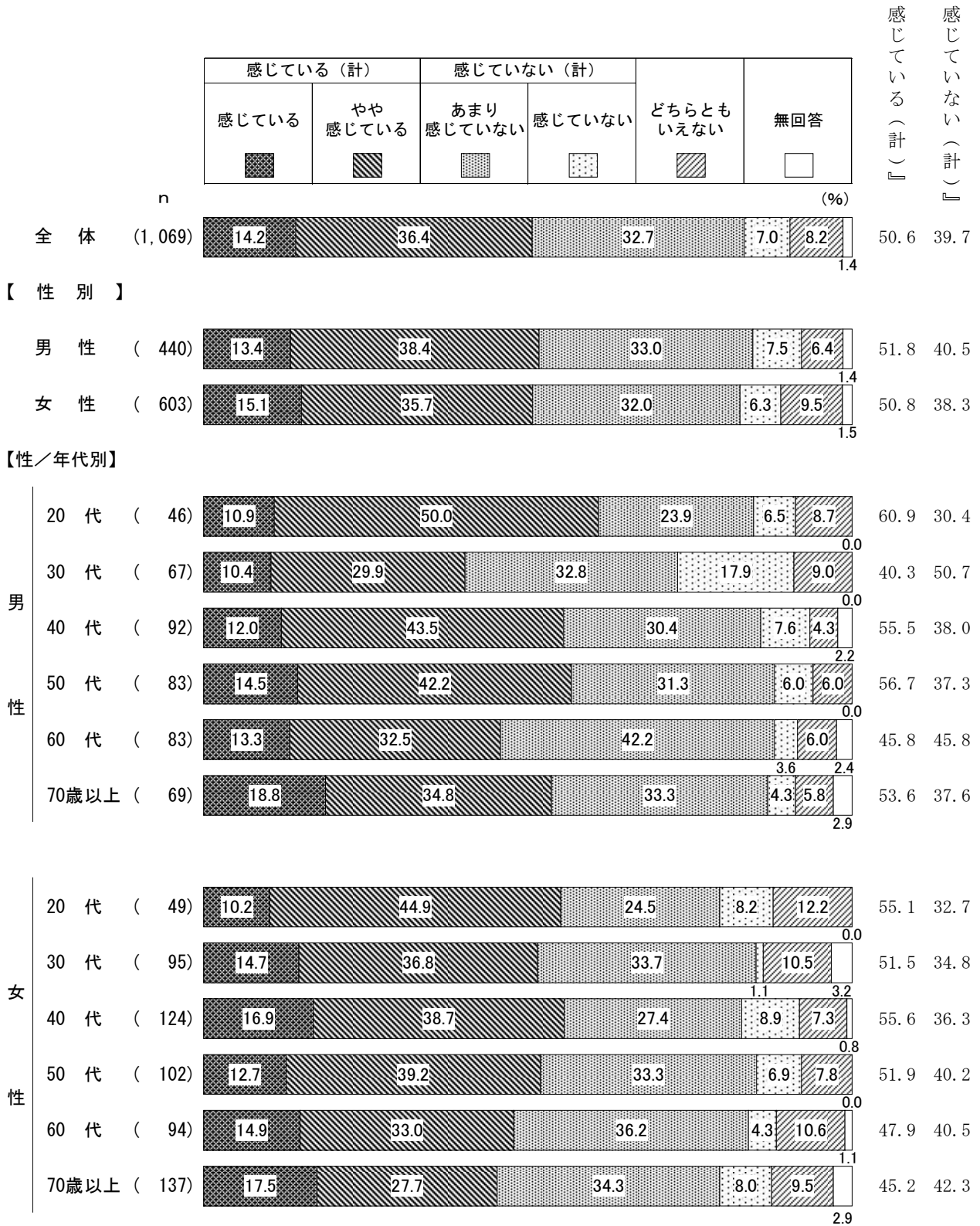
問9 駅周辺のバリアフリー化が進んだと感じていますか。(○は1つだけ)

図4-3-1



駅周辺のバリアフリー化が進んだと感じているか聞いたところ、「感じている」(14.2%)と「やや感じている」(36.4%)を合わせた『感じている(計)』(50.6%)は約5割となっている。一方、「あまり感じていない」(32.7%)と「感じていない」(7.0%)を合わせた『感じていない(計)』(39.7%)は4割となっている。(図4-3-1)

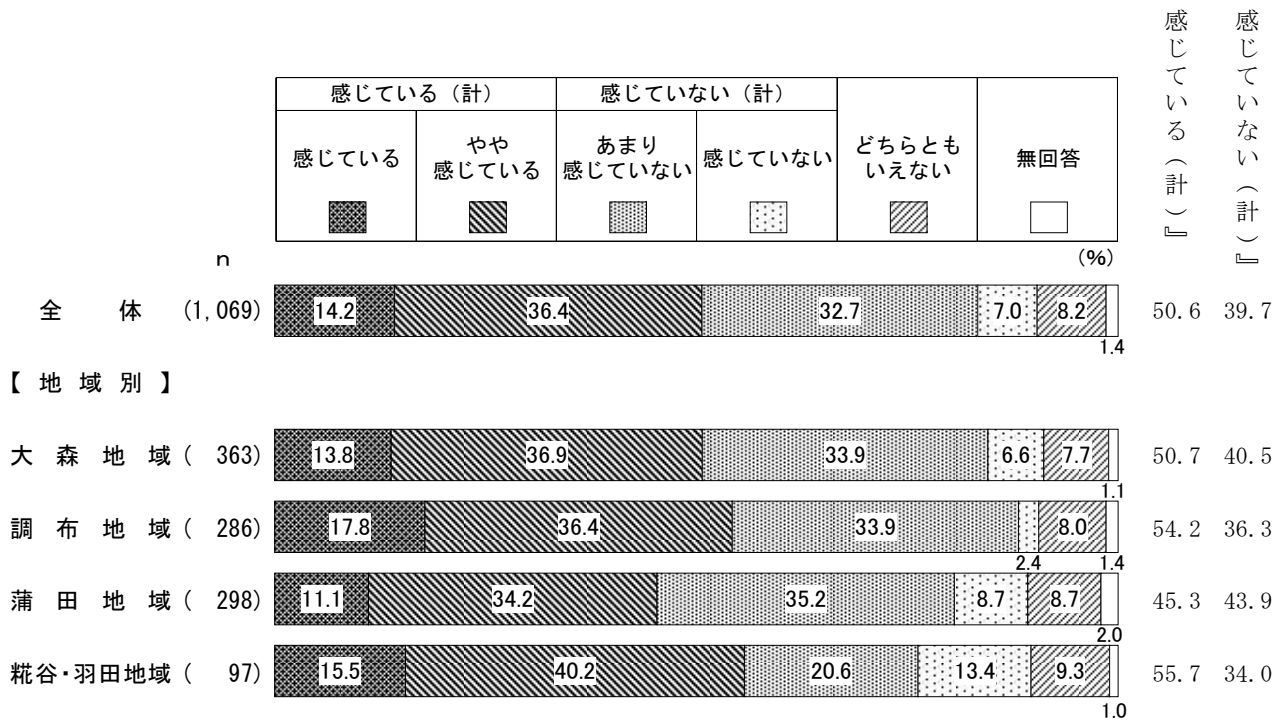
図 4-3-2 駅周辺のバリアフリー化—性／年代別



性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、『感じている (計)』は男性20代 (60.9%) で約6割と高くなっている。一方、『感じていない (計)』は男性30代 (50.7%) で約5割となっている。(図 4-3-2)

図 4-3-3 駅周辺のバリアフリー化—地域別



地域別でみると、『感じている (計)』は糀谷・羽田地域 (55.7%) と調布地域 (54.2%) で5割半ばとなっている。一方、『感じていない (計)』は蒲田地域 (43.9%) で4割を超えている。

(図 4-3-3)

5. 生きがいと誇りをもって暮らせるまち

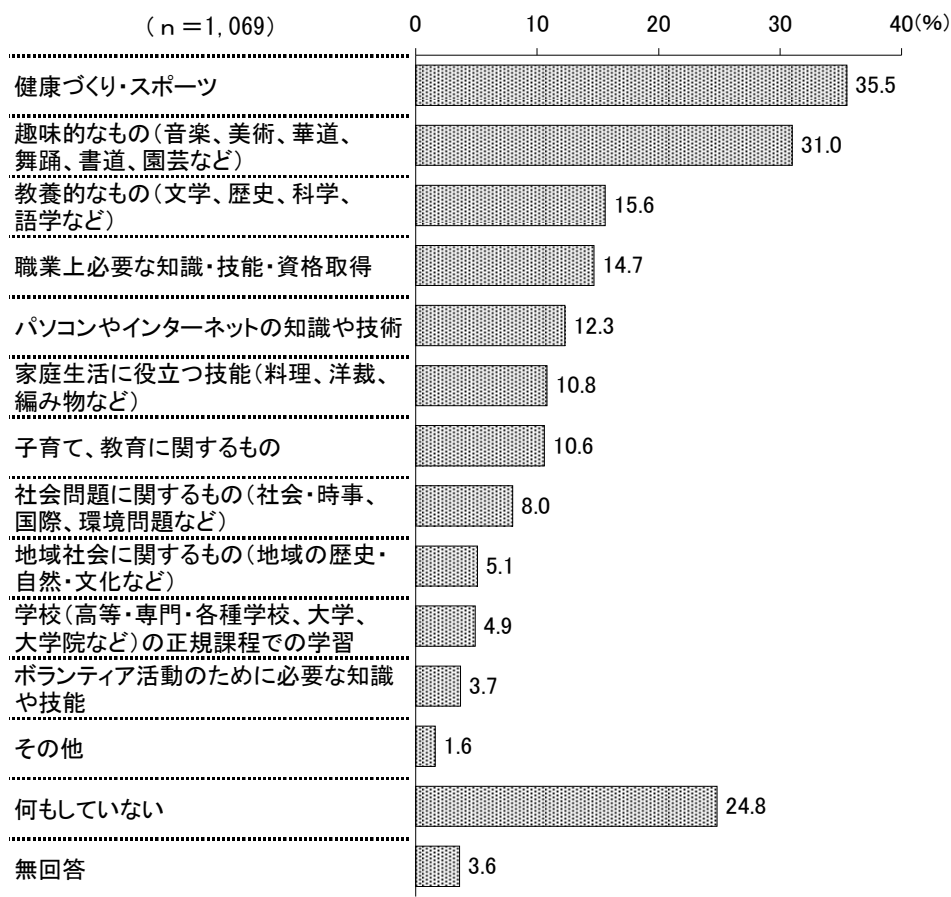
(1) この1年間に行った生涯学習

◇「健康づくり・スポーツ」が3割半ば

問10 この1年間にどのような生涯学習の活動を行いましたか。(〇はいくつでも)

※「生涯学習」とは、人々が生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校教育や区が行う講座などの学習機会に限らず、自ら進んで行う学習、文化、スポーツ、趣味、ボランティア活動などにおけるさまざまな学習活動のことをいいます。

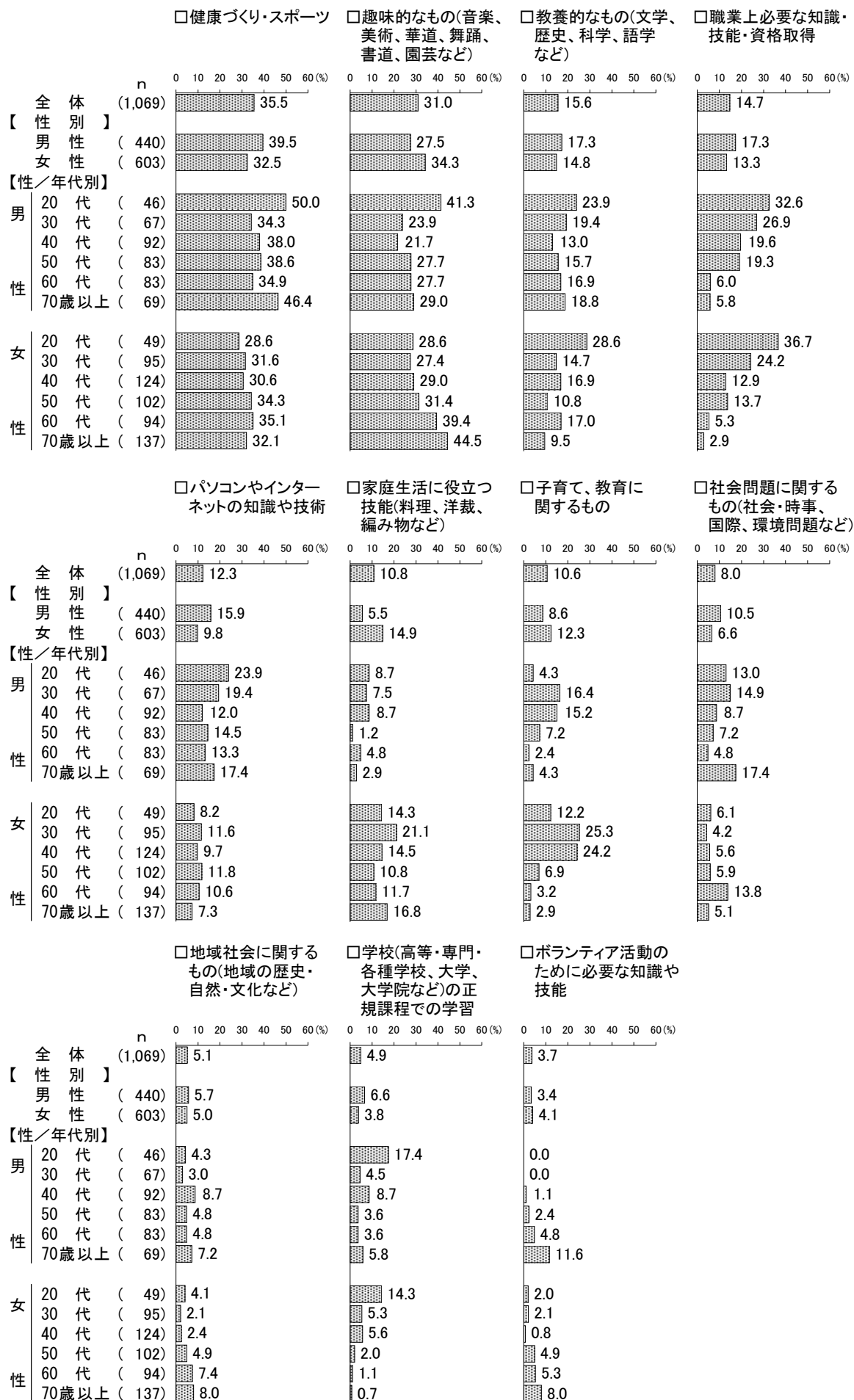
図5-1-1



この1年間に行った生涯学習を聞いたところ、「健康づくり・スポーツ」(35.5%)が3割半ばで最も高く、次いで「趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、園芸など)」(31.0%)、「教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)」(15.6%)、「職業上必要な知識・技能・資格取得」(14.7%)、「パソコンやインターネットの知識や技術」(12.3%)などの順になっている。一方、「何もしていない」(24.8%)は2割半ばとなっている。

「その他」への回答として、「町会活動」、「障がい者・高齢者へのサポート」などがあげられている。(図5-1-1)

図5-1-2 この1年間に行った生涯学習—性／年代別



性別で見ると、「家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、編み物など)」は女性(14.9%)が男性(5.5%)より9.4ポイント高くなっている。一方、「健康づくり・スポーツ」は男性(39.5%)が女性(32.5%)より7.0ポイント高くなっている。

性/年代別で見ると、「健康づくり・スポーツ」は男性20代(50.0%)で5割となり、「趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、園芸など)」は女性70歳以上(44.5%)で4割半ばとなっている。また、「教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)」は女性20代(28.6%)で3割近くとなり、「職業上必要な知識・技能・資格取得」は男女ともにおおむね年代が低くなるほど割合が高く、女性20代(36.7%)で4割近くとなっている。(図5-1-2)

(2) 生涯学習を通じて身につけた知識・技能の活用

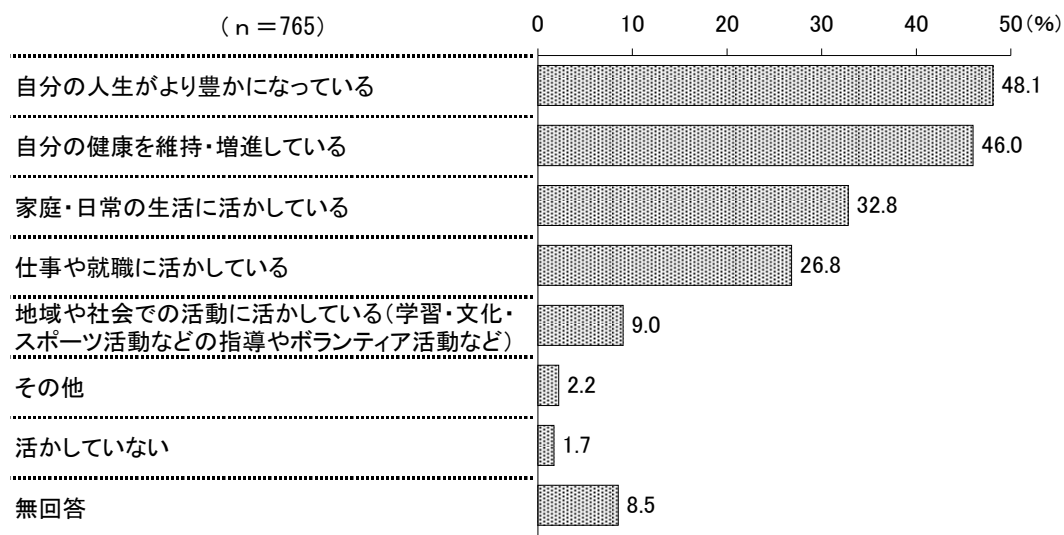
◇「自分の人生がより豊かになっている」が5割近く

(問10で、「1」～「12」と回答した方に)

問10-1 生涯学習を通じて身につけた知識・技能を、どのように活かしていますか。

(〇はいくつでも)

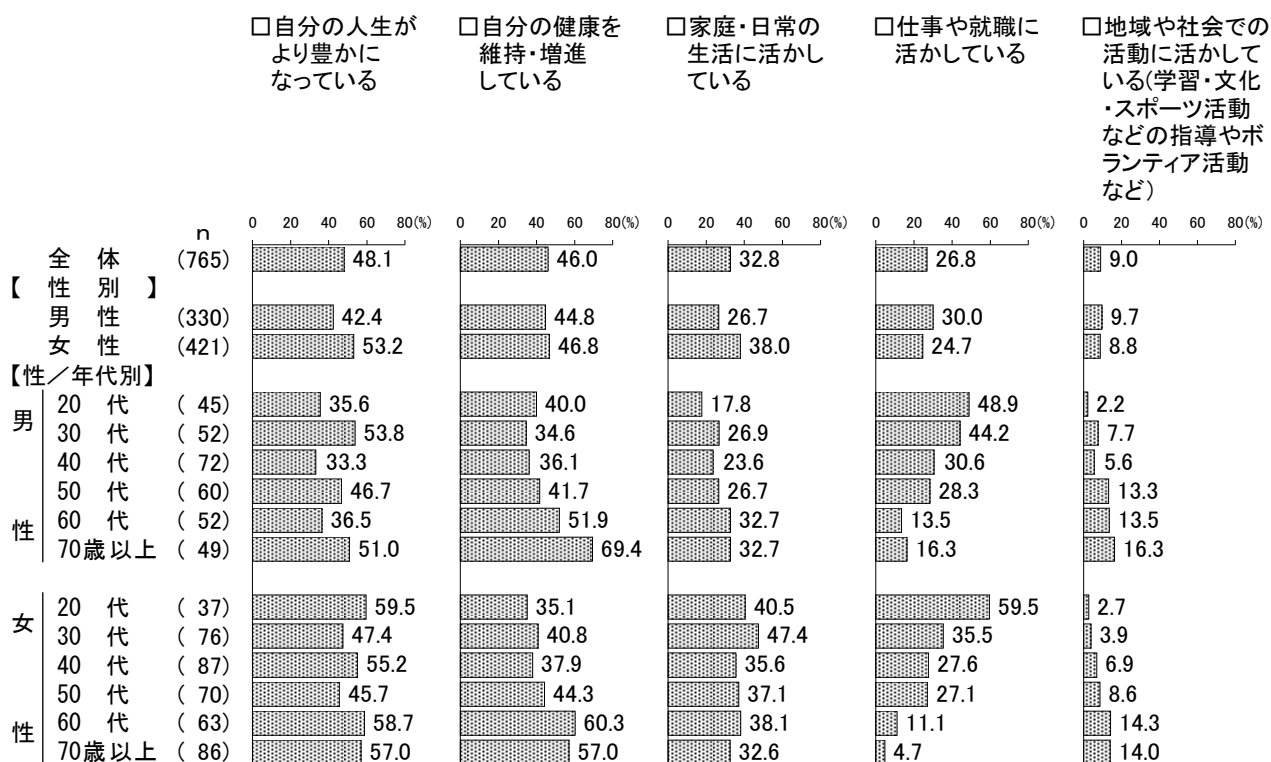
図5-2-1



この1年間に「生涯学習活動を行った」と答えた人(765人)に、生涯学習を通じて身につけた知識・技能を、どのように活かしているか聞いたところ、「自分の人生がより豊かになっている」(48.1%)が5割近くで最も高く、次いで「自分の健康を維持・増進している」(46.0%)、「家庭・日常の生活に活かしている」(32.8%)、「仕事や就職に活かしている」(26.8%)、「地域や社会での活動に活かしている(学習・文化・スポーツ活動などの指導やボランティア活動など)」(9.0%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「家族とのコミュニケーション」、「自律的な生活をするために」などがあげられている。(図5-2-1)

図5-2-2 生涯学習を通じて身につけた知識・技能の活用一性／年代別



性別で見ると、「家庭・日常の生活に活かしている」は女性（38.0%）が男性（26.7%）より11.3ポイント高く、「自分の人生がより豊かになっている」は女性（53.2%）が男性（42.4%）より10.8ポイント高くなっている。一方、「仕事や就職に活かしている」は男性（30.0%）が女性（24.7%）より5.3ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「自分の人生がより豊かになっている」は女性20代（59.5%）で6割と高く、「自分の健康を維持・増進している」は男性70歳以上（69.4%）で約7割、女性の60代（60.3%）と70歳以上（57.0%）で6割前後と高くなっている。また、「仕事や就職に活かしている」は男女ともにおおむね年代が低くなるほど割合が高く、女性20代（59.5%）で6割、男性20代（48.9%）で5割近くとなっている。（図5-2-2）

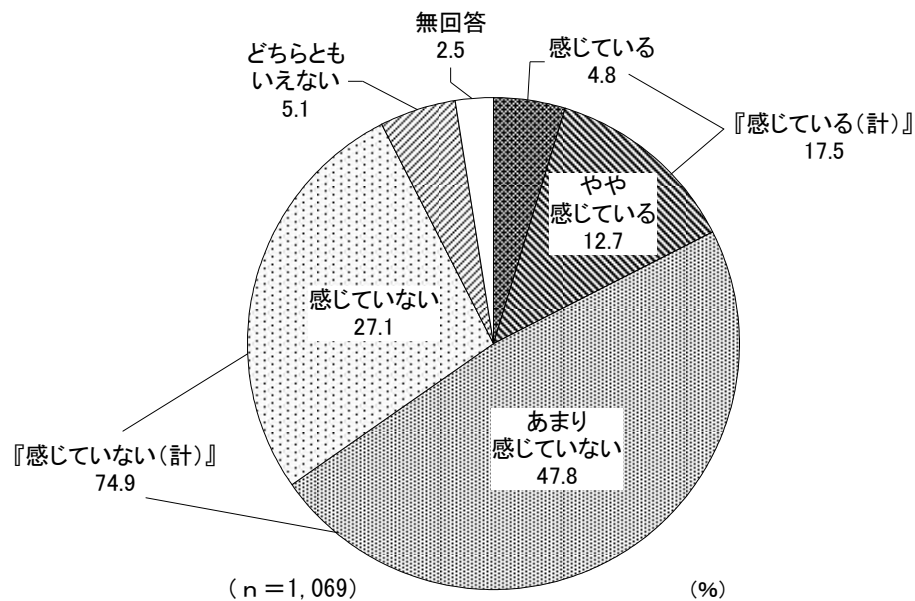
6. スポーツを通じて健康で豊かに暮らせるまち

(1) 東京オリンピック・パラリンピック大会が身近になってきたと感じているか

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は2割近く

問 11 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会の成功に向け、大田区は積極的に事業に取り組んでいます。大会が身近になってきたと感じていますか。(○は1つだけ)

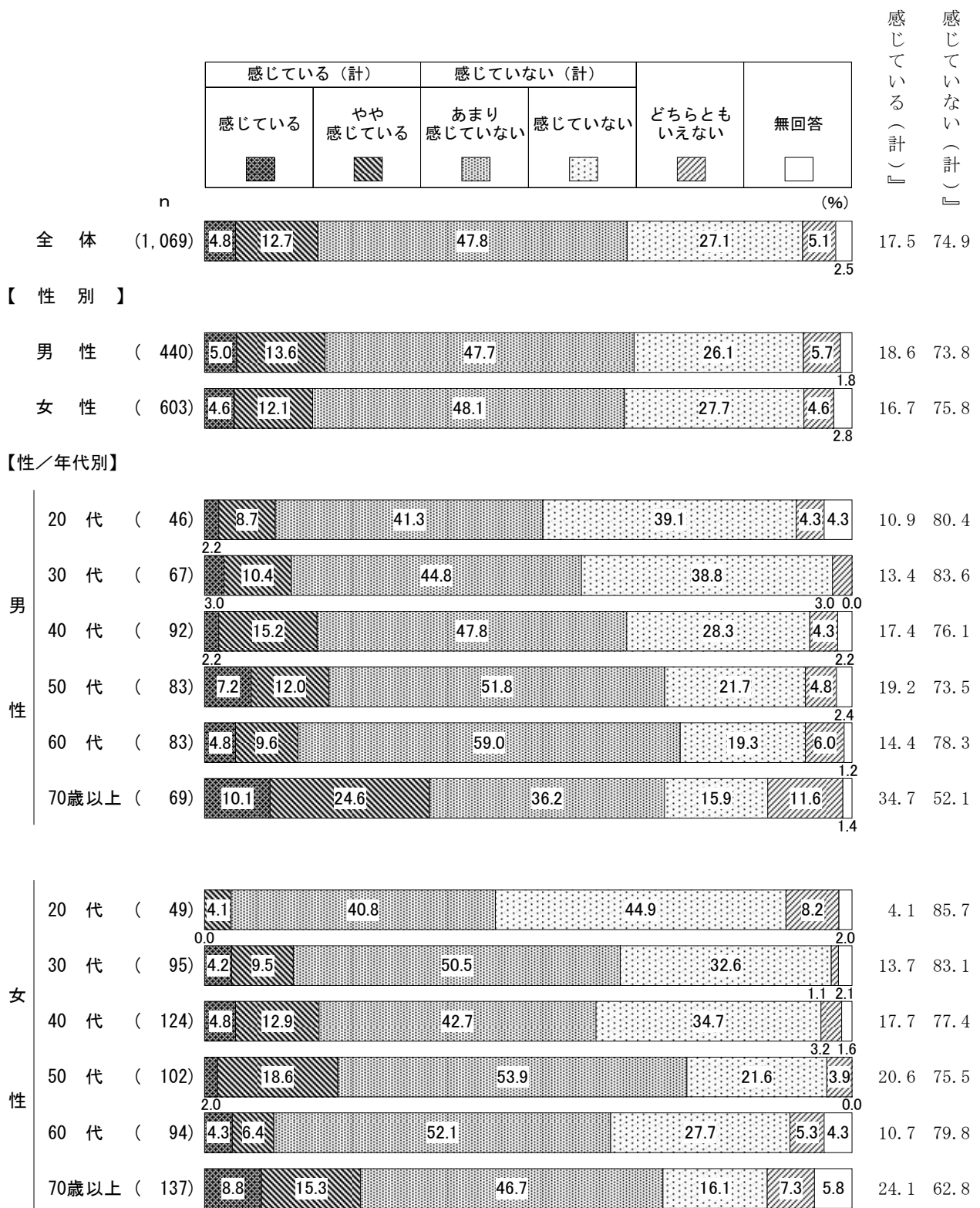
図 6-1-1



東京オリンピック・パラリンピック大会が身近になってきたと感じているか聞いたところ、「感じている」(4.8%)と「やや感じている」(12.7%)を合わせた『感じている(計)』(17.5%)は2割近くとなっている。一方、「あまり感じていない」(47.8%)と「感じていない」(27.1%)を合わせた『感じていない(計)』(74.9%)は7割半ばとなっている。(図6-1-1)

図6-1-2 東京オリンピック・パラリンピック大会が身近になってきたと感じているか

—性／年代別



性別でみると、大きな違いはみられない。

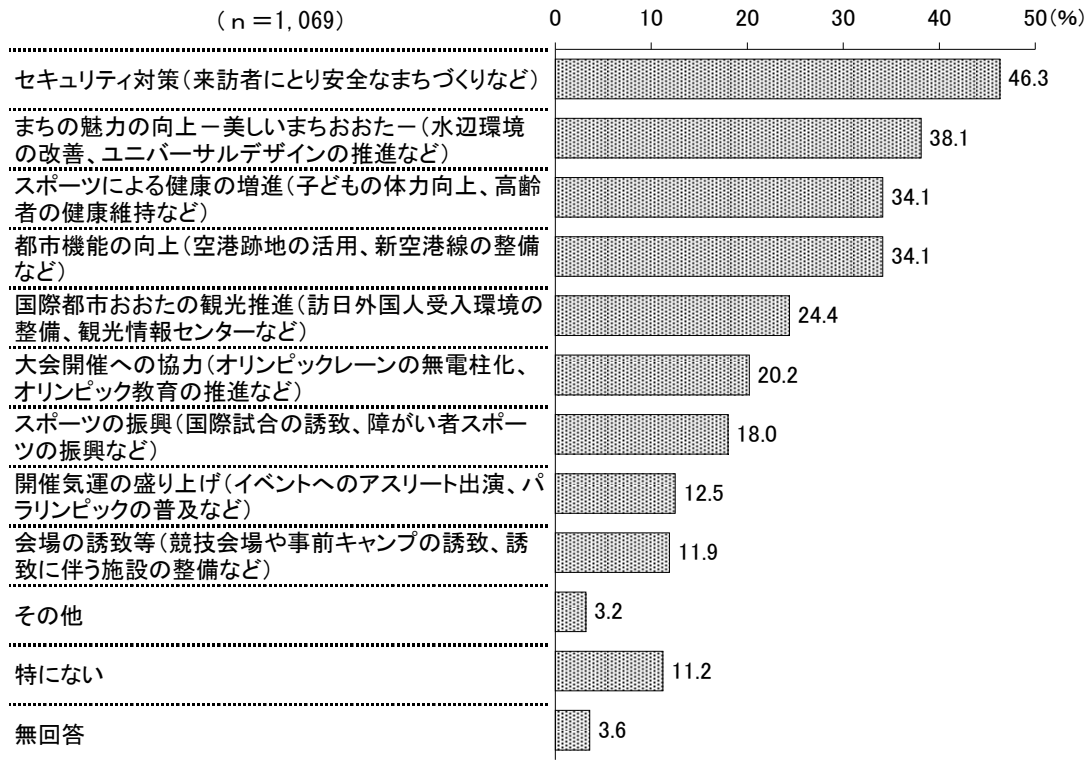
性／年代別でみると、『感じている (計)』は男性70歳以上 (34.7%) で3割半ばとなっている。一方、『感じていない (計)』は女性20代 (85.7%) で8割半ばと高くなっている。(図6-1-2)

(2) 東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて区に期待する取組み

◇「セキュリティ対策（来訪者にとり安全なまちづくりなど）」が4割半ば

問 12 2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて、大田区に期待する取組みを教えてください。（〇はいくつでも）

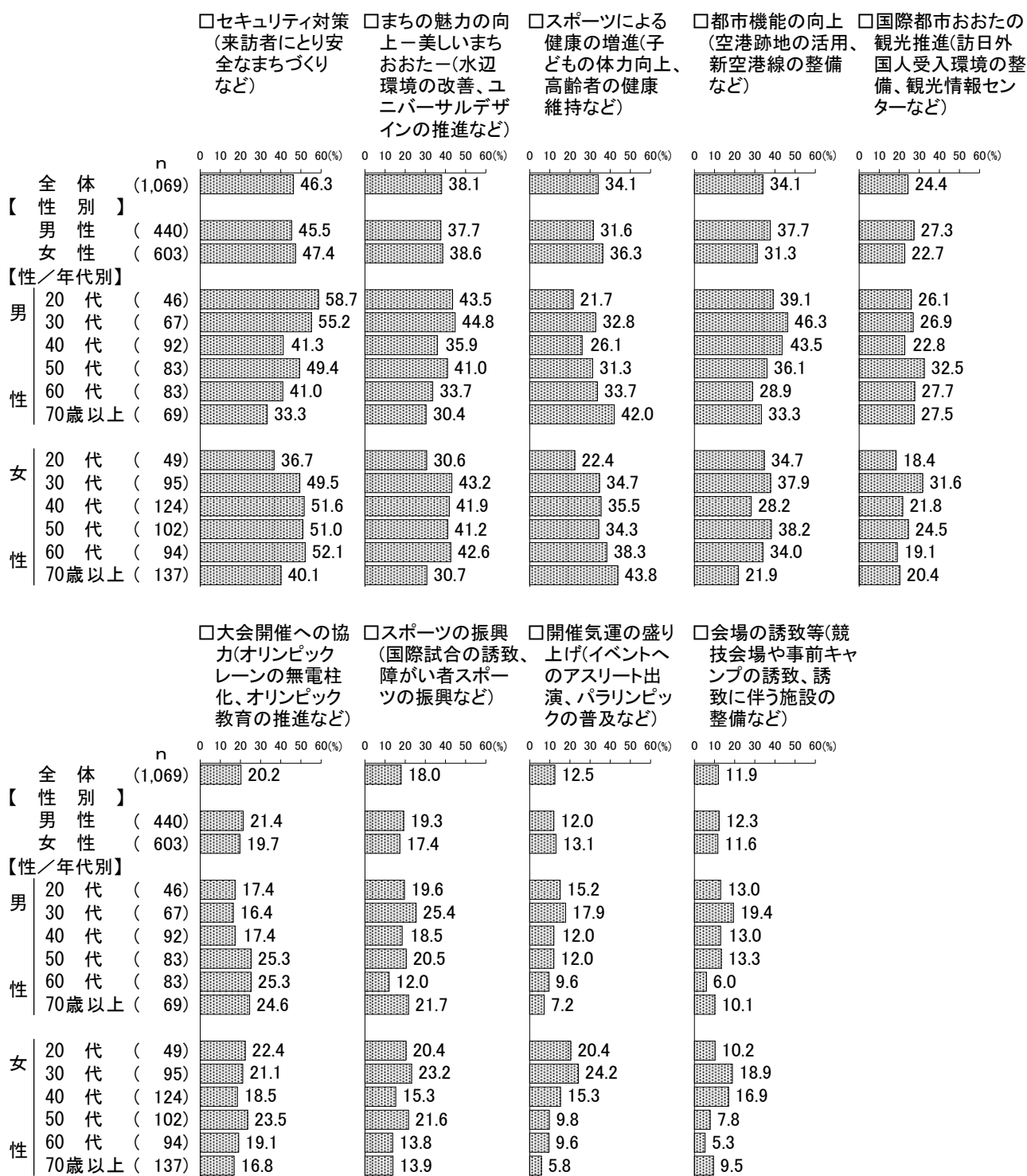
図 6-2-1



2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて、大田区に期待する取組みを聞いたところ、「セキュリティ対策（来訪者にとり安全なまちづくりなど）」(46.3%) が4割半ばで最も高く、次いで「まちの魅力の向上—美しいまち おおた—（水辺環境の改善、ユニバーサルデザインの推進など）」(38.1%)、「スポーツによる健康の増進（子どもの体力向上、高齢者の健康維持など）」と「都市機能の向上(空港跡地の活用、新空港線の整備など）」(ともに 34.1%) などの順になっている。

「その他」への回答として、「ボランティアに参加できるように語学講座の開催」、「交通渋滞対策」などがあげられている。(図 6-2-1)

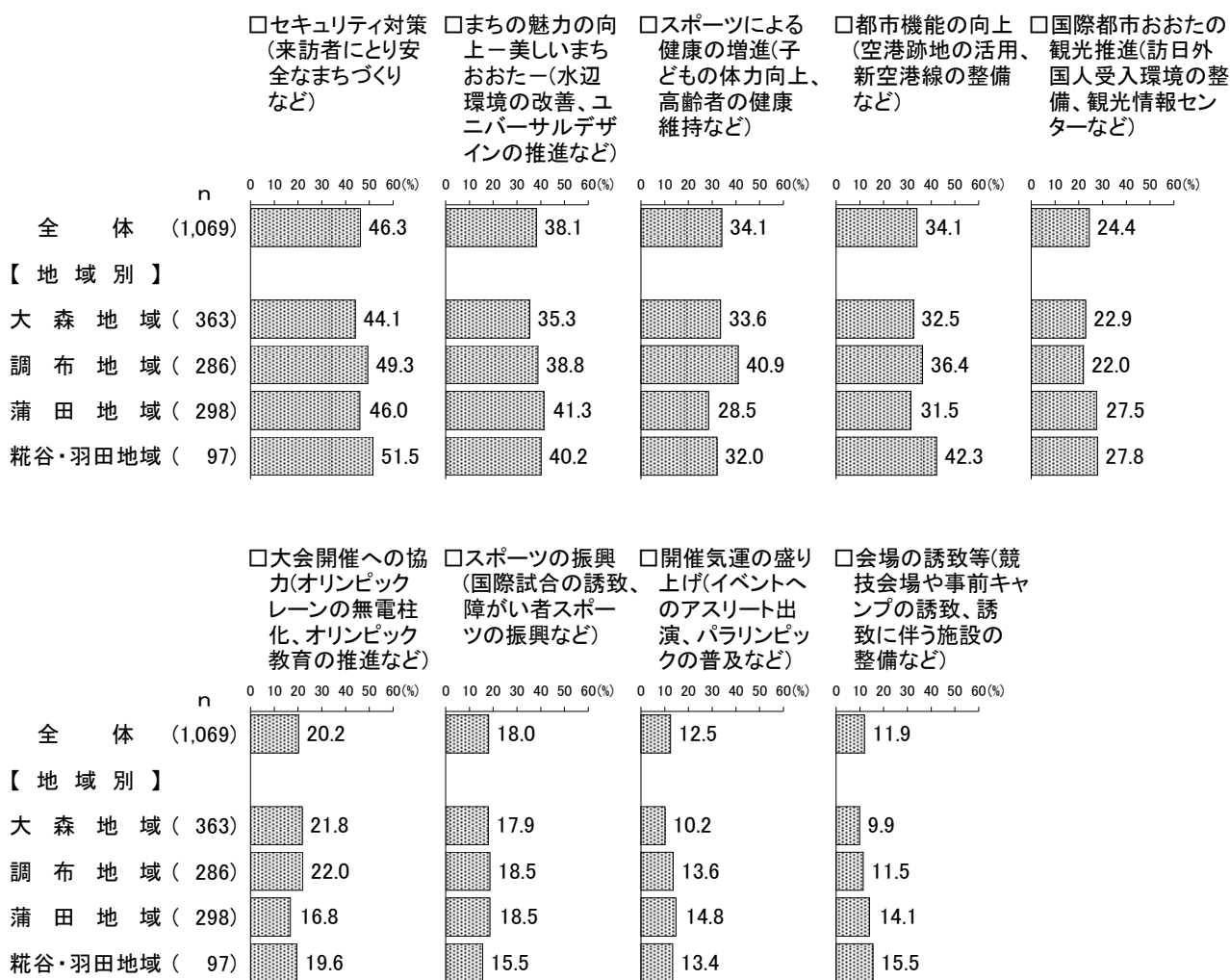
図6-2-2 東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて区に期待する取組み—性／年代別



性別でみると、「都市機能の向上(空港跡地の活用、新空港線の整備など)」は男性(37.7%)が女性(31.3%)より6.4ポイント高くなっている。一方、「スポーツによる健康の増進(子どもの体力向上、高齢者の健康維持など)」は女性(36.3%)が男性(31.6%)より4.7ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「セキュリティ対策(来訪者にとり安全なまちづくりなど)」は男性20代(58.7%)で6割近くと高くなっている。また、「都市機能の向上(空港跡地の活用、新空港線の整備など)」は男性30代(46.3%)で4割半ばとなっている。(図6-2-2)

図 6-2-3 東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて区に期待する取組み—地域別



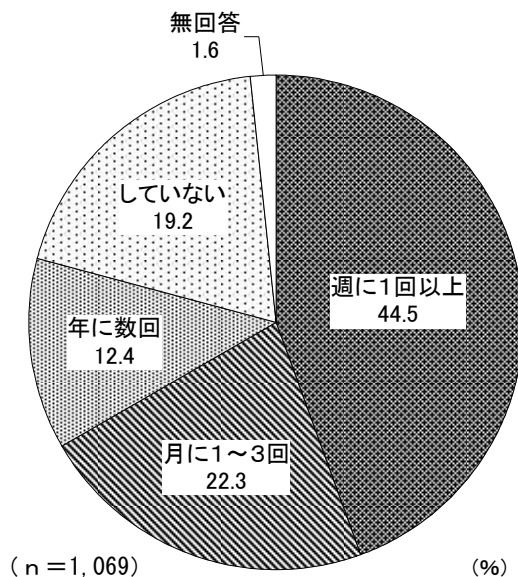
地域別でみると、「セキュリティ対策 (来訪者にとり安全なまちづくりなど)」は糀谷・羽田地域 (51.5%) で5割を超えている。また、「スポーツによる健康の増進 (子どもの体力向上、高齢者の健康維持など)」は調布地域 (40.9%) で約4割となり、「都市機能の向上(空港跡地の活用、新空港線の整備など)」は糀谷・羽田地域 (42.3%) で4割を超えている。(図 6-2-3)

(3) この1年間の運動・スポーツ活動の頻度

◇「週に1回以上」が4割半ば

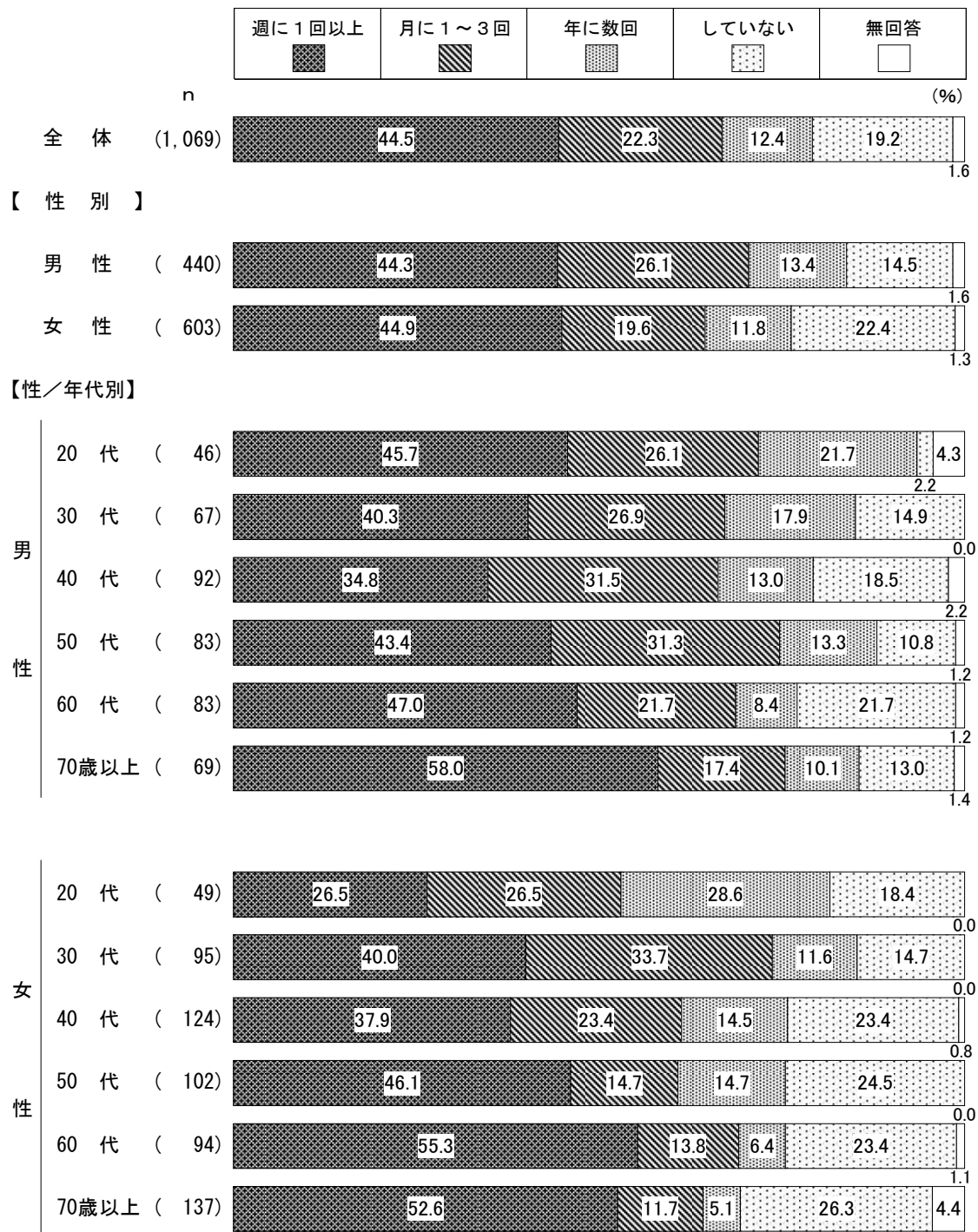
問13 この1年間に、どれくらいの頻度で運動・スポーツ活動をしましたか。
なお、運動には30分程度の散歩なども含みます。(〇は1つだけ)

図6-3-1



この1年間の運動・スポーツ活動の頻度を聞いたところ、「週に1回以上」(44.5%)が4割半ばで最も高く、次いで「月に1~3回」(22.3%)、「年に数回」(12.4%)となっている。一方、「していない」(19.2%)は約2割となっている。(図6-3-1)

図6-3-2 この1年間の運動・スポーツ活動の頻度－性／年代別



性別で見ると、「していない」は女性（22.4%）が男性（14.5%）より7.9ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「週に1回以上」は男性70歳以上（58.0%）で6割近くと高くなっている。一方、「していない」は女性の50代（24.5%）と70歳以上（26.3%）で2割半ばとなっている。

（図6-3-2）

7. 安定した暮らしと人権

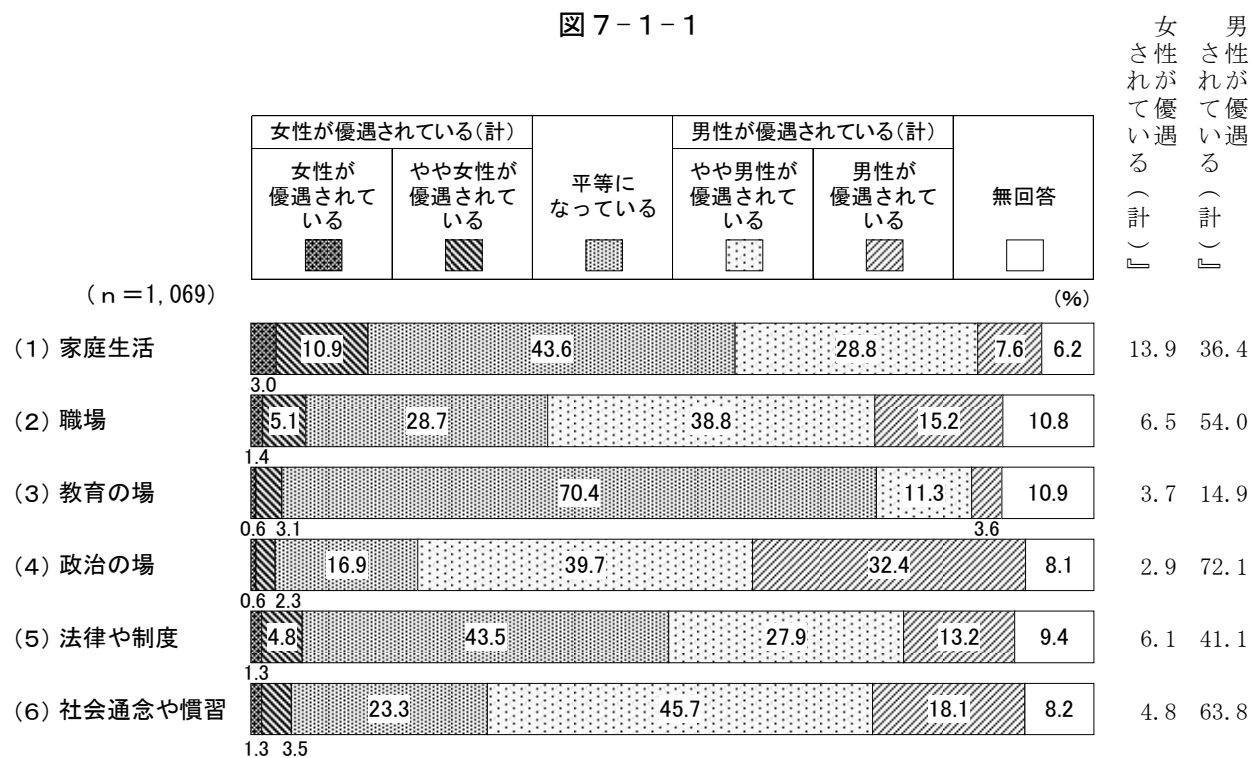
(1) 男女の地位平等

- ◇ 『女性が優遇されている（計）』は“家庭生活”で1割を超える
- 「平等になっている」は“教育の場”で7割
- 『男性が優遇されている（計）』は“政治の場”で7割を超える

問 14 以下の分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。

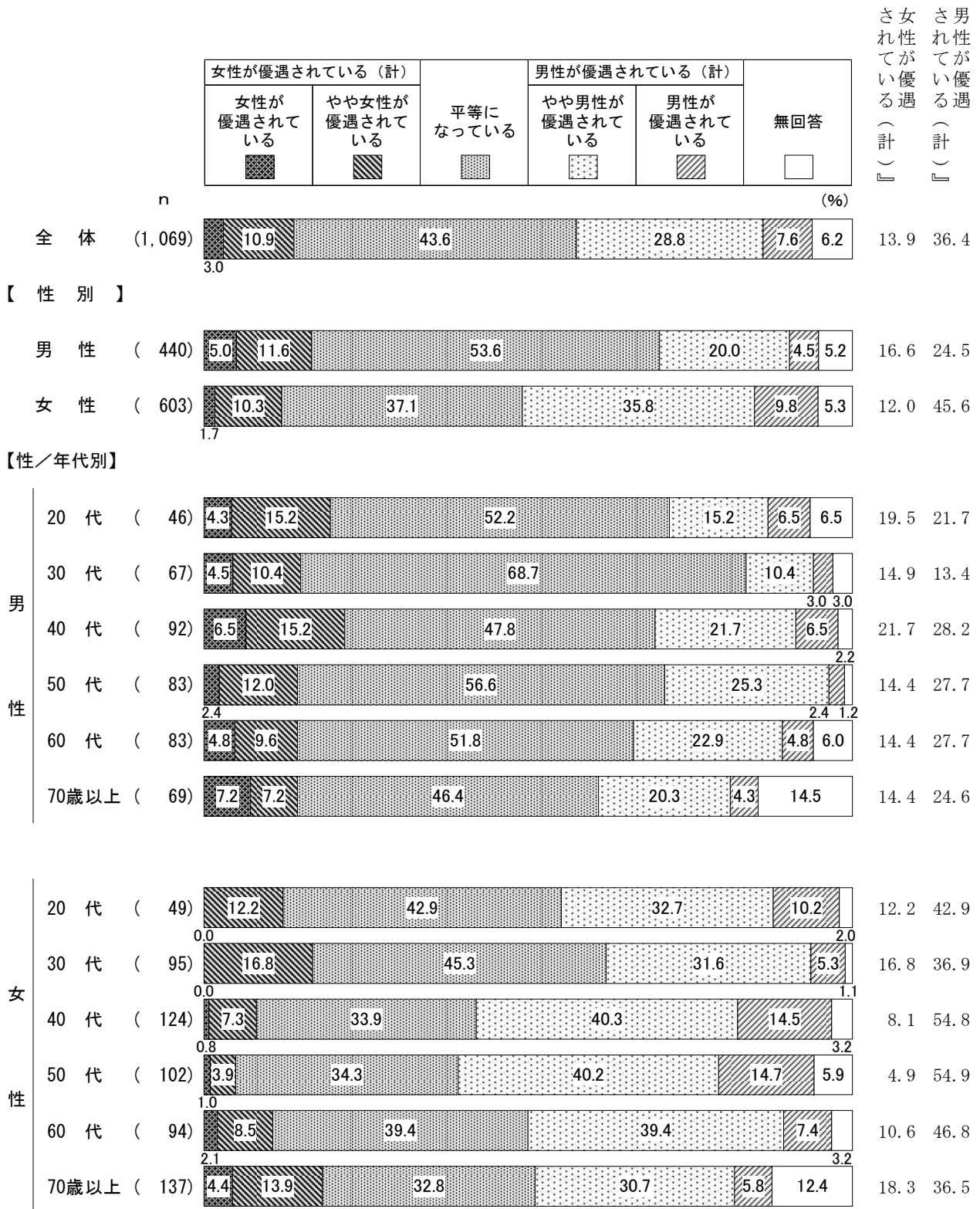
(○はそれぞれ1つ)

図 7-1-1



男女の地位について聞いたところ、「女性が優遇されている」と「やや女性が優遇されている」を合わせた『女性が優遇されている（計）』は“家庭生活”（13.9%）で1割を超えている。一方、「やや男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている（計）』は“政治の場”（72.1%）で7割を超え、“社会通念や慣習”（63.8%）で6割を超えている。また、「平等になっている」は“教育の場”（70.4%）で7割となっている。（図 7-1-1）

図 7-1-2 男女の地位平等—性／年代別【(1) 家庭生活】

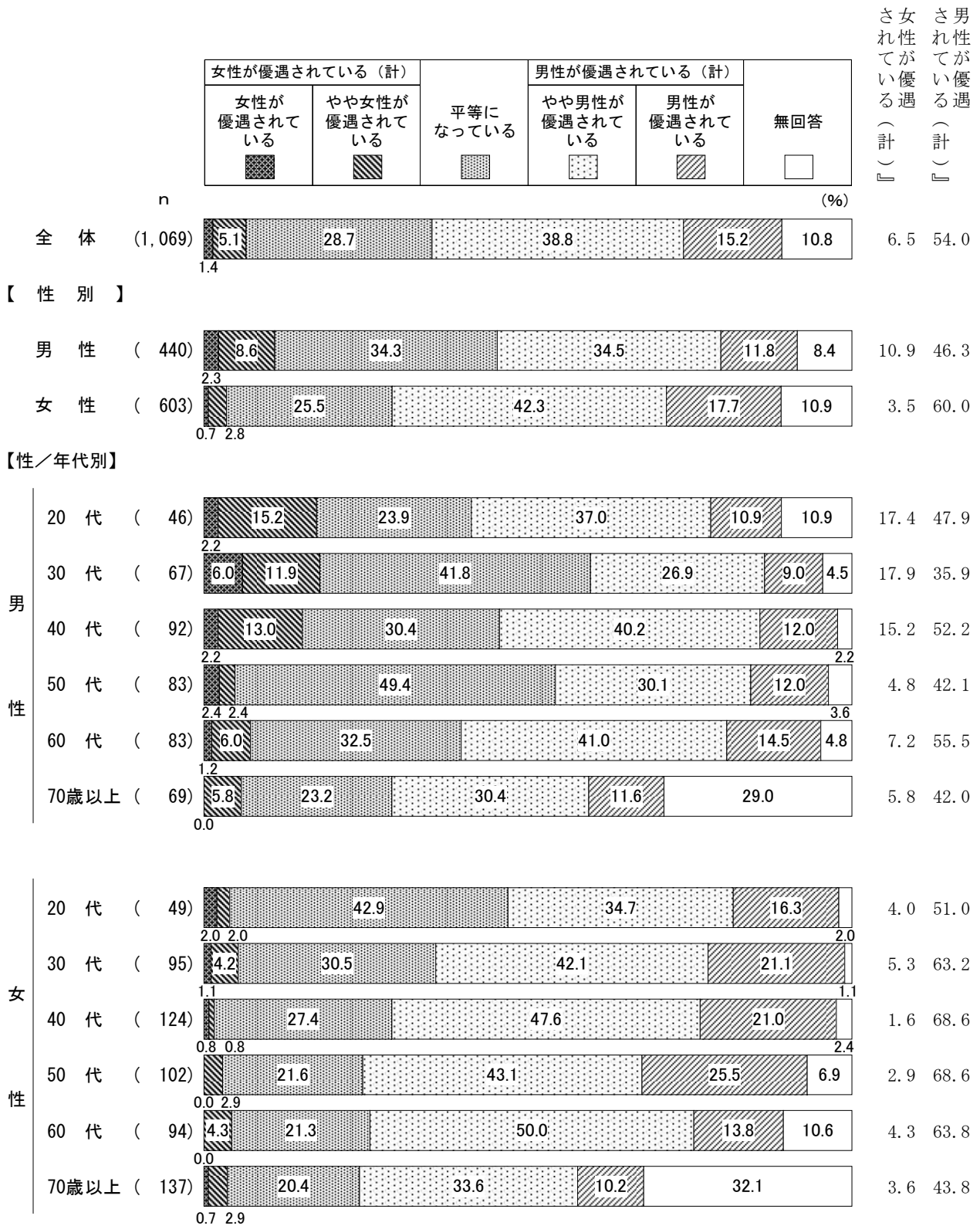


“家庭生活”を性別で見ると、『男性が優遇されている (計)』は女性 (45.6%) が男性 (24.5%) より21.1ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『女性が優遇されている (計)』は男性40代 (21.7%) で2割を超えている。一方、『男性が優遇されている (計)』は女性の40代 (54.8%) と50代 (54.9%) で5割半ばとなっている。また、「平等になっている」は男性30代 (68.7%) で7割近くと高くなっている。

(図 7-1-2)

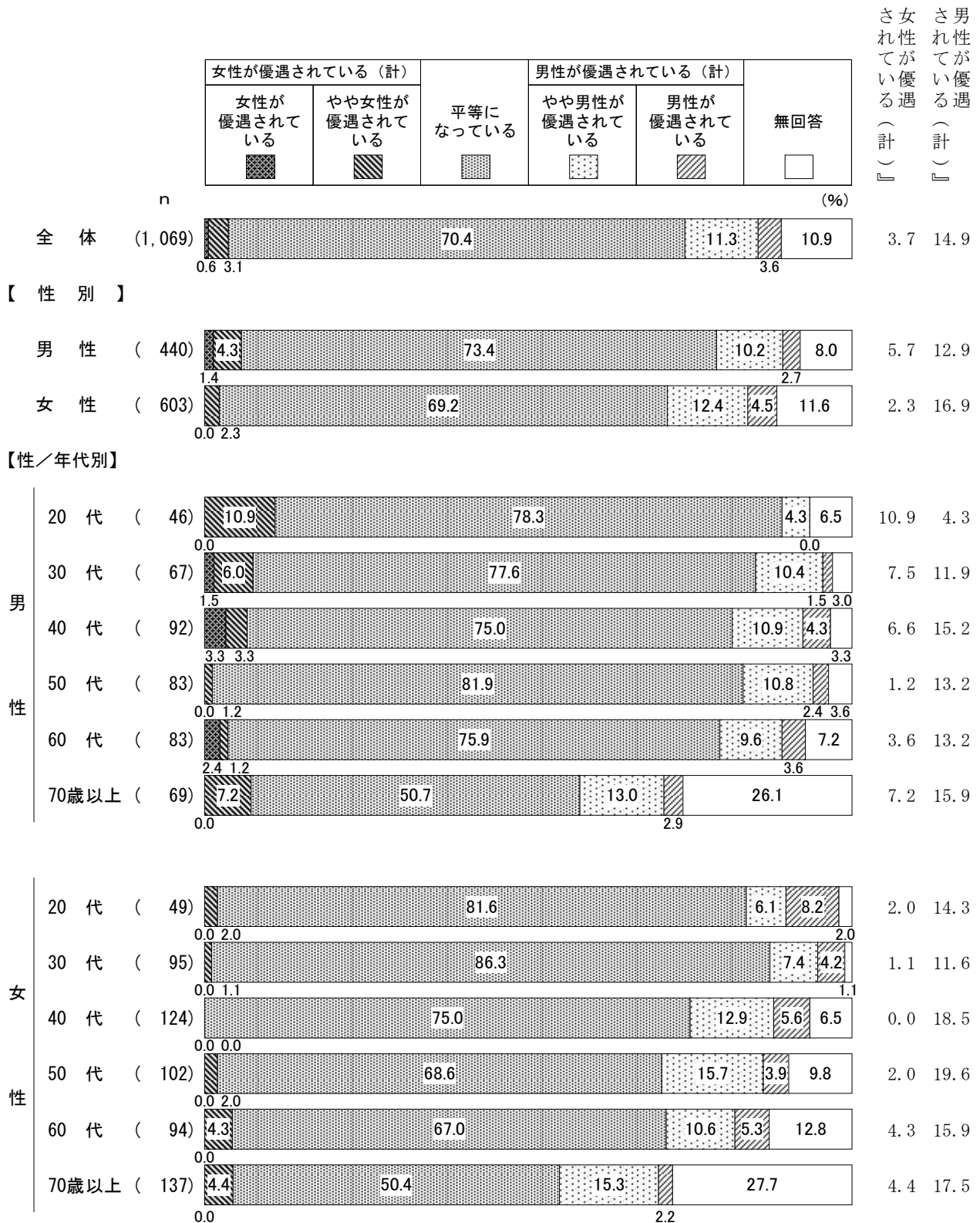
図 7-1-3 男女の地位平等—性／年代別【(2) 職場】



“職場”を性別で見ると、『男性が優遇されている (計)』は女性 (60.0%) が男性 (46.3%) より13.7ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『女性が優遇されている (計)』は男性の20代 (17.4%) と30代 (17.9%) で2割近くとなっている。一方、『男性が優遇されている (計)』は女性の40代と50代 (ともに68.6%) で7割近くと高くなっている。また、「平等になっている」は男性50代 (49.4%) で約5割となっている。(図 7-1-3)

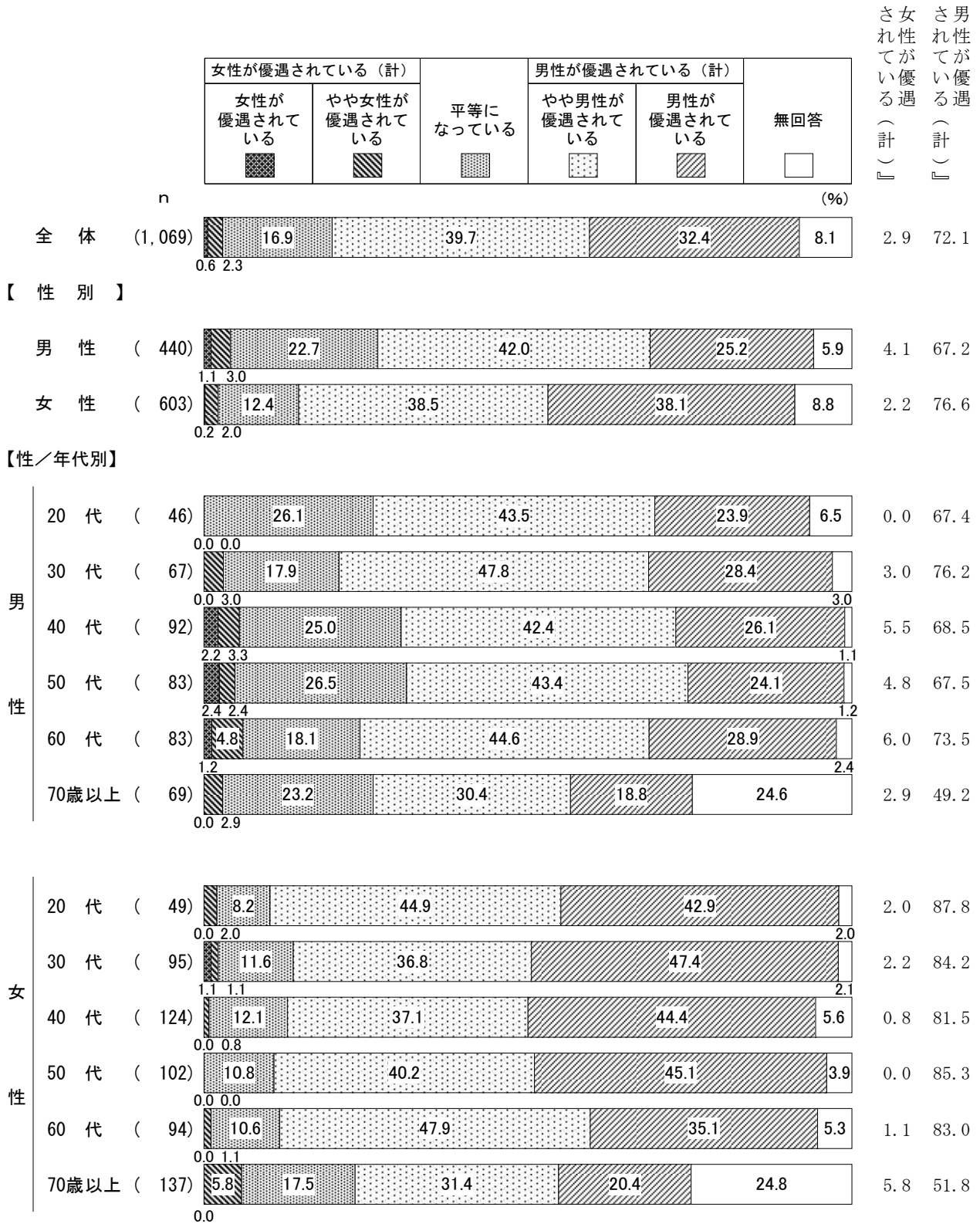
図 7-1-4 男女の地位平等－性／年代別【(3) 教育の場】



“教育の場”を性別で見ると、「平等になっている」は男性（73.4%）が女性（69.2%）より4.2ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『女性が優遇されている（計）』は男性20代（10.9%）で約1割となっている。一方、『男性が優遇されている（計）』は女性50代（19.6%）で2割となっている。また、「平等になっている」は女性30代（86.3%）で8割半ばと高くなっている。（図7-1-4）

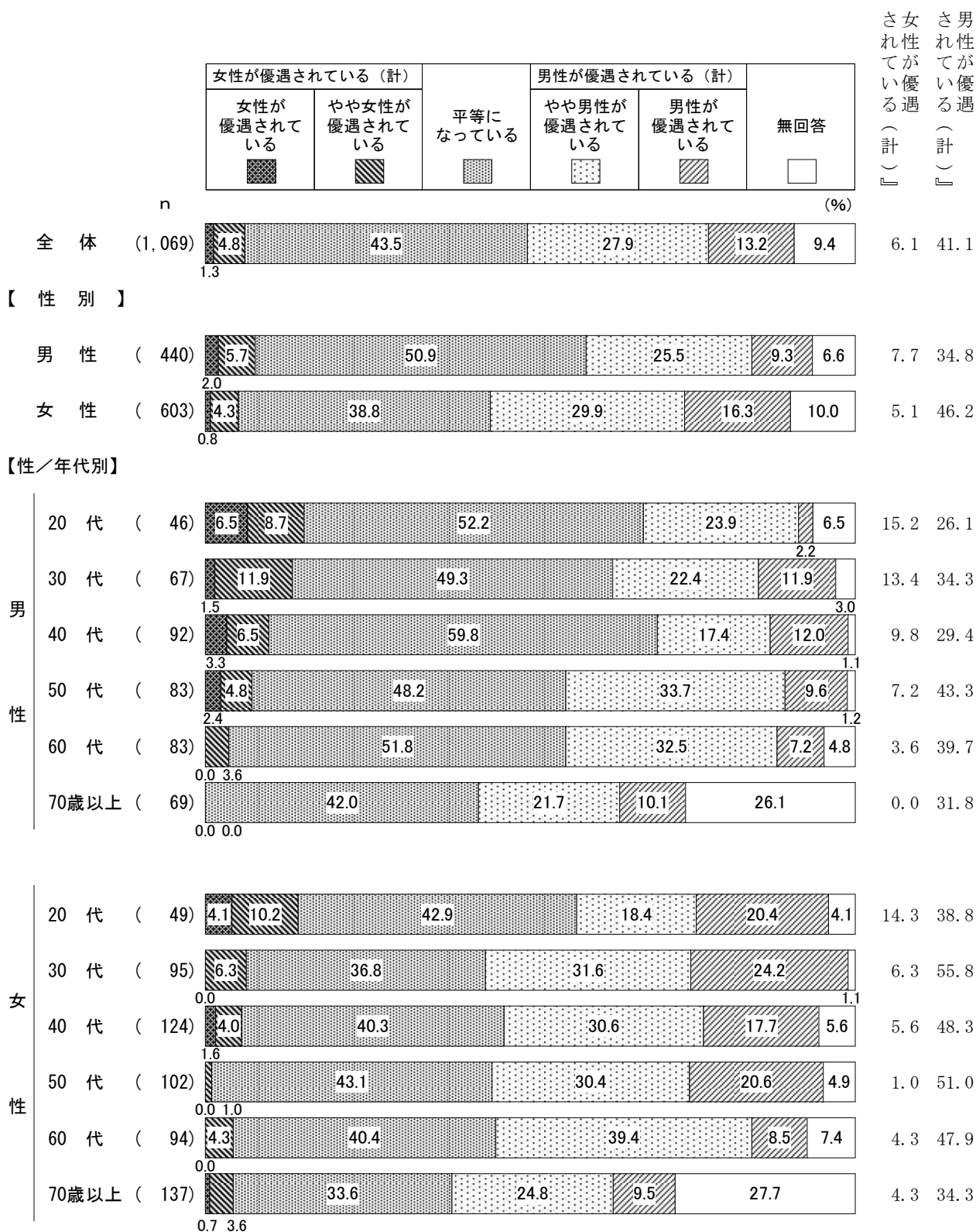
図 7-1-5 男女の地位平等—性／年代別【(4) 政治の場】



“政治の場”を性別で見ると、「平等になっている」は男性(22.7%)が女性(12.4%)より10.3ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『男性が優遇されている(計)』は女性20代(87.8%)で9割近くと高くなっている。また、「平等になっている」は男性50代(26.5%)で3割近くとなっている。(図7-1-5)

図 7-1-6 男女の地位平等—性／年代別【(5) 法律や制度】

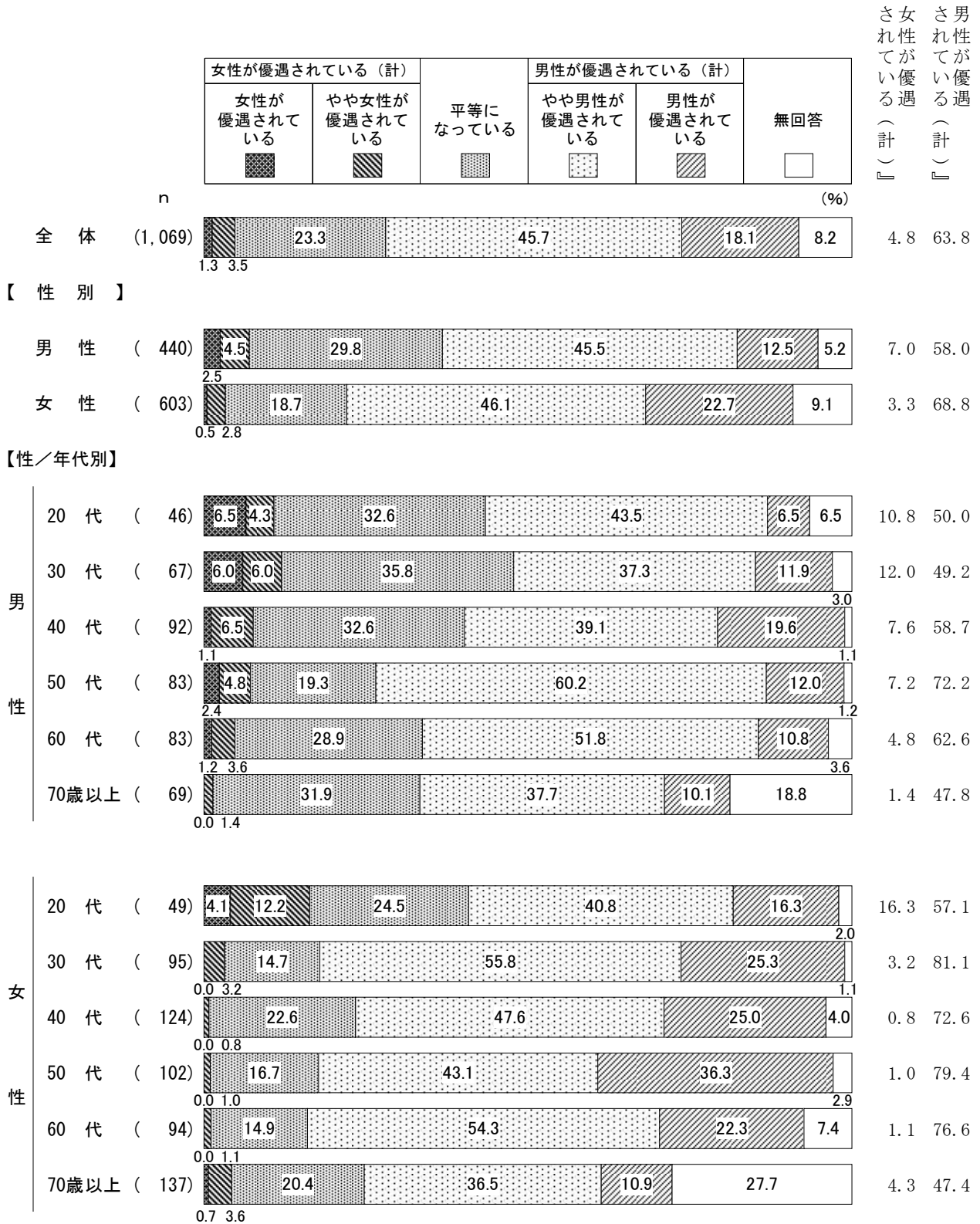


“法律や制度”を性別で見ると、「平等になっている」は男性（50.9%）が女性（38.8%）より12.1ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『女性が優遇されている（計）』は男性20代（15.2%）と女性20代（14.3%）で1割半ばとなっている。一方、『男性が優遇されている（計）』は女性30代（55.8%）で5割半ばとなっている。また、「平等になっている」は男性40代（59.8%）で6割と高くなっている。

(図 7-1-6)

図 7-1-7 男女の地位平等—性／年代別【(6) 社会通念や慣習】



“社会通念や慣習”を性別で見ると、「平等になっている」は男性（29.8%）が女性（18.7%）より11.1ポイント高くなっている。

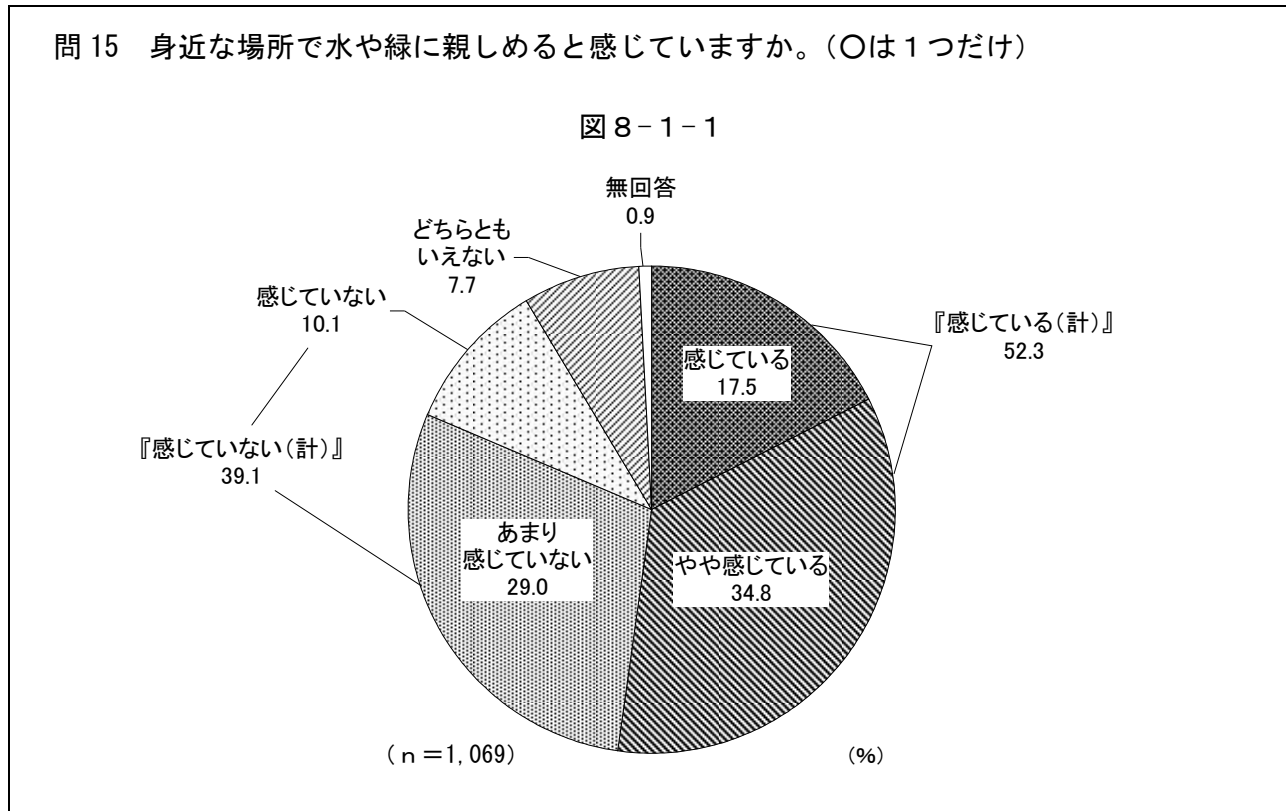
性／年代別で見ると、『女性が優遇されている（計）』は女性20代（16.3%）で1割半ばとなっている。一方、『男性が優遇されている（計）』は女性30代（81.1%）で8割を超えて高くなっている。また、「平等になっている」は男性30代（35.8%）で3割半ばとなっている。（図7-1-7）

《基本目標2 まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市》

8. 潤いとやすらぎのあるまち

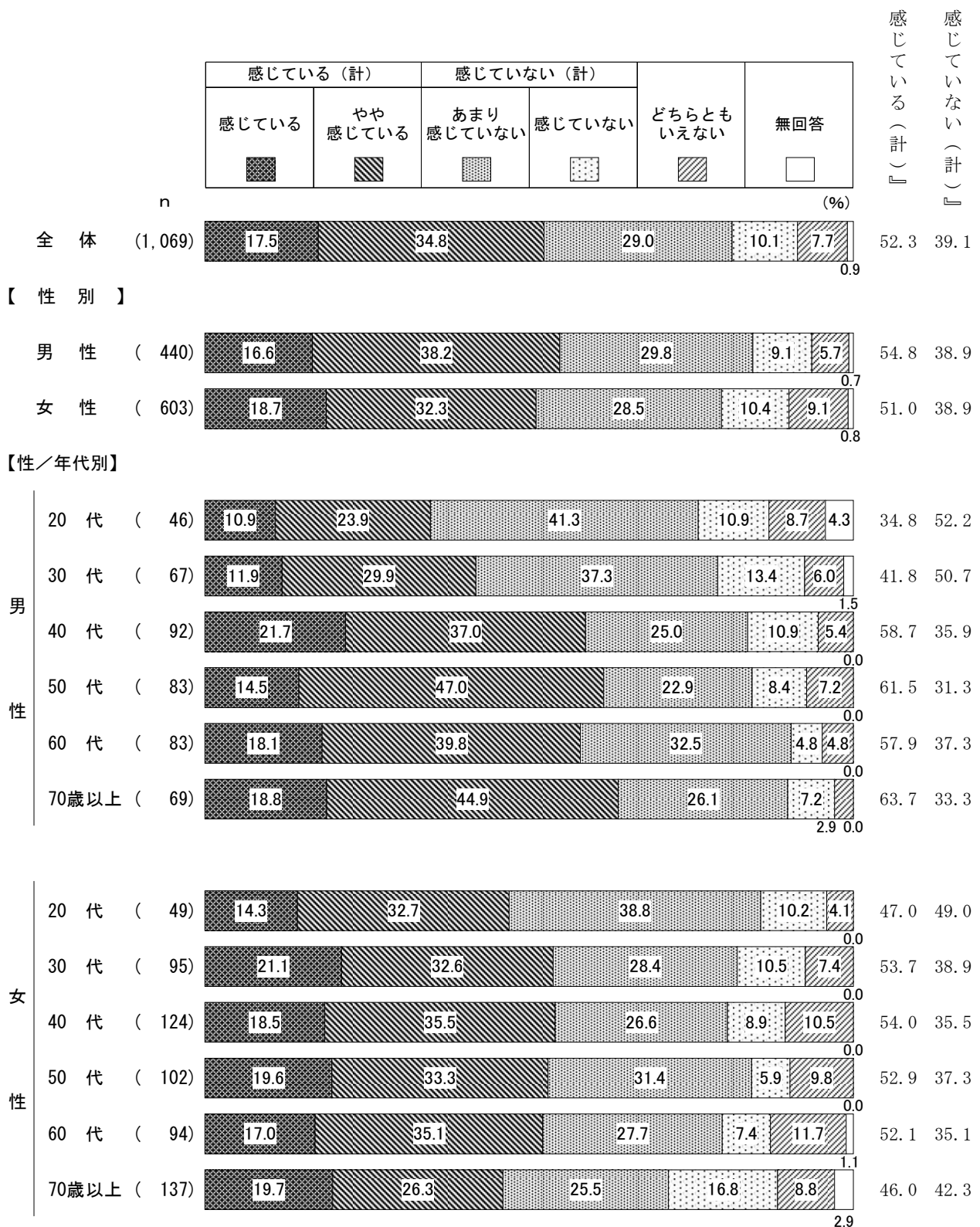
(1) 身近な場所で水や緑に親しめると感じているか

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は5割を超える



身近な場所で水や緑に親しめると感じているか聞いたところ、「感じている」(17.5%)と「やや感じている」(34.8%)を合わせた『感じている(計)』(52.3%)は5割を超えている。一方、「あまり感じている」(29.0%)と「感じている」(10.1%)を合わせた『感じている(計)』(39.1%)は約4割となっている。(図8-1-1)

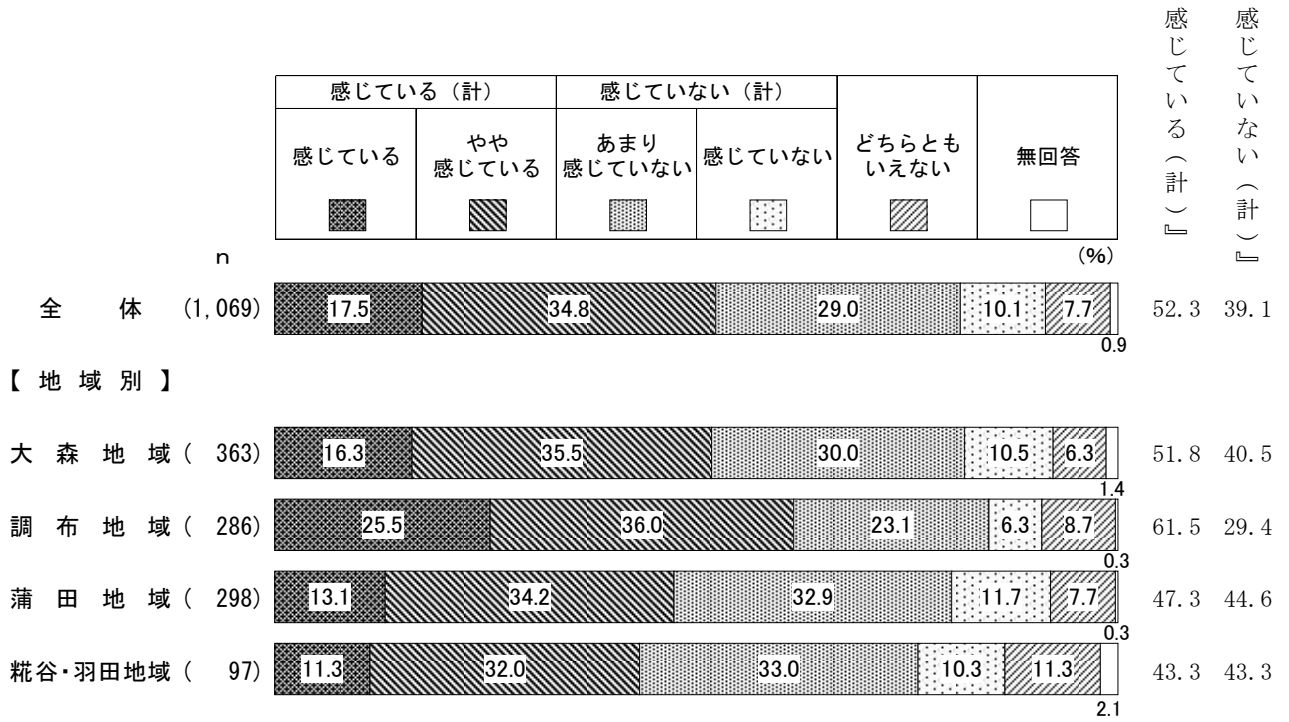
図8-1-2 身近な場所で水や緑に親しめると感じているか—性／年代別



性別でみると、『感じている (計)』は男性 (54.8%) が女性 (51.0%) より3.8ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『感じている (計)』は男性の50代 (61.5%) と70歳以上 (63.7%) で6割を超えて高くなっている。一方、『感じていない (計)』は男性の20代 (52.2%) と30代 (50.7%) で5割台となっている。(図8-1-2)

図8-1-3 身近な場所で水や緑に親しめると感じているか—地域別



地域別でみると、『感じている (計)』は調布地域 (61.5%) で6割を超えて高くなっている。一方、『感じていない (計)』は蒲田地域 (44.6%) で4割半ばとなっている。(図8-1-3)

9. 国際交流

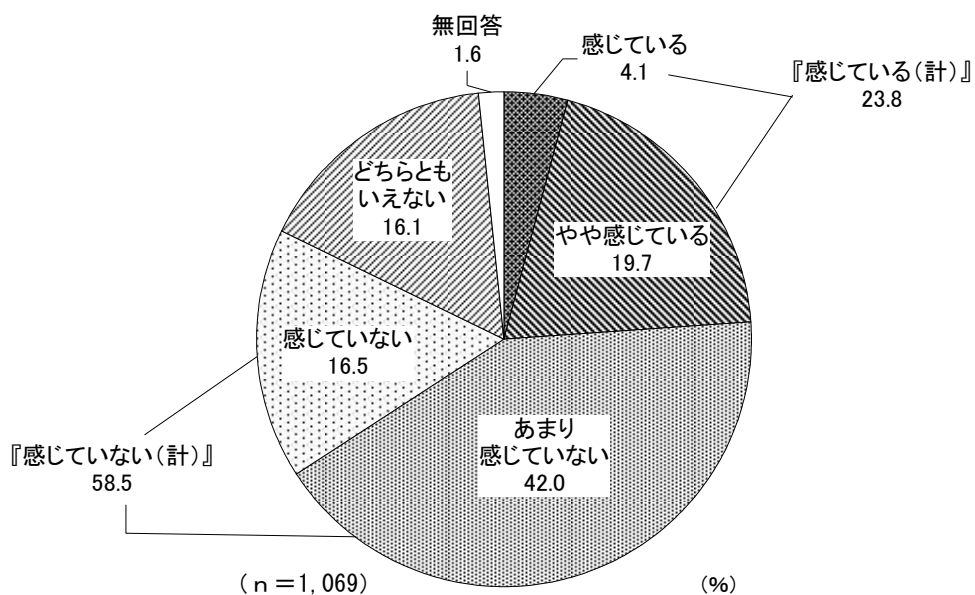
(1) 大田区は国際交流、多文化共生が進んだまちと感じているか

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は2割を超える

問 16 大田区は国際交流、多文化共生が進んだまちと感じていますか。(○は1つだけ)

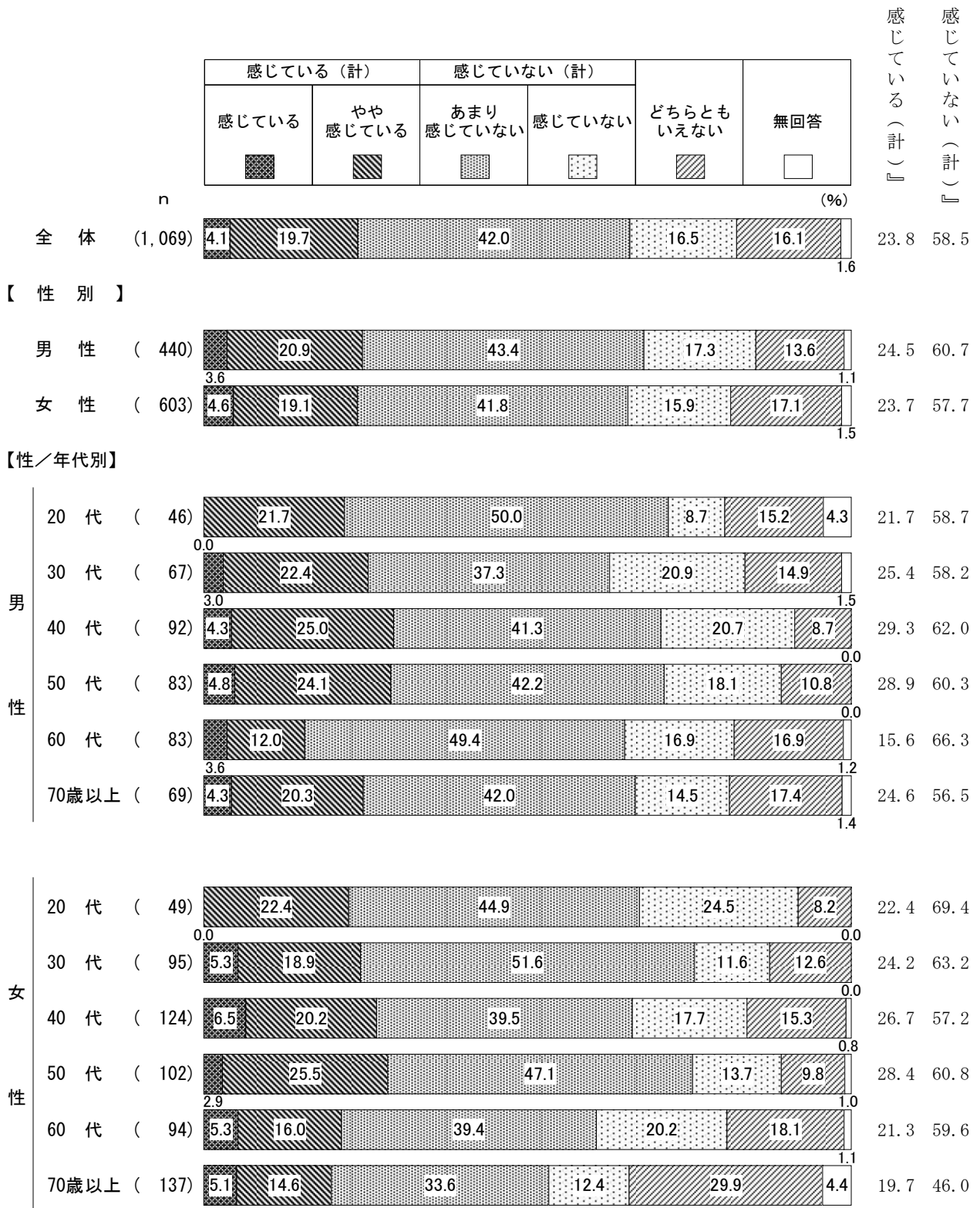
※多文化共生：国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

図 9-1-1



大田区は国際交流、多文化共生が進んだまちと感じているか聞いたところ、「感じている」(4.1%)と「やや感じている」(19.7%)を合わせた『感じている(計)』(23.8%)は2割を超えている。一方、「あまり感じていない」(42.0%)と「感じていない」(16.5%)を合わせた『感じていない(計)』(58.5%)は6割近くとなっている。(図9-1-1)

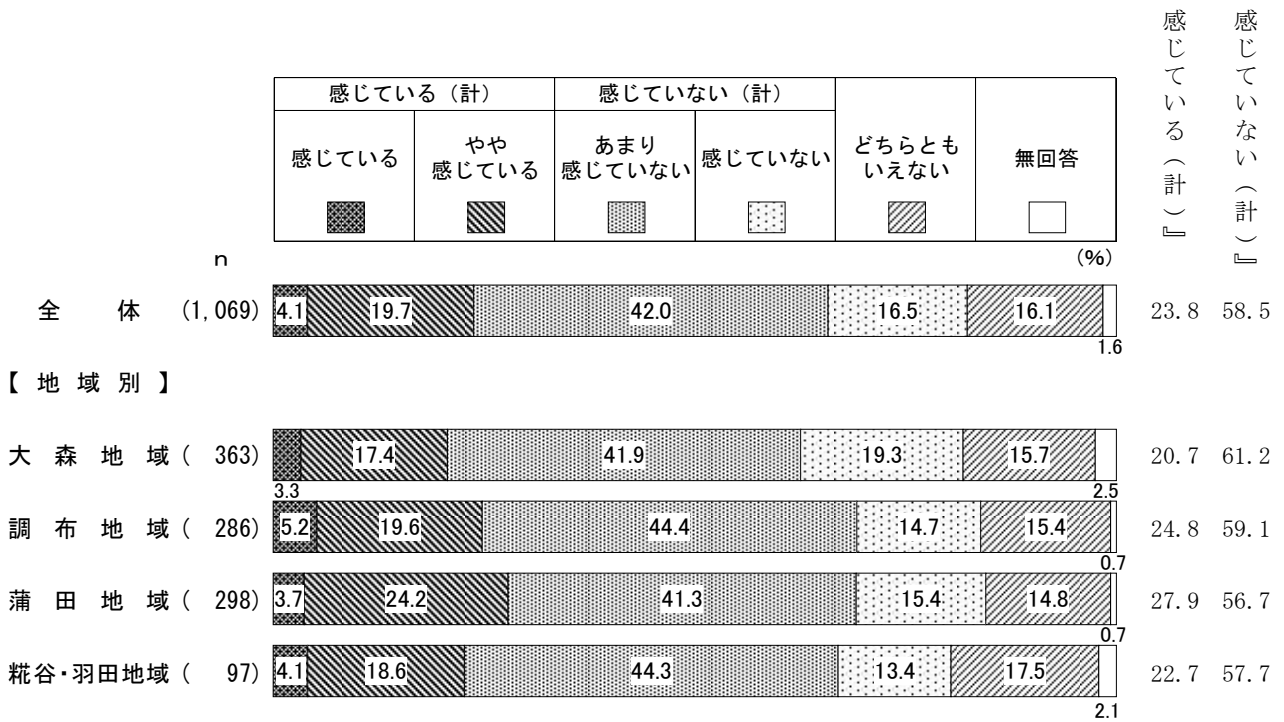
図9-1-2 大田区は国際交流、多文化共生が進んだまちと感じているかー性／年代別



性別でみると、『感じていない (計)』は男性 (60.7%) が女性 (57.7%) より3.0ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『感じている (計)』は男性40代 (29.3%) で約3割となっている。一方、『感じていない (計)』は女性20代 (69.4%) で約7割と高くなっている。(図9-1-2)

図9-1-3 大田区は国際交流、多文化共生が進んだまちと感じているかー地域別



地域別でみると、『感じている(計)』は蒲田地域(27.9%)で3割近くとなっている。一方、『感じていない(計)』は大森地域(61.2%)で6割を超えて高くなっている。(図9-1-3)

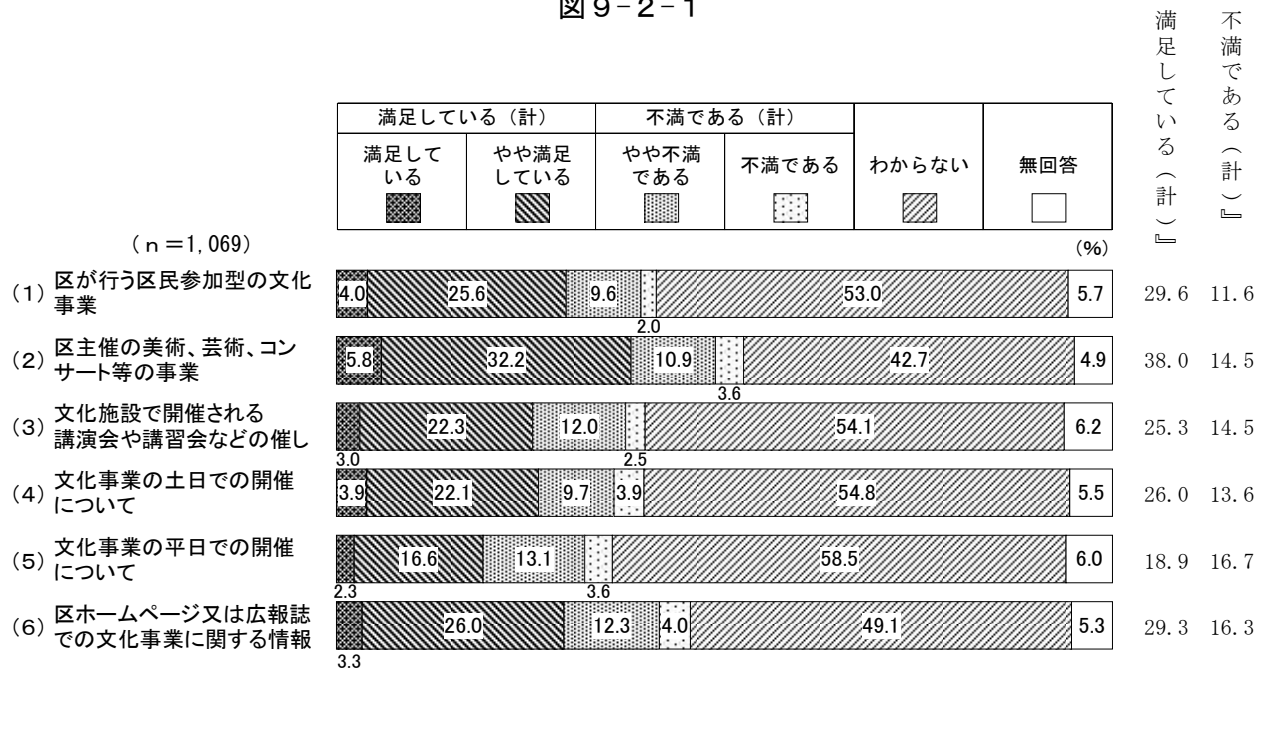
(2) 文化事業の満足度

◇「満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足している(計)』は“区主催の美術、芸術、コンサート等の事業”で4割近く

問 17 区が行っている文化事業に関することについて、どの程度満足していますか。

(○はそれぞれ1つ)

図 9-2-1

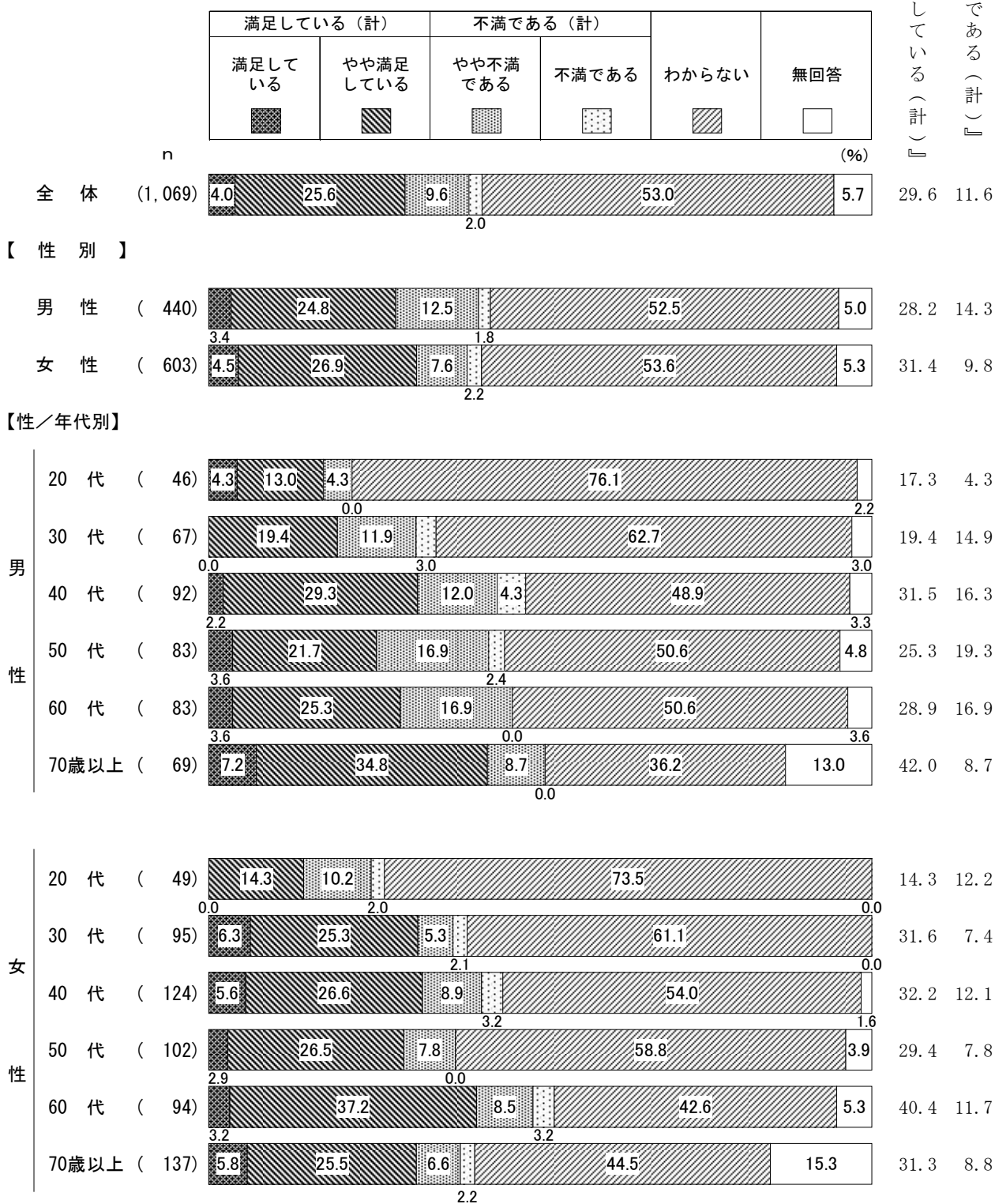


区が行っている文化事業に関することについて聞いたところ、「満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足している(計)』は“区主催の美術、芸術、コンサート等の事業”(38.0%)で4割近くと最も高く、次いで“区が行う区民参加型の文化事業”(29.6%)、“区ホームページ又は広報誌での文化事業に関する情報”(29.3%)などの順になっている。一方、「やや不満である」と「不満である」を合わせた『不満である(計)』は“文化事業の平日での開催について”(16.7%)で2割近くとなっている。(図9-2-1)

図9-2-2 文化事業の満足度－性／年代別

【(1) 区が行う区民参加型の文化事業】

満足している(計) 『
不満足である(計)』

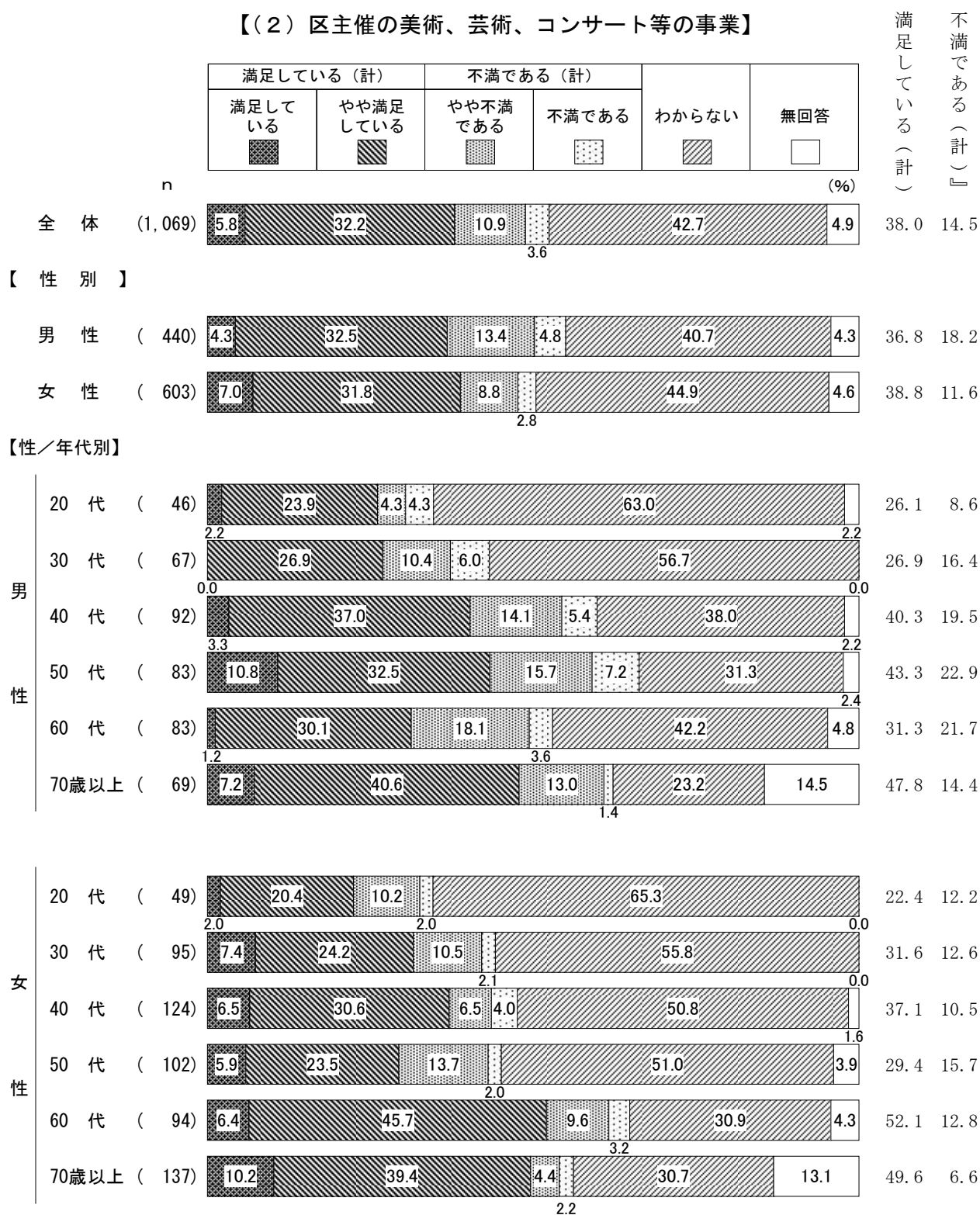


“区が行う区民参加型の文化事業”を性別で見ると、『不満である(計)』は男性(14.3%)が女性(9.8%)より4.5ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『満足している(計)』は男性70歳以上(42.0%)と女性60代(40.4%)で4割台となっている。一方、『不満である(計)』は男性50代(19.3%)で約2割となっている。

(図9-2-2)

図9-2-3 文化事業の満足度－性／年代別
 【(2) 区主催の美術、芸術、コンサート等の事業】



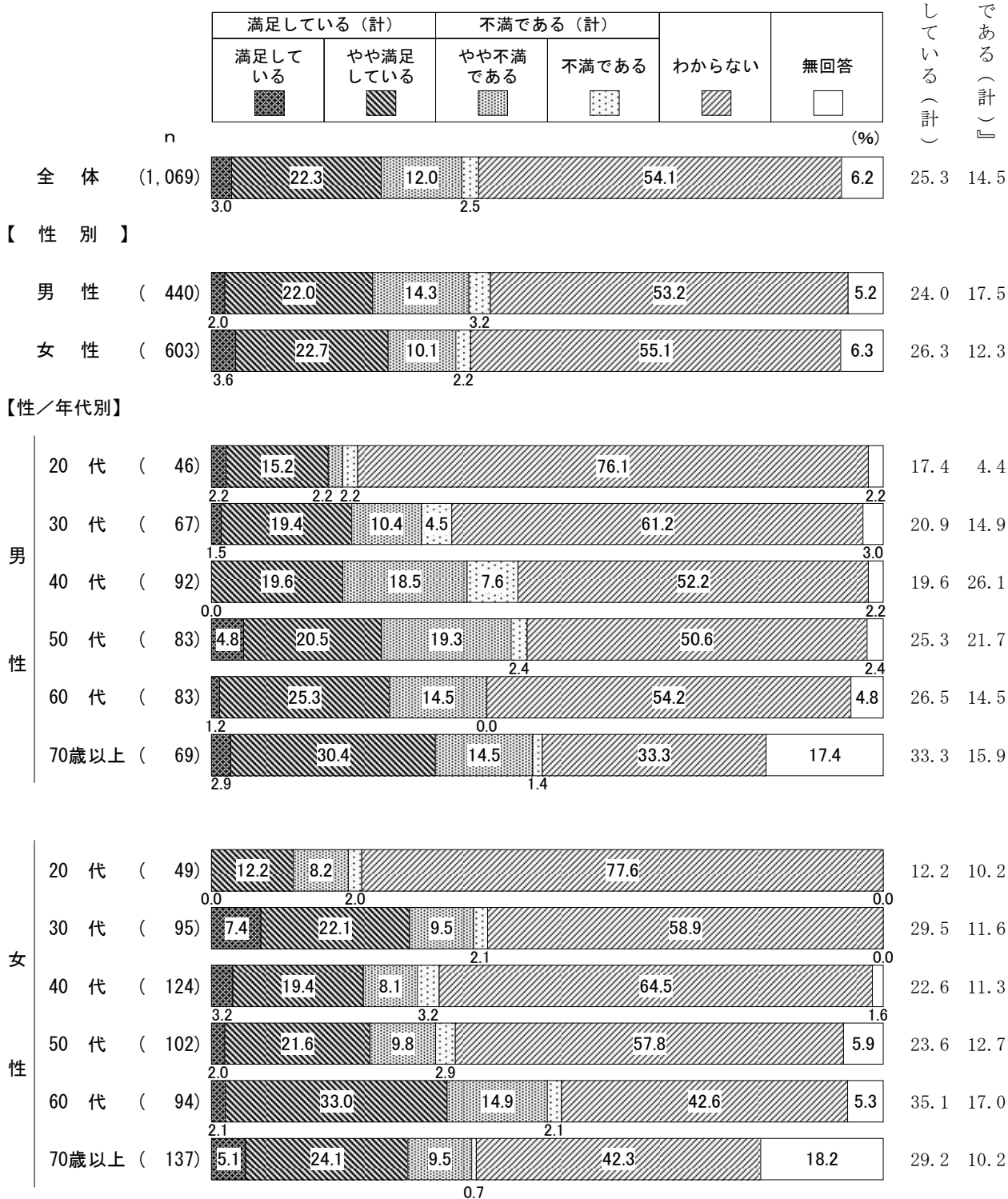
“区主催の美術、芸術、コンサート等の事業”を性別で見ると、『不満である(計)』は男性(18.2%)が女性(11.6%)より6.6ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『満足している(計)』は女性60代(52.1%)で5割を超えている。一方、『不満である(計)』は男性の50代(22.9%)と60代(21.7%)で2割を超えている。(図9-2-3)

図9-2-4 文化事業の満足度－性／年代別

【(3)文化施設で開催される講演会や講習会などの催し】

満足している(計)
不満足である(計)



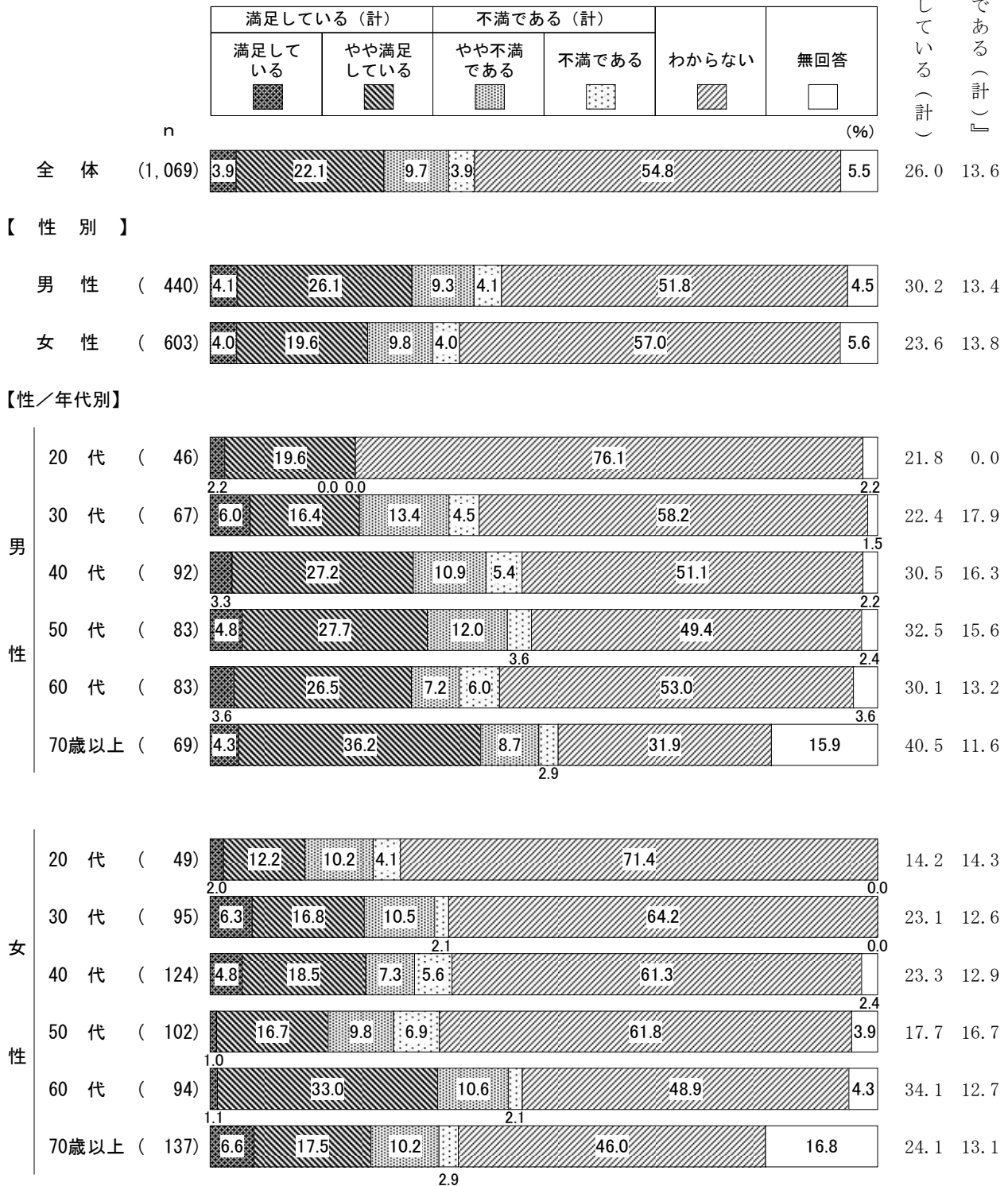
“文化施設で開催される講演会や講習会などの催し”を性別で見ると、『不満足である(計)』は男性(17.5%)が女性(12.3%)より5.2ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『満足している(計)』は女性60代(35.1%)と男性70歳以上(33.3%)で3割台となっている。一方、『不満足である(計)』は男性の40代(26.1%)と50代(21.7%)で2割台となっている。(図9-2-4)

図9-2-5 文化事業の満足度－性／年代別

【(4)文化事業の土日での開催について】

満足している(計)
不満足である(計)



“文化事業の土日での開催について”を性別で見ると、『満足している(計)』は男性(30.2%)が女性(23.6%)より6.6ポイント高くなっている。

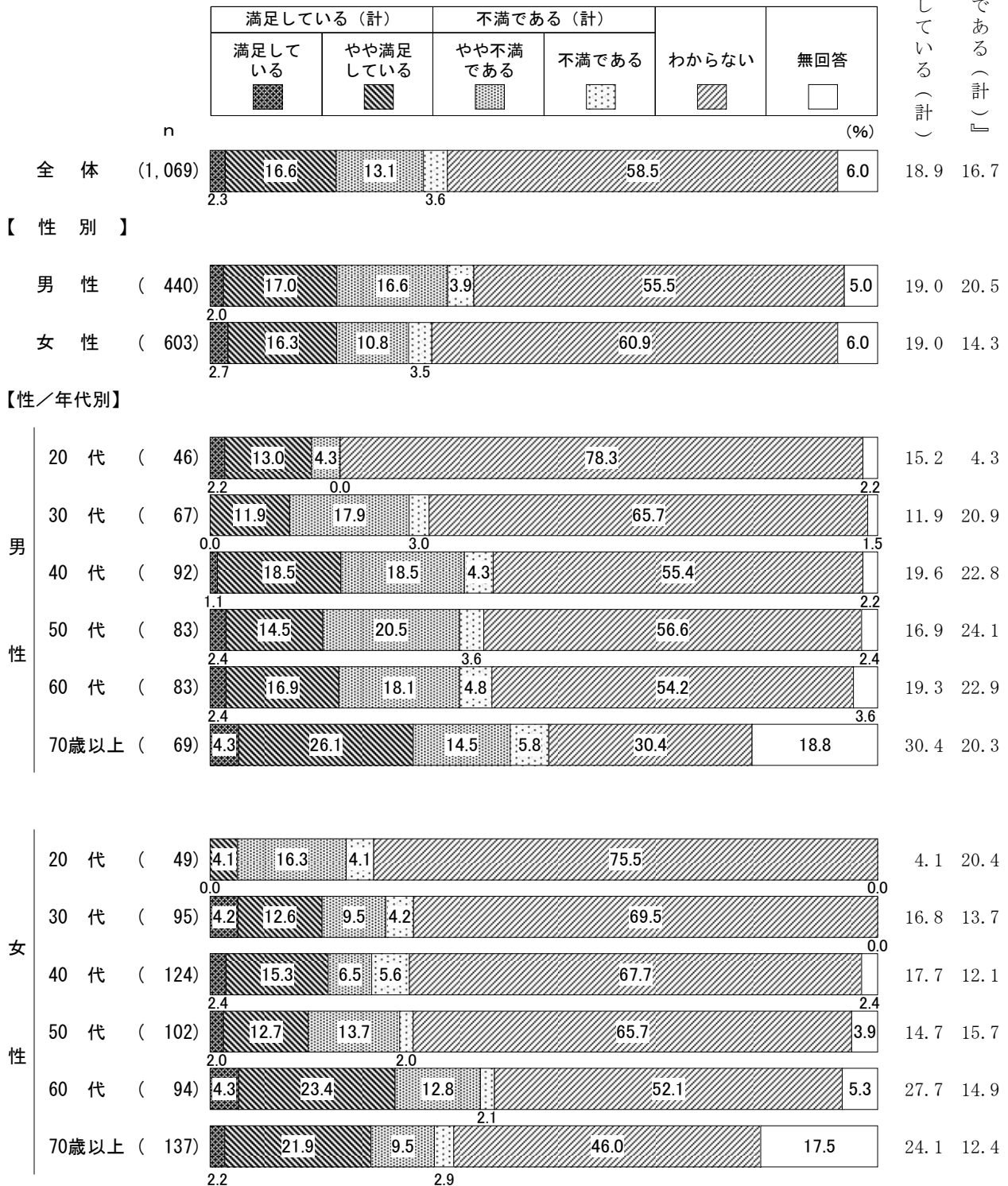
性／年代別で見ると、『満足している(計)』は男性70歳以上(40.5%)で約4割となっている。一方、『不満である(計)』は男性30代(17.9%)と女性50代(16.7%)で2割近くとなっている。

(図9-2-5)

図9-2-6 文化事業の満足度－性／年代別

【(5)文化事業の平日での開催について】

満足している(計)
不満足である(計)



“文化事業の平日での開催について”を性別で見ると、『不満である(計)』は男性(20.5%)が女性(14.3%)より6.2ポイント高くなっている。

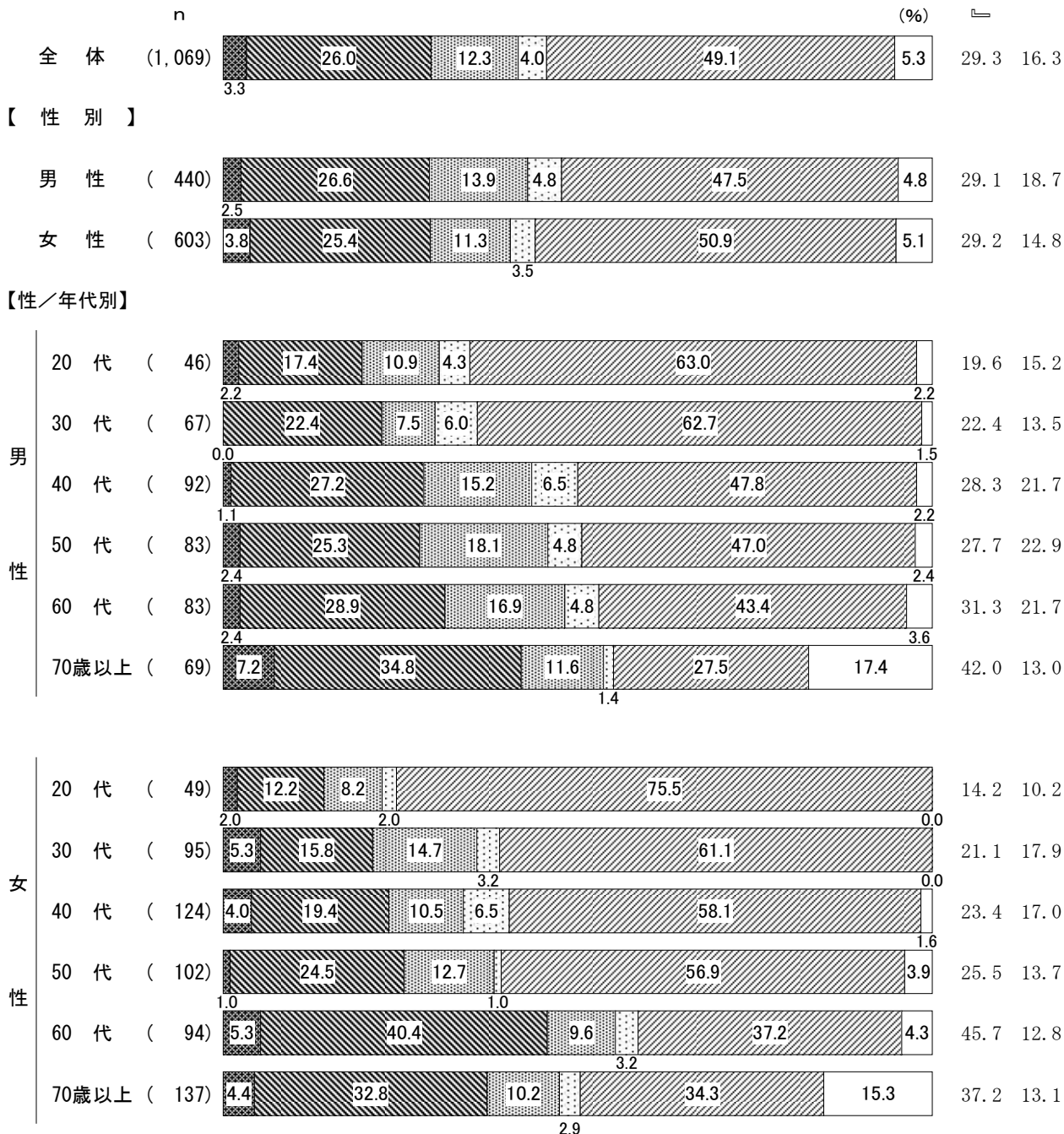
性／年代別で見ると、『満足している(計)』は男性70歳以上(30.4%)で3割となっている。一方、『不満である(計)』は男性50代(24.1%)で2割半ばとなっている。(図9-2-6)

図9-2-7 文化事業の満足度一性/年代別

【(6) 区ホームページ又は広報誌での文化事業に関する情報】

満足している(計) 『
不満足である(計)』

満足している(計)		不満足である(計)		わからない	無回答
満足している	やや満足している	やや不満足である	不満足である		



“区ホームページ又は広報誌での文化事業に関する情報”を性別で見ると、『不満足である(計)』は男性(18.7%)が女性(14.8%)より3.9ポイント高くなっている。

性/年代別で見ると、『満足している(計)』は女性60代(45.7%)と男性70歳以上(42.0%)で4割台となっている。一方、『不満足である(計)』は男性の40代(21.7%)、50代(22.9%)、60代(21.7%)で2割を超えている。(図9-2-7)

10. 大田区の観光

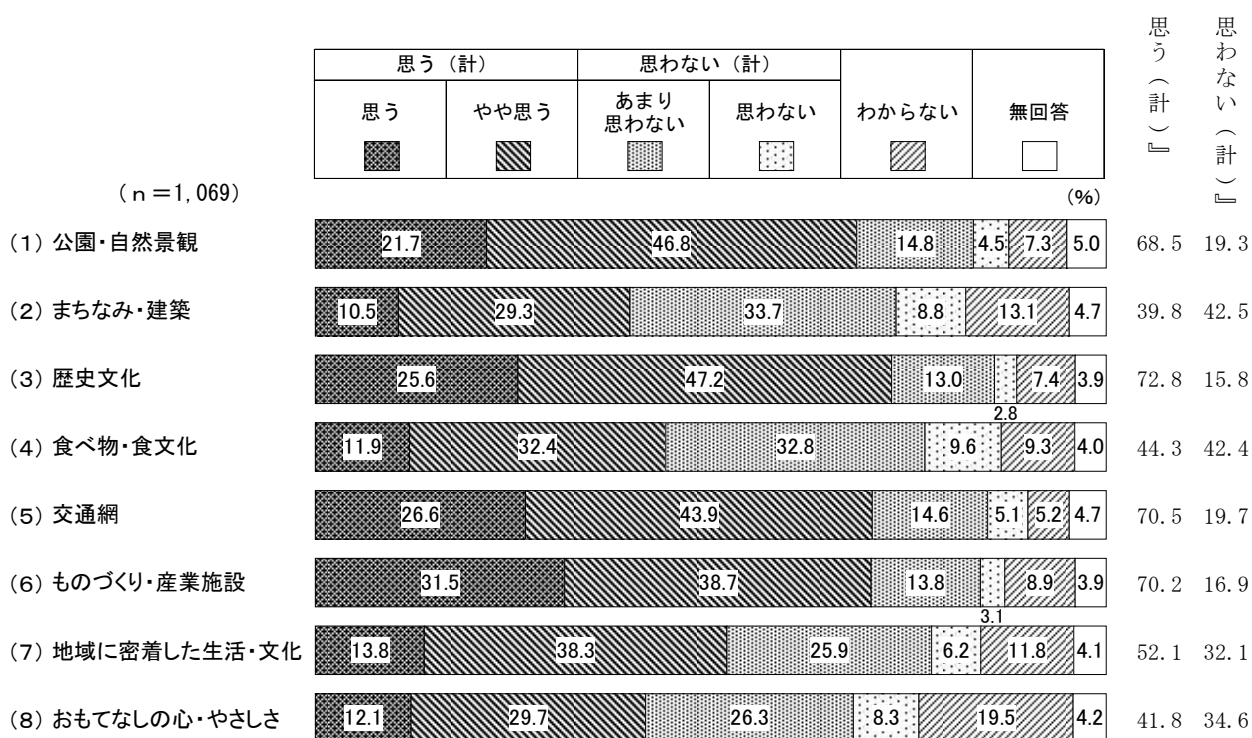
(1) 区外や外国人の方々に対して誇れるものやアピールしたいもの

◇「思う」と「やや思う」を合わせた『思う(計)』は“歴史文化”で7割を超える

◇「あまり思わない」と「思わない」を合わせた『思わない(計)』は“まちなみ・建築”と“食べ物・食文化”で4割を超える

問 18 以下の項目について、大田区で区外や外国人の方々に対して、誇れるもの、アピールしたいものだと思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

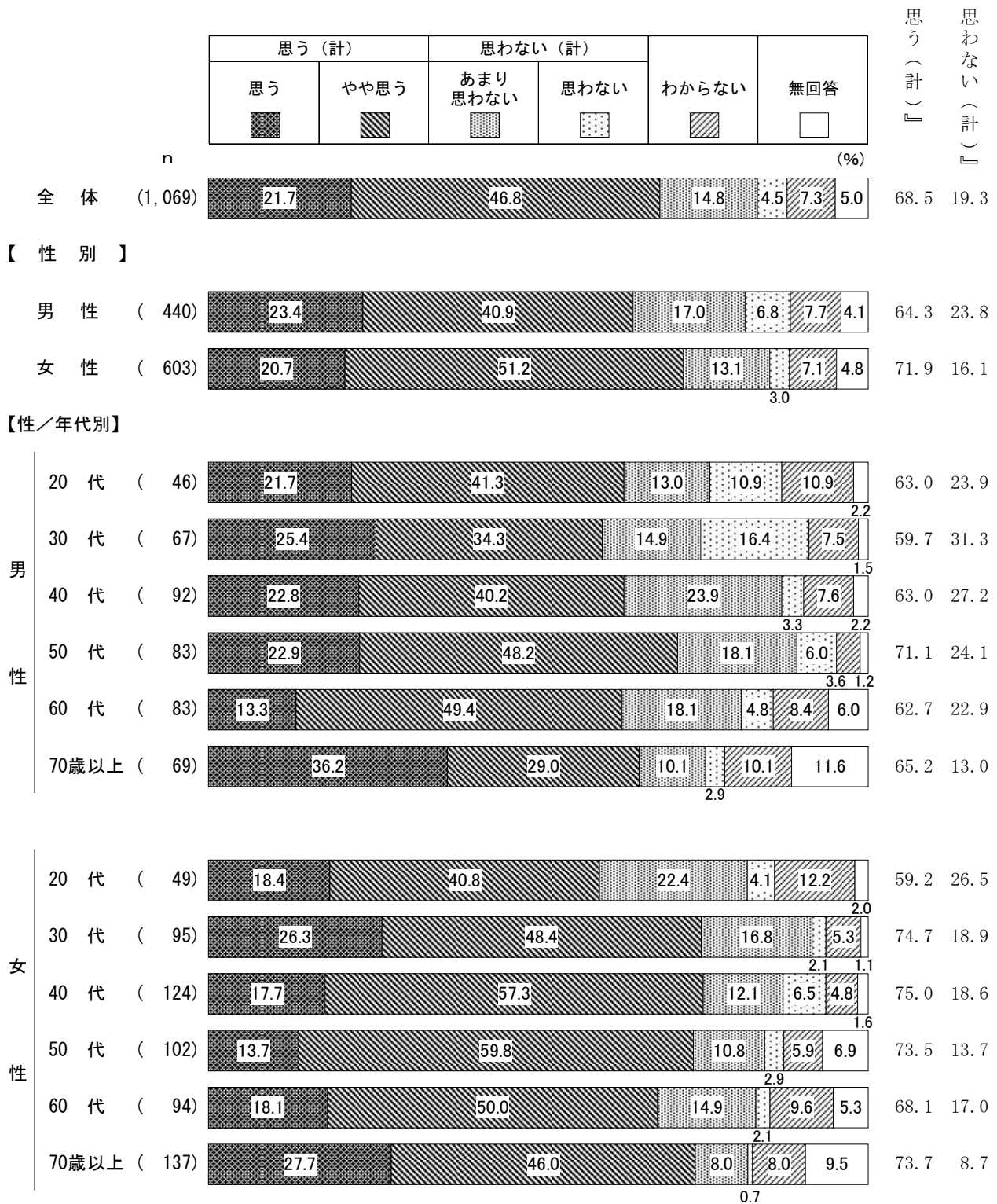
図 10-1-1



大田区で区外や外国人の方々に対して、誇れるもの、アピールしたいものについて聞いたところ、「思う」と「やや思う」を合わせた『思う(計)』は“歴史文化”(72.8%)で7割を超えて最も高く、次いで“交通網”(70.5%)、“ものづくり・産業施設”(70.2%)などの順になっている。一方、「あまり思わない」と「思わない」を合わせた『思わない(計)』は“まちなみ・建築”(42.5%)と“食べ物・食文化”(42.4%)で4割を超えている。(図 10-1-1)

図 10-1-2 区外や外国人の方々に対して誇れるものやアピールしたいもの—性／年代別

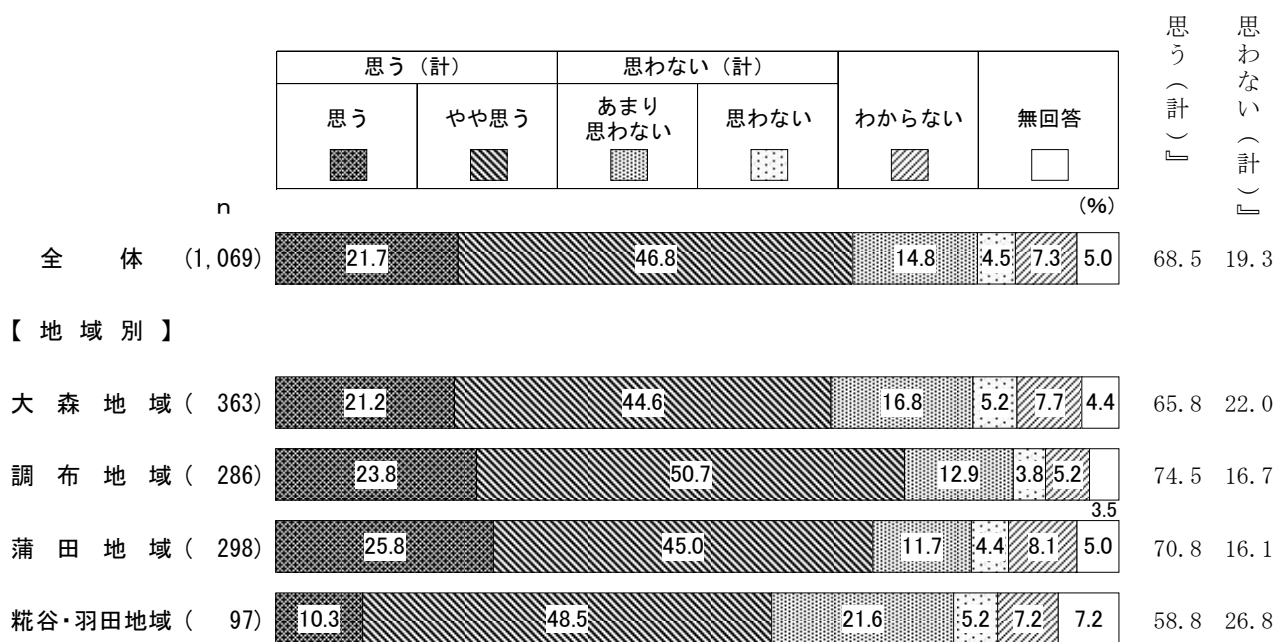
【(1) 公園・自然景観】



“公園・自然景観”を性別で見ると、『思わない(計)』は男性(23.8%)が女性(16.1%)より7.7ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『思う(計)』は女性の30代(74.7%)と40代(75.0%)で7割半ばと高くなっている。一方、『思わない(計)』は男性30代(31.3%)で3割を超えている。(図10-1-2)

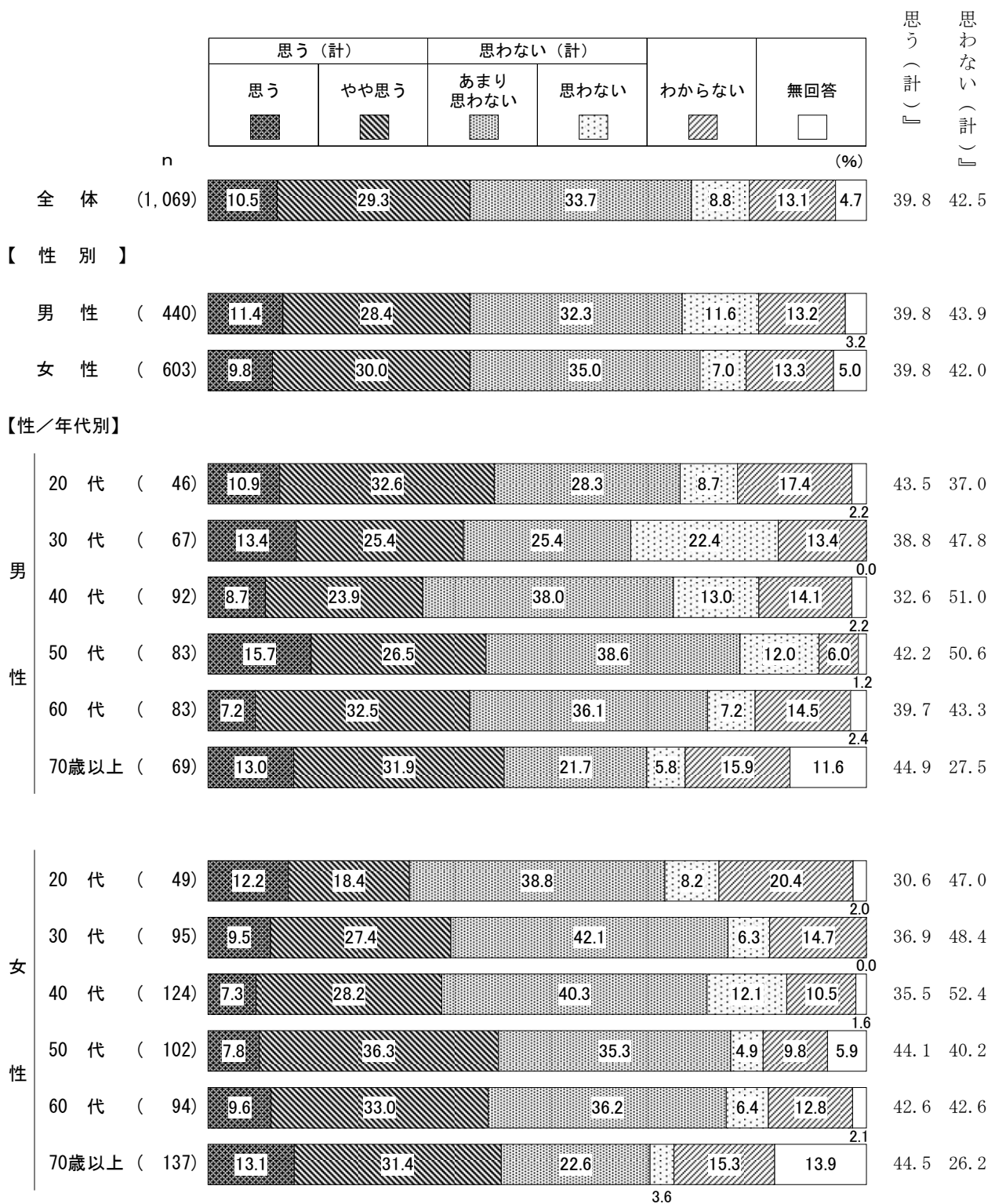
図 10-1-3 区外や外国人の方々に対して誇れるものやアピールしたいもの—地域別
【(1) 公園・自然景観】



“公園・自然景観”を地域別でみると、『思う (計)』は調布地域 (74.5%) で7割半ばと高くなっている。一方、『思わない (計)』は糀谷・羽田地域 (26.8%) で3割近くとなっている。

(図10-1-3)

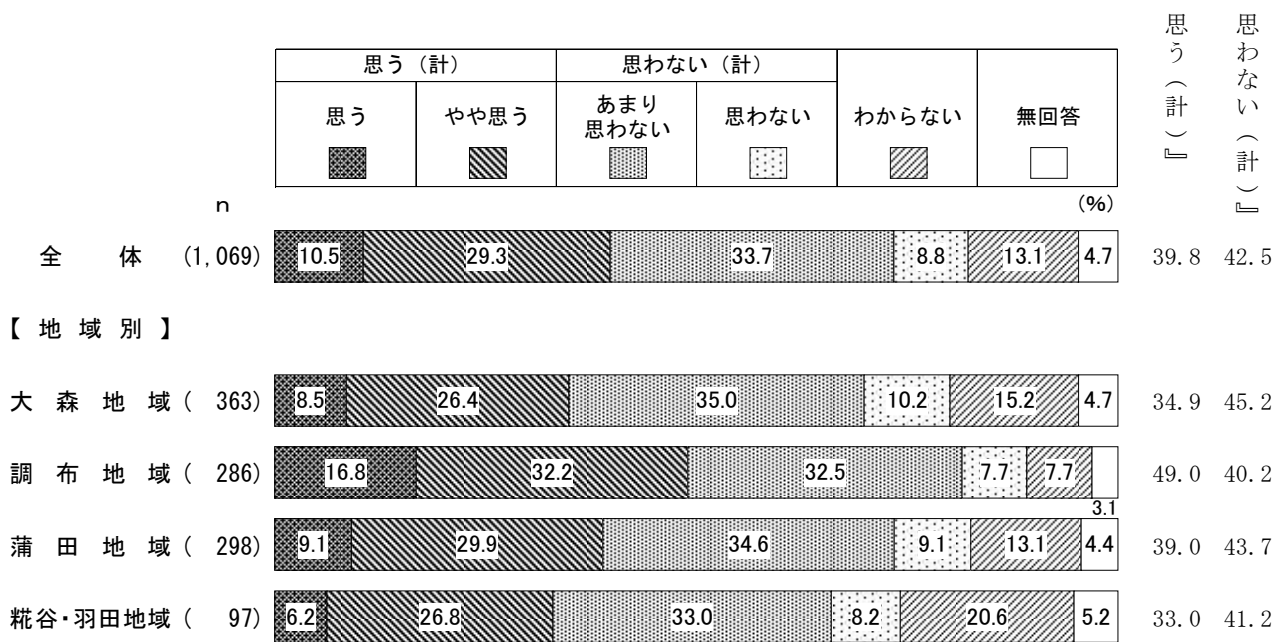
図 10-1-4 区外や外国人の方々に対して誇れるものやアピールしたいもの—性／年代別
【(2) まちなみ・建築】



“まちなみ・建築”を性別で見ると、「思わない」は男性（11.6%）が女性（7.0%）より4.6ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『思う（計）』は男性70歳以上（44.9%）、女性の50代（44.1%）と70歳以上（44.5%）で4割半ばとなっている。一方、『思わない（計）』は女性40代（52.4%）、男性の40代（51.0%）と50代（50.6%）で5割台となっている。（図10-1-4）

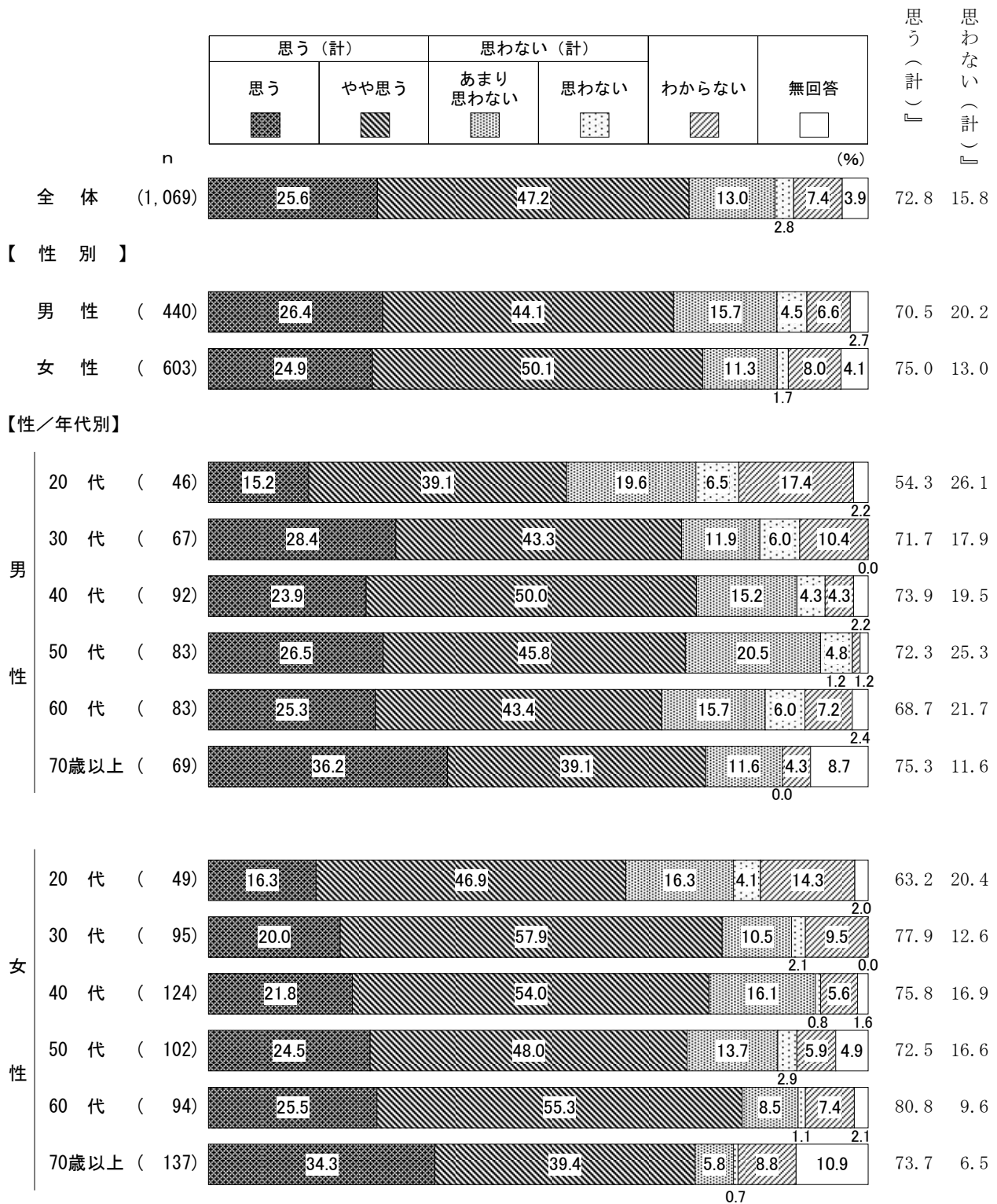
図 10-1-5 区外や外国人の方々に対して誇れるものやアピールしたいもの—地域別
【(2) まちなみ・建築】



“まちなみ・建築”を地域別でみると、『思う (計)』は調布地域 (49.0%) で約5割となっている。一方、『思わない (計)』は大森地域 (45.2%) で4割半ばとなっている。(図10-1-5)

図 10-1-6 区外や外国人の方々に対して誇れるものやアピールしたいもの—性／年代別

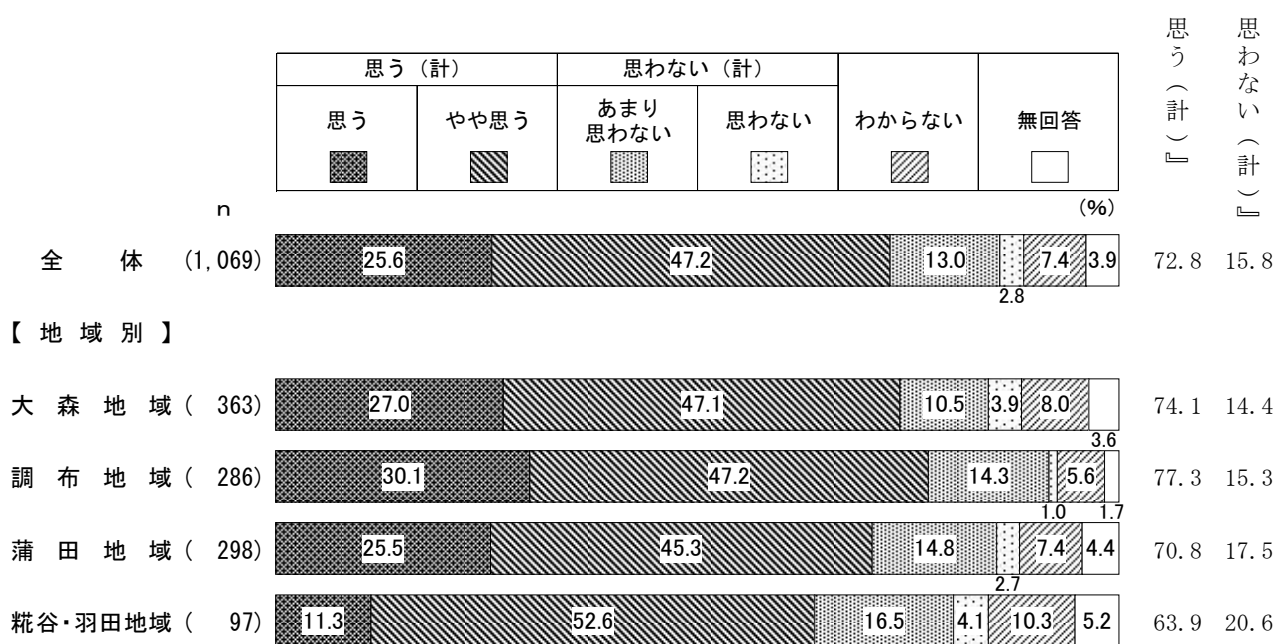
【(3) 歴史文化】



“歴史文化”を性別で見ると、『思わない(計)』は男性(20.2%)が女性(13.0%)より7.2ポイント高くなっている。

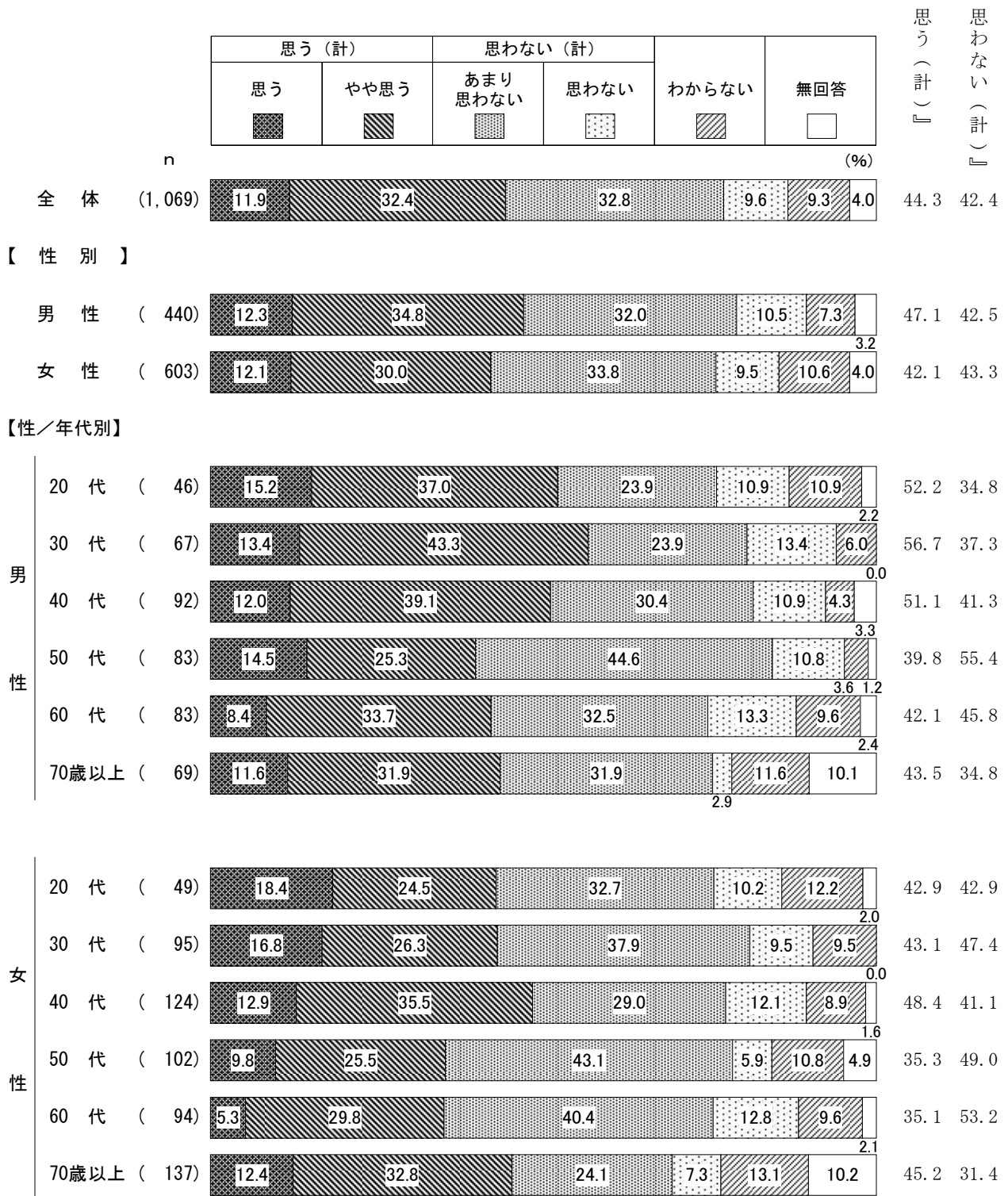
性／年代別で見ると、『思う(計)』は女性60代(80.8%)で約8割と高くなっている。一方、『思わない(計)』は男性の20代(26.1%)と50代(25.3%)で2割半ばとなっている。(図10-1-6)

図 10-1-7 区外や外国人の方々に対して誇れるものやアピールしたいもの—地域別
【(3) 歴史文化】



“歴史文化”を地域別でみると、『思う (計)』は調布地域 (77.3%) で8割近くと高くなっている。一方、『思わない (計)』は糞谷・羽田地域 (20.6%) で約2割となっている。(図10-1-7)

図 10-1-8 区外や外国人の方々に対して誇れるものやアピールしたいもの—性／年代別
【(4) 食べ物・食文化】

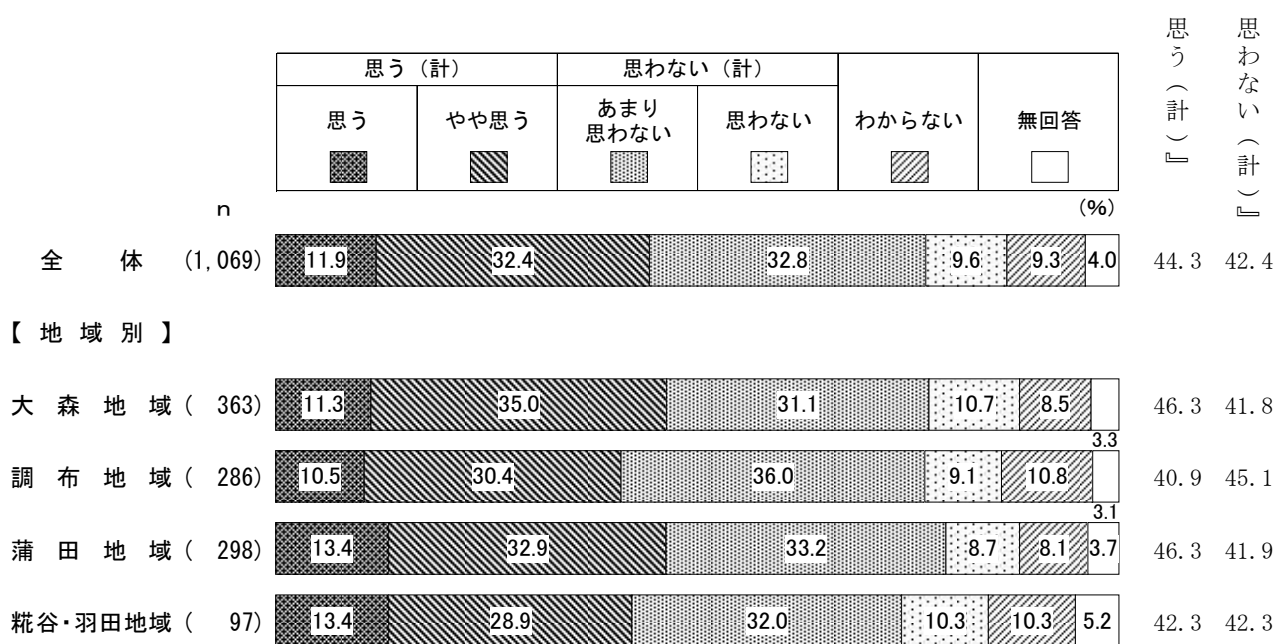


“食べ物・食文化”を性別で見ると、『思う (計)』は男性 (47.1%) が女性 (42.1%) より5.0ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『思う (計)』は男性30代 (56.7%) で6割近くと高くなっている。一方、『思わない (計)』は男性50代 (55.4%) と女性60代 (53.2%) で5割台となっている。

(図10-1-8)

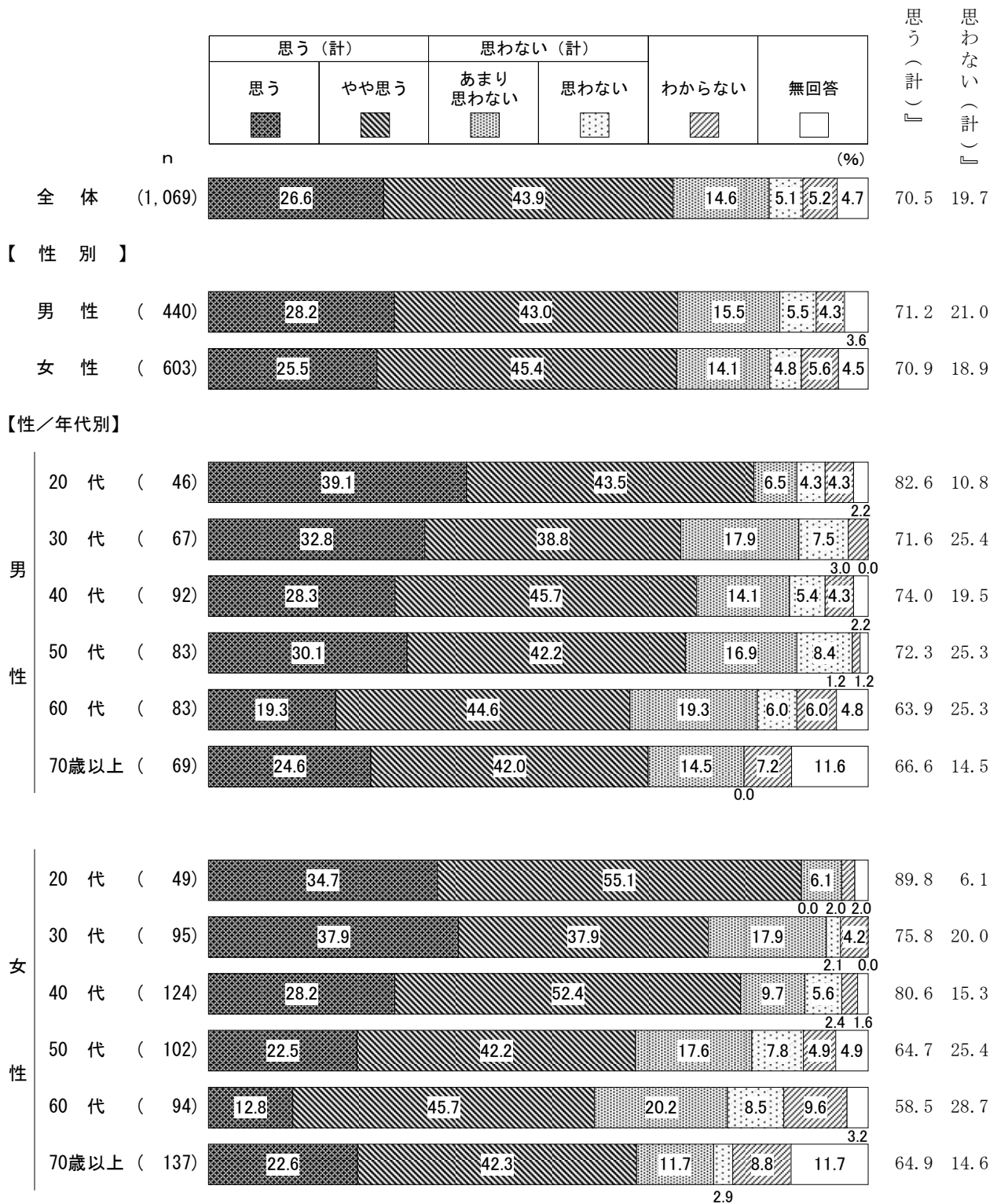
図 10-1-9 区外や外国人の方々に対して誇れるものやアピールしたいもの—地域別
【(4) 食べ物・食文化】



“食べ物・食文化”を地域別でみると、『思う (計)』は大森地域と蒲田地域 (ともに46.3%) で4割半ばとなっている。一方、『思わない (計)』は調布地域 (45.1%) で4割半ばとなっている。
(図10-1-9)

図 10-1-10 区外や外国人の方々に対して誇れるものやアピールしたいもの—性／年代別

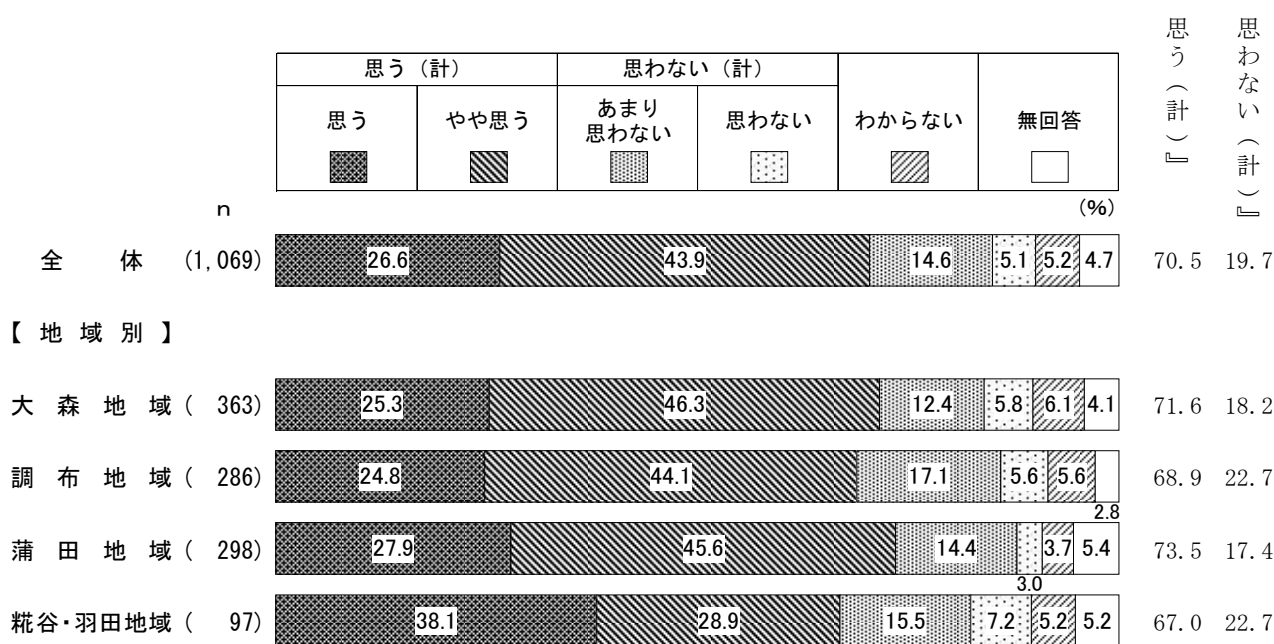
【(5) 交通網】



“交通網”を性別で見ると、大きな違いはみられない。

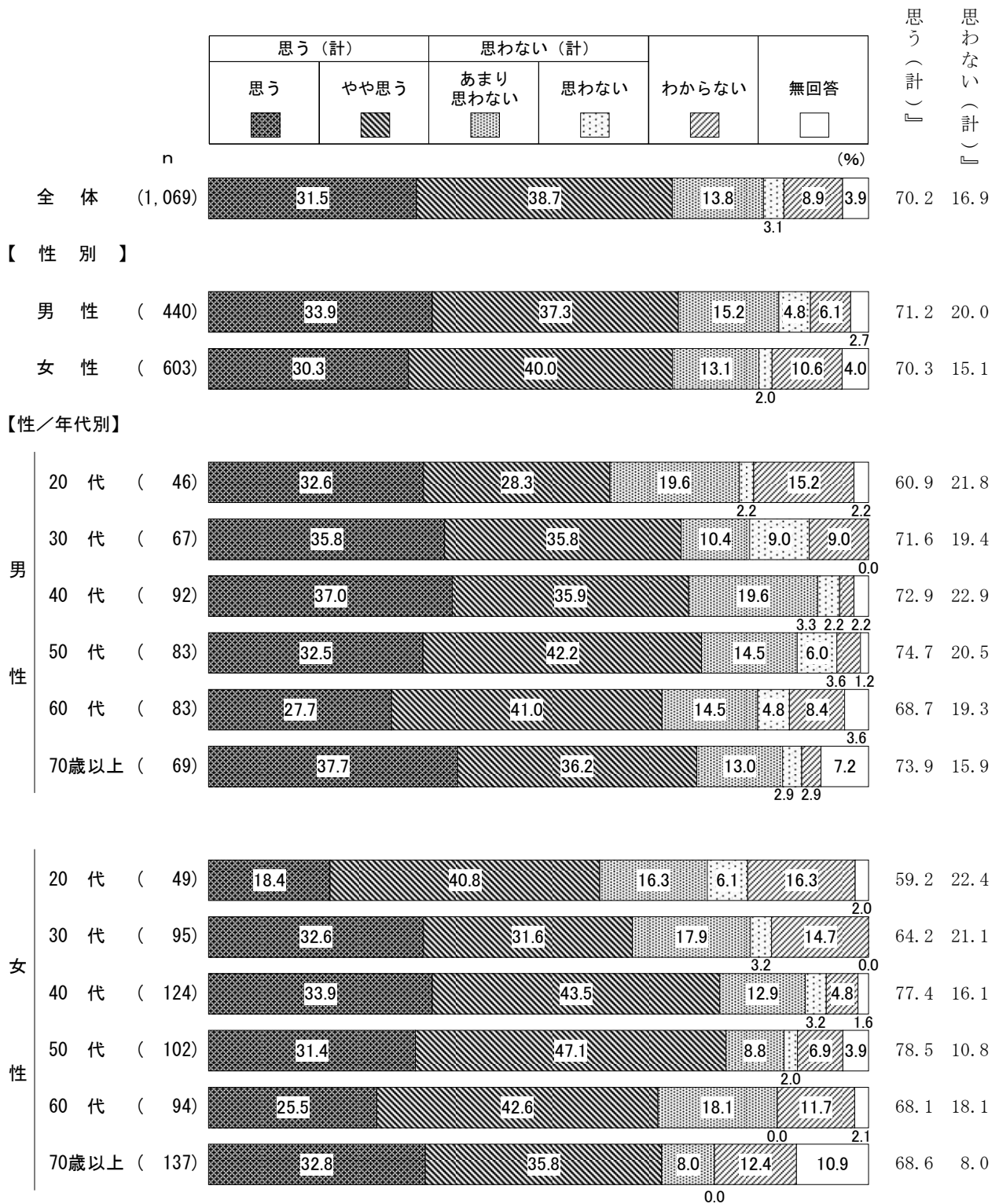
性／年代別で見ると、『思う (計)』は女性20代 (89.8%) で9割と高くなっている。一方、『思わない (計)』は女性60代 (28.7%) で3割近くとなっている。(図10-1-10)

図 10-1-11 区外や外国人の方々に対して誇れるものやアピールしたいもの—地域別
【(5) 交通網】



“交通網”を地域別でみると、『思う (計)』は蒲田地域 (73.5%) と大森地域 (71.6%) で7割を超えて高くなっている。一方、『思わない (計)』は調布地域と糞谷・羽田地域 (ともに22.7%) で2割を超えている。(図10-1-11)

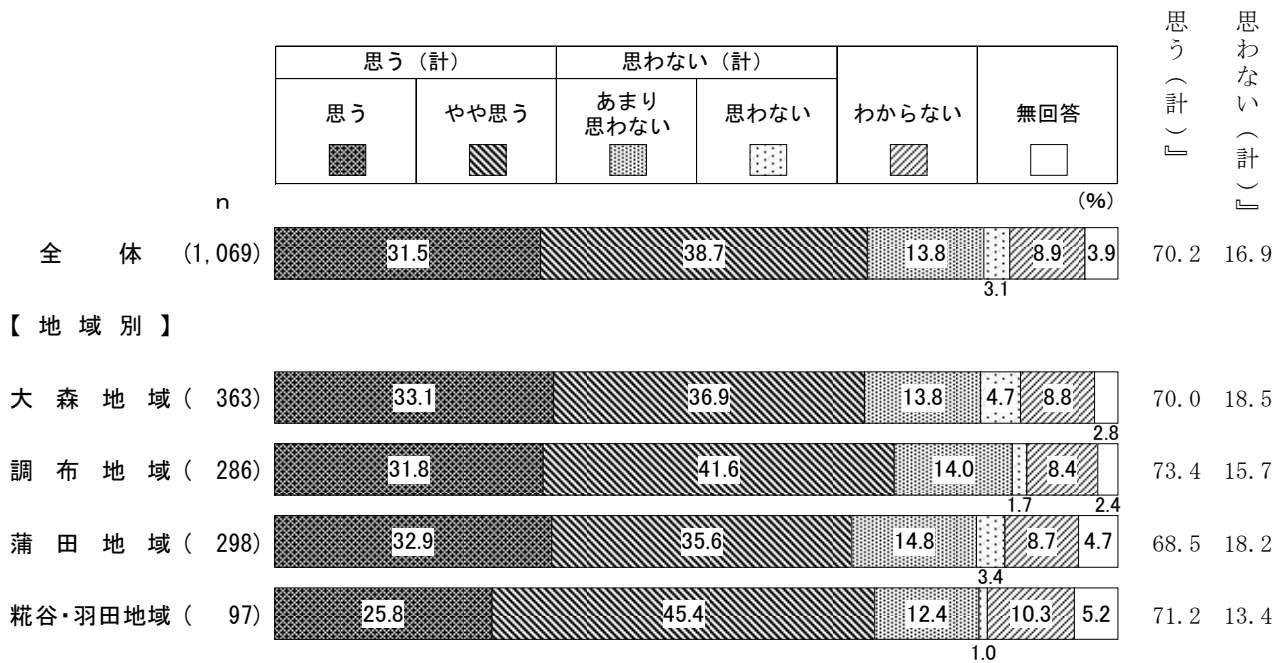
図 10-1-12 区外や外国人の方々に対して誇れるものやアピールしたいもの－性／年代別
【(6) ものづくり・産業施設】



“ものづくり・産業施設”を性別で見ると、『思わない(計)』は男性(20.0%)が女性(15.1%)より4.9ポイント高くなっている。

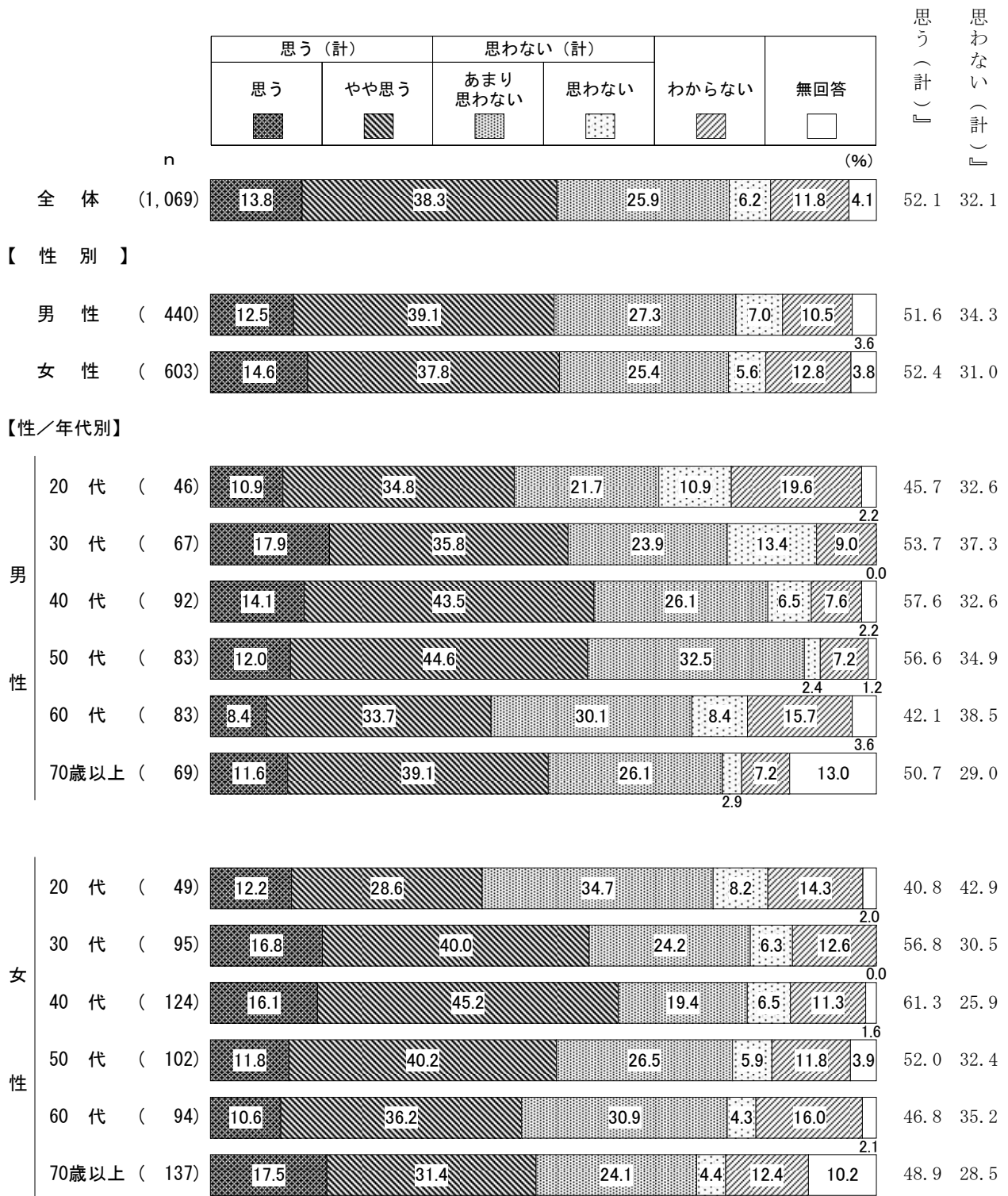
性／年代別で見ると、『思う(計)』は女性の40代(77.4%)と50代(78.5%)で8割近くと高くなっている。一方、『思わない(計)』は男性の20代(21.8%)と40代(22.9%)、女性の20代(22.4%)と30代(21.1%)で2割を超えている。(図10-1-12)

図 10-1-13 区外や外国人の方々に対して誇れるものやアピールしたいもの—地域別
【(6) ものづくり・産業施設】



“ものづくり・産業施設”を地域別で見ると、『思う (計)』は調布地域 (73.4%) と糀谷・羽田地域 (71.2%) で7割を超えて高くなっている。一方、『思わない (計)』は大森地域 (18.5%) と蒲田地域 (18.2%) で2割近くとなっている。(図10-1-13)

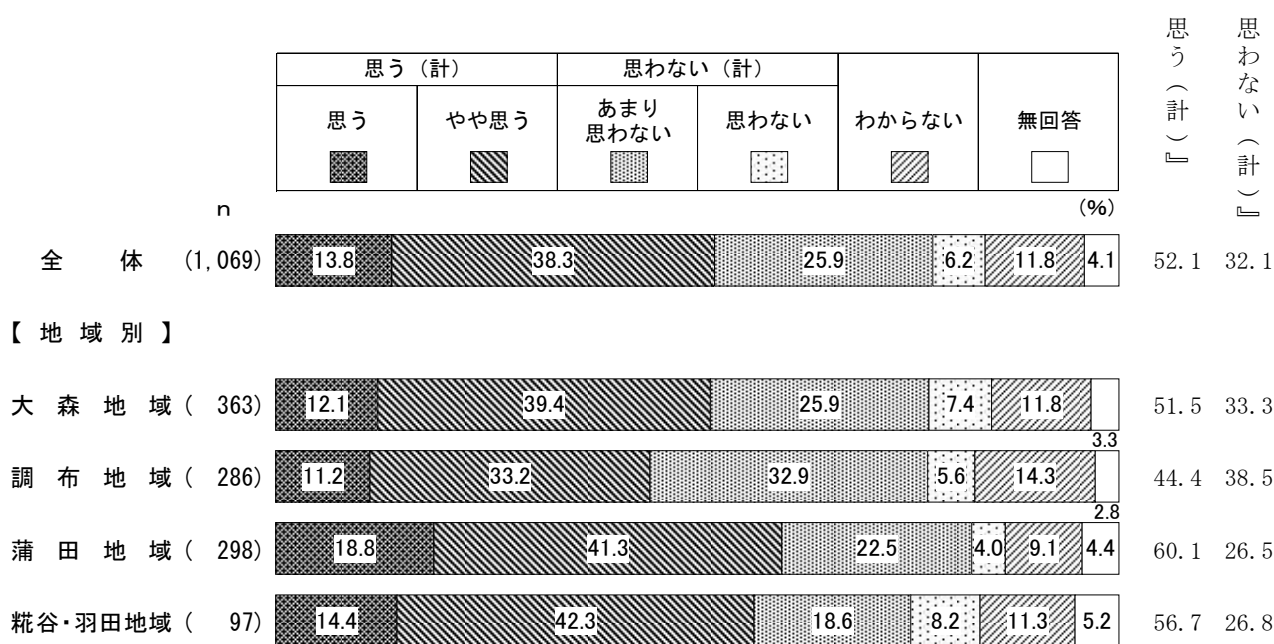
図 10-1-14 区外や外国人の方々に対して誇れるものやアピールしたいもの－性／年代別
【(7) 地域に密着した生活・文化】



“地域に密着した生活・文化”を性別で見ると、『思わない(計)』は男性(34.3%)が女性(31.0%)より3.3ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『思う(計)』は女性40代(61.3%)で6割を超えて高くなっている。一方、『思わない(計)』は女性20代(42.9%)で4割を超えている。(図10-1-14)

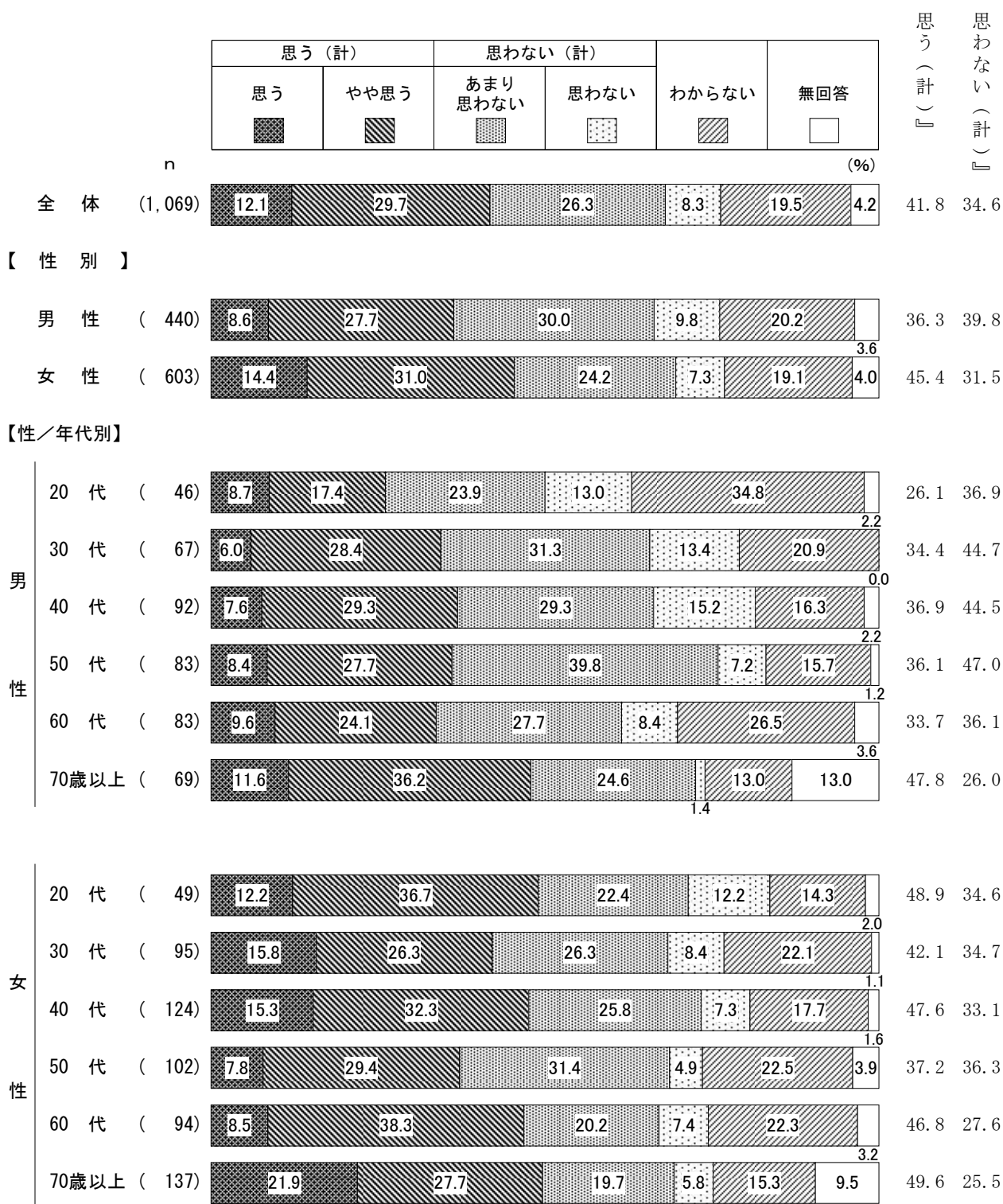
図 10-1-15 区外や外国人の方々に対して誇れるものやアピールしたいもの—地域別
【(7) 地域に密着した生活・文化】



“地域に密着した生活・文化”を地域別で見ると、『思う (計)』は蒲田地域 (60.1%) で6割と高くなっている。一方、『思わない (計)』は調布地域 (38.5%) で4割近くとなっている。

(図10-1-15)

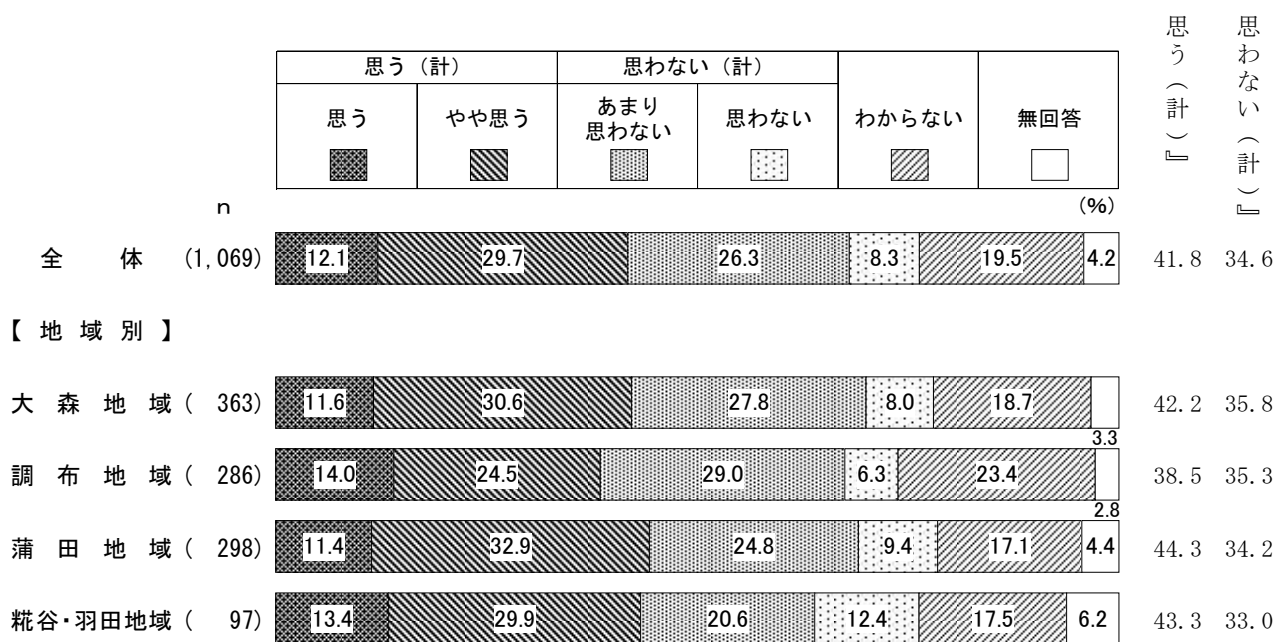
図 10-1-16 区外や外国人の方々に対して誇れるものやアピールしたいもの—性／年代別
【(8) おもてなしの心・やさしさ】



“おもてなしの心・やさしさ”を性別で見ると、『思う(計)』は女性(45.4%)が男性(36.3%)より9.1ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『思う(計)』は女性70歳以上(49.6%)で5割となっている。一方、『思わない(計)』は男性50代(47.0%)で5割近くとなっている。(図10-1-16)

図 10-1-17 区外や外国人の方々に対して誇れるものやアピールしたいもの—地域別
【(8) おもてなしの心・やさしさ】



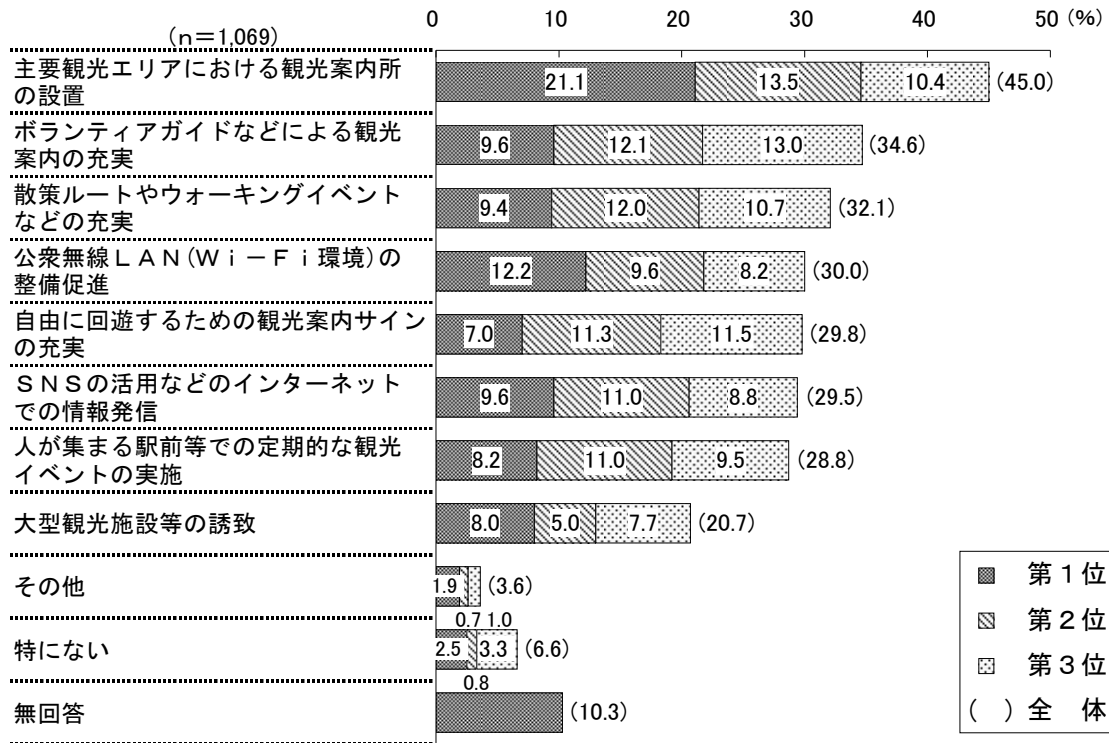
“おもてなしの心・やさしさ”を地域別で見ると、『思う (計)』は蒲田地域 (44.3%) で4割半ばとなっている。(図10-1-17)

(2) 観光を振興するうえで必要なこと

◇《全体》では「主要観光エリアにおける観光案内所の設置」が4割半ば

問 19 大田区の観光を振興するうえで必要なことは何だと思えますか。もっとも必要だと思うことから3つまで順位をつけて、下の記入欄に番号を記入してください。

図 10-2-1



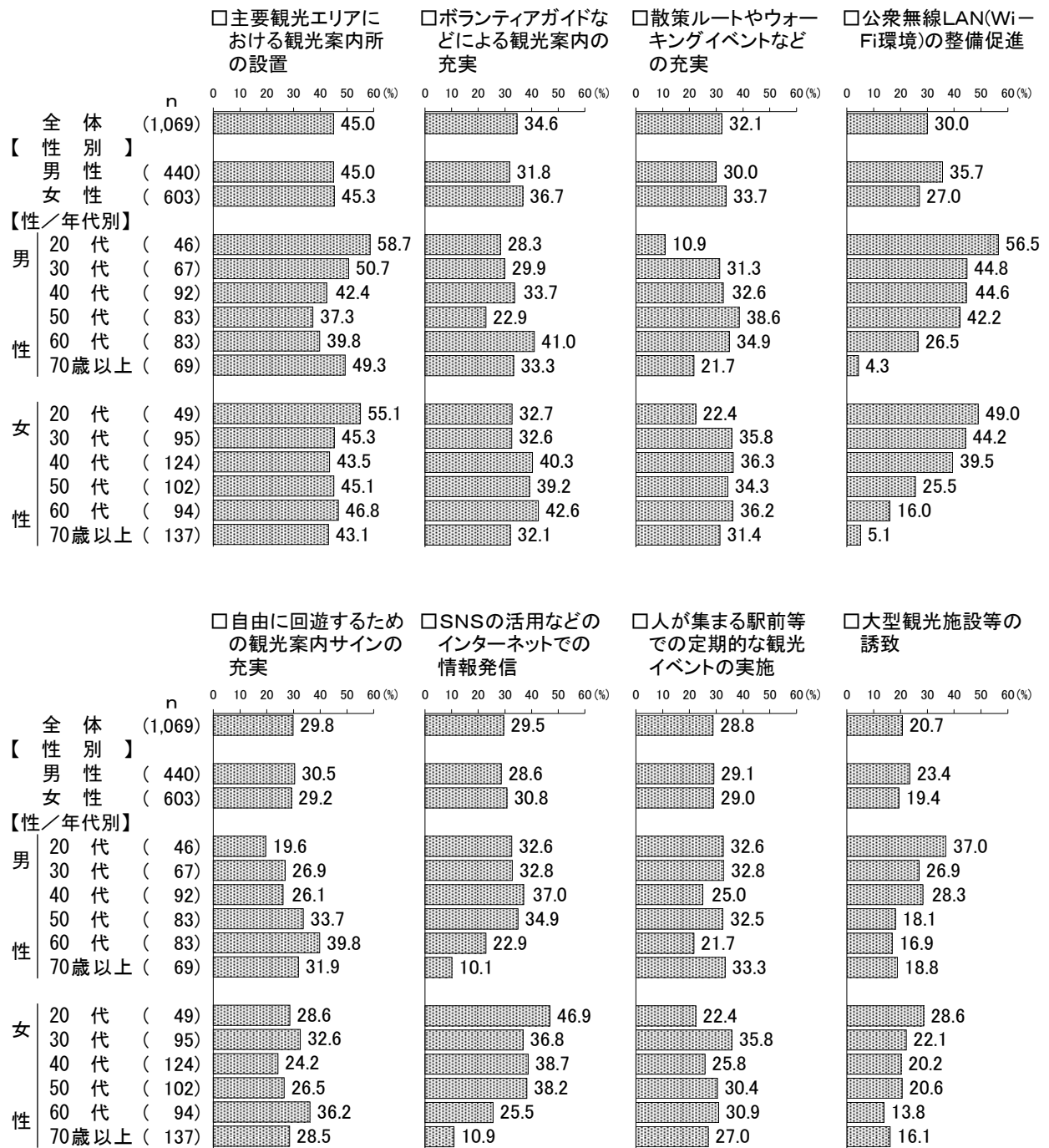
※《全体》の数値は、四捨五入の関係で第1位から第3位までの単純な合計とは値が異なる場合がある。

大田区の観光を振興するうえで必要なことを聞いたところ、第1位では「主要観光エリアにおける観光案内所の設置」(21.1%)が2割を超えて最も高く、次いで「公衆無線LAN(Wi-Fi環境)の整備促進」(12.2%)などの順になっている。

また、第1位から第3位までを累計した《全体》で見ると、「主要観光エリアにおける観光案内所の設置」(45.0%)が4割半ばで最も高く、次いで「ボランティアガイドなどによる観光案内の充実」(34.6%)、「散策ルートやウォーキングイベントなどの充実」(32.1%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「ホテル等の宿泊施設の充実」、「外国語案内の充実」、「大型の駐車場」、「交通整備」などがあげられている。(図 10-2-1)

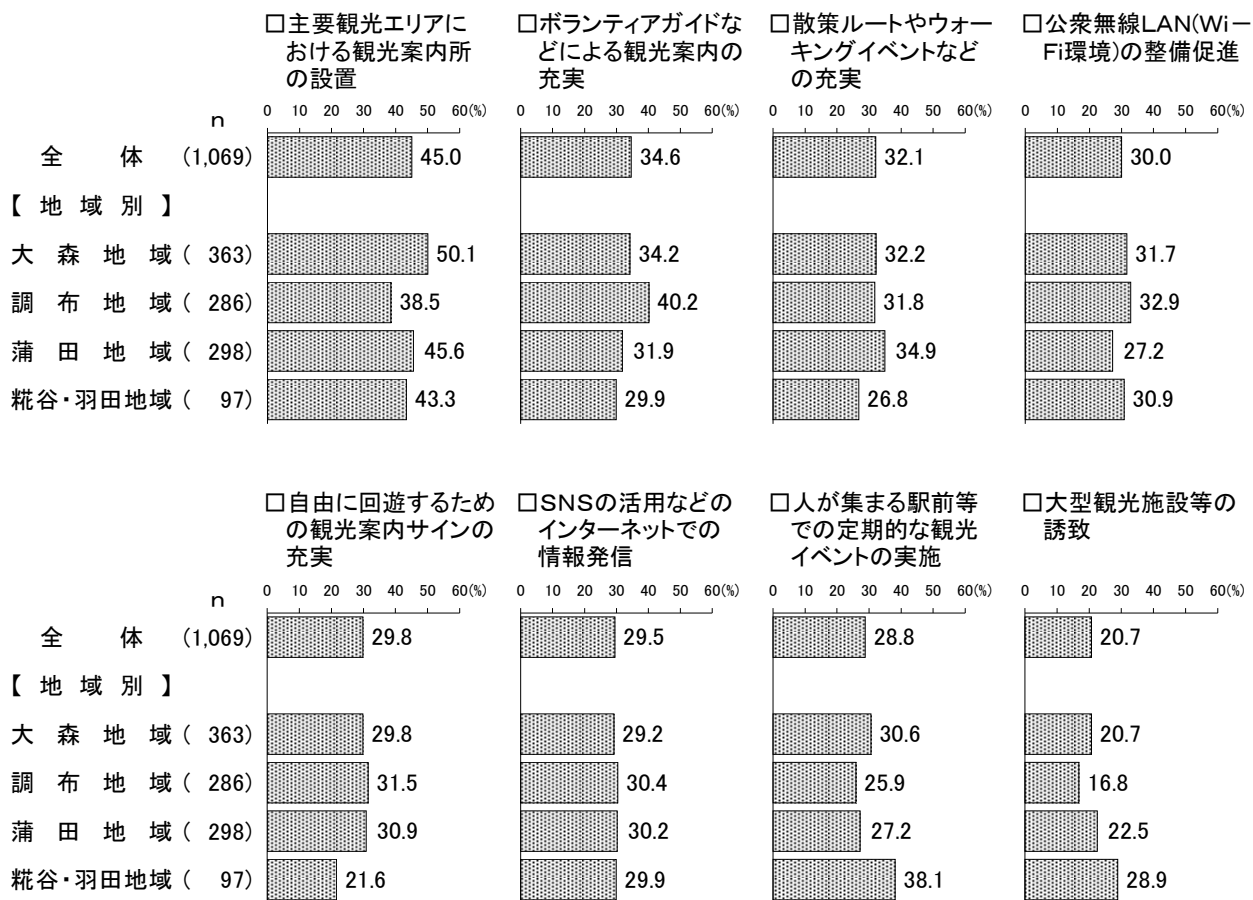
図 10-2-2 観光を振興するうえで必要なこと一性／年代別（第1位から第3位までの累計）



《全体》を性別で見ると、「公衆無線LAN(Wi-Fi環境)の整備促進」は男性(35.7%)が女性(27.0%)より8.7ポイント高くなっている。一方、「ボランティアガイドなどによる観光案内の充実」は女性(36.7%)が男性(31.8%)より4.9ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「主要観光エリアにおける観光案内所の設置」は男性20代(58.7%)で6割近くと高くなっている。また、「公衆無線LAN(Wi-Fi環境)の整備促進」は男女ともに年代が低くなるほど割合が高く、男性20代(56.5%)で6割近く、女性20代(49.0%)で約5割となっている。(図10-2-2)

図10-2-3 観光を振興するうえで必要なこと―地域別（第1位から第3位までの累計）



《全体》を地域別で見ると、「主要観光エリアにおける観光案内所の設置」は大森地域（50.1%）で5割となっている。また、「ボランティアガイドなどによる観光案内の充実」は調布地域（40.2%）で4割となり、「人が集まる駅前等での定期的な観光イベントの実施」は糎谷・羽田地域（38.1%）で4割近くとなっている。（図10-2-3）

《基本目標3 地域力と行政の連携がつくる人と地球に優しいまち》

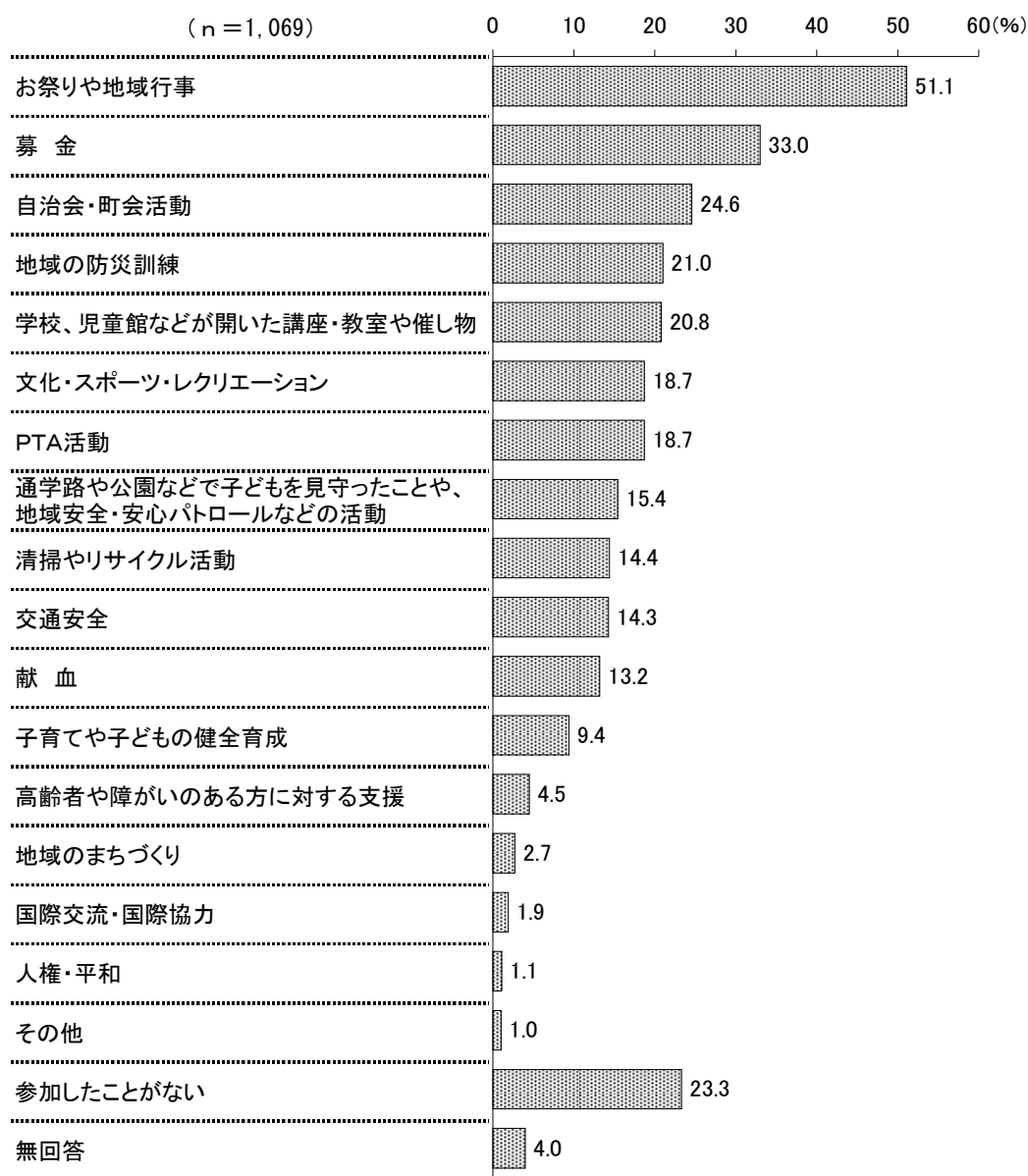
11. 地域力の土台づくり

(1) 参加したことがある地域活動

◇「お祭りや地域行事」が5割を超える

問20 今まで、大田区内の地域活動に一度でも参加したことがありますか。参加したことがある活動をお答えください。(〇はいくつでも)

図 11-1-1

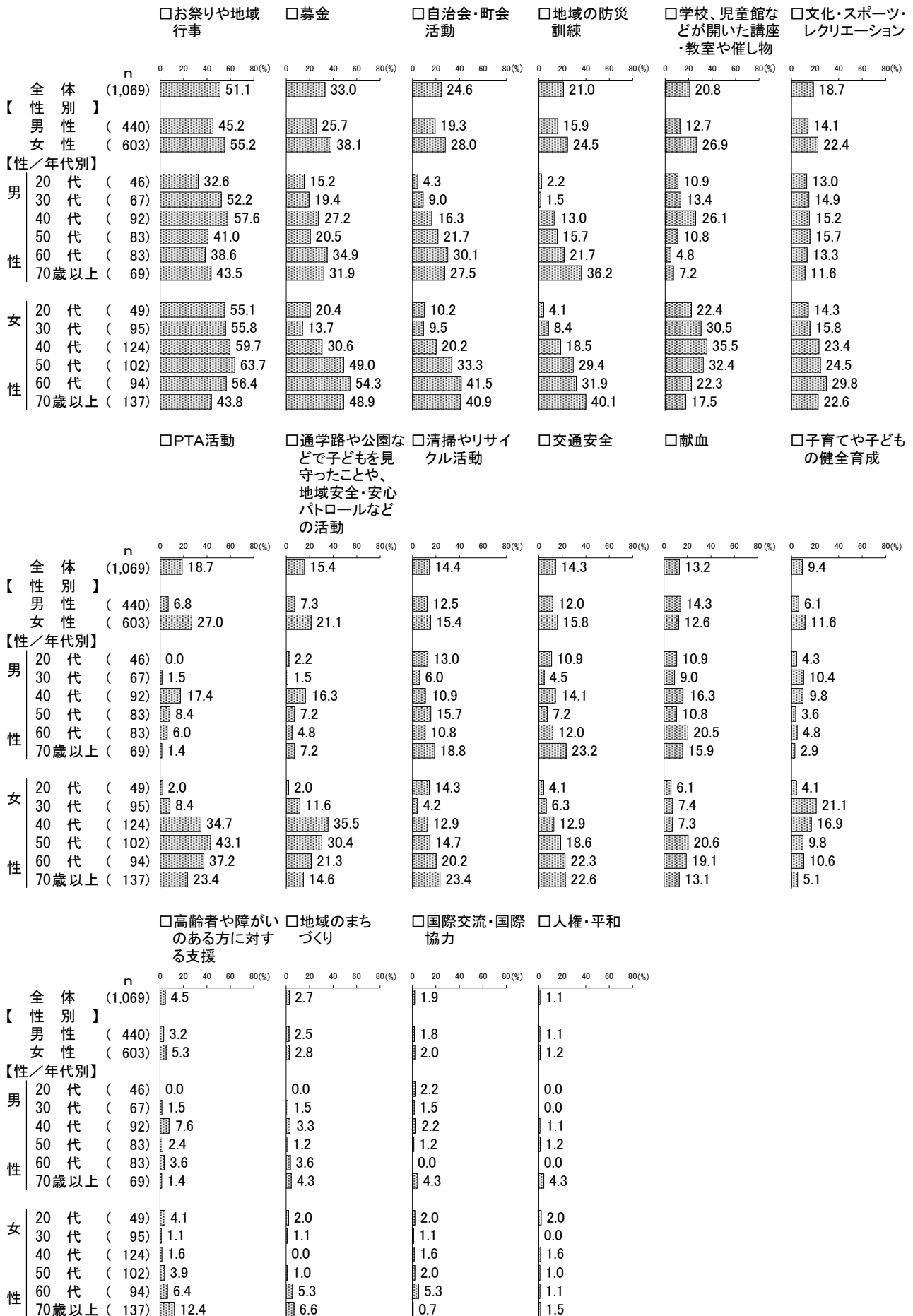


区内の地域活動に参加したことがあるか聞いたところ、「お祭りや地域行事」(51.1%)が5割を超えて最も高く、次いで「募金」(33.0%)、「自治会・町会活動」(24.6%)、「地域の防災訓練」(21.0%)、「学校、児童館などが開いた講座・教室や催し物」(20.8%)などの順になっている。一方、「参加したことがない」(23.3%)は2割を超えている。

「その他」への回答として、「消防団活動」、「ボランティア活動」などがあげられている。

(図 11-1-1)

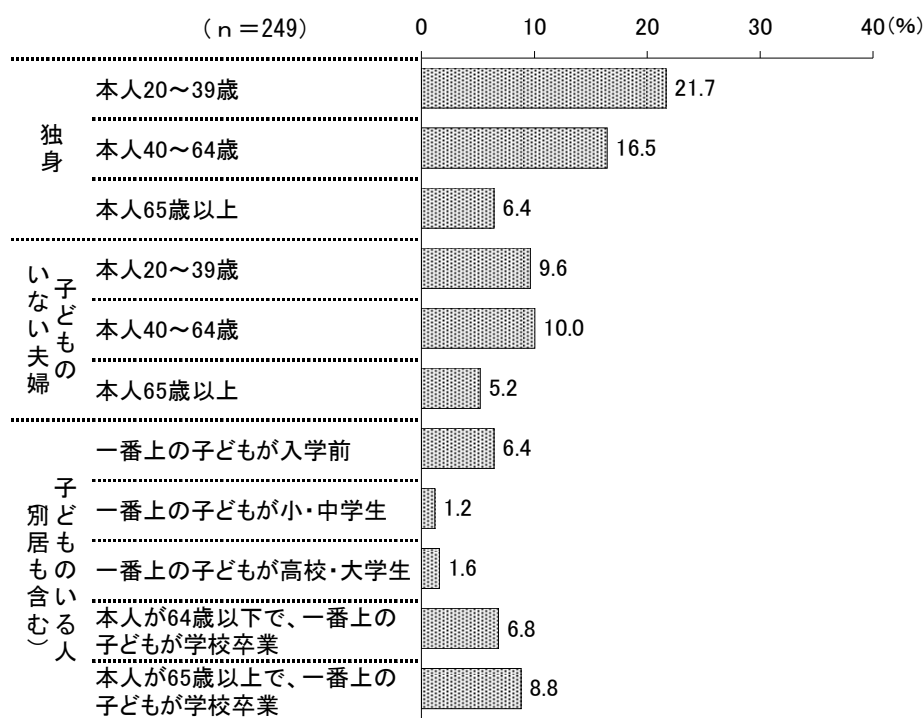
図 11-1-2 参加したことがある地域活動－性／年代別



性別で見ると、ほとんどの項目で女性が男性を上回っており、「PTA活動」は女性（27.0%）が男性（6.8%）より20.2ポイント高く、「学校、児童館などが開いた講座・教室や催し物」は女性（26.9%）が男性（12.7%）より14.2ポイント高くなっている。

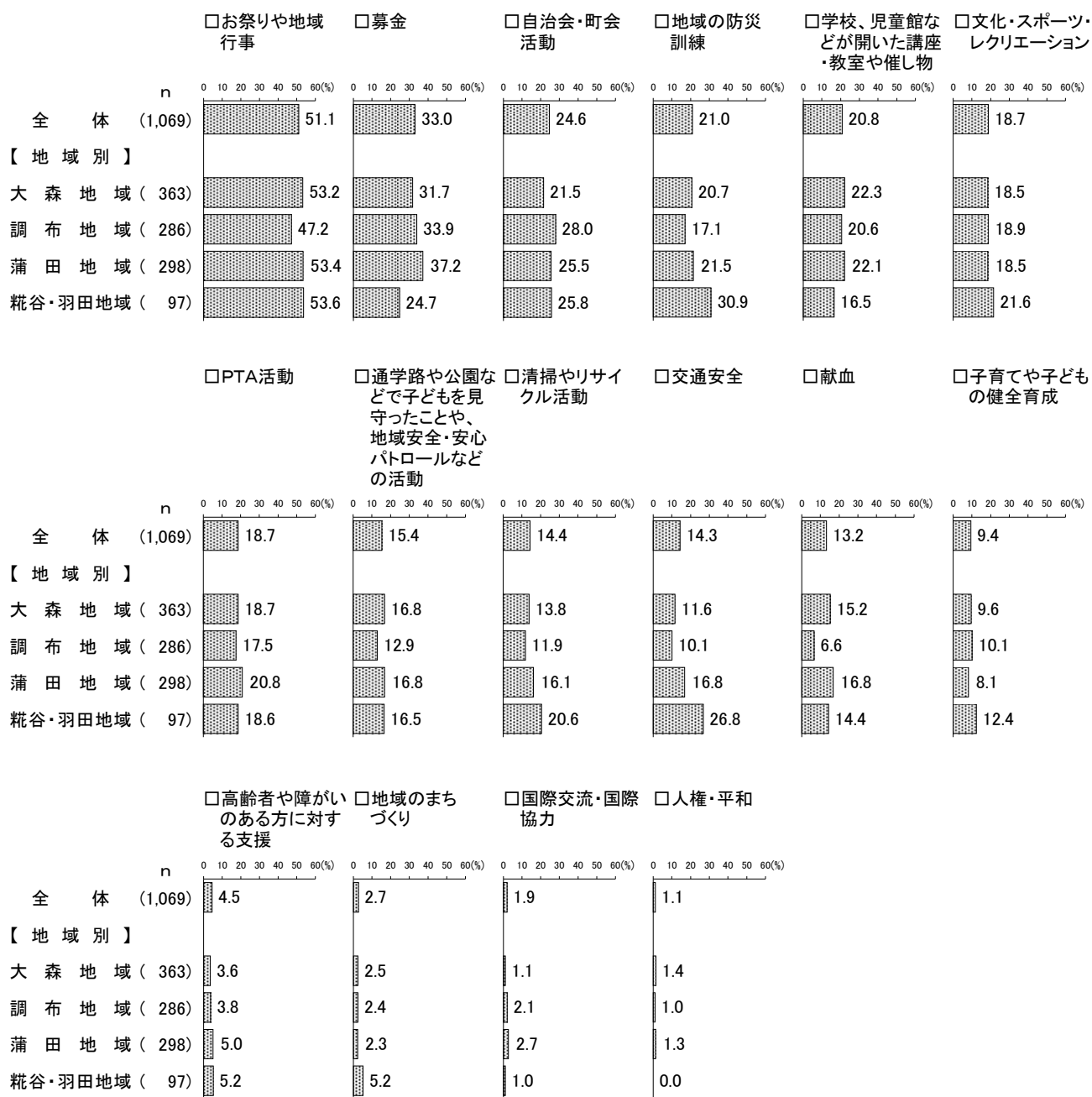
性／年代別で見ると、「お祭りや地域行事」は女性50代（63.7%）で6割を超えて高くなっている。また、「募金」は女性60代（54.3%）で5割半ばとなり、「PTA活動」は女性50代（43.1%）で4割を超えている。（図11-1-2）

図 11-1-3 参加したことがある地域活動－「参加したことがない」と答えた人のライフステージ



区内の地域活動に「参加したことがない」と答えた人（249人）のライフステージをみると、「独身/本人20～39歳」（21.7%）が2割を超えて最も高く、次いで「独身/本人40～64歳」（16.5%）、「子どものいない夫婦/本人40～64歳」（10.0%）などの順になっている。（図11-1-3）

図 11-1-4 参加したことがある地域活動—地域別



地域別でみると、「募金」は蒲田地域（37.2%）で4割近くとなり、「自治会・町会活動」は調布地域（28.0%）で3割近くとなっている。また、「地域の防災訓練」は糀谷・羽田地域（30.9%）で約3割となり、「交通安全」は糀谷・羽田地域（26.8%）で3割近くとなっている。（図11-1-4）

12. 災害に強いまちづくり

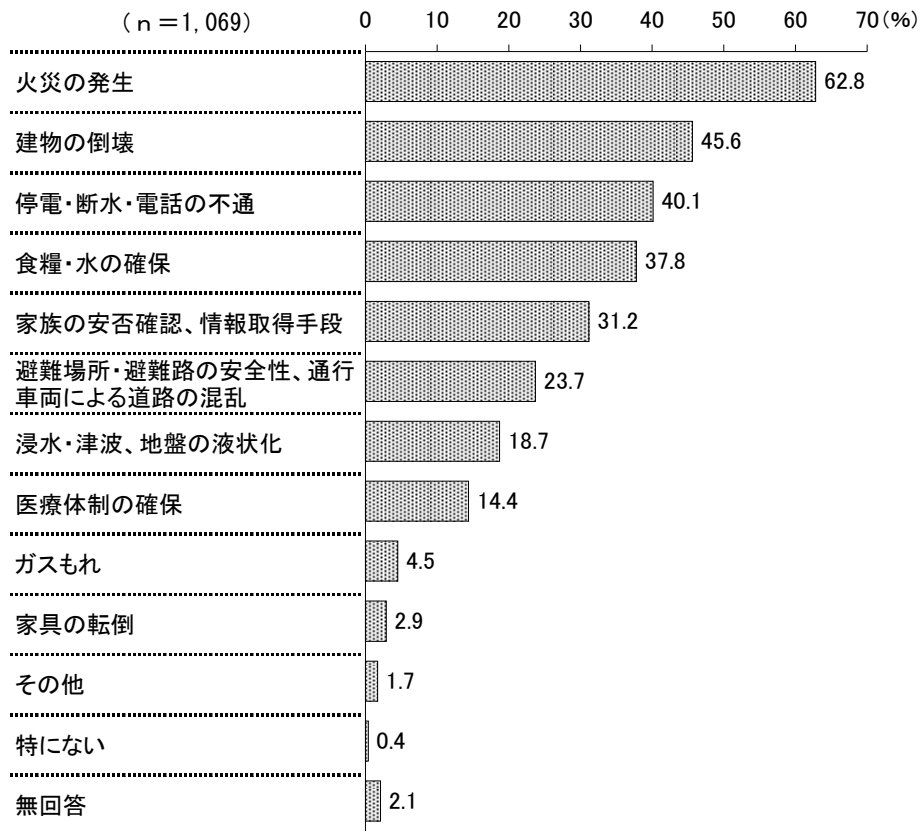
(1) 大震災発生時に不安だと思うもの

◇「火災の発生」が6割を超える

問 21 今後、東京に大震災が発生した場合、あなたが特に不安だと思うものは何ですか。

(○は3つまで)

図 12-1-1

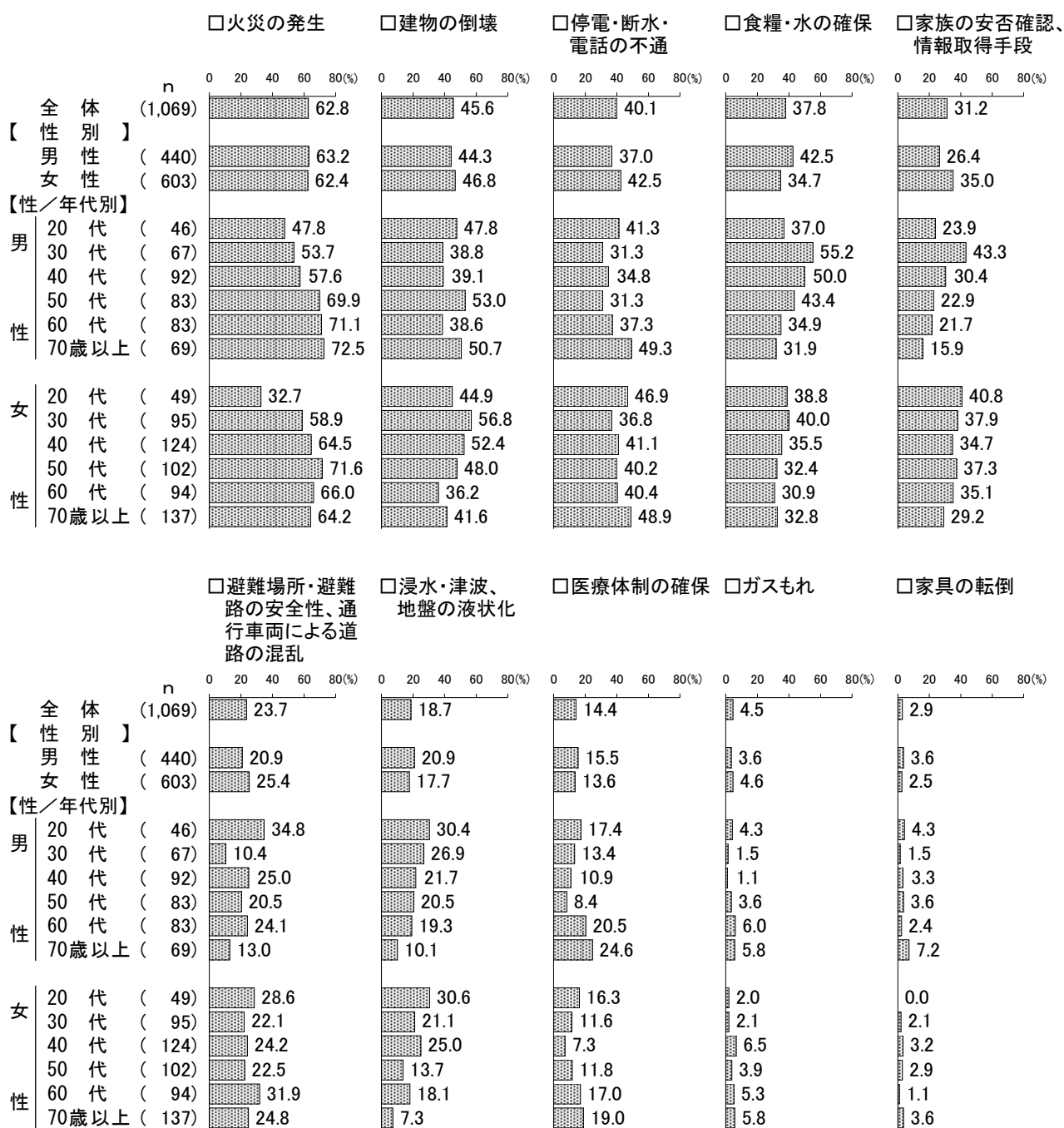


東京に大震災が発生した場合、特に不安だと思うものを聞いたところ、「火災の発生」(62.8%)が6割を超えて最も高く、次いで「建物の倒壊」(45.6%)、「停電・断水・電話の不通」(40.1%)、「食糧・水の確保」(37.8%)、「家族の安否確認、情報取得手段」(31.2%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「ペットの避難場所」、「トイレの確保」などがあげられている。

(図 12-1-1)

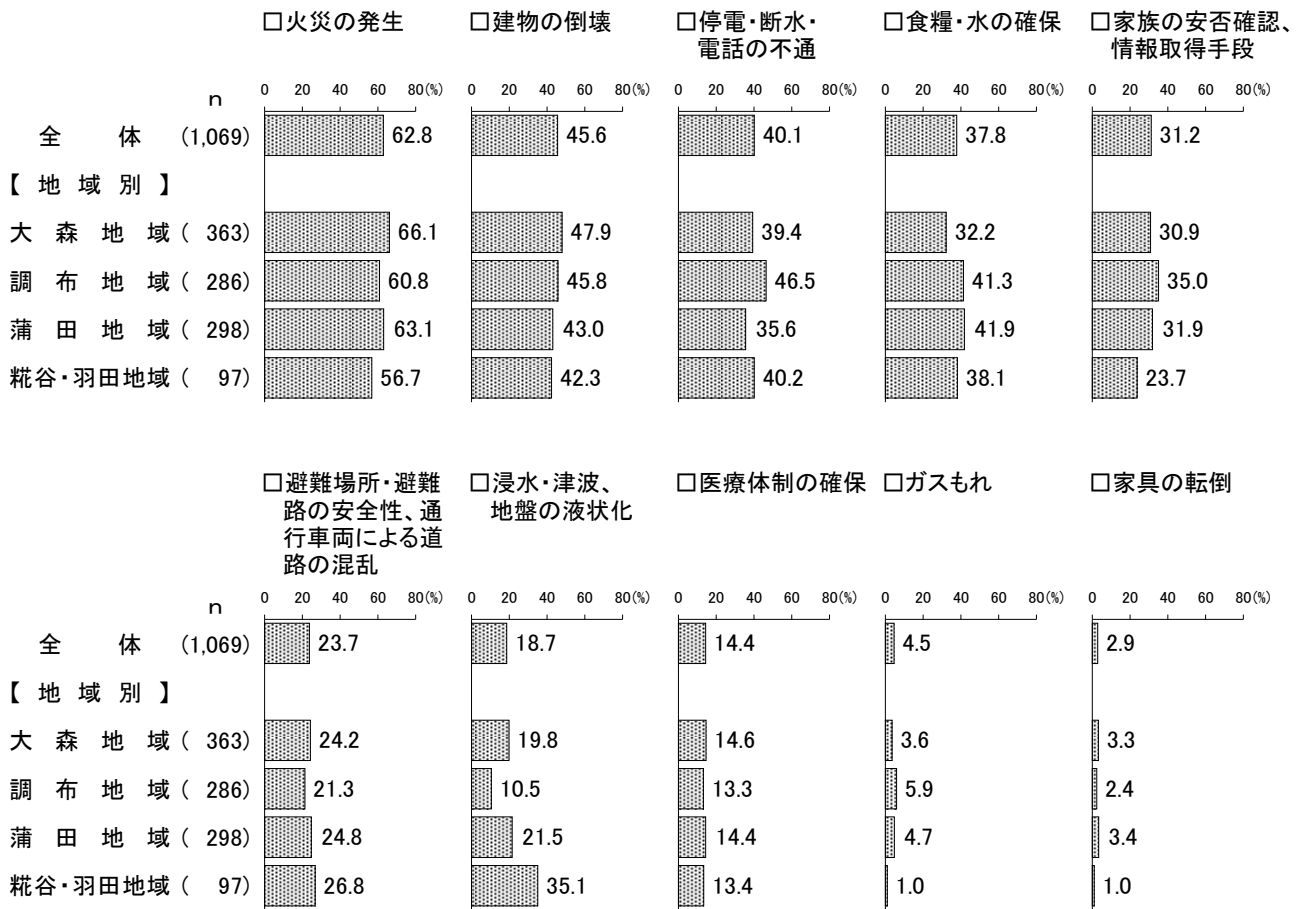
図 12-1-2 大震災発生時に不安だと思うもの—性／年代別



性別でみると、「家族の安否確認、情報取得手段」は女性（35.0%）が男性（26.4%）より8.6ポイント高くなっている。一方、「食糧・水の確保」は男性（42.5%）が女性（34.7%）より7.8ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「火災の発生」は男性の60代（71.1%）と70歳以上（72.5%）、女性50代（71.6%）で7割を超えて高くなっている。また、「建物の倒壊」は女性30代（56.8%）で6割近くと高く、「食糧・水の確保」は男性30代（55.2%）で5割半ばとなっている。（図12-1-2）

図 12-1-3 大震災発生時に不安だと思うもの—地域別



地域別でみると、「火災の発生」は大森地域（66.1%）で6割半ばと高く、「建物の倒壊」は大森地域（47.9%）で5割近くとなっている。また、「停電・断水・電話の不通」は調布地域（46.5%）で5割近くとなり、「食糧・水の確保」は蒲田地域（41.9%）と調布地域（41.3%）で4割を超えている。（図12-1-3）

(2) 震災対策の実施状況

◇「家族との連絡方法の確認」が3割を超える

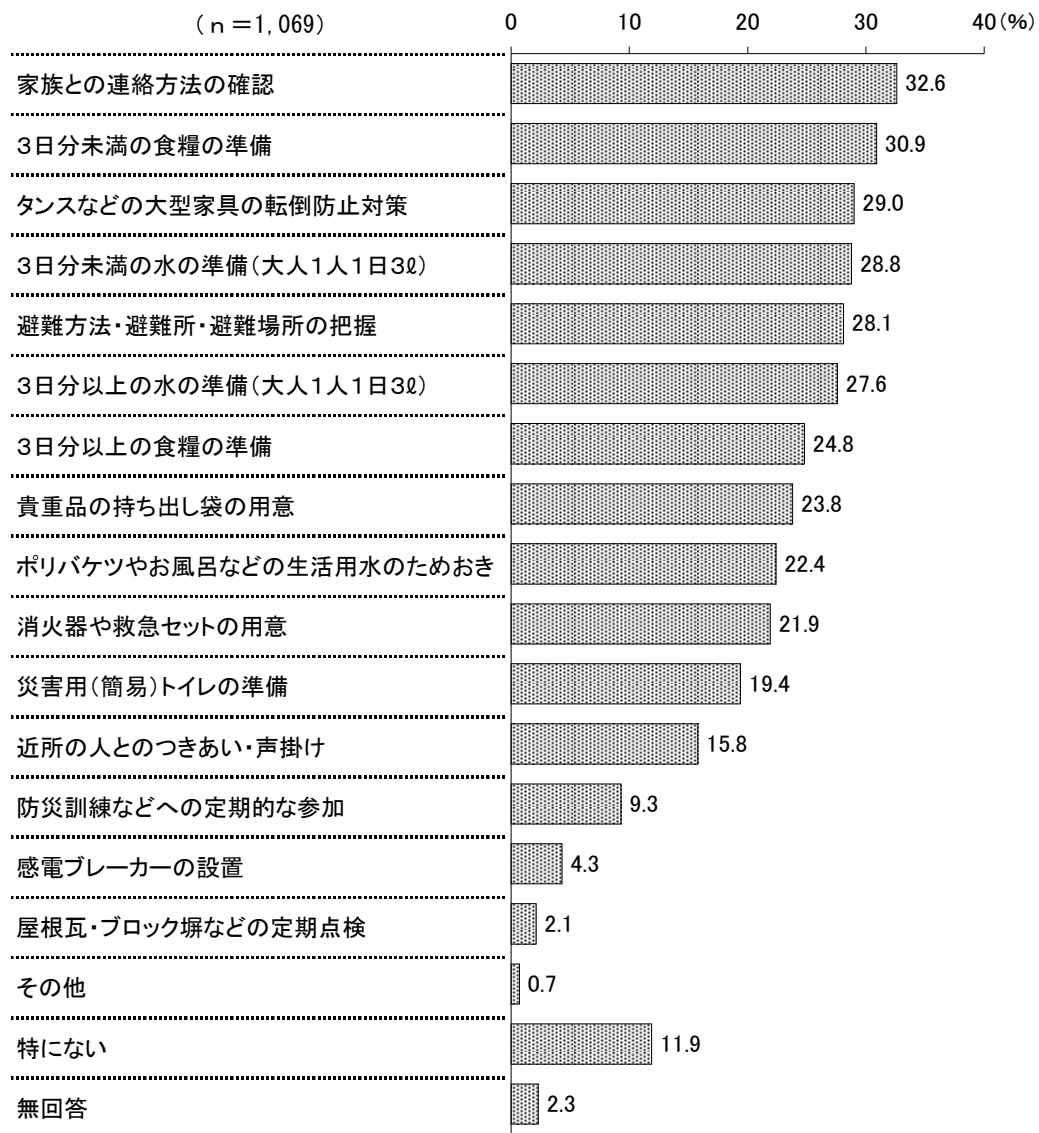
問 22 国の中央会議では、「自助※1」「共助※2」の重要性を踏まえて備蓄を推奨しています。
あなたの家庭で、大地震に備えて普段から特に心がけていることは何ですか。

(〇はいくつでも)

※1「自助」とは、災害発生直後「自分の命と安全は自分で守ること」が防災の基本であり、自分が怪我をしなければ大切な家族を守ることができるということです。

※2「共助」とは、地域を守ることは自分や家族を守ることにつながるため、隣近所の協力や地域で支え合い、助け合うことが大事であるということです。

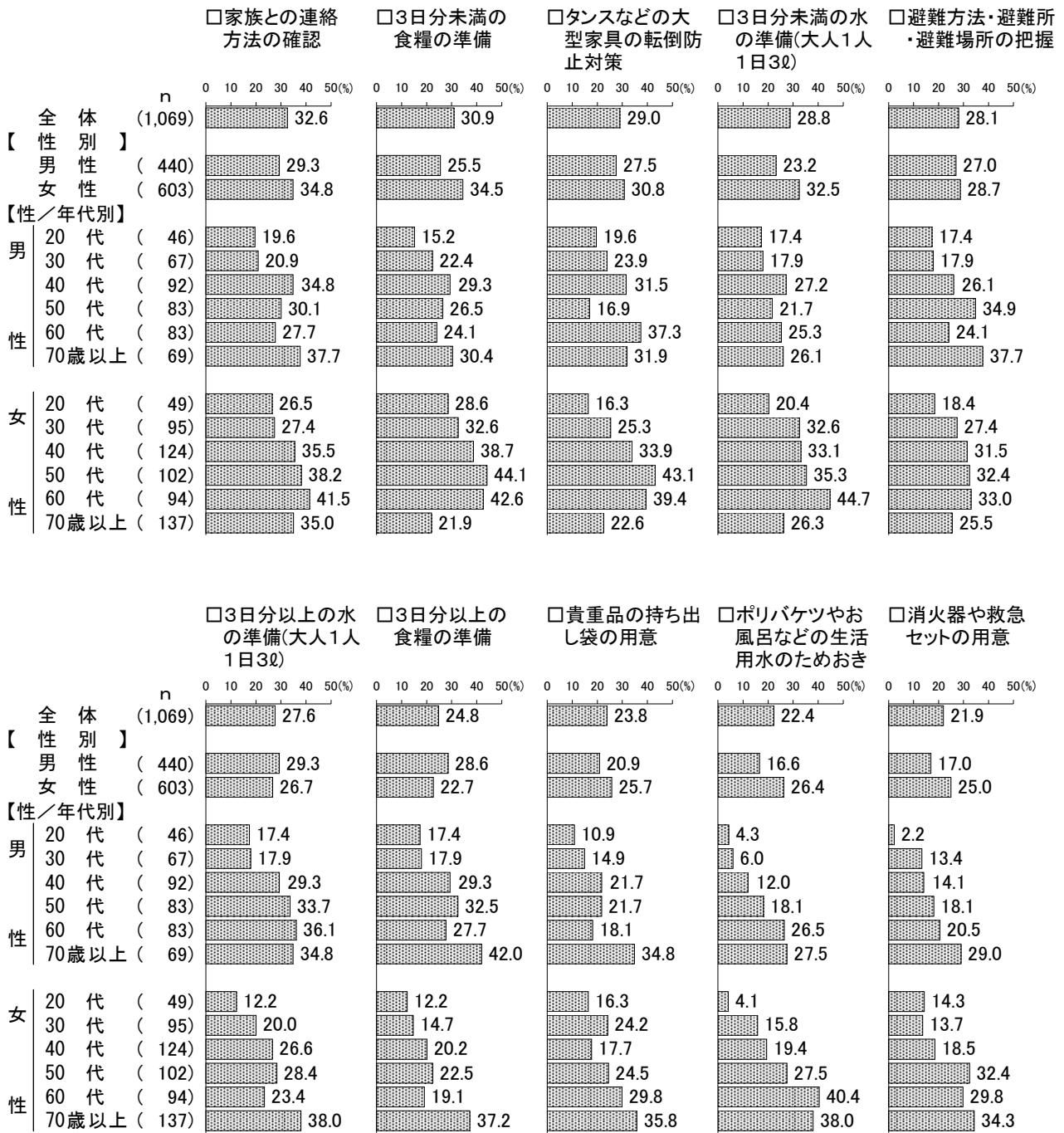
図 12-2-1



大地震に備えて普段から特に心がけていることを聞いたところ、「家族との連絡方法の確認」(32.6%)が3割を超えて最も高く、次いで「3日分未満の食糧の準備」(30.9%)、「タンスなどの大型家具の転倒防止対策」(29.0%)、「3日分未満の水の準備(大人1人1日3ℓ)」(28.8%)、「避難方法・避難所・避難場所の把握」(28.1%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「乾電池の備蓄」、「オムツや生理用品の備蓄」などがあげられている。(図 12-2-1)

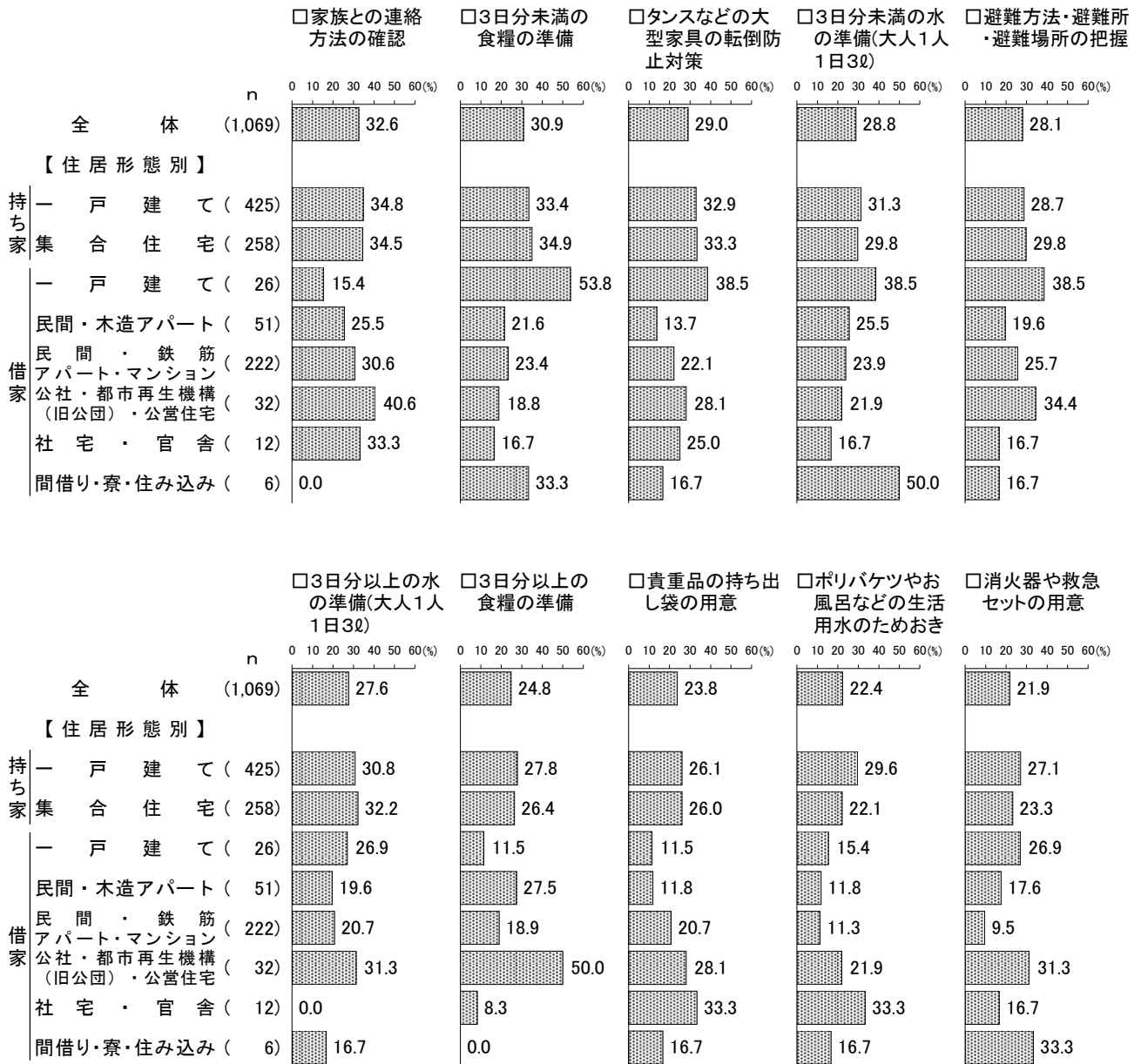
図 12-2-2 震災対策の実施状況－性／年代別（上位 10 項目）



上位10項目を性別で見ると、ほとんどの項目で女性が男性を上回っており、「ポリバケツやお風呂などの生活用水のためおき」は女性（26.4%）が男性（16.6%）より9.8ポイント高く、「3日分未満の水の準備（大人1人1日3ℓ）」は女性（32.5%）が男性（23.2%）より9.3ポイント高くなっている。

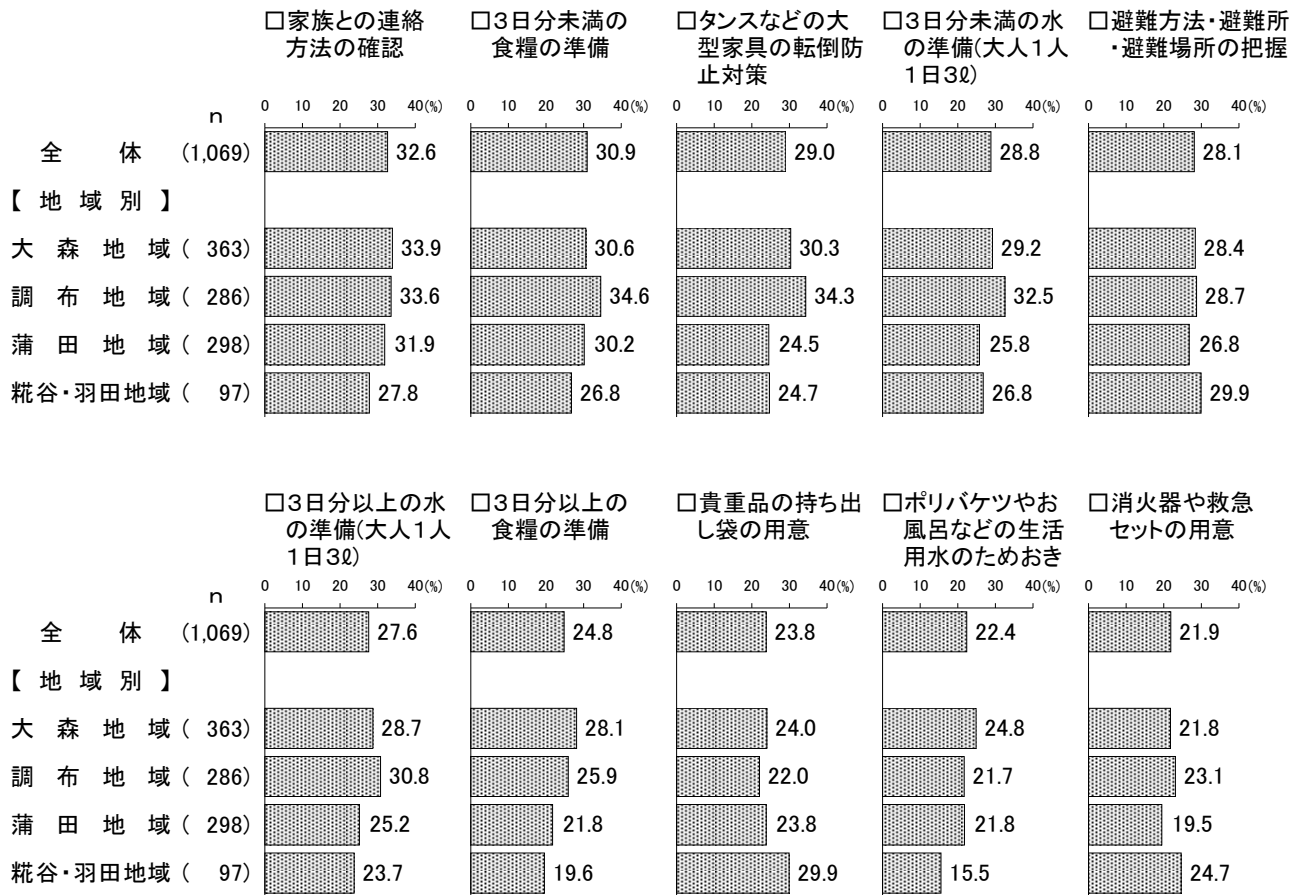
性／年代別で見ると、「家族との連絡方法の確認」は女性60代（41.5%）で4割を超え、「3日分未満の食糧の準備」は女性の50代（44.1%）と60代（42.6%）で4割台となっている。また、「タンスなどの大型家具の転倒防止対策」は女性50代（43.1%）で4割を超え、「3日分未満の水の準備（大人1人1日3ℓ）」は女性60代（44.7%）で4割半ばとなっている。（図12-2-2）

図 12-2-3 震災対策の実施状況－住居形態別（上位 10 項目）



上位 10 項目を住居形態別で見ると、「家族との連絡方法の確認」は借家/公社・都市再生機構（旧公団）・公営住宅（40.6%）で約 4 割となっている。また、「3 日未満の食糧の準備」は借家/一戸建て（53.8%）で 5 割を超え、「3 日以上食糧の準備」は借家/公社・都市再生機構（旧公団）・公営住宅（50.0%）で 5 割となっている。（図 12-2-3）

図 12-2-4 震災対策の実施状況—地域別（上位 10 項目）



上位10項目を地域別で見ると、「3日分未満の食糧の準備」は調布地域（34.6%）で3割半ばとなり、「タンスなどの大型家具の転倒防止対策」は調布地域（34.3%）で3割半ばとなっている。

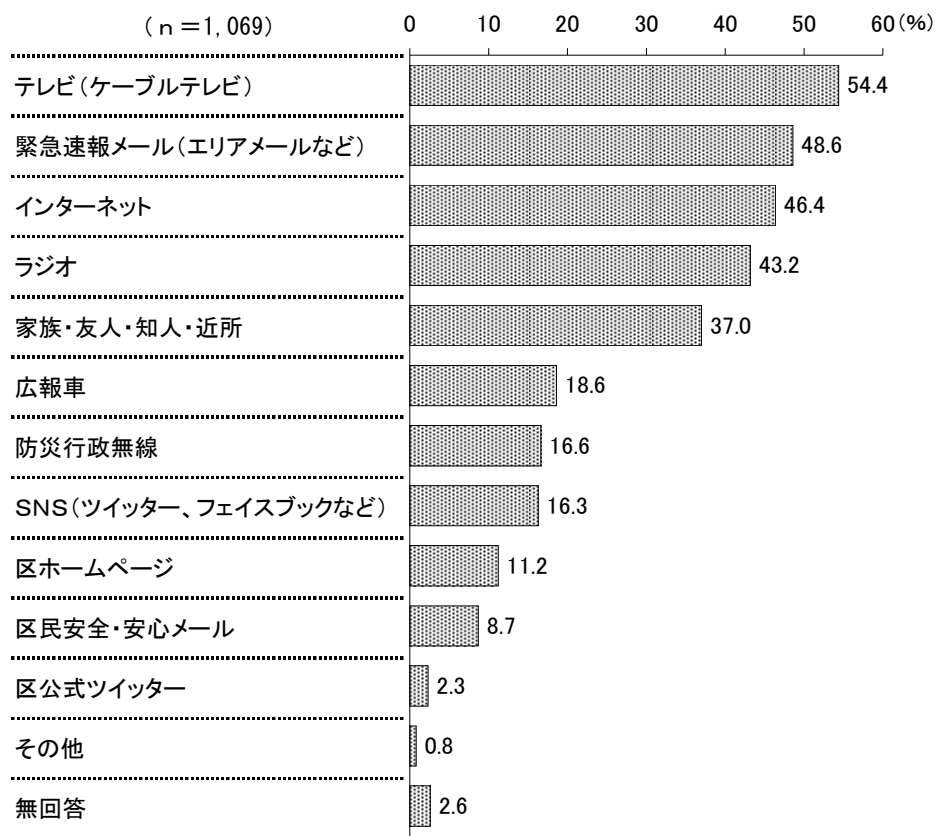
（図12-2-4）

(3) 災害情報の入手手段

◇「テレビ（ケーブルテレビ）」が5割半ば

問 23 災害時に、災害情報を次のどの手段で入手しますか。(〇はいくつでも)

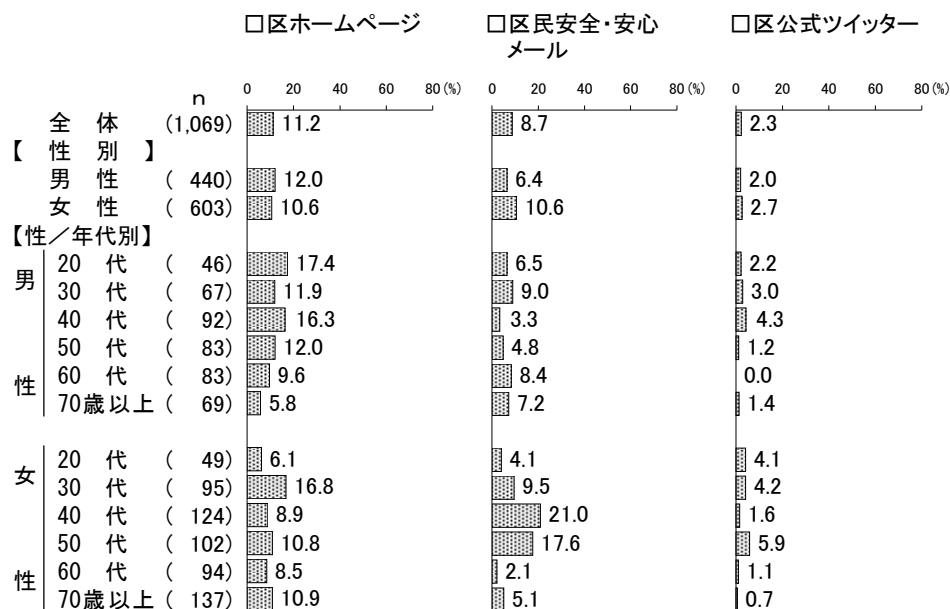
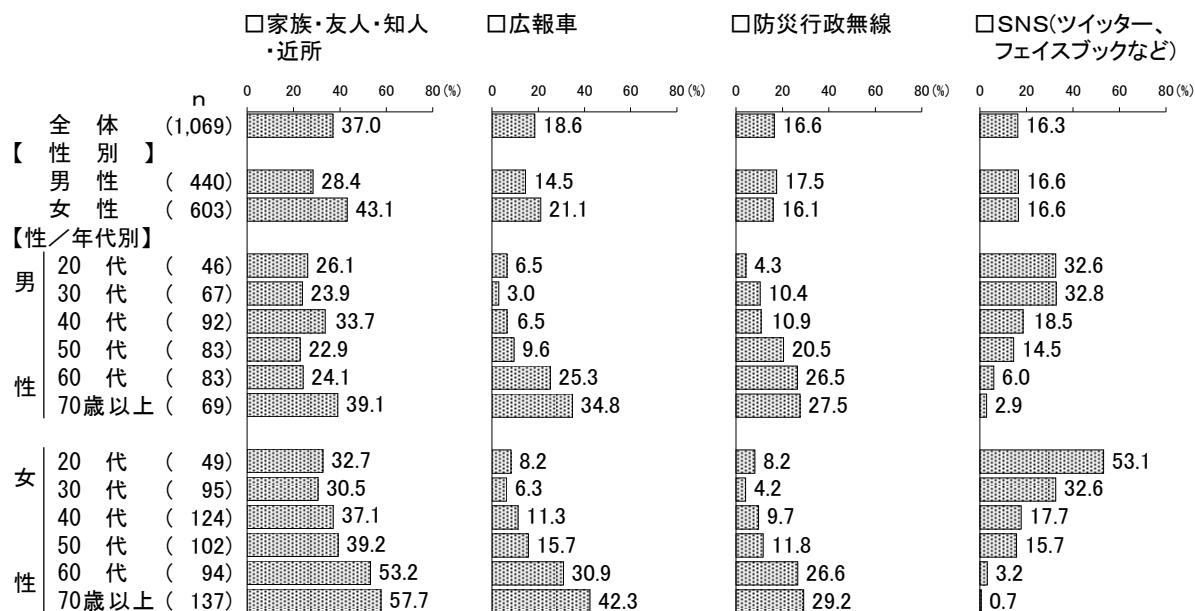
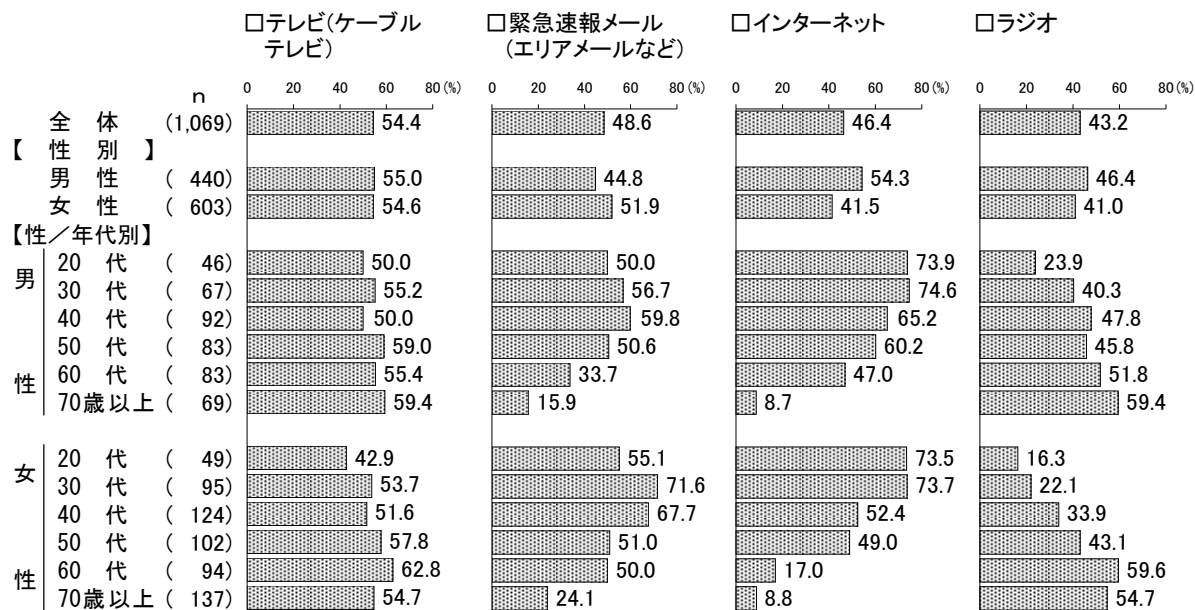
図 12-3-1



災害情報の入手手段を聞いたところ、「テレビ（ケーブルテレビ）」（54.4%）が5割半ばで最も高く、次いで「緊急速報メール（エリアメールなど）」（48.6%）、「インターネット」（46.4%）、「ラジオ」（43.2%）、「家族・友人・知人・近所」（37.0%）などの順になっている。

「その他」への回答として、「新聞」などがあげられている。（図 12-3-1）

図 12-3-2 災害情報の入手手段－性／年代別



性別で見ると、「家族・友人・知人・近所」は女性（43.1%）が男性（28.4%）より14.7ポイント高くなっている。一方、「インターネット」は男性（54.3%）が女性（41.5%）より12.8ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「テレビ（ケーブルテレビ）」は女性60代（62.8%）で6割を超えて高く、「緊急速報メール（エリアメールなど）」は女性30代（71.6%）で7割を超えて高くなっている。また、「インターネット」は男女ともにおおむね年代が低くなるほど割合が高く、男女ともに30代以下の年代で7割台となっている。（図12-3-2）

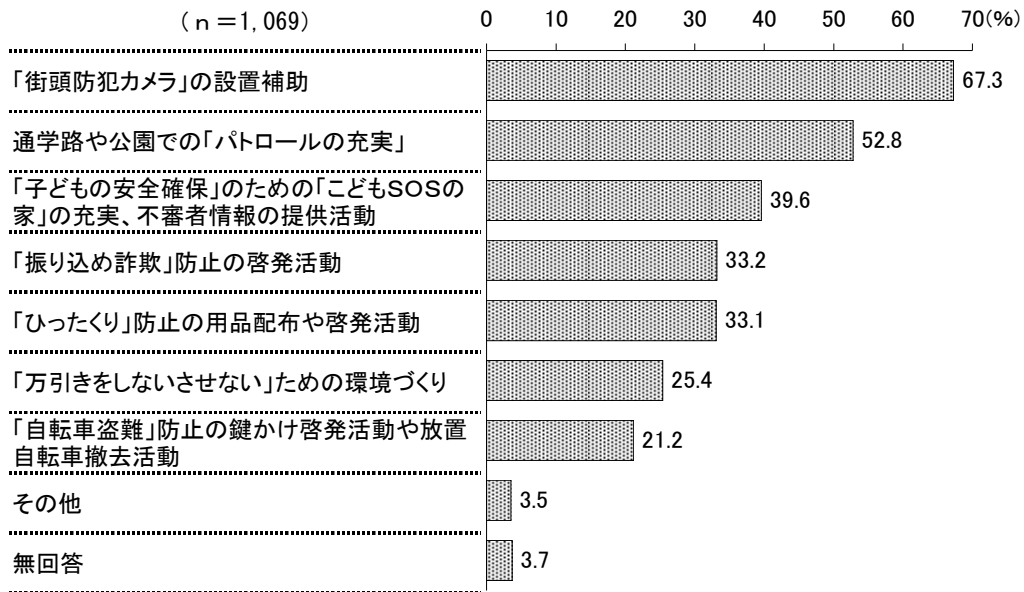
13. 防犯に強いまちづくり

(1) 力を入れてほしい防犯施策

◇「『街頭防犯カメラ』の設置補助」が7割近く

問 24 犯罪被害に遭わないようにするための防犯施策として、区が今後、力を入れてほしいことは何ですか。(〇はいくつでも)

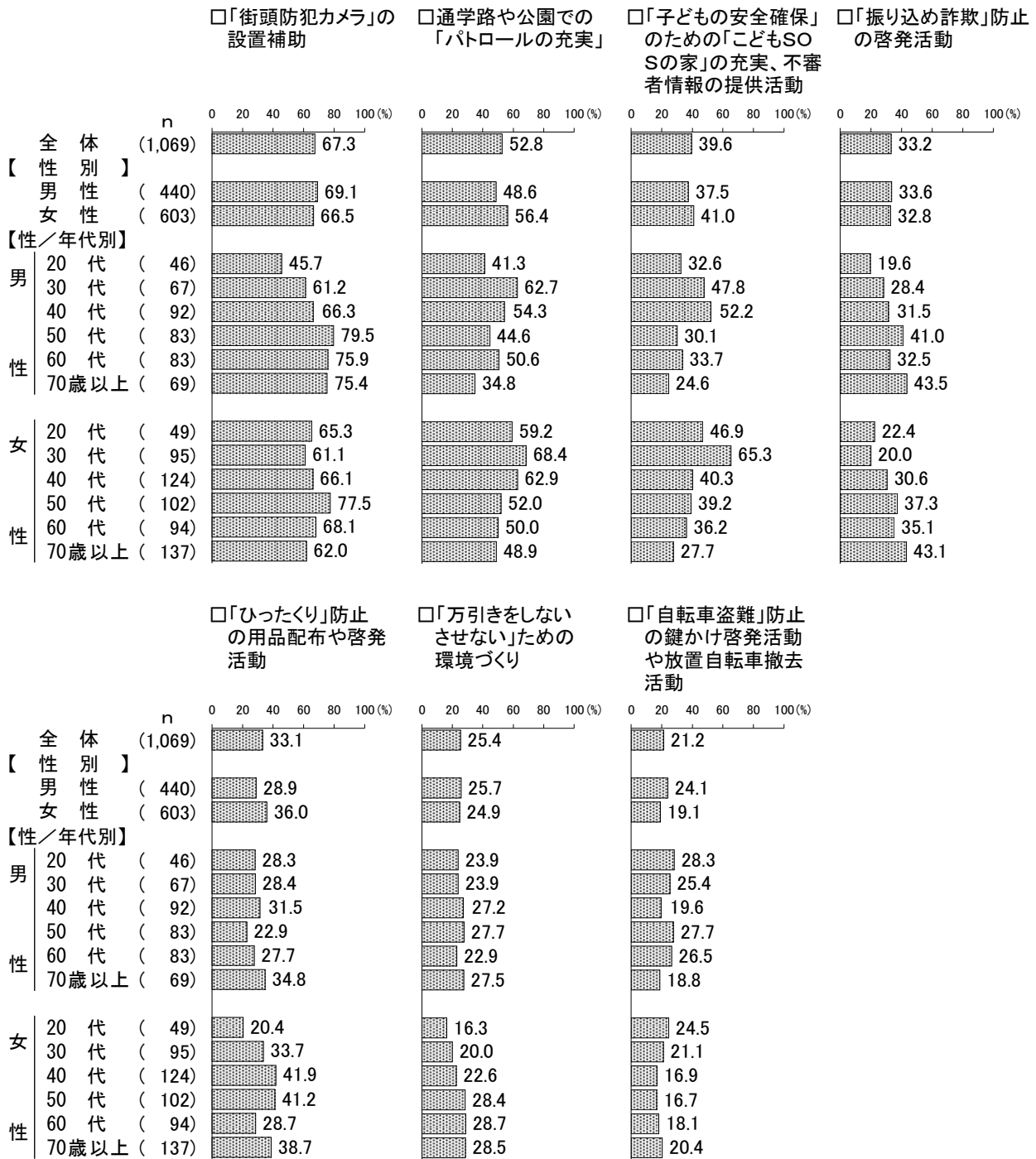
図 13-1-1



犯罪被害に遭わないようにするための防犯施策として、区が今後、力を入れてほしいことを聞いたところ、「『街頭防犯カメラ』の設置補助」(67.3%)が7割近くで最も高く、次いで「通学路や公園での『パトロールの充実』」(52.8%)、「『子どもの安全確保』のための『こどもSOSの家』の充実、不審者情報の提供活動」(39.6%)、「『振り込め詐欺』防止の啓発活動」(33.2%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「街路灯設置拡充」、「警察によるパトロール」などがあげられている。(図 13-1-1)

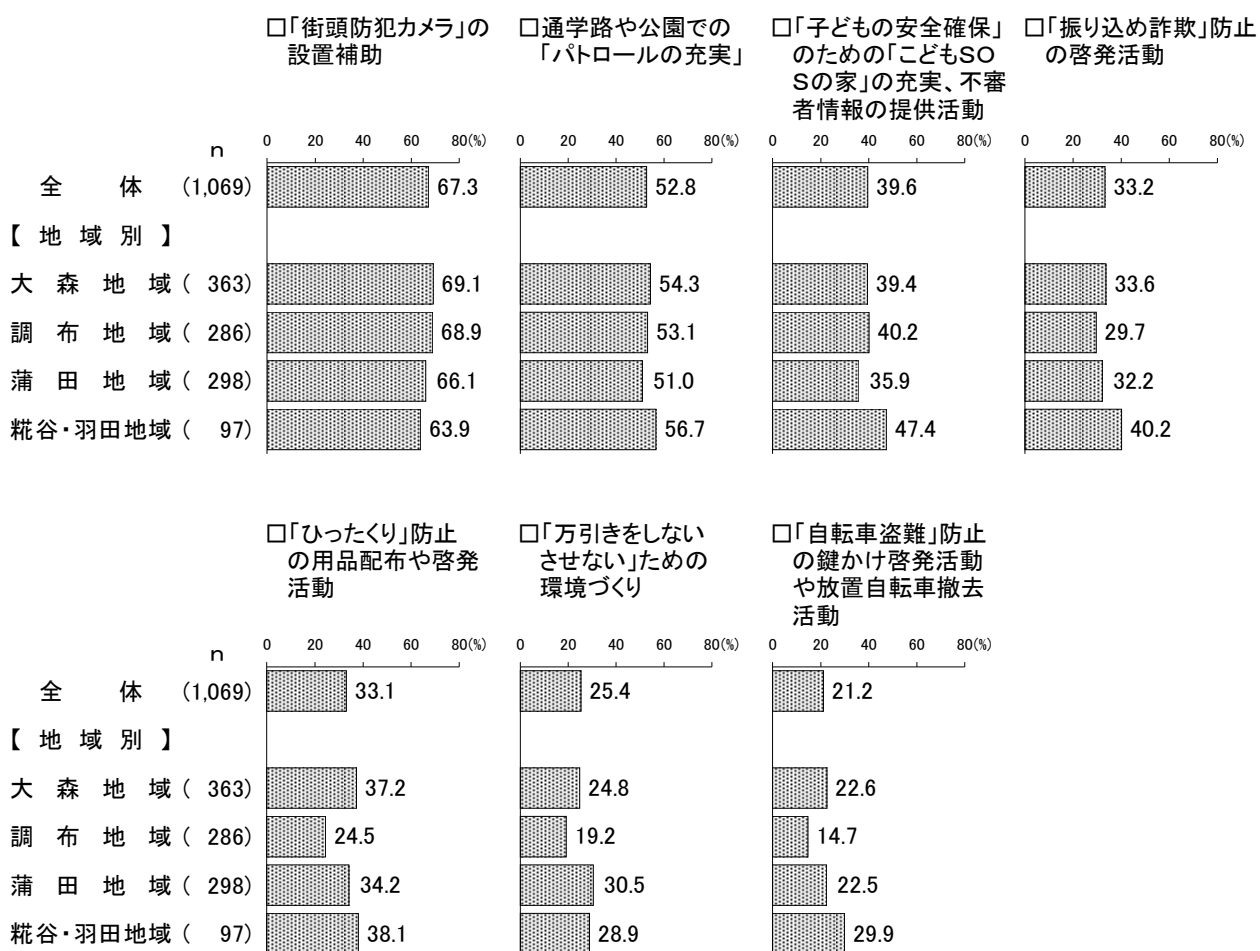
図 13-1-2 力を入れてほしい防犯施策－性／年代別



性別でみると、「通学路や公園での『パトロールの充実』」は女性（56.4%）が男性（48.6%）より7.8ポイント高く、「『ひったくり』防止の用品配布や啓発活動」は女性（36.0%）が男性（28.9%）より7.1ポイント高くなっている。一方、「『自転車盗難』防止の鍵かけ啓発活動や放置自転車撤去活動」は男性（24.1%）が女性（19.1%）より5.0ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「『街頭防犯カメラ』の設置補助」は男性50代（79.5%）で8割と高くなっている。また、「通学路や公園での『パトロールの充実』」は女性30代（68.4%）で7割近くと高く、「『子どもの安全確保』のための『こどもSOSの家』の充実、不審者情報の提供活動」は女性30代（65.3%）で6割半ばと高くなっている。（図13-1-2）

図 13-1-3 力を入れてほしい防犯施策—地域別



地域別でみると、『「街頭防犯カメラ」の設置補助』は大森地域（69.1%）で約7割と高くなっている。また、『通学路や公園での『パトロールの充実』は糀谷・羽田地域（56.7%）で6割近くと高く、『「子どもの安全確保」のための『こどもSOSの家』の充実、不審者情報の提供活動』は糀谷・羽田地域（47.4%）で5割近くとなっている。（図 13-1-3）

14. 地球環境

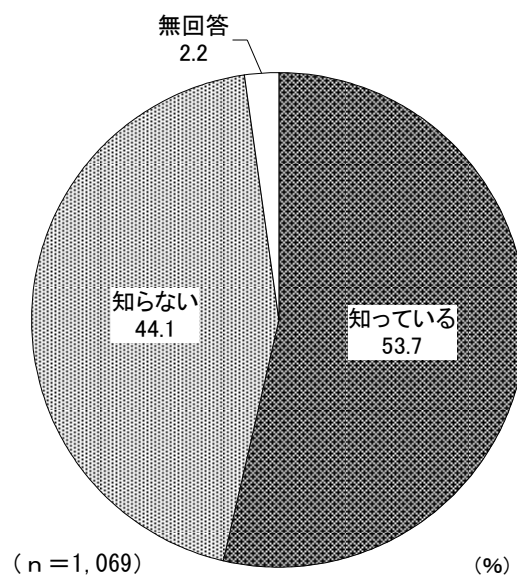
(1) 「清潔で美しい大田区をつくる条例」の認知度

◇「知っている」は5割を超える

問 25 大田区では、環境美化を促進するために、「清潔で美しい大田区をつくる条例」を制定し、道路、公園、広場その他の公共の場所では歩行中に喫煙しないよう努めることを定めています。また、公共の場所に吸い殻などを捨てることを禁止しています。

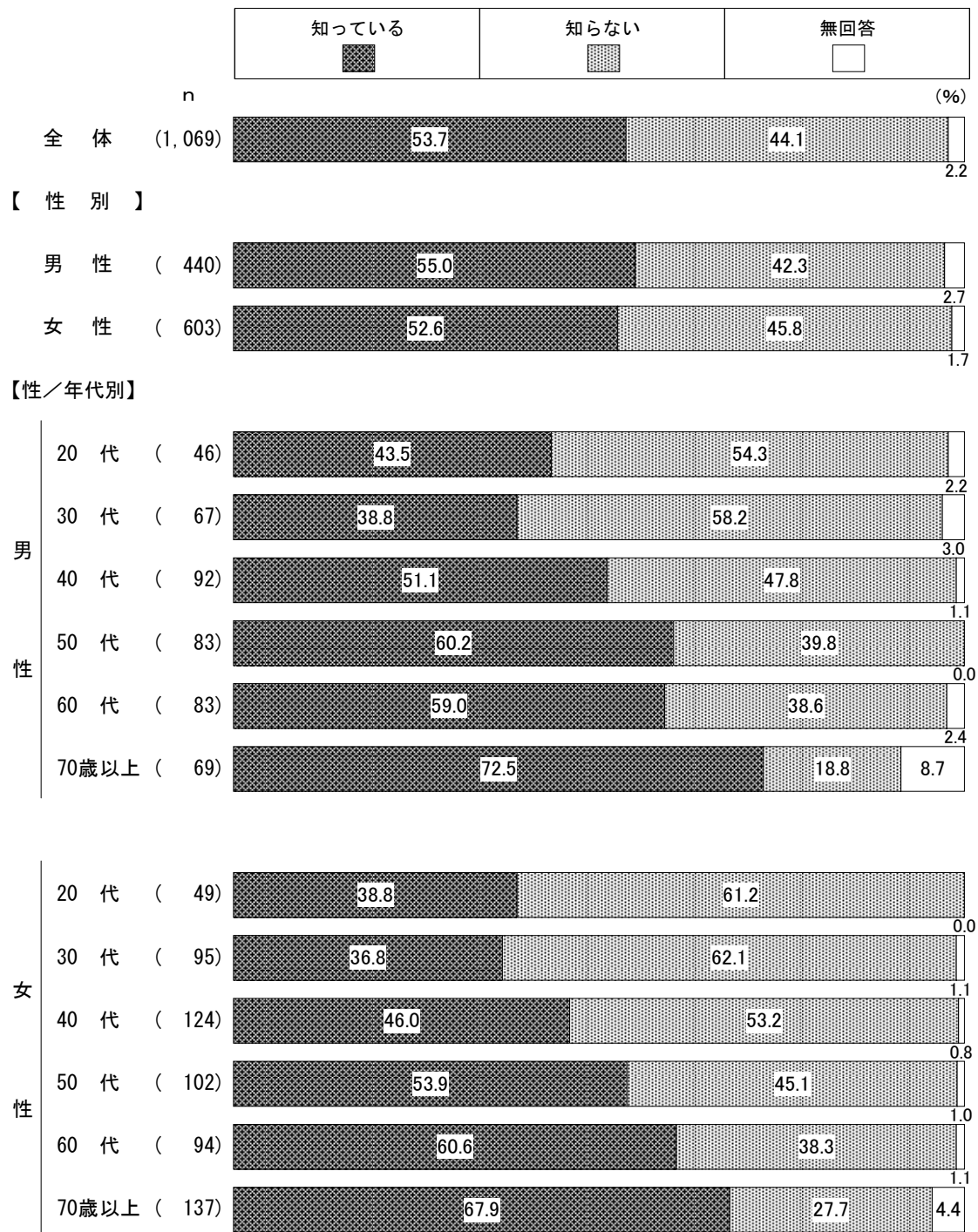
(1) このことについて知っていますか。(○は1つだけ)

図 14-1-1



「清潔で美しい大田区をつくる条例」を知っているか聞いたところ、「知っている」(53.7%)が5割を超え、「知らない」(44.1%)は4割半ばとなっている。(図 14-1-1)

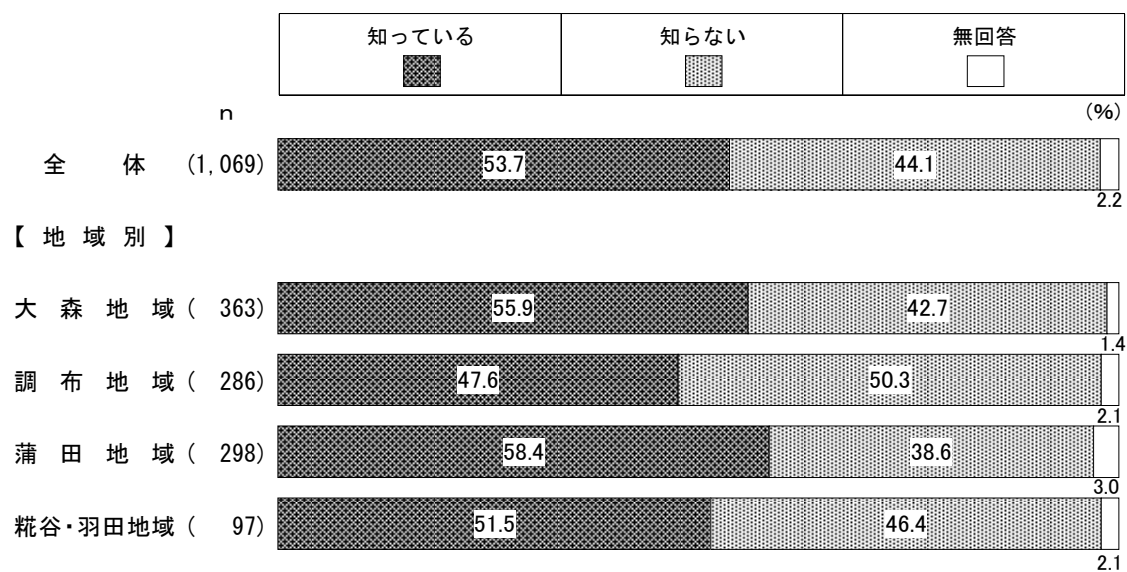
図 14-1-2 「清潔で美しい大田区をつくる条例」の認知度—性／年代別



性別でみると、「知らない」は女性（45.8%）が男性（42.3%）より3.5ポイント高くなっている。性／年代別でみると、「知っている」は男性70歳以上（72.5%）で7割を超えて高くなっている。一方、「知らない」は女性の20代（61.2%）と30代（62.1%）で6割を超えて高くなっている。

（図14-1-2）

図 14-1-3 「清潔で美しい大田区をつくる条例」の認知度—地域別



地域別でみると、「知っている」は蒲田地域（58.4%）で6割近くと高くなっている。一方、「知らない」は調布地域（50.3%）で5割となっている。（図14-1-3）

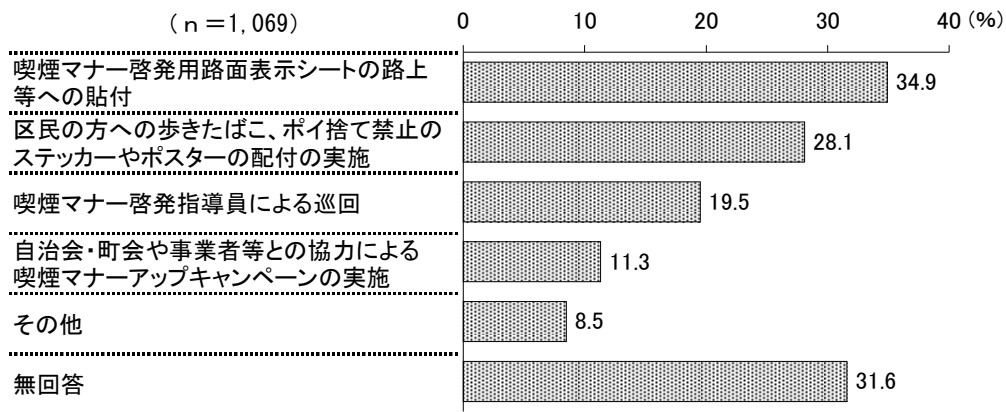
(2) 喫煙マナーを周知徹底するための取組み

◇「喫煙マナー啓発用路面表示シートの路上等への貼付」が3割半ば

問 25 大田区では、環境美化を促進するために、「清潔で美しい大田区をつくる条例」を制定し、道路、公園、広場その他の公共の場所では歩行中に喫煙しないよう努めることを定めています。また、公共の場所に吸い殻などを捨てることを禁止しています。

(2) こうした喫煙マナーを周知徹底するために、区では以下の取組みを行っています。あなたがご存知なものを挙げてください。(〇はいくつでも)

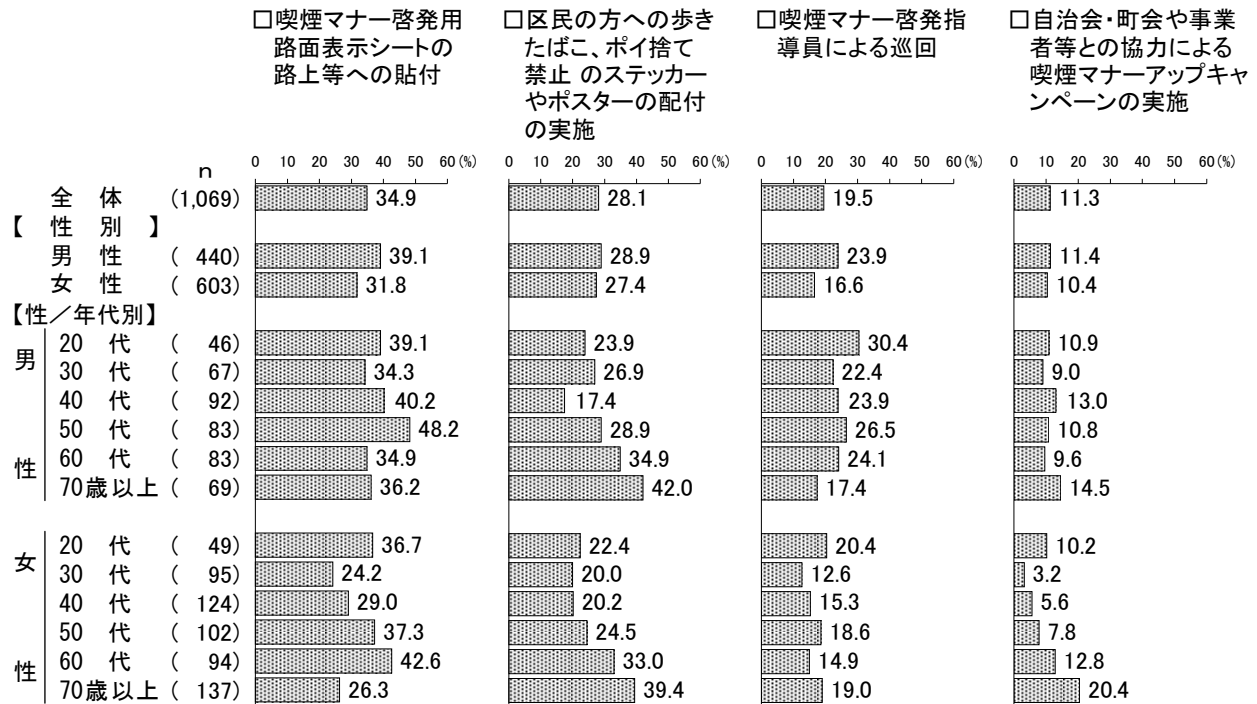
図 14-2-1



喫煙マナーを周知徹底するための取組みについて知っているものを聞いたところ、「喫煙マナー啓発用路面表示シートの路上等への貼付」(34.9%)が3割半ばで最も高く、次いで「区民の方への歩きタバコ、ポイ捨て禁止のステッカーやポスターの配付の実施」(28.1%)、「喫煙マナー啓発指導員による巡回」(19.5%)、「自治会・町会や事業者等との協力による喫煙マナーアップキャンペーンの実施」(11.3%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「いずれも知らない」が多くあげられているほか、「路上喫煙での罰金」、「携帯灰皿の配布」、「近くの喫煙所への案内表示」などがあげられている。(図 14-2-1)

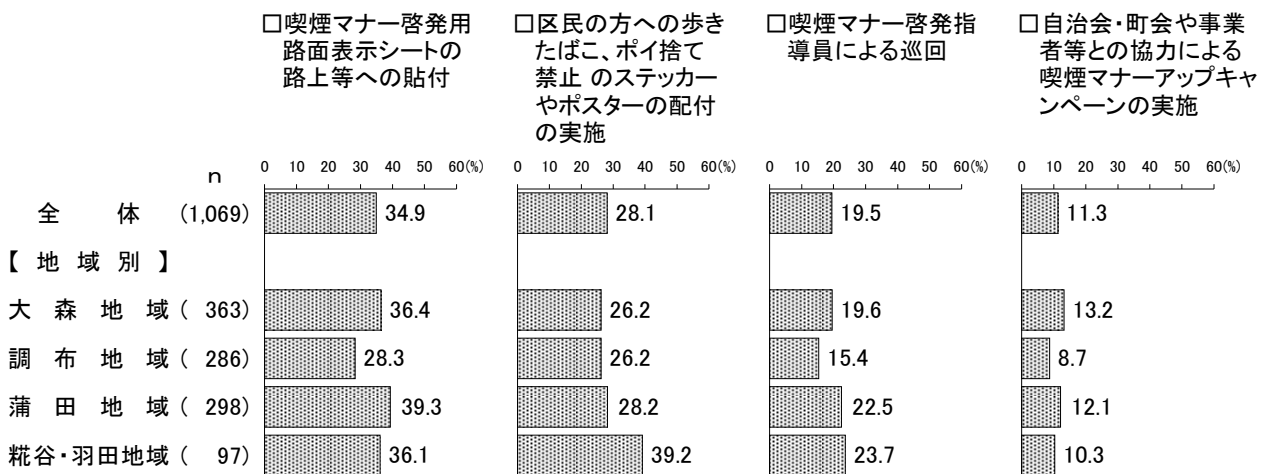
図 14-2-2 喫煙マナーを周知徹底するための取組み—性／年代別



性別でみると、全ての項目で男性が女性を上回っており、「喫煙マナー啓発用路面表示シートの路上等への貼付」は男性（39.1%）が女性（31.8%）より7.3ポイント高く、「喫煙マナー啓発指導員による巡回」は男性（23.9%）が女性（16.6%）より7.3ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「喫煙マナー啓発用路面表示シートの路上等への貼付」は男性50代（48.2%）で5割近くとなり、「区民の方への歩きタバコ、ポイ捨て禁止のステッカーやポスターの配付の実施」は男性70歳以上（42.0%）で4割を超えている。（図14-2-2）

図 14-2-3 喫煙マナーを周知徹底するための取組み—地域別



地域別でみると、「喫煙マナー啓発用路面表示シートの路上等への貼付」は蒲田地域（39.3%）で約4割となり、「区民の方への歩きタバコ、ポイ捨て禁止のステッカーやポスターの配付の実施」は糞谷・羽田地域（39.2%）で約4割となっている。（図14-2-3）

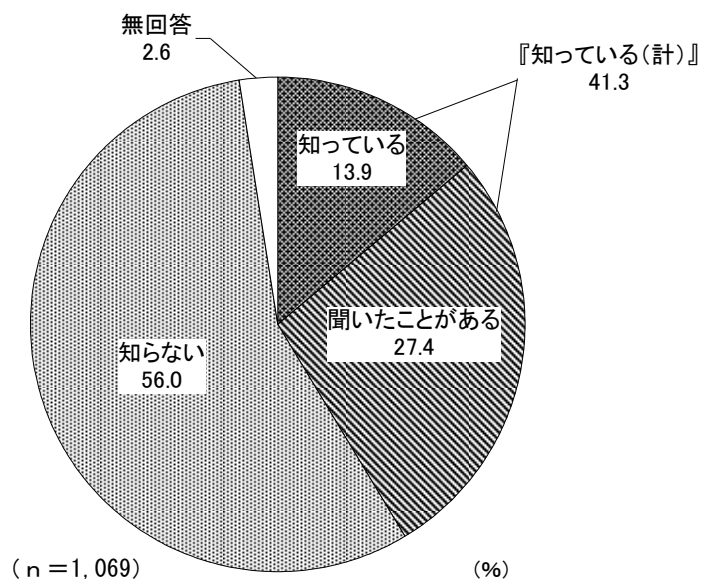
(3) 「生物多様性」の認知度

◇「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている(計)』は4割を超える

問 26 大田区では、平成 24 年 3 月に大田区環境基本計画を作成し、生物多様性の保全に取り組んでいます。あなたは、「生物多様性」をご存知ですか。(○は1つだけ)

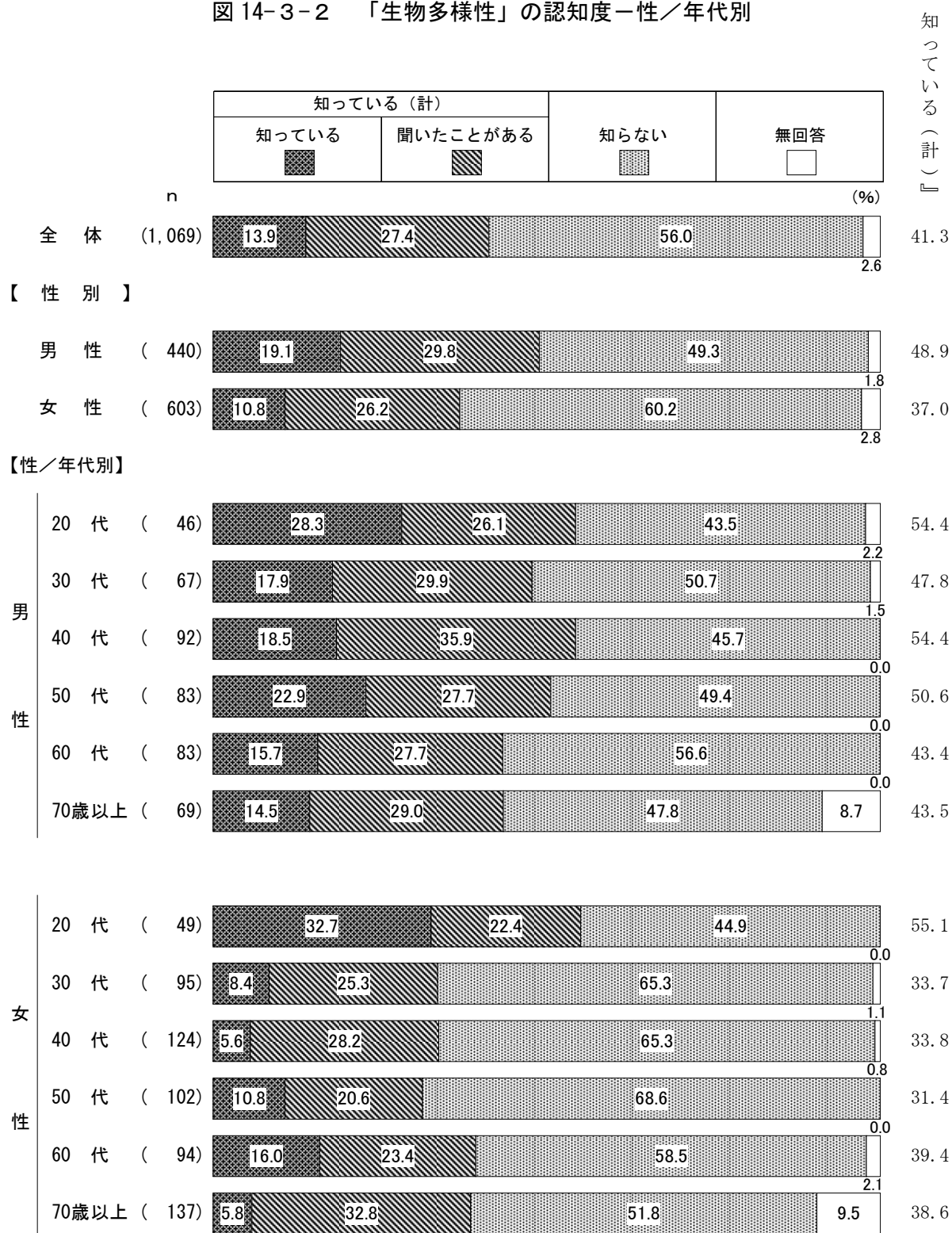
※「生物多様性」とは、あらゆる生物種の多さと、生態系の豊かさやバランスが保たれている状態を言い、さらに、生物の遺伝子の多様さまでを含めた幅広い概念です。

図 14-3-1



「生物多様性」を知っているか聞いたところ、「知っている」(13.9%)と「聞いたことがある」(27.4%)を合わせた『知っている(計)』(41.3%)は4割を超えている。一方、「知らない」(56.0%)が5割半ばとなっている。(図 14-3-1)

図 14-3-2 「生物多様性」の認知度－性／年代別



性別でみると、『知っている (計)』は男性 (48.9%) が女性 (37.0%) より11.9ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『知っている (計)』は女性20代 (55.1%)、男性の20代と40代 (ともに54.4%) で5割半ばとなっている。一方、「知らない」は女性50代 (68.6%) で7割近くと高くなっている。

(図14-3-2)

(4) 「コアジサシ」の認知度

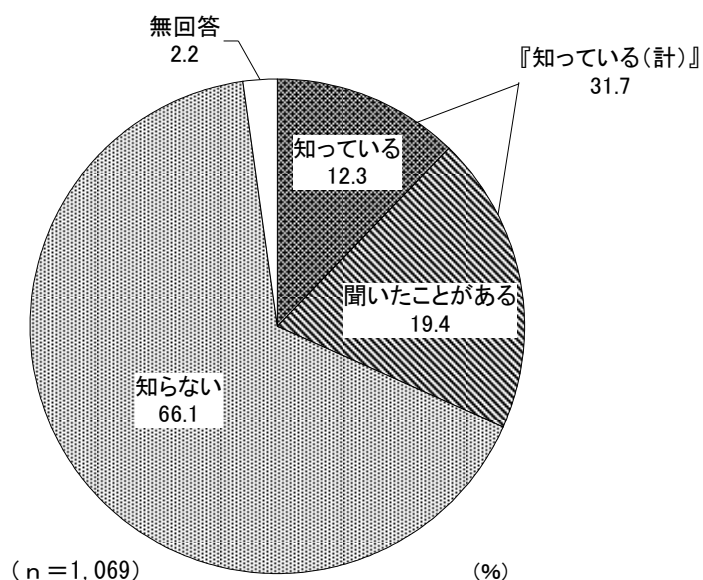
◇「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている(計)』は3割を超える

問 27 生物多様性の保全の取組みのひとつとして、絶滅の恐れのある渡り鳥「コアジサシ」※1の営巣地の整備作業をNPOと一緒にを行っています。「コアジサシ」をご存知ですか。
(○は1つだけ)

※1 「コアジサシ」とは、日本には夏鳥として渡ってきて、海岸の砂浜や河川の河原・中州でコロニーと呼ばれる集団を作り、繁殖します。環境省レッドリスト※2では、「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」に指定されています。

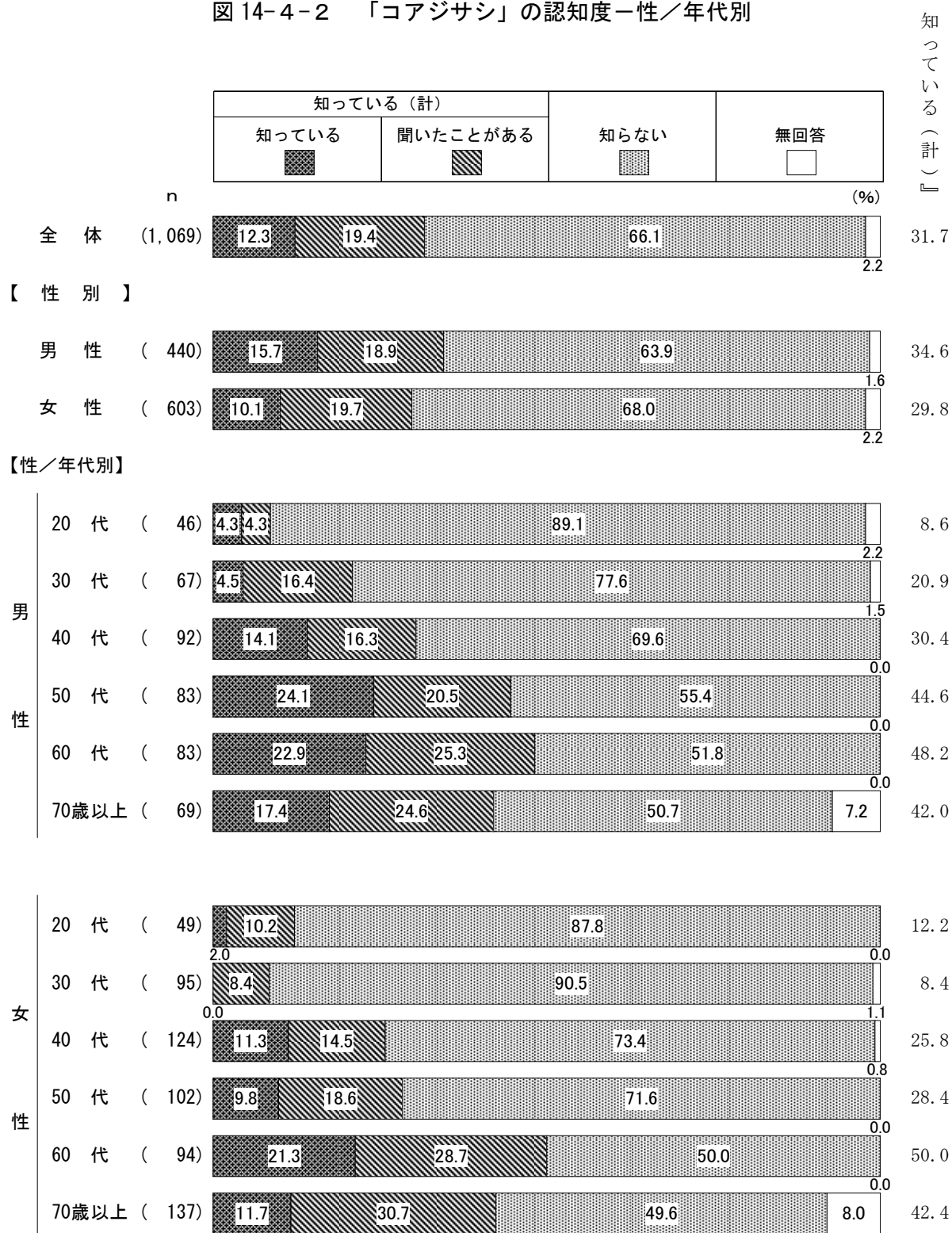
※2 「環境省レッドリスト」とは、環境省が整理した保護が必要な生物のリスト。危険度が高い順にEX、EW、CR、VU、NT、DD、LPの7ランクで評価。

図 14-4-1



「コアジサシ」を知っているか聞いたところ、「知っている」(12.3%)と「聞いたことがある」(19.4%)を合わせた『知っている(計)』(31.7%)は3割を超えている。一方、「知らない」(66.1%)が6割半ばとなっている。(図 14-4-1)

図 14-4-2 「コアジサシ」の認知度－性／年代別



性別でみると、『知っている (計)』は男性 (34.6%) が女性 (29.8%) より4.8ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『知っている (計)』は女性60代 (50.0%) で5割となっている。一方、「知らない」は女性30代 (90.5%) と男性20代 (89.1%) で約9割と高くなっている。(図14-4-2)

15. ごみのない循環のまち

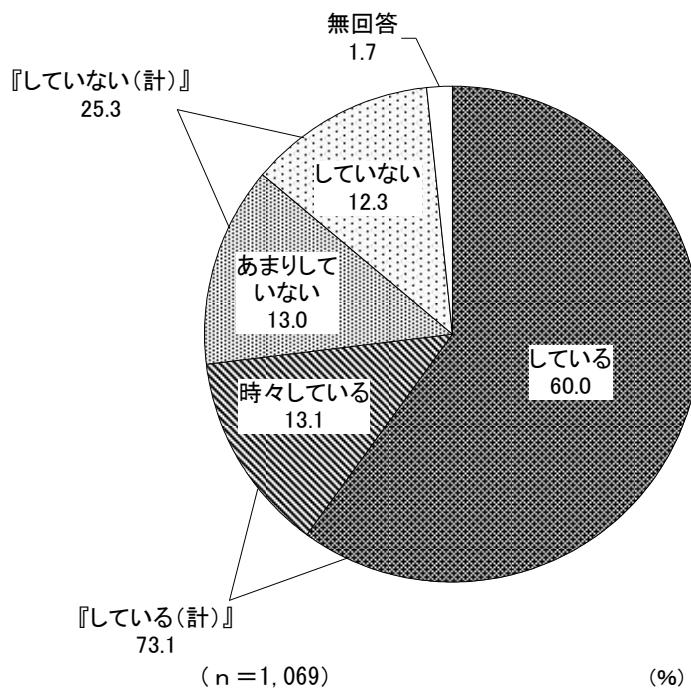
(1) 紙ごみの分別状況

◇「している」と「時々している」を合わせた『している(計)』は7割を超える

問 28 あなたの家庭では、資源化できる紙ごみの分別はしていますか。(○は1つだけ)

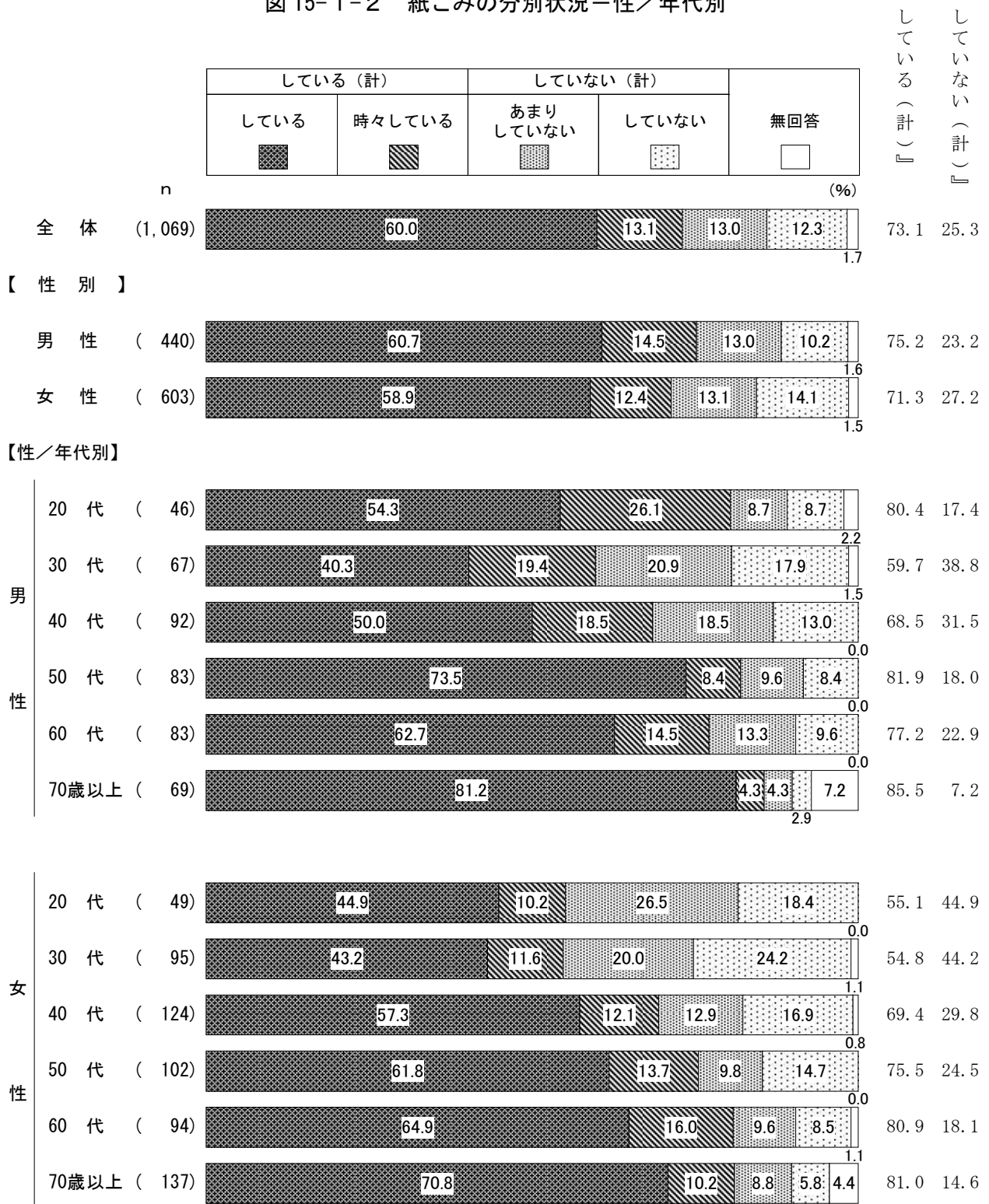
※区が収集した可燃ごみの中には、資源化できるトイレトペーパーやラップの芯・包装紙・封筒・菓子箱・ティッシュの箱・紙袋などの紙ごみ(雑がみ)が17%入っています。雑がみは、紙袋に入れてしばって「資源」の日に出していただくとごみの減量と資源化を進めることができます。

図 15-1-1



家庭で資源化できる紙ごみの分別をしているか聞いたところ、「している」(60.0%)が6割で最も高く、これに「時々している」(13.1%)を合わせた『している(計)』(73.1%)は7割を超えている。一方、「あまりしていない」(13.0%)と「していない」(12.3%)を合わせた『していない(計)』(25.3%)は2割半ばとなっている。(図 15-1-1)

図 15-1-2 紙ごみの分別状況－性／年代別

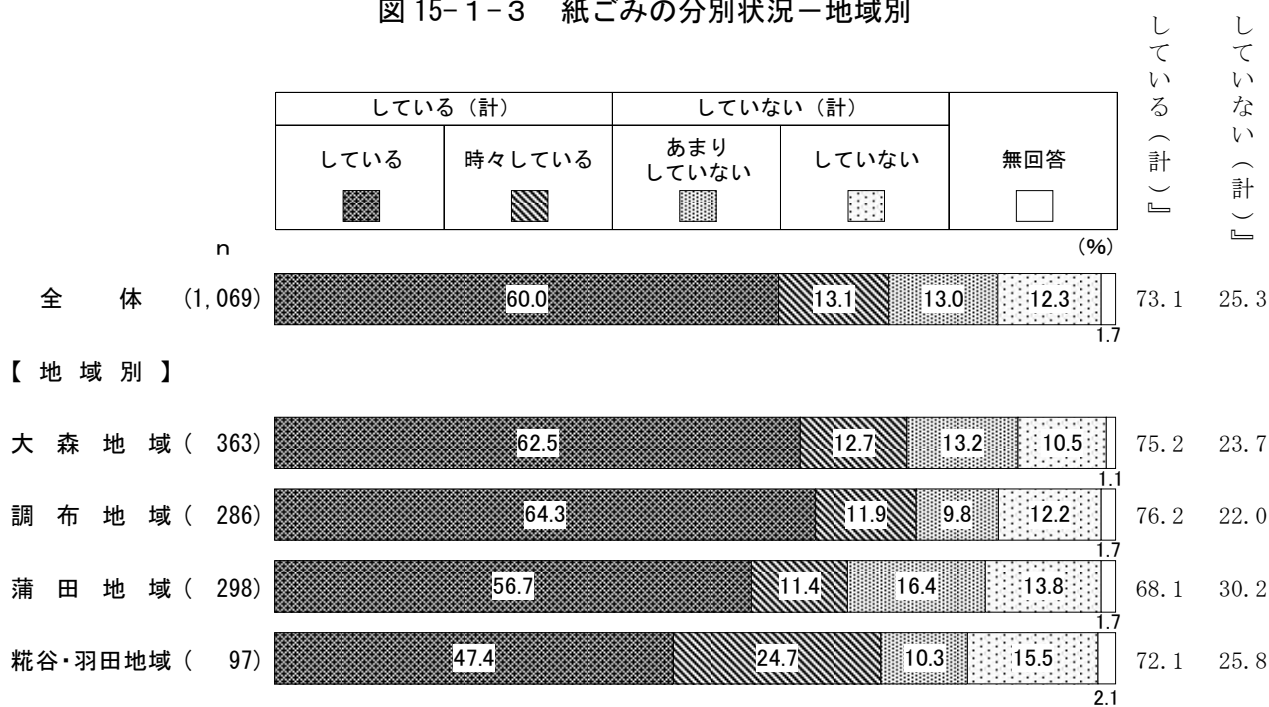


性別で見ると、『していない (計)』は女性 (27.2%) が男性 (23.2%) より4.0ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『している (計)』は男性70歳以上 (85.5%) で8割半ばと高くなっている。一方、『していない (計)』は女性の20代 (44.9%) と30代 (44.2%) で4割半ばとなっている。

(図15-1-2)

図 15-1-3 紙ごみの分別状況—地域別



地域別でみると、『している (計)』は調布地域 (76.2%) と大森地域 (75.2%) で7割半ばと高くなっている。一方、『していない (計)』は蒲田地域 (30.2%) で3割となっている。

(図15-1-3)

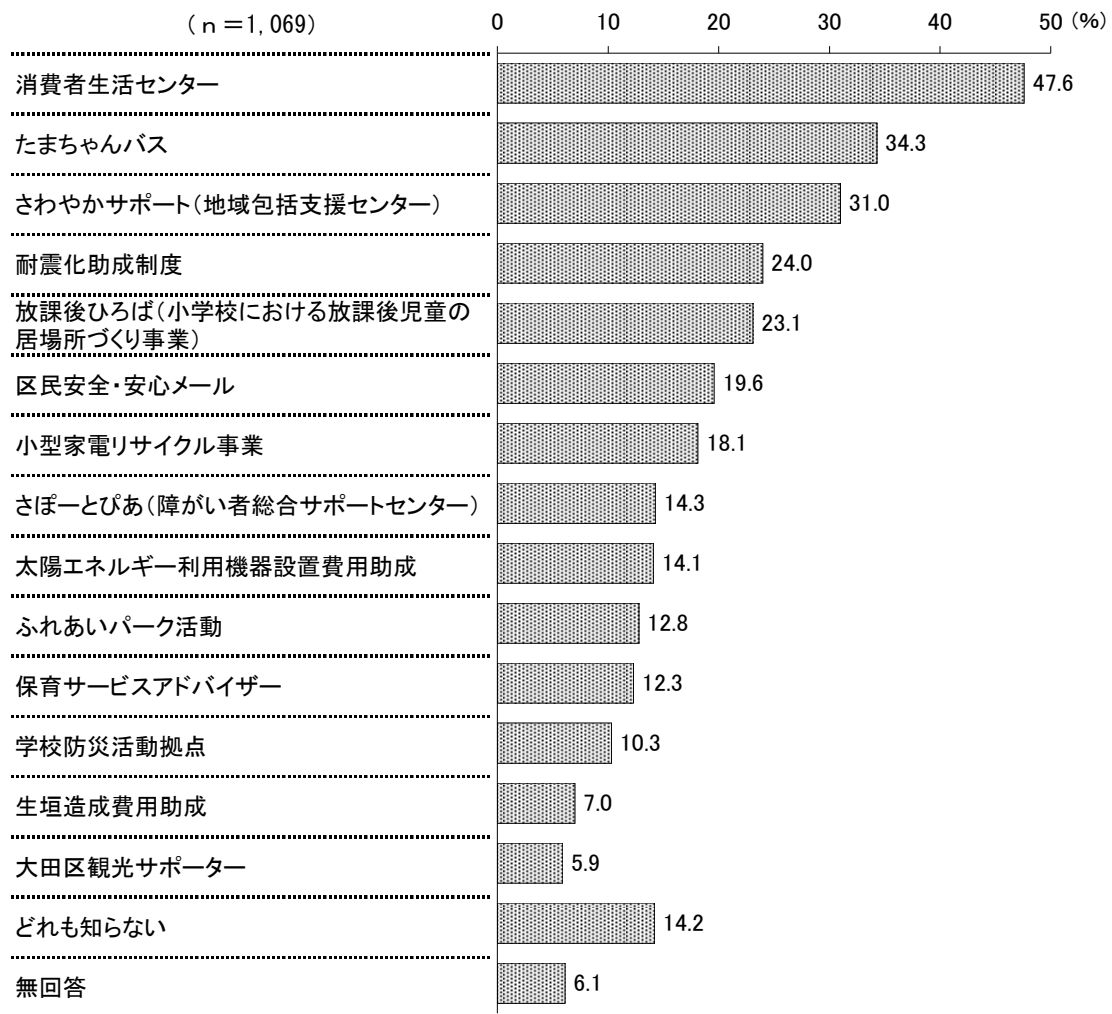
16. 区政への関心と要望

(1) 区の制度・施策・施設の認知度

◇「消費者生活センター」が5割近く

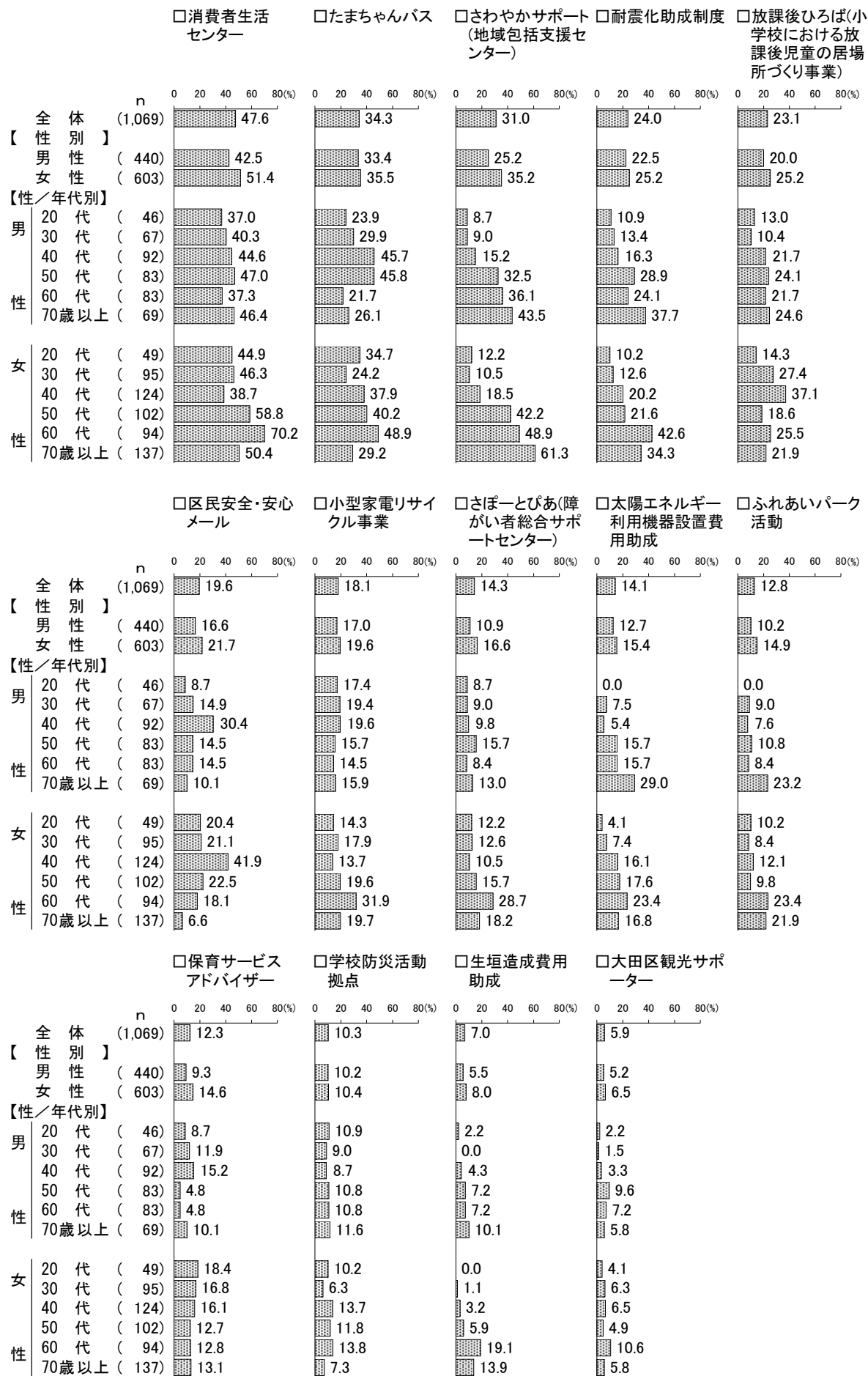
問 29 以下の大田区の制度、施策、施設のうち、あなたをご存知なものをすべて挙げてください。(〇はいくつでも)

図 16-1-1



区の制度、施策、施設について知っているものを聞いたところ、「消費者生活センター」(47.6%)が5割近くで最も高く、次いで「たまちゃんバス」(34.3%)、「さわやかサポート(地域包括支援センター)」(31.0%)、「耐震化助成制度」(24.0%)、「放課後ひろば(小学校における放課後児童の居場所づくり事業)」(23.1%)などの順になっている。(図 16-1-1)

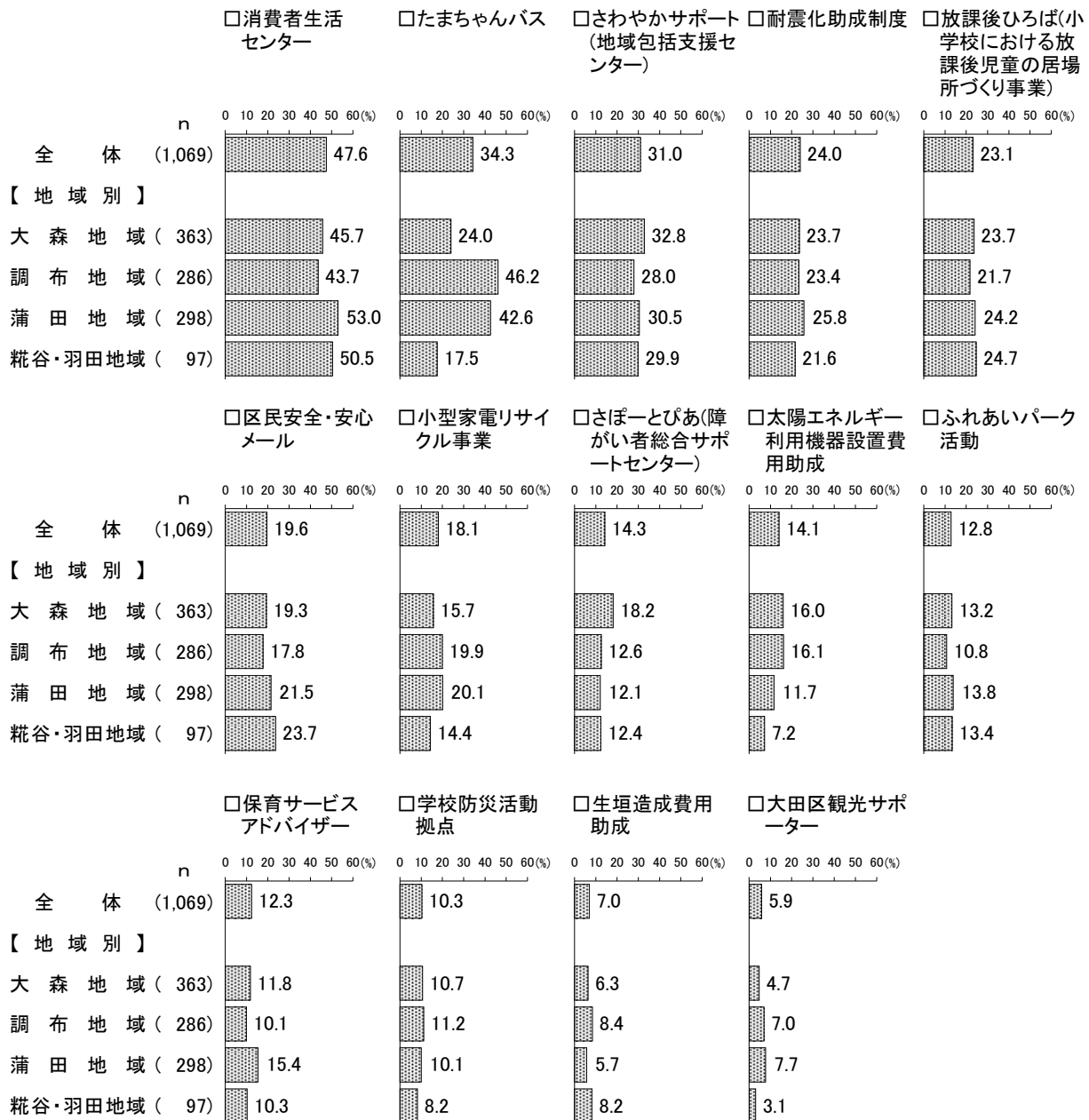
図 16-1-2 区の制度・施策・施設の認知度－性／年代別



性別でみると、全ての項目で女性が男性を上回っており、「さわやかサポート（地域包括支援センター）」は女性（35.2%）が男性（25.2%）より10.0ポイント高く、「消費者生活センター」は女性（51.4%）が男性（42.5%）より8.9ポイント高くなっている。

性/年代別でみると、「消費者生活センター」は女性60代（70.2%）で7割と高く、「たまちゃんバス」は女性60代（48.9%）で5割近くとなっている。また、「さわやかサポート（地域包括支援センター）」は男女ともにおおむね年代が高くなるほど割合が高く、女性70歳以上（61.3%）で6割を超えている。（図16-1-2）

図 16-1-3 区の制度・施策・施設の認知度—地域別



地域別でみると、「消費者生活センター」は蒲田地域（53.0%）で5割を超え、「たまちゃんバス」は調布地域（46.2%）で4割半ばとなっている。（図16-1-3）

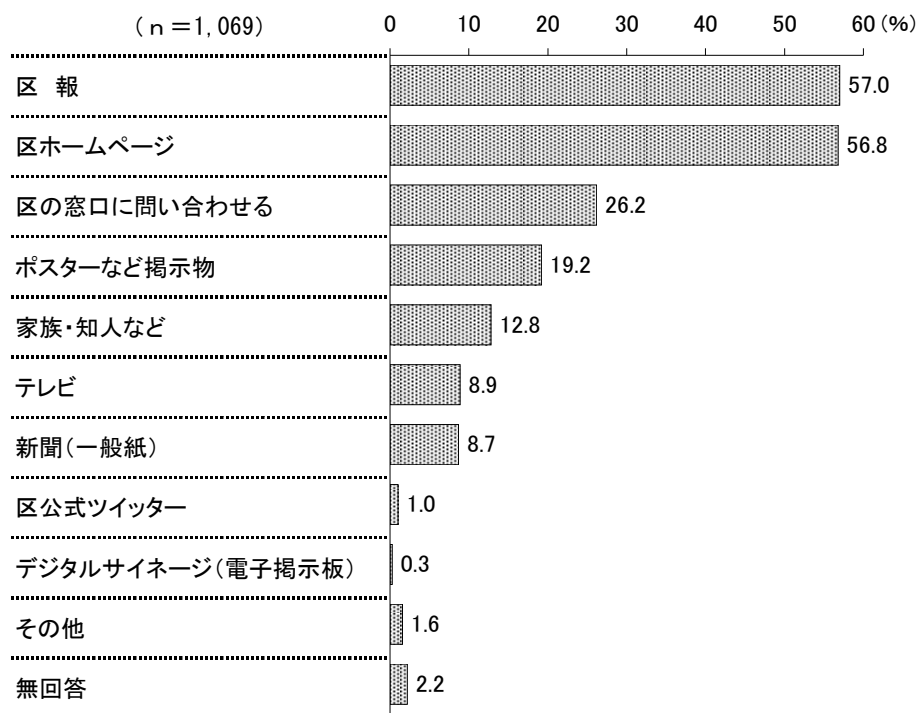
(2) 区の情報を知るために利用する媒体

◇「区報」と「区ホームページ」が6割近く

問 30 大田区の制度、施策、施設などの区の情報を知りたいとき、何を利用しますか。

(○はいくつでも)

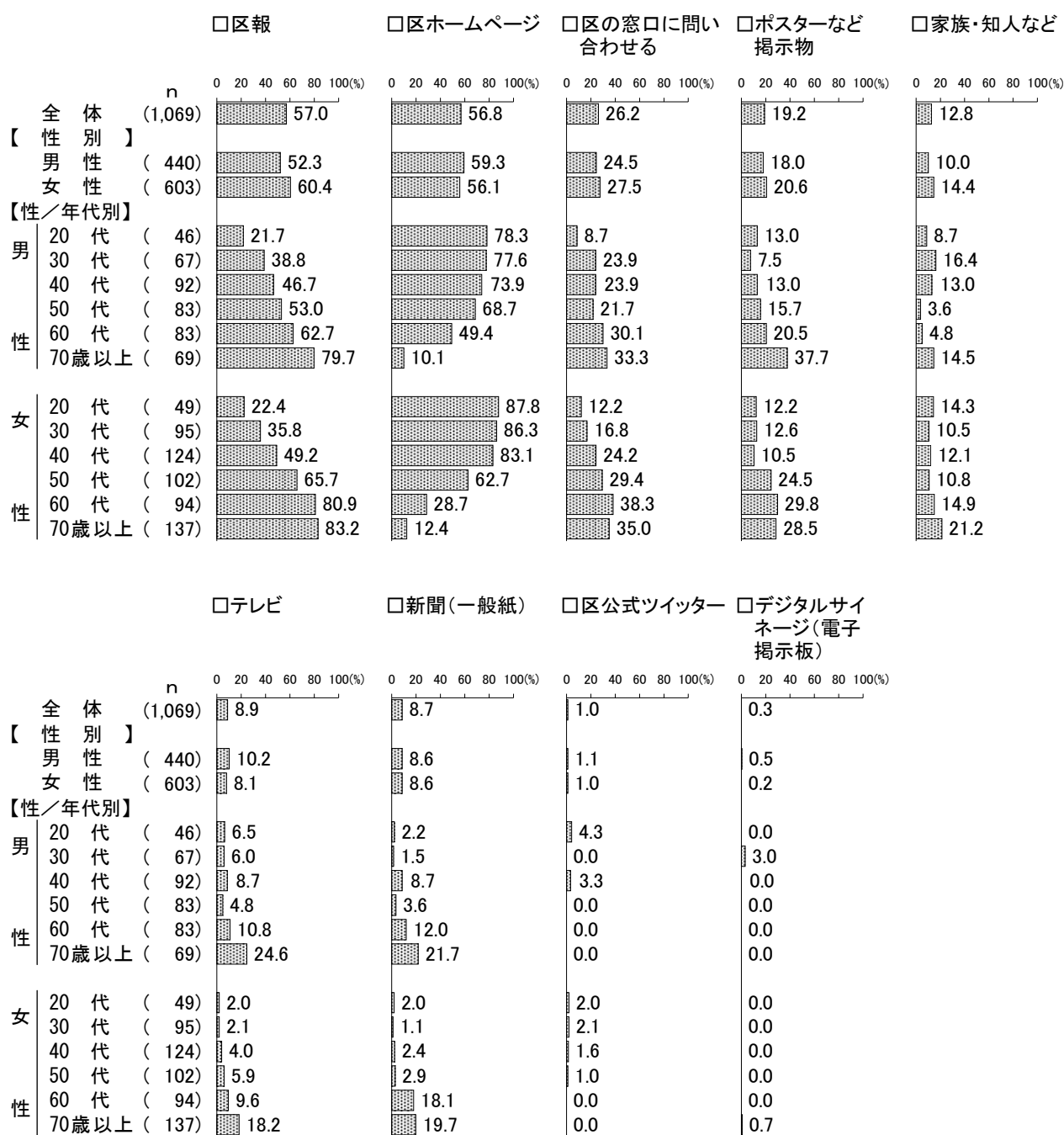
図 16-2-1



区の制度、施策、施設などの区の情報を知りたいとき、何を利用するか聞いたところ、「区報」(57.0%)と「区ホームページ」(56.8%)が6割近くで高く、次いで「区の窓口にお問い合わせ」(26.2%)、「ポスターなど掲示物」(19.2%)、「家族・知人など」(12.8%)などの順になっている。

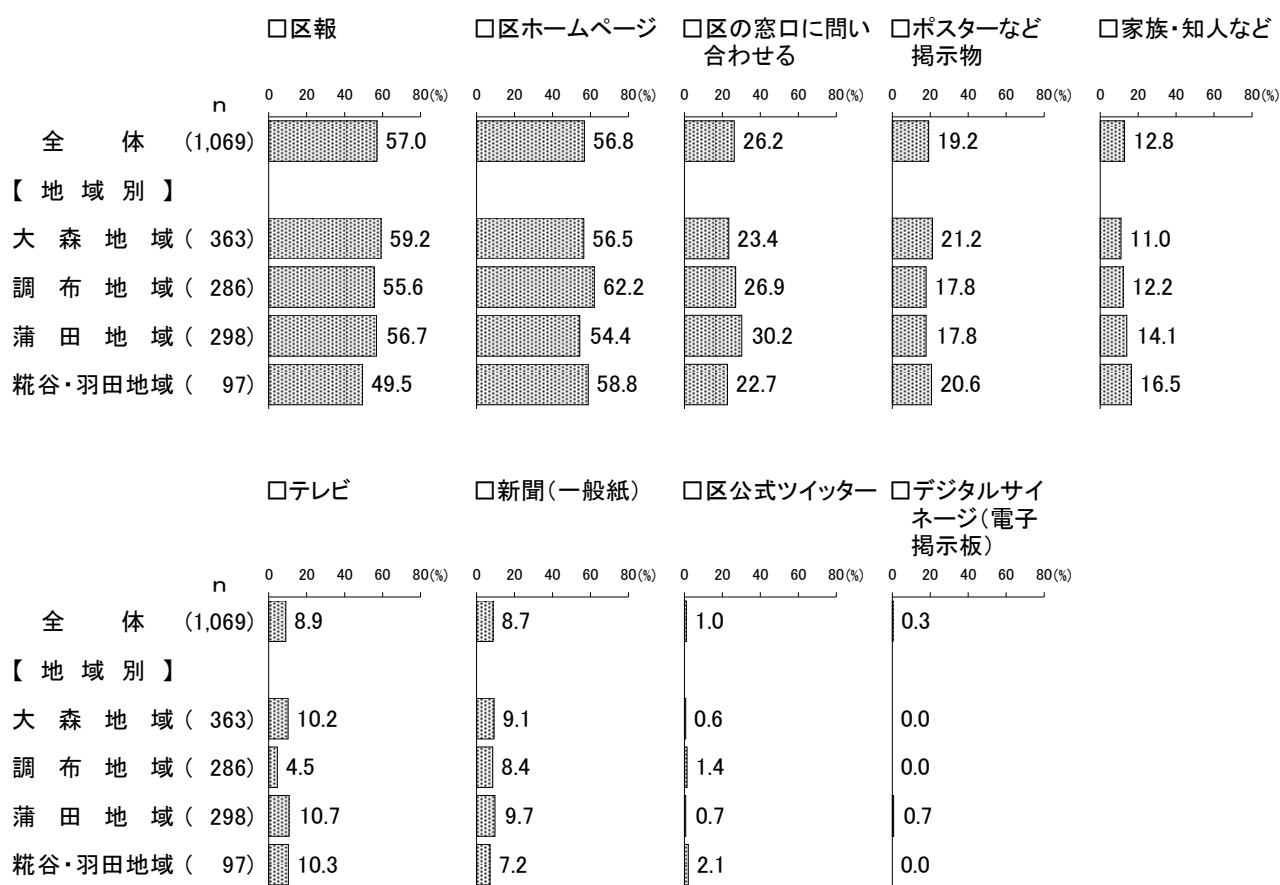
「その他」への回答として、「回覧板など町会を通じて」、「くらしのガイド」などがあげられている。(図 16-2-1)

図 16-2-2 区の情報を知るために利用する媒体－性／年代別



性別で見ると、「区報」は女性（60.4%）が男性（52.3%）より8.1ポイント高くなっている。性／年代別で見ると、「区報」は男女ともに年代が高くなるほど割合が高く、女性70歳以上（83.2%）で8割を超えている。また、「区ホームページ」は男女ともに年代が低くなるほど割合が高く、女性20代（87.8%）で9割近くとなっている。（図16-2-2）

図 16-2-3 区の情報を知るために利用する媒体—地域別



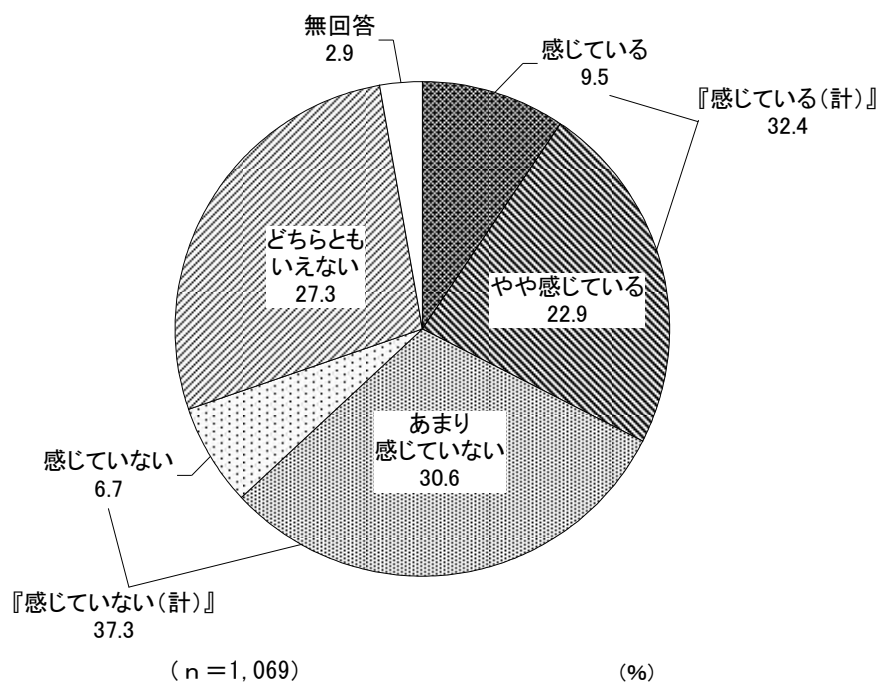
地域別でみると、「区報」は大森地域（59.2%）で約6割と高くなっている。また、「区ホームページ」は調布地域（62.2%）で6割を超えて高く、「区の窓口にお問い合わせ」は蒲田地域（30.2%）で3割となっている。（図16-2-3）

(3) 区の情報公開

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は3割を超える

問 31 区政情報が適切に公開されていると感じていますか。(○は1つだけ)

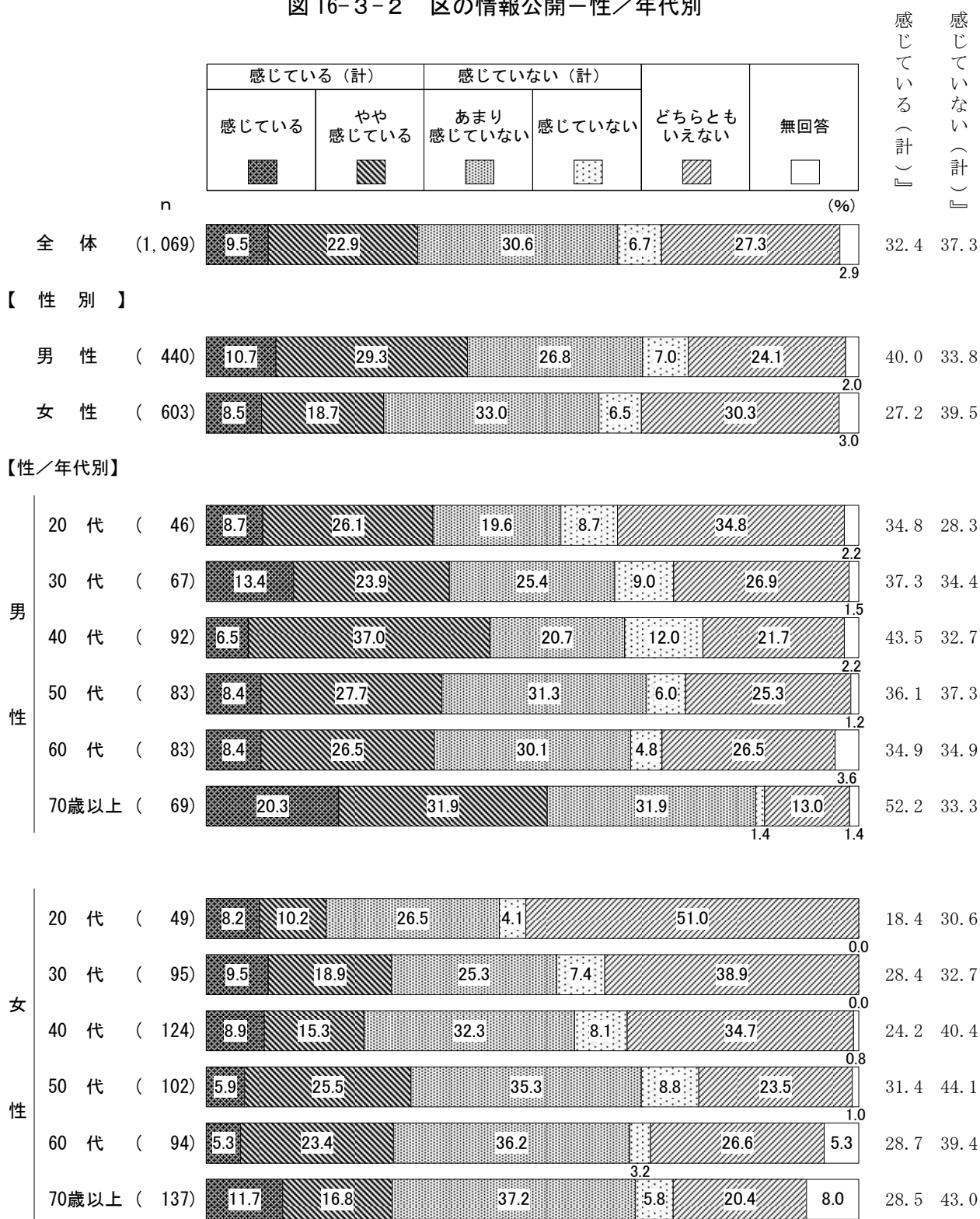
図 16-3-1



区政情報が適切に公開されていると感じているか聞いたところ、「感じている」(9.5%)と「やや感じている」(22.9%)を合わせた『感じている(計)』(32.4%)は3割を超えている。一方、「あまり感じていない」(30.6%)と「感じていない」(6.7%)を合わせた『感じていない(計)』(37.3%)は4割近くとなっている。また、「どちらともいえない」(27.3%)は3割近くとなっている。

(図 16-3-1)

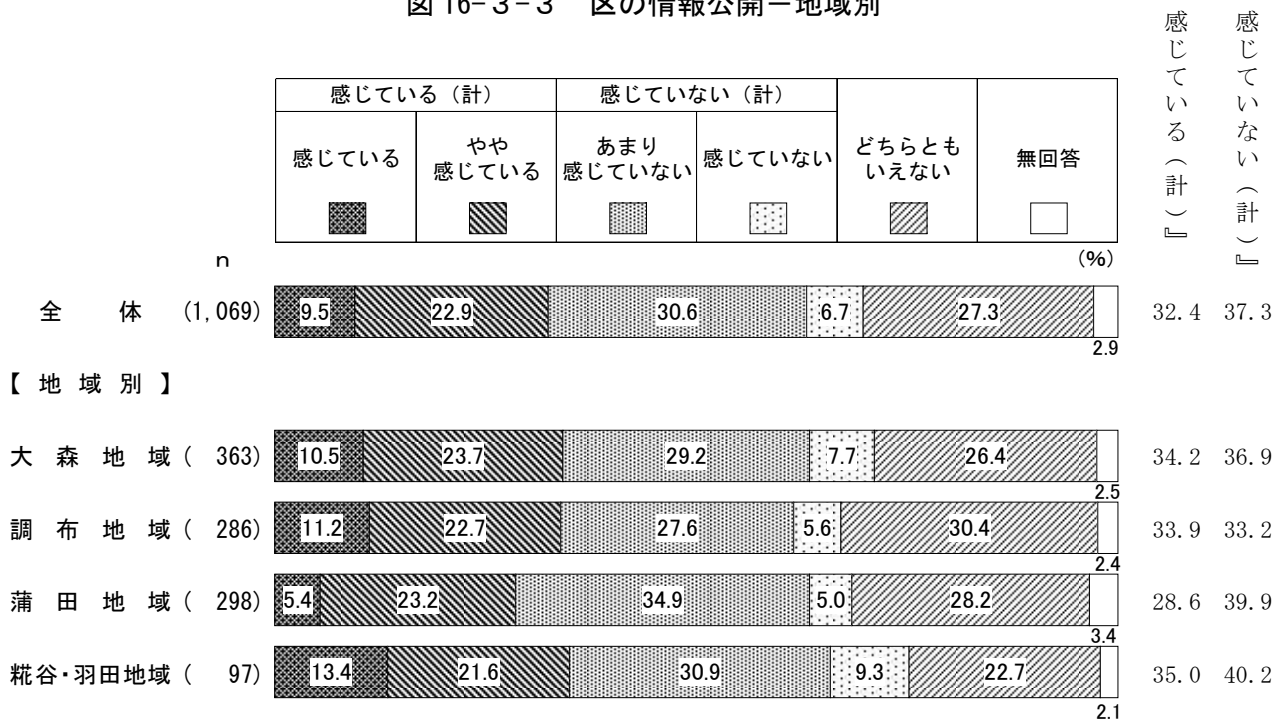
図 16-3-2 区の情報公開一性／年代別



性別でみると、『感じている (計)』は男性 (40.0%) が女性 (27.2%) より12.8ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『感じている (計)』は男性70歳以上 (52.2%) で5割を超えている。一方、『感じていない (計)』は女性50代 (44.1%) で4割半ばとなっている。(図16-3-2)

図 16-3-3 区の情報公開—地域別



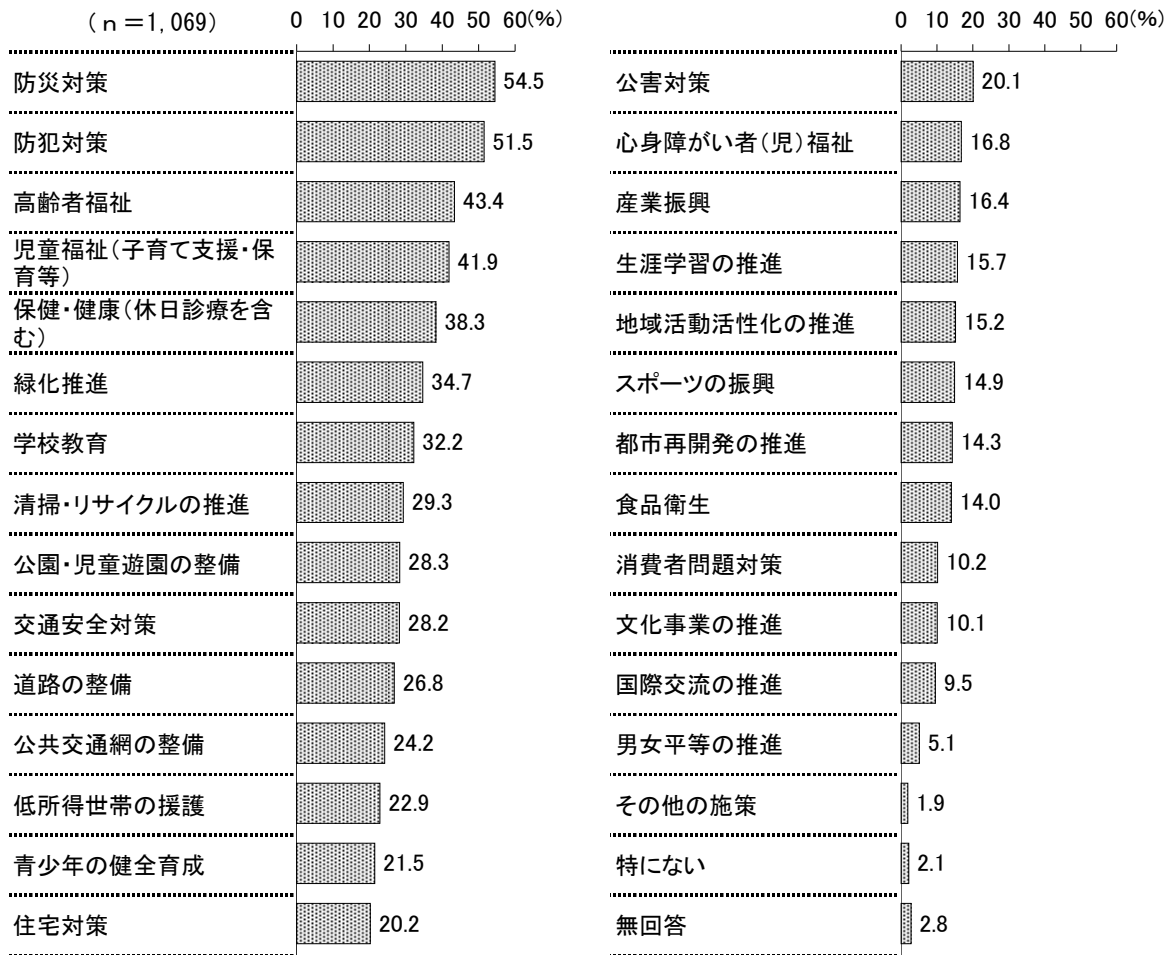
地域別でみると、『感じている (計)』は糞谷・羽田地域 (35.0%) と大森地域 (34.2%) で3割半ばとなっている。一方、『感じていない (計)』は糞谷・羽田地域 (40.2%) と蒲田地域 (39.9%) で4割となっている。(図16-3-3)

(4) 施策要望

◇「防災対策」が5割半ば

問 32 大田区の施策の中で、特に何に力を入れてほしいと思いますか。(〇はいくつでも)

図 16-4-1



区の施策の中で、特に力を入れてほしいことを聞いたところ、「防災対策」(54.5%)が5割半ばで最も高く、次いで「防犯対策」(51.5%)、「高齢者福祉」(43.4%)、「児童福祉(子育て支援・保育等)」(41.9%)、「保健・健康(休日診療を含む)」(38.3%)、「緑化推進」(34.7%)などの順になっている。

「その他の施策」への回答として、「婚活イベント」、「自転車マナー教育」、「路上喫煙」などがあげられている。(図 16-4-1)

図 16-4-2 施策要望一経年比較（上位 10 項目）



※平成 22 年度から施策要望の回答条件が「3 つまで」から「いくつでも」に変更となっている。

そのため、割合の変化について平成 20 年度以前と比較する際は要注意。

※「高齢者福祉」は平成 24 年度までは「高齢者対策」、「児童福祉(子育て支援・保育等)」は平成 26 年度までは「児童福祉」となっていた。

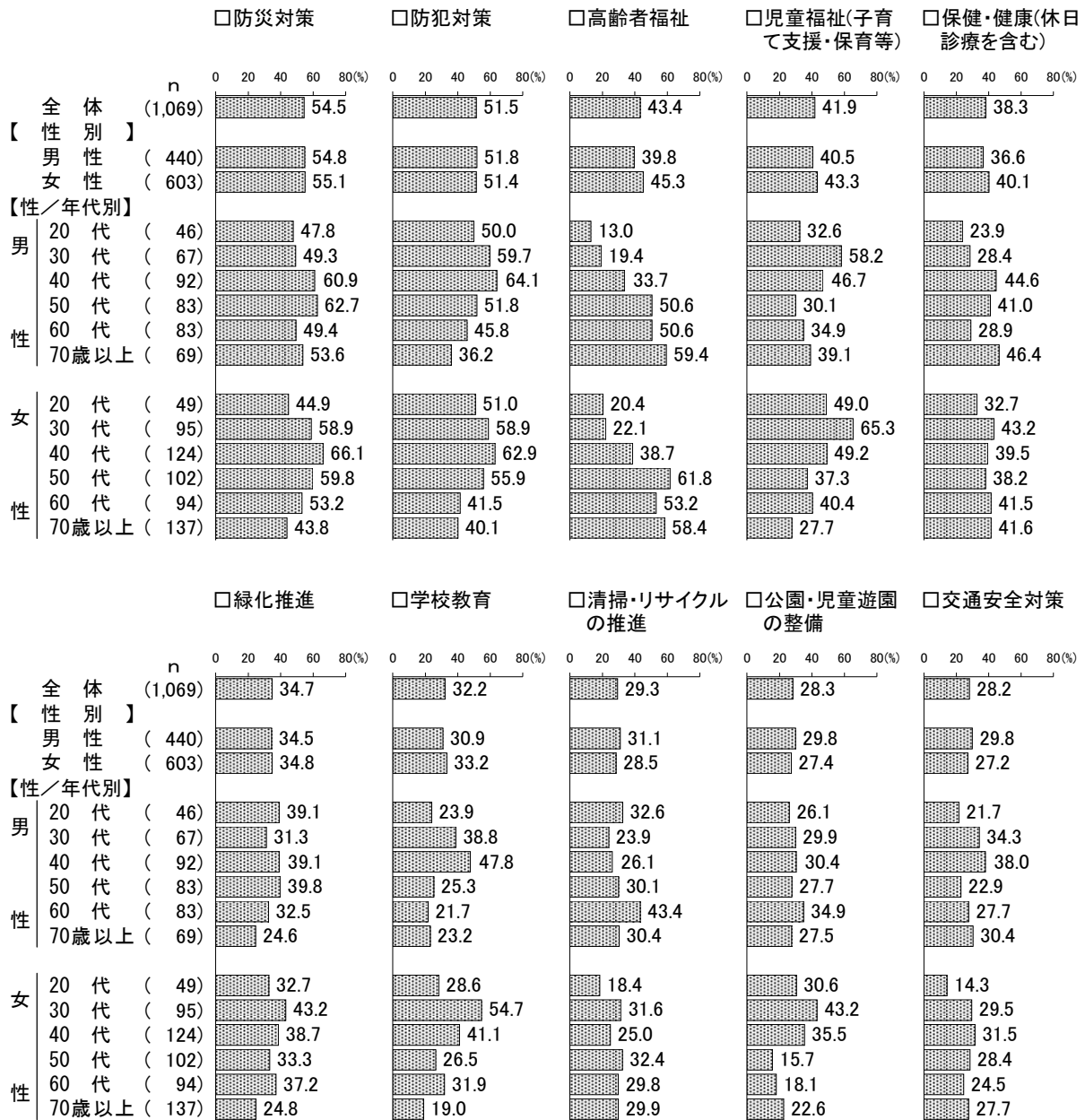
※「保健・健康(休日診療を含む)」は平成 26 年度までは「保健・健康」と「休日診療」(平成 24 年度までは「休日診療対策」)の 2 つの選択肢となっていた。

※「学校教育」と「防犯対策」は平成 27 年度から追加されている。

※同ポイントの項目は選択肢の順に記載している。

上位 10 項目の過去 4 回の調査結果と今回の調査結果の推移は選択肢が異なるため参考となるが、「防災対策」は平成 24 年度以降 1 位となっている。(図 16-4-2)

図 16-4-3 施策要望一性／年代別（上位 10 項目）



上位10項目を性別で見ると、「高齢者福祉」は女性（45.3%）が男性（39.8%）より5.5ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「防災対策」は女性40代（66.1%）で6割半ばと高く、「防犯対策」は男性40代（64.1%）と女性40代（62.9%）で6割台と高くなっている。また、「高齢者福祉」は女性50代（61.8%）で6割を超えて高く、「児童福祉（子育て支援・保育等）」は女性30代（65.3%）で6割半ばと高くなっている。（図16-4-3）

表 16-4-1 施策要望—地域別（上位5項目）

（%）

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,069	防災対策 (54.5)	防犯対策 (51.5)	高齢者福祉 (43.4)	児童福祉(子育て支援・保育等) (41.9)	保健・健康(休日診療を含む) (38.3)
大 森 地 域	363	防災対策 (56.5)	防犯対策 (51.8)	高齢者福祉 (46.0)	児童福祉(子育て支援・保育等) (43.3)	緑化推進 (37.7)
調 布 地 域	286	防災対策 (55.6)	防犯対策 (52.1)	児童福祉(子育て支援・保育等) (42.7)	高齢者福祉 (40.6)	保健・健康(休日診療を含む) (38.8)
蒲 田 地 域	298	防災対策 (54.4)	防犯対策 (50.3)	児童福祉(子育て支援・保育等) (43.0)	高齢者福祉 (42.6)	保健・健康(休日診療を含む) (41.6)
糀谷・羽田地域	97	防犯対策 (58.8)	防災対策 (52.6)	高齢者福祉 (43.3)	児童福祉(子育て支援・保育等) (38.1)	保健・健康(休日診療を含む) (30.9)

上位5項目を地域別で見ると、「防災対策」は大森地域、調布地域、蒲田地域で1位、糀谷・羽田地域で2位となっている。「防犯対策」は糀谷・羽田地域で1位、大森地域、調布地域、蒲田地域で2位となっている。また、3位にあげられている項目は大森地域と糀谷・羽田地域では「高齢者福祉」、調布地域と蒲田地域では「児童福祉（子育て支援・保育等）」となっている。

（表16-4-1）

17. 自由意見

今回の調査では、大田区政についてのご意見・ご要望をご記入いただく自由意見欄を設け、326人の方から439件のご意見・ご要望をいただきました。いただいたご意見・ご要望を「おおた未来プラン10年（後期）」の基本目標別に仕分けした区分ごとに分類し、内容を抜粋して掲載しております。

<基本目標1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち>

1. 子育て支援

- ・ 子どもと一緒に過ごすことができる公共の場の充実。ベビーカーでも出かけやすい道路の整備。
- ・ 子育て世代にもっと応援できる体制を作ってほしいです。
- ・ 小学校の学童も他自治体の制度を取り入れてほしい。
- ・ 産後ヘルパーなど、子育て支援の充実を希望します。
- ・ 子育て環境の充実（子どもを預けられる施設を増やし、安く提供してほしい。学級崩壊等がないような教育環境を作ってほしい。）をしてファミリー層を増やし、活気あるまちにしてほしい。
- ・ もっと女性が子育てしやすい区にしてほしい。
- ・ 子ども達がもっと自由に安全に遊べる場所を作ってほしい。
- ・ もうすこし幼児が室内で遊べる所があれば助かる。
- ・ 午後でも乳幼児が屋内で遊べる広場があるといいと思います。このように暑い日が続くと公園は無理です。児童館も午前だけです。せっかく周りに赤ちゃん、子どもが多いのに交流はあまりありません。
- ・ 子どもが自由にボール遊び（サッカーなど）ができるスペースを、もっと身近に増やしてほしい。
- ・ 育てること以前に出産できる病院があまりにも少なく、予約を取るのに苦労しました。行きたい病院で産めないのはいかななものか…。
- ・ 子育てにもあまり“最新さ”を感じない。（ex 児童館が古く先生に年配が多い）子供たち（3才くらいまで）が遊べる場所（屋内を屋外）がもっと増えると若い層にも人気のある町になるのでは？

2. 保育サービス

- ・ 子どもが少ないと言っているのに保育園の足りなさにびっくり。あちこち申込みをしてみて半年～1年待ちであり、何とかしてほしい。
- ・ 大田区多摩川の蒲田、矢口の地域に保育園の拡大をお願いいたします。子どものいる世帯が、住みやすい環境を望みます。
- ・ 待機児童解消の取組みをしているとホームページに掲載されていたが、大田区に転居後、区役所等に問い合わせたところ、認可保育園、認証保育所等に全く入所できない状況だと判明し、大変失望しています。早急に対策をしていただきたい。
- ・ 保育園と老人ホーム一体型の施設が必要に思う。力がまだまだある高齢者に活躍してもらいたい。他世代の交流はどの世代にとっても為になる。
- ・ 低価格で子どもを一時的に預けられる施設を充実させてほしい。
- ・ 千束地区の待機児童ゼロを目指して保育園の増設をしてほしい。
- ・ 共働きの家庭ばかり優先され、認可保育園に入れるとなると、一度仕事をやめ、これから仕事をしようとしている家庭はどうすればいいのですか？

- ・身のまわりで聞く待機児童の問題。大変だと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。
- ・第一に保育園の充実をお願いしたいです。
- ・学童保育・保育園のサービス向上に努めてほしい。園自体も向上してほしいが、園に対する区の教育というか、監督もしっかりしてほしい。待機児童ゼロや、兄弟が同じ園に入れるようにするなど…。
- ・保育園にちゃんと入れるようにしてほしいです。来月から仕事に復帰しようと思っていますが、実家に娘をあずける方法しかありません。もう少し子どものいる家族のことを考えてください。
- ・子育てに力をいれてほしい。保育園が増やせないなら、幼稚園をもっと預かり等できるよう考えてほしい。
- ・待機児童をゼロにしてもらいたいです。
- ・大田区在住の子育て中の方の話を聞いていると、保育所や幼稚園などが不足していると感じます。子どもが大きくなってから住むには良いところだと思いますが、小さな子どものいる家庭は住みにくいのではないのでしょうか。
- ・保育園の待機児童問題もどうかしてほしいです。働きたくても働けないお母さんは多いです。
- ・大森地区の保育園をもっと増やしてほしい。人口増加に対しついていけない。
- ・待機児童の解消を早急をお願いしたい。

3. 学校教育

- ・学校教育、社会教育に力を入れてほしい。公共の場、電車の中のマナーが悪い。家庭でできないなら学校でもっとやってほしい。
- ・小学校・中学校の支援クラスの充実。
- ・挨拶、感謝のありがとう！！が言えるように家庭、学校教育で。言える子どもが少なくなった。たまに席をゆずられると感動します。手づくりの品、ありがとうございます。
- ・子どもが通う小学校には放課後広場がない学校です。是非全ての小学校に放課後の居場所をつくってもらいたいです。
- ・共働き世帯では小学校のPTA活動がかなりの負担になっている。例えば6年間で必ず1回はやらなければならないとか。又、地域パトロールやスクールゾーン看板出し等、現代の家庭状況と見合っていない。
- ・大田区に引っ越して来て2年余り、とても満足した生活をしています。特に長男の小学校の教育方針が良く、後の2人も同じ学校に入学させたいです。1つお願いがあり、学区の分け方をもう一度検討してほしいです。自宅から近くて安全な（環八を渡らない）学校があるのに学区外で越境申請をしなければなりませんでした。とても納得いかないことでした。兄弟も一緒に通学できる様にするのも防犯上、大事なことだと思います。是非検討お願いします。
- ・子どもの教育に道徳精神ある人間作りは必要と思っています。社会に出ても頑張れる人間教育を願っています。
- ・学校給食で牛乳を廃止してほしい。
- ・教育制度も、他自治体での実験的な試みで、良いと思った事は取り入れたらよいと思うが。
- ・今こそ、教育の大切さを再確認する区政推進。
- ・昨年まで大田区の小学校に通っていた。授業中にも関わらず子どもたちは、立歩き、廊下に寝そべり、隣のクラスに乱入し、1時間で10分も授業をやっていなかった。難しい事を言うつもりは無いが、せめてやる気のある子、ない子でクラス分けしてほしい。

4. 幼児教育

- ・ 自然派幼稚園がない。
- ・ 幼稚園の補助制度の事ですが、なぜ、3年生までの兄弟で第何子かというのが決められるのですか？ 4年生以上の兄弟はなぜ、兄弟と認められないのかが、納得がいきません。

5. 健康づくり

- ・ 大田区民が健やかに生きていけるように努めてください。
- ・ 他自治体では寝たきり予防に45才以上の希望者に歩数計を貸与。歩数に応じたポイント数を金券に替える事ができ、地域の商品での買い物に使用しているそうです。それによってウォーキングをする人が増え、地域の商店にも活気が出るという一挙両得な制度があるそうです。大田区では楽しみつつ健康増進につながるといった類の制度は皆無の様で区の無策を感じます。
- ・ 東京都の特定疾病の医療券を利用していますが、年に1度更新の手続きがあり、地域の決まった所へ手続きに行かなければなりません。とても不便でわざわざ行くのも大変です。区内の行きやすいセンターや出張所、本庁舎で受け付けしてもらえそうなシステムにしてもらいたい。

6. 衛生

- ・ 犬の糞の取締り。
- ・ 犬の糞の始末が悪いので困ります。
- ・ 区政ではないかもしれないが、犬猫殺処分をゼロにしてほしい。

7. 障がい者福祉

- ・ 知的障がいの手帳を取得しました。色々と役所の方に相談して、良くしてもらっていますが、発達障がいも兼ねている可能性もあり、その専門的な知識を持っている方が役所にいない事が判りました。役所内に相談、支援窓口を設置していただけたらと思います。
- ・ 身体障がい者への情報を自宅へ送付してほしい。その他に各種申請の更新の手続きの簡略可。
- ・ 身体障がい者に親切に対応してほしい。親身になって考えない職員がいる。
- ・ 心身障がい児福祉の充実、いじめのない社会を作る区政を希望します。
- ・ 障がい者の居住の場（多機能拠点型：グループホーム、ショートステイ含む）を早急に整備してください。相談支援事業と密に連携できるため、さぼーとぴあ近辺が良いかと思います。その際、支援困難な方々（重度障がい者）が取り残されないようお願いいたします。
- ・ 障がい者専用の駐車場を健常者が不正利用するのを規制してほしい。外国のように厳しく罰し、監視する。区内の大型施設で実施し、全国のモデルケースとしてほしい。

8. スポーツ

- ・ 大田区は、スポーツが盛んで、チーム数も多いので、もっと体育館を増やしてほしいです。
- ・ 中学生が体育館で自由にバスケットボールができるように、一般開放もしてほしい。今は、団体での貸出のみで利用しにくい。
- ・ スポーツセンター等利用したいと思いますが、住んでいる所から遠いので利用した事はありません。小さくても良いのでたくさんあると良いです。

- ・ 青少年のスポーツ振興について 野球、サッカー等のメジャースポーツだけではなく大田区ならではの特色の有るスポーツ振興の推進を望みます。
- ・ スポーツセンターや公民館・区民会館のスペースを区民平等に貸し出してほしい。公の小中学校の夜間や休日に体育館を 1/4 に区切って予約制度で個人のスポーツ練習のために使わせてほしいです。団体ではなく、個人で自由に使えるインドアスペースが大田区には無いです。
- ・ スポーツ施設の充実。(大森地区に偏っている)
- ・ 萩中プールの屋外の 50m プールをファミリー向けに開放してほしい。
- ・ 区民が健康維持に使用できるプールとかがほしい。文化系の習いごとだけでなく気軽な水泳(ウォーキング、アクアビクス)も考えてほしい。
- ・ 高齢化社会が進むので多摩川河川敷にゴルフのショートコースを作ってもらいたい。
- ・ O T A ウォーキングに参加しました。出発の時に区長と握手できる機会があり、区長がとても身近に感じられました。ぜひ、イベント会場でそういう機会を増やしてほしい。
- ・ 緑も豊かで住みやすい大田区だと思います。これから高齢化社会に向けて健康であることの大切さを感じます。大田区民は皆、健康寿命が一位であると誇れる様になればと思います。ぜひともプールや運動施設の充実を願います。
- ・ スポーツ施設を増やしてほしい。

9. 図書館

- ・ 馬込地区は利用できる施設もなく、図書館も古い。蒲田、大森と比べると同じ住民税を払っているのにサービスが平等ではないと感じる。
- ・ 子どもが図書館で友達と調べものをしたが、場所は大人が使用していて使えなかったそうです。学習したい子どもが利用できる場所を広く設けてほしいです。
- ・ 図書館の充実。
- ・ 大田区の図書館の充実を…。調べたい書物が少ないので、他自治体に行ってしまう。
- ・ 図書館設備の充実をお願いしたいです。2年前、引っ越してきましたが、従前地の方が充実しており残念に思っています。
- ・ 概ね満足しています。図書館の場所がわかりにくいです。
- ・ 図書館の予約システムなど古すぎる、また新書も少なく、利用しづらい。他自治体の図書システムを参考にしてほしい。

10. 生涯学習

- ・ 生涯学習の充実。

11. 生活保護・支援

- ・ 外国人などに対する生活保護受給について、徹底した調査の上、認定してほしい。
- ・ 外見上、未だ就労可能と見受けられる若年・中年の方々が自宅近辺の区営団地に入居しており、噂では生活保護の受給者とのこと。買物で荷物が多い際に、タクシーで帰宅している様子を見かけると矛盾を感じている。
- ・ 生活保護者への2年に1回位、徹底確認調査をしてほしい!
- ・ 生活保護の再調査がでたらめすぎる。

- ・ 低所得者に対しての支援がまるでないので、持ち家、土地持ちでないかぎり、大田区には住みたくない。
- ・ 大学学費の援助をしてほしい。
- ・ 高校生、大学生の子どもにも区から補助がほしい。学びたいのに経済的な理由で断念せざるを得ないのは残念。都の補助の他にも十分な教育費を！！
- ・ 弱者に対して他自治体のように助成がいろいろあると良い。
- ・ ホームレス等を無くし働ける場所、住居を用意。

12. 高齢者福祉

- ・ 老後も安心して住める区であってほしい。国が在宅介護を進めているが、仕事を続けながらの在宅介護は不可能に近い、区には施設での介護が充実するよう考えてほしい。
- ・ できる限り自宅で過ごしたいと思うので、高齢者の福祉関係を充実させていただきたい。同時に、それを支えていく子ども達への福祉も充実させていただきたいと思います。
- ・ 年金生活です。国保料、介護保険料の負担が厳しいです。老後の介護施設の充実。
- ・ 高齢化社会に向けて、交通手段の整備や移動手段のない人々に対するタクシー補助等の対策に今後対策を講じて行ってほしい。
- ・ 特養老人ホーム等の職員増加を願いたい！
- ・ 高齢者支援の増設等、優先課題とすべき。
- ・ 高齢者福祉施設の不足解消。
- ・ いまや、本人、家族、行政に大きな負担となってきた認知症対策として、予防教室を各地域で開いてほしい。また、認知症本人への“サービス”は症状程度に応じたものを、開設してほしい。
- ・ 高齢者が楽しめる場所をお作りください。
- ・ 高齢者福祉の情報が、ケアマネージャーから入るので、本人が確認して施設やサービスを利用したい際の情報提供がほしい。地域で最期まで過ごす為、かかりつけ医の訪問医療の充実を望みたい。
- ・ 高齢者が近所でも増えてきているので高齢者福祉・支援などに力を入れてほしい。
- ・ これからは福祉に力を入れてください。
- ・ 臨海祭場での、遺骨粉碎→海洋散骨や“0葬”などの多様化。エンディング意思表示カード（延命治療拒否、ホスピス、安楽死認可）作成。一人住まい高齢者の住まいの整理、引っ越し、ルームシェアのすすめ。同じく、ごみ出し困難な方のサポート。
- ・ 高齢のため、歩道の整備。エスカレーターの整備。
- ・ 高齢になり、病院通い中ですが、おかげ様で最低限便利の良いところに住んでおります。行政に甘えすぎてはならないと思いつつ、歩くことも辛い時は、福祉の充実を願っています。
- ・ 住民が暮らしやすいまちづくりをお願いします。今後、高齢化が進む中で、高齢化に対応してください。
- ・ 高齢者対策の支援を増やしてほしい。
- ・ 歳をとっても元気で健康が一番です。他自治体に比べ大田区は福祉が充実していると聞きますが、老いた私達の為に区政に頑張ってください様、要望いたします。
- ・ 特別養護老人ホームを増してほしい、待機高齢者を減らしてほしい。入所したい時に待たずに入りたいと思います。介護は大変なのでヘルパーさんの仕事の範囲を広げてほしい。
- ・ 母が先日大田区の特養に入所できましたが、かなり待たされました。大田区では待機されている方がかなり多いと聞きました。これから特養がもっと必要になるのではないのでしょうか。

- ・ もしもの時家族や子どもに、よけいな心配をさせないで面倒を見てくれる施設をもっと増やしてほしいです。
- ・ 区民農園のようなお年寄りの憩いの場所が必要。デイサービスで何かやるというのも良いが、自由に集える公園、農園があると生き甲斐になると思う。
- ・ 高齢者は当面増える一方なので、高齢者福祉は堅実に整備していただきたいです。それとともに、より健康に生活してもらって医療費・介護費の削減に繋がる施策がほしいです。
- ・ 少子高齢化社会となりますので若い方が安心して働ける社会、そして高齢者も安心できる世の中にしてください。強き者も弱き者もお互い助け合い、心に世の為人の為になりたいと思っております。私も健康に心がけ病気に注意して人に迷惑掛けない様努力します。足並を揃えて、頑張りましょう。
- ・ 65歳以上の健康な方へのボランティア推進（道路清掃等）等高齢者パワーの活用を考えてほしい。
- ・ 隣人が認知症により迷子に度々なっていた。やっとのことでさわやかサポートというのを知り、手伝っていただいた。警察は民事不介入だと言われたが、しかるべきサポートを紹介するなどできるはず。地域の安全の為に連携してほしい。
- ・ 高齢者のための健康増強のための施設を設けてほしい。

<基本目標 2 まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市>

1. まちづくり

- ・ 友人達との話のなかですが、大田区より他自治体の方が公園、自転車置場、ごみ（個別収集）、福祉など身近な事が充実しているとの意見が多い。もっと私達の身近なことに力を入れてほしい。
- ・ 他自治体に比べて、駅からのまちの美観が整えられていないところが多いので、例えば東急線の駅前を各まちの玄関と想定して、美しいまちなみにしてほしい。
- ・ 蒲田駅前の整備、人のたまり場になっているのが気になる。
- ・ 色々と転勤でまわって来たので、こんなに酷い住宅街は初めてだ。私が蒲田を離れる頃には、道路も街灯も呑川もごみもフンもマナーも改善されていることを願っている。できたら私がいる間に住み良いキレイなまちになってほしい。
- ・ 無電柱化を進めてほしい。
- ・ 大田区に住みつけていますが、昔から比べると、何もかも、便利になったと感じ住みやすくなっています。
- ・ 緑豊かなまちづくりをこれまで以上に推進してほしい。
- ・ 多摩川にドッグランの整備。
- ・ まちなみをもっと美しくしてほしい。みんながまちを大切にすると、まちの魅力が上がる。意識改革できる様な施策を沢山打ってほしい。
- ・ 大田区北部は環境が良くとても住みやすいのですが、蒲田周辺はあまり女性や子どものための環境が整っているとは思えません。古い建物も多く、少しずつ誰でも気持ちよく住める地域にしていきたいです。
- ・ 東京大田区の上を飛行機が飛ぶのは危ない。絶対反対です。
- ・ もっときれいになってほしい蒲田。
- ・ 大型ショッピングセンターの誘致や、治安イメージの改善をした方が良い。他自治体の取組みが素晴らしいので、もう少し取組みを学んでほしい。

- ・ 大田区で生まれ、60年以上暮らしています。住みやすいまちだと感じています。行政にたずさわる皆様の御苦勞に感謝します。
- ・ 結婚して45年大田区に住んでいます。私にとっては、とても住みやすいまちです。いつまでも住みやすいまちでありますように願っています。
- ・ 人の集まる所ばかりでなく大田区の隅の方まで気を使ってほしいです。
- ・ 住宅街での上空に張りめぐらされた電線は何とかならないか？美観を著しく損ねている。埋設化。
- ・ 他自治体に比べて外国人が多く治安が良くないイメージを持たれている。緑が多く住み安い地域の発展を望みます。
- ・ 電柱の撤去（電線の地中埋設）の対応を是非お願いします。多摩川土手のアスファルト化等よりも、電線の埋設、インフラ（上下水道等）の維持・更新等、サスティナブルなところに投資をしてほしいと思います。
- ・ 生まれも育ちも大田区で、社会人になった今もお世話になった大田区に恩返しをしたいと、大田区で働くことにしました。これからも家族が安心して暮らせる大田区のまちづくりをしていただきたいと思います。
- ・ 車で区内を走っていると、道路わきの緑がきれいに整えられていて、とても気持ちがよいです。今後もきれいなまちづくりをよろしくお願いします。
- ・ 近所のポストが急になくなり不便を感じている。家の周辺、急坂が多く買物が不便。
- ・ 大田区も広いので、場所によっては緑の多い所、自然に近い場所が多いと思います。先日、平和島駅より東へ向かい歩いていたら、アスレチック広場があり、その先に海苔のふるさと館、またその先に人工の砂浜が広がっていて、大田に40年近く住んでいて初めて知りました。区民でも住んでいる場所によっては、知らない人が多いのでは。
- ・ まちなみが汚いと思いますので、きれいで魅力のあるまちなみづくりに期待。
- ・ 高層マンションができるとがっかりします。エレベーターが無くても暮らしていけるまちを目指してほしい。
- ・ マンションの設立について、高さなど考えてほしいです。
- ・ 全体的にあか抜けない感じがあり、もっとおしゃれで、国際的なイメージアップをしてほしいです。蒲田周辺など治安も悪い印象もある。誇りをもって安心して人にすすめられる区にしてほしいと思います。明るく健全なまちに！！
- ・ TVなどで、ボンビータウンと言われているところです。気力のないまちと思います。どうか、生きる事を楽しいと感じる心をもてるよう、切なる願いです。
- ・ 若年層がいなくて、まちの発展なしです。川崎市の武蔵小杉のように、若い家族が集まれば、地域が活性化し発展します。単に金銭補助ではない、若年層家族支援、定住推進の施策をしてほしいです。
- ・ 景観を損なうような、地域の反対を買うようなマンション建設はやめてほしい。地区全体の価値低下イコール区の価値低下につながり、また区に対しても不信感が残る。
- ・ 違反建築の取締り。
- ・ 無電柱化。

2. 交通網

- ・ 蒲蒲線の早期実現を望む。
- ・ バス路線の充実。

- ・ 大きな税金を投入して区民の使いにくい京急線になったと思う。平和島、大森町等かえって不便になったのはなぜ。平和島で大鳥居方向にむかうとき 20 分近く待つ時間帯ができた。通過旅客のために金を払うのは不本意。
- ・ 区の予算は、蒲蒲線などに使わず、教育や福祉に使ってほしい。
- ・ 現在の「蒲蒲線」の計画によると、メリットがあるのは、多摩川線だけで池上線利用者にとっては何のメリットも感じられない。それならば、両蒲田間を L R T で結ぶ方が良い。
- ・ 空港線特に品川方面行が不便になりました。急行を復活させてほしいです。
- ・ 蒲蒲線を実現させてほしい。
- ・ J R 京浜東北線の開かずの踏切のせいで東西の行き来が朝できず大変困っている。陸橋を造ってほしい！
- ・ 京浜急行を利用していますが、羽田中心になり、住民の生活の足は使いにくくなっています。海外からの観光客は大事ですが、羽田中心の京浜急行の方針に違和感をおぼえます。五年後のオリンピックのことを考えるととても不安です。
- ・ 交通の便が悪い。特に昼は、京急線京急蒲田駅に停まる電車が少ない。大田区は京急蒲田駅を建てる時にお金を出しているのだから、停まる本数を増やすべき。空港線も各駅停まる電車が少ない。
- ・ 新しい鉄道は必要でないのでは！
- ・ 蒲蒲線の情報が少なく理解しにくいです。本当にできるのですか？区報にのせてください。
- ・ 京急線が、羽田行、快特ばかり優遇してどんどん大田区民等の利用者に不便になっているのでなんとかしてほしいです。
- ・ 蒲蒲線の実現。
- ・ 交通をもう少し便利に。J R ・ 東急と京急 ・ 浅草線の相互利用しやすく。
- ・ 蒲蒲線を早く作ってほしい。
- ・ 六郷周辺はマンション ・ 戸建がどんどん建てられていますが、通勤時間帯の六郷土手、雑色駅のホームは大変混雑しており、これ以上同じ時間帯の人たちが増えた場合を考えると大変危険な気がします。空港線も交わる京急蒲田駅も同様です。
- ・ 蒲蒲線計画の中止。多摩川線の各駅に停まらない。通勤通学に不便。蒲田駅商店街も客が減る。J R の品川方面から貨物線の利用計画があり実現性有力。現在空港への直通バスがあり便利。
- ・ J R の交通網の拡充。京浜東北線のぜい弱さ。複線化もしくは、南北線の蒲田延伸。京急ダイヤの改悪をやめてほしい。大森駅の東西分断を改善してほしい。ジャーマン通りを第一京浜につないでほしい。
- ・ 蒲蒲線は、不要だと思います・・・。
- ・ 蒲蒲ピストンバスを区のサービスとして！！
- ・ 羽田空港へのアクセスがまだそこまで便利になっていないと感じる。たまちゃんバスと接続させるなど、地の利を生かした大田区ならではの便があると、便利だと思う。
- ・ 京急平和島駅、停車多く望む。
- ・ 蒲蒲線の整備を期待しています。
- ・ 他県から大田区へ越して来ましたが、とても住みやすい環境のまちだと感じています。17 時に流れるメロディーには驚きました。ただ、交通網が不便だと感じることもあるので、バス、私鉄等の本数を増やしてもらいたいです。
- ・ 東急線の終電を延ばしてほしい。

- ・ 上池上から蒲田に行くのに以前は田園調布から蒲田のバスが運行していた。このバス路線を復活してほしい。バス会社に申し入れをしてほしい。
- ・ 鉄道路線が中途半端、他自治体に比べ、立ち遅れているので推進してほしい。
- ・ 調布地域より羽田空港へのアクセスについて、近いようで不便なので、蒲蒲線の推進など交通網の整備をお願いします。
- ・ 「たまちゃんバス」について。人の動線を調査したうえで、鉄道駅（JR・都営地下鉄駅）を再考してほしい。現行のルートのみであれば、廃止も視野に入れるべきだと思う。
- ・ 大田区内から羽田空港へ行く交通手段をもっと直通バスを増やすなど便利にしてほしい。
- ・ 京急蒲田駅の入口が駅南の一ヶ所しかないのは困る。駅北側に住む私は駅が見えてから電車に乗るまで10分かかってしまい非常に不便。
- ・ 蒲田駅周辺の整備。JR蒲田駅と京急蒲田駅間が不便。
- ・ 近年、蒲田周辺ばかりが近代化され大森地区、特に馬込周辺は、忘れ去られた様に思えるのですが、オリンピックが開催されるにあたって現在の地下鉄を羽田方面へつなげる計画を立ててください。

3. 道路

- ・ 当たり前のように停めてある車で歩道が塞がれている状況をどうかしてほしい。
- ・ 主要道路の騒音対策。夜間、改造車やバイクの暴音に対して取締りを強化していただきたい。
- ・ 緑が多くて住みやすいまちなのに道路工事の跡が汚く道がでこぼこ、美観も損ない、バリアフリーにもなっていない。
- ・ 事業者による歩道・車道の不法使用。歩道に商品を並べる、車道で修理、洗車等の仕事、区も警察もなぜ見すごしているのか分からない。歩道を広くしても歩行者にはメリットがない。
- ・ まだ住んで3年ぐらいですが原付で走っていて一方通行が多くて慣れるのに大変でした。
- ・ 道路はきちんと整備してほしい。通称、医大通りの整備には時間がかかり過ぎ、どう考えているのか！！
- ・ 環七の道路が混雑しているので渋滞緩和をしてほしい。また細い道等で、電柱が飛び出ている所があり、介護車が通りにくい所があるので、電柱の場所の移動等を考えてほしい。
- ・ 道路が汚いです。
- ・ 歩行に危険なほど店先まで出している八百屋。何とかしてください。
- ・ 道路工事が多い。水道、ガス等、一度にできないのはわかるが、その度に道路を掘っているのでアスファルトがボコボコ。バリアフリーどころではない。
- ・ 住宅街では老朽化した道路が多いように思う。
- ・ 六郷土手駅前の道路の歩道が狭すぎて危険なため。歩道側に大きく張り出している建物の撤去、建て替え促進。
- ・ 救急、消防車両が通る道路に標識、電柱などがさまたげになり現場に到着する時間がかかる道路が多数みられるので、ぜひ改善してほしい。
- ・ 路地裏が狭すぎ。
- ・ 横断舗道の白線を白く塗ってください。剥げている場所が多く見受けられます。
- ・ 石川台駅前商店街の道路は段差が多く、高齢者がよくつまずいて転んでいるのを見かける。整備をお願いしたい。
- ・ 京急線近辺の道路状況を良くしてほしい。
- ・ 道路沿いの生け垣や樹木が交通標識を隠しているのが目につくので、はみ出さないよう指導を。

4. 公園

- ・ 洗足池公園のカラスの駆除。
- ・ お年寄りや子どものため、公園のベンチにもう少し木陰がほしいです。
- ・ 自宅近くに公園がありますが、自分が幼い頃は遊具も充実しておりとても楽しかったです。今は公園の真ん中に大きな木が植えられている。もう少し様々な状況を想定して、公園の設計をしてほしいなと思います。
- ・ 海岸を離れた所にも少し大きな公園があり、四季の花や緑をゆったりとした気持でくつろげると嬉しいです。
- ・ ボールが使える広場（公園）を増やしてほしい。
- ・ 地域特性を生かし家族で楽しめる海釣り公園を作っていただきたい。ただし単なるハゼ釣りだけではダメです。都内にはない大田区の特徴を出してほしい。
- ・ 公園の時計の時間がずれたまま…。トイレも利用する人の多くは車の運転手、男女兼用のトイレも多く子どもが利用するのに抵抗があり、使えない。
- ・ 公園に、運動遊具をもっと設置してほしいです。ぶら下がれる鉄棒や運動不足を解消できるものをお願いしたいです。東雪谷の昴公園はいつもお花がきれいで好きなのでそちらをお願いしたいです。
- ・ 山王地区に緑を水の公園を…。山王公園とてもG o o d！！でもそのお向かいの公園は蚊が多くてどうしようもないところ…。
- ・ 公園での遊び場が、高齢者の方に邪魔にされ、連日夕方以降も公園にいてたばこ吸ったりベンチで寝ていたり、とても遊べる場所ではありません。どうか今の子どもたちを大切にしてくださいと思います。
- ・ 税金は上がっても、私達の身近には何も反映されていないと感じます。子どもが楽しく遊べる公園が少なすぎます。水遊びのできる公園や日よけになる緑が少なすぎます。
- ・ 家の前に60坪にも満たない可愛い公園があり、日々色んな方が利用しています。中・高生の喫煙やバイクでのたまり場、夏休みに入り多くなる筈です。“防犯カメラ”の設置をお願いします。トイレのそうじの方々この暑い中、きれいにしてくださり感謝。
- ・ 最近の公園は、犬が入れない所が多いので、もっと、犬と一緒にゆっくりくつろげる緑の多い公園を増やしてほしい。犬と一緒に住みにくいまちにはならないでほしい。
- ・ 緑、公園を増やしてほしい。

5. 自転車対策

- ・ 駅前駐輪施設の充実。
- ・ 大岡山駅駐輪場を利用したいが満車で利用できない時が多い。他の駐輪場を利用するよう指示があるが駅より遠いうえに屋根もない。もう少し地下駐輪場の預り台数を増やせないか？
- ・ 駅前駐輪場を拡充してほしい。
- ・ 自転車専用レーンの整備。
- ・ 駅・商店街などに駐輪場（無料）が有ってもよいのではないのでしょうか？買い物するにしても、自転車で行くことができない商店街や駅前では、景観がよくても、まちが良くならないのでは。
- ・ 自転車対策。（駐輪、放置、歩道走行）
- ・ 道路の整備や道幅の拡張工事をよくみていますが、自転車道の整備をお願いします。また大型スーパー前やレストラン前の区道への駐輪に速やかに指導を。
- ・ 自転車専用道を設置してほしいです。

- ・ 自転車を止められる場所も少なく、駐輪場も増やしてもらいたいです。
- ・ 自転車に関する道交法の強化の一方、道路の整備が追い付いていないと感じます（例：自転車道の整備、歩道での通行帯案内・整備、自転車を除く車両一方通行道路でのカーブミラーの整備など）。
- ・ 蓮沼駐輪場に契約外のバイクが夜間に止められているので取締りをしっかりしてほしい。
- ・ 自転車用道路がガードレールなどで仕切られていると車から安全に守られると思う。

6. 住宅

- ・ 主人を亡くし一人暮らし、公営住宅に、何回も申し込んでも当たらない。何とか高齢者用住宅を考えていただきたいです。悲願しています。
- ・ 区民住宅の増設。年金暮らしの住宅。高齢者のバリアフリーの区民住宅。
- ・ 区営住宅を増やしてほしい。
- ・ 空き家対策として、税金を重くすることをのぞみます。住んでない住宅が10軒のうち3軒、草がぼうぼうです。
- ・ 都営住宅を長年申し込みしているが全然当たらない。
- ・ 単身者用小規模住宅ばかりが増え、ファミリーが思った程、増えていない。少子化対策も兼ね、ファミリー型マンションの開発もデベロッパーに呼びかけては。
- ・ 区営の高齢者用住宅を増やしてほしいと思う。
- ・ 10数年応募しつづけてきました。高齢者住宅に入居する事ができました事を心から感謝しています。ありがとうございました。
- ・ 今年の1月に新しい家に引っ越しをしたのですが、家を探すときにほとんどの家が子どもはダメなどで全く決まりませんでした。今の家は子ども1人だけという条件です。これから子どもを増やしたいのに住める所が少なすぎます。
- ・ 国民年金生活者、生活保護者また都営、区営住宅の入居者の差が大きいと思います。都・区営住宅の家賃など安すぎると思います。区ではこの様な問題はどの様に思っているのでしょうか？

7. 交通安全

- ・ 歩きスマホ・イヤホン、自転車のマナーが非常に悪い。
- ・ 交通の安全性と周辺環境の改善。
- ・ 環七と国道15号線の交差点の信号は、点滅が早くとても危険に感じます。歩行者がゆとりを持って渡りきれぬくらいの長さにされるか、歩車分離式にされた方が良いかと思います。
- ・ 夜信号無視する人が多いため、注意や対策をお願いします。
- ・ 私道の安全。
- ・ 車、自転車、歩行者の共存。特に通学路に自転車、バイク、車、植木等が置かれ子供達は車道を歩かざるを得ない場所が、数多くある。行政の力が警察と協力して何とかならないか！車いすで自由に動ける商店街もお願いしたい。
- ・ 多摩川土手付近、利用者の駐車が多々有る。子どもにとって危険である。治安悪化にもなる。土手でまれに、バイク乗入れ、走行するマナー違反が居るので、巡回を多くした方が良い。
- ・ 自転車や歩行者のマナーが悪い。観光都市を目指すなら、大田区民のマナーが悪いと思われぬ方が良いのではないかと。防犯も含めて、マナー向上を目指したい。
- ・ 自転車のマナーが悪すぎるので、保険加入の強制や講習の徹底や条例になる罰則強化を検討してほしい。

- ・ 自転車の危険運転が目立つ。特に若い子は細い道でもスピードを出し、散歩時怖く感じる。朝と夕の呑川沿いが特に！区でなんとかできないですか？
- ・ 中原街道歩道の自転車マナーがとても悪くて危険。警察と協力して指導を徹底してほしい。
- ・ 自転車に子どもを乗せたお母さん方、皆さん急いでいて、すごいスピードです。将来、こうした自転車の中を自分の子どもを歩かせなければならぬと思うと、少し躊躇してしまいます。もう少し工夫が必要だと思います。
- ・ 道路交通法が決まっても、未だ自転車の乗り方に違法だらけで、まちを歩くのに危険を感じております。細い通り道でも、下りる事なく乗ったまま、スピードを落とす事無く走って行きます。もう少しモラルを高める事も大事なのではと思う！！
- ・ 自転車の乗り方のマナーを取り締まってほしい。横暴です。傘をさしたままの走行も禁止のはずですが。
- ・ 自転車の歩道通行禁止の強化をお願いします。
- ・ 自転車のマナーが悪いので、ちゃんと取り締まってもらいたいです。
- ・ 大田区に限った事ではないが通常の広さの歩道では自転車が歩行者を追い越す事を禁止する。狭い通学路では便利に利用する自動車の最高速度を 10 km以下とする。
- ・ 自転車が多すぎて歩道が占拠されている。歩く人をかきわけて自転車が我がもの顔で通るのは毎日の通勤でいら立つ。よちよち歩きの幼児、お年寄りもフラついて歩いているのに危ない！
- ・ 高齢者にも自転車の指導をしてもらいたい。また、自転車に乗りながらスマホをしてる人も見かける。自転車の利用者が大田区は多いと思うので、交通ルール等に関して強化してほしい。
- ・ 自転車走行でのマナーが徹底されていないと思います。結構危険な走行をする人が多く、子ども連れには大変危険です。もう少し、標識なりで危険啓発活動をしてほしいです。
- ・ 自転車の交通ルールの徹底。徹底的に取締りを期待します。

8. 空港臨海部

- ・ 羽田空港周辺を充実させてほしい。
- ・ 羽田空港跡地の活用！！若い人の意見を聞く。
- ・ 空の玄関口のまちとして、公共性の高い施設への誘導（案内）をなお充実していただきたい。

9. 国際交流

- ・ 外国人との共住は結構だが、マナーが違いすぎる。（ごみ捨て・さわぐ）
- ・ 身近なところ（区施設表示、道路表示、地図板等）の外国語表示を今後も着実に進めてほしい。
- ・ お金を払わないで英会話ができるように外国人とのつながりを区が作ってほしい。
- ・ 道で見る外国人の方はマナーも無く不安を感じる事も。
- ・ 駅、道案内等に複数の外国語表記が多すぎると思います。駅の表記は日本語と英語で十分ではないでしょうか。
- ・ 近所にある外国人が経営する焼肉屋のにおいや排気音、言葉がわからず改善されません。これからはもっと多様な人が住むまちになるとは思いますが、皆安心して心穏やかに住みたいですね。
- ・ 外国人が増えるのは良いが、外国人がそれぞれ勝手な行動をするので、治安や生活環境の健全化は保たれてはいない様です。

- ・ 羽田空港近くで、国際交流のまちのイメージはあるけど、実際暮らしてみて、国際交流とは、ほど遠く感じています。身近に、学べる講座や講演会、お祭りなどがあれば、大田区も国際交流都市のイメージも持てるのではないのでしょうか？
- ・ 国際交流を進めるにあたり、特定の国に偏らず、広く交流してほしいです。

10. 産業

- ・ 大田区産業のより発展のため高齢者が支援できる環境を充実してほしい。
- ・ 零細企業、町工場への支援。
- ・ 身のまわりで聞く円高で困っている中小企業。大変だと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。
- ・ 羽田空港をはじめ大田区は鉄道網も充実し、国内外からの訪問者を迎えやすい。この地の利を活かして地域振興・産業振興を図るべきです。そして地元の町工場の技術を世界にアピールするのに、オリンピックの場を活用することもぜひ考えてほしいと思います。
- ・ 地域によって不便さを感じる。買い物難民は大田区にもあると思う。地域によって住みにくい。それが大田区だと思う。
- ・ もっと色々な店を増やしてほしい。
- ・ 最近個人商店、郵便局、銀行などが少なくなり不便を感じる事が多々あります。地域によりずいぶん偏っている様に思います。高齢者にとっては生活しづらいので行政でできる事が有ればと思います。
- ・ 大鳥居の周辺には、食品スーパーはあっても、スーパー内に衣料品などが入っていないことがあり、今は、川崎や、蒲田駅へ行きますが、年を老いてきたら不便になるだろうといつも思います。
- ・ 区境の所に住んでいます。大田区の住人になって50年。結構にぎやかな所でしたが、最近は淋しくなりました。子どもの声が聞こえなくなりました。お店も少なくなり不自由しています。
- ・ 西馬込駅は終点駅で住んでいる人も幅広いのにも、商業施設が少ない！！飲食店がない！！
- ・ プレミアム付商品券は働いている人にも買いやすいように工夫してほしいです。
- ・ 大型商業施設がほしい。

11. 観光

- ・ 日本を訪れる海外の方は、興味も行きたい所も各々ツールを上手に利用しているし日本人の友人と交流している。魅力はいっぱいある。
- ・ 観光については、大型の施設などの箱ものではなく大田区の小さな町工場や伝統文化など、身近な人々のリアルな姿を見せる、体験させることが、特に外国人の方に喜ばれると思います。空き家になった住宅をそのままホテルとして使ってもらうのも日本の住居を楽しめる方法になると思います。

<基本目標3 地域力と行政の連携がつくる人と地球に優しいまち>

1. 地域社会・文化

- ・ 戦争を体験した高齢者ですが、戦後70年の歴史を知ってもらいたい！！
- ・ 養護学校と小学校の子どもたちが出会えるイベント、行事がほしい！災害で避難した時、知り合いの方が助け合える。近所に住んでいるなら、知り合いたい！もちろん、親同士も！

- ・ 平日働いている人が、土日にイベントや文化活動に参加できるように考えてほしい。他自治体のように歴史がわかる案内板のようなものをもっと設置してほしい。
- ・ 文化活動、他自治体を参考に。
- ・ 以前住んでいた行政区に比べて、行政サービスがうすい。子どもの文化・スポーツ教室などにも全然取り組めていない。
- ・ 地域の人とつながりをもっと持ちたい。
- ・ 他自治体の人にも足を向けてもらうようなイベントをたくさん考えてほしい。現在ある施設を利用したり、工場や大学の見学、自然を利用したイベント etc。
- ・ 私は地域の町会の役員を長くやっておりますが、高齢の為、次に引き継ぐ人がいなく大変困っております。なにか名案はないのでしょうか。
- ・ 外国人でなくまず区民への対応を良くしてほしい。お年寄りが多いからもっと地域で助け合えるように学校教育、整備もしてほしい。
- ・ 本門寺でのイベントを増やしてほしい。
- ・ 引越ししてきて半年ちょっと、働いているので、あまり関わりがないです。区報も簡素化、もう少し、大人のセミナー関係、高齢者向けのセミナーもお願いします。(近所の文化センター等で)
- ・ アプリコでの文化催事が何をしているのか良く分からない、もっと音楽ホールとしてしっかりとした音楽団体を呼んでほしい。
- ・ 区民大会をもう少し盛り上がるようにしてほしい。

2. 区民施設

- ・ 現在他自治体の健康センター（1日500円）を利用しています。大田区にも身近にこの様な施設があるといいのですが。
- ・ 東工大内の施設を利用できるようにしてほしい。(図書、スポーツ)
- ・ 大田区の保養施設についても現役を退いた方ばかりの利用で一般の方がなかなか利用できてないと感じる事が多い。
- ・ 文化施設、区民の文化活動の支援。
- ・ 他自治体に隣接した場所に住んでいますが、区によって施設に差があると感じます。
- ・ 子育て、障がい、介護される人と手助けする人の為に、それぞれの交流できる場でなく、その人達が全て、数十分または小1時間でもいつでも立ち寄れる場所があったら助かると思います。
- ・ 住民税が高いのにスポーツ施設や医療など利用できる区の施設が充実していない。
- ・ 役所の食堂が高くてまずい。
- ・ 区施設の老朽化、新しくする時にはプールやジムなどを取り入れてほしい。

3. 防災

- ・ 津波に対しての避難計画が遅れているように感じる。内容もよくわからない。
- ・ 震災対策として地盤液状化への対策。
- ・ 防災無線は大切な事を言っているのだろうけれど、反響して何を言っているのかわからない事が多い。
- ・ 大規模災害時のシミュレーションを、生活への影響からより具体的に示していただき、実効性のある備えについて、啓発していただきたい。

- ・ 区境近くに住んでいるので、防災・防犯対策は（バリアフリーも？）隣接区との連携が必要だと思います。
- ・ 近所の方との付き合いはなく、共働きのためほとんど近所の方がわかりません。災害時、とても心配です。自分たちも何もしていないのは、アンケートをみて反省しました。
- ・ 地震への備え。
- ・ 地震時に於けるライフラインの確保と「迅速性」（水・食糧、電気 etc）の手立ての充実をお願いし、たく存じます。
- ・ 単身者にも配慮した施策（サービス）をお願いします。普段、地域の方やご近所の方との交流がほとんどないため、特に災害などが起こった時に困るのではないかと不安を感じることがあります。
- ・ 大地震が起きた時、津波でやられてしまうのか心配です。
- ・ 災害時、人口に対して、大田区は23区の中で1番避難所が少ないと聞きました。津波の心配もあります。海の近くの地域の為、とても心配です。対策を急いでほしいです。
- ・ 防災行政無線が聞き取りにくいと感じます。
- ・ 防災、防犯に関して、空き家の調査をして区で把握してほしい。持ち主もしくは区が空き家の管理（植木、枯葉など）を定期的にしてほしい。
- ・ 現在居住している地域は老朽化した民家が密集しているため災害時の火災を心配しています。

4. 防犯

- ・ 多摩川の駅から田園調布一丁目へ帰る時に坂道が大変なので、エスカレーターのような物がほしい。夜は公園側が非常に暗く、危険な為、交番の設置等、夜道でも安心して歩ける様にしてほしい。
- ・ 蒲田駅周辺の治安が悪い。街灯を暗い所に設置してほしい。
- ・ 防犯カメラ増設。死角になる様な場所へのミラー設置。
- ・ 大田区在住です。毎年、あやしい人が増えている様で孫達の事が心配です。
- ・ 夜駅近くを歩いていると客引きの見回りやおまわりさんがあちこちに立っていてくれたことがあって安心しました。日曜日など駅前のイベントは、とても楽しく行っています。
- ・ 蒲田駅西口には、浮浪者のような人が昼間からたむろしているので環境を改善してほしい。
- ・ 大田区は東京オリンピックの重要な場所ですが、今の住みやすい地域環境も良いので治安を崩さないよう力を入れて行ってください。
- ・ 犯罪抑止へのより一層の対策を求めます。
- ・ 治安の悪さが最も心配。様々な国の方々が住まわれており、それはそれで重要でしょうが、年々治安の悪さが進んでいるように思います。青少年への指導もしっかり行っていただきたい。
- ・ より安全なまちづくりに取り組んでほしい。
- ・ 保安パトロールを沢山、強化してほしい。
- ・ 身のまわりで聞く振り込め詐欺の話。大変だと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。
- ・ オリンピック、パラリンピックがあるので、治安の確保、子ども達の参加できる機会（特に障がいのある人）ができるとよいと思います。
- ・ 蒲田駅の治安をより良く。
- ・ 通学路や公園でのパトロールの充実。
- ・ 街灯が少なすぎます。夜、子どもが通ることを考えられません。
- ・ 誰もが安全そして安心して住めるよう、区一丸となって進めてほしい。政治だけでなく、区民も参加し、取り組めるものがあれば、区として更にアピールもできると思う。

- ・ 安全・安心メールの防犯情報で配信が遅すぎるのではないかとと思われることがある。1～2日前の情報が配信されても、児童・生徒の安全を守る観点からは遅いのでは？
- ・ 家の前後左右お年寄りが多く、防犯面で心配。
- ・ 夜間に外で騒ぐ迷惑な人達を取り締まれないか。

5. 環境・地球温暖化対策

- ・ 外来植物が異常な早さで拡散しているが、対応されているとは思えない。
- ・ 路上喫煙の厳罰化。
- ・ 洗足池で見かける外来種カメを駆除してほしい。
- ・ 歩きながらのたばこが多く見られます。他自治体と比べて遅れていると思います。
- ・ とても住みやすく、気に入っております。ただ、私の住んでいる地域は準工業地域なので、空気汚染のチェックや緑地を増やすなどの取組みをぜひ積極的にやっていただきたいです。
- ・ たばこの吸い殻まで言いませんが、道路に多数投げ捨てられています。道徳云々害あって利なし！ご自分の健康のためにやめてほしいです。
- ・ 呑川の悪臭、浄化設備の対策を行ってほしい。
- ・ 温暖化対策を推進してほしい。
- ・ たばこのマナーの周知徹底をしっかりとっていただきたい。歩きたばこをしている方はちっとも減っていない感じを受けます。子どもとか危ないです。
- ・ 歩きたばこの取締りを行ってほしい。
- ・ 緑が多いのは良いが管理ができていない場所がある。管理できないのであればやめた方が良い。特に京急蒲田立体駐輪場前の植え込み。伸び放題でゴミも多い。
- ・ 平和島ボートの騒音は何とかしてほしい！！消音エンジンに変える等の働きかけをしてほしい！！
- ・ 「緑」の増加も区の“うるおい”としてお願いいたします。
- ・ 路上喫煙者をもっと取り締まってほしい。
- ・ 蒲田～羽田間の空気が汚く、暑いので、空気の清浄・冷却対策をしてください。
- ・ 禁煙対策を全面的にしてほしい。
- ・ 歩きたばこをしている人が本当に多く子どもと一緒に余計に迷惑です。警察のパトロールをよく見かけますがそれでも意味がないと思います。もう少し対策を強化してほしいです。
- ・ 内川と呑川では浄化設備にすごい差があると思います。内川は空気を入れる装置や柵のデザインがお洒落だったり、呑川は自転車を捨てられていてもそのまま、ゴミが集まったままいつまでも清掃されず、くさいし、底にヘドロがたまっています。
- ・ 禁煙政策を推進するよりも、池上駅前のように各所に公衆灰皿を設置してほしい。
- ・ 泥河の清掃をしてほしい。
- ・ 喫煙マナーの指導効果が無いと思われます。自転車に乗っている時、歩いている時、風の強い時、条例で厳しい罰則を作ってほしい。
- ・ 喫煙マナーの周知徹底：ポスター・路面表示シート不足で歩き煙草の方が異常に多い。特に通勤時に駅まで喫煙。
- ・ 住宅街では個人の緑等を植えていますが、街路樹が少ない。
- ・ 区内の緑の土地を大切にしてほしい。
- ・ 他自治体・他県に比べ、くわえたばこをする人が多いと感じる。徹底的に取り締まってほしい。マナー以前に、吸いたくない煙を吸わされているし、通りが狭いため“火”が近くを通り非常に危険。

- ・ 蒲田駅周辺での歩きたばこを週2回位見るので、禁煙の徹底対応。
- ・ 路上禁煙の徹底と、喫煙場所の確保。喫煙場所については、人が集まらない場所などにも確保する一方、喫煙許可場所以外での喫煙の徹底取締りを希望します。
- ・ 引っ越してきたばかりですが、歩きたばこの多さにガッカリしています。
- ・ カラス対策も引き続き強化してほしい。
- ・ 歩きたばこ、ポイ捨てが多い。
- ・ たばこのポイ捨て対策。
- ・ カラス問題。

6. ごみ・リサイクル

- ・ ごみの分別の徹底を図ってほしい。
- ・ 日曜朝の蒲田駅周辺はカラスが食い破った袋から出たごみで無残な状態である。
- ・ 不法ごみを放置しないでほしい。
- ・ ごみ集積所の乱れ方がひどい。不法投棄が多く、粗大ごみも多い。大田区総合体育館で大きなイベントが有る時は利用者の9割が通る道。大田区=きたない、ごみが多いというイメージが付くと思う。歩道の半分を占めていて、朝の通勤、通学ラッシュの時は非常に危ない。外国人がごみ出しルールを知らないのでは？とも思う。英語、中国語、韓国語の大きなルール看板を付けてはどうか？
- ・ 区政についてはあまり意見はないんですが、道路の脇にごみが散乱してとても不愉快でなんとかならないでしょうか。カラスの被害だけではなくモラルの問題だと思います。
- ・ 道路・川・公園などでごみが多い。
- ・ 公園にごみ箱がなく、ごみが散乱していることが多い。道路の脇の生垣に、カン、びん、その他のごみが放置されている。生活する人のモラルとは思いますが、見苦しい。
- ・ ごみのポイ捨て対策。
- ・ ごみの夜間回収を始めてほしい。
- ・ 廃品回収の日に物を持って行ってしまう業者を、この区に来て初めて見ました。それも沢山いて驚きました。
- ・ マンションや共同住宅（コーポ）のごみ出しがとても悪いのでごみの出し方や、ごみ出しの日以外に出す人などの注意を公に行ってほしい。
- ・ リサイクルの抜き取りも多いです！！

7. 広報

- ・ 多岐にわたり多様な行政サービスを今後も一層区民に周知するよう努めてほしい。
- ・ 今はパソコンがないと情報が手に入りにくくなりました。パソコンもスマホも全員が持っている訳ではありません。もっといろんな方法で情報公開してほしい。区報もふくめて。
- ・ ホームページをもう少し見やすくしてほしい。
- ・ 区政に関する色々な事業等、或いは市民に知らせたい重要な情報！
- ・ 区情報誌カタカナが多い。言葉の意味が、わからない。字数は多くなるが、日本語で説明してみてもいい。関心が高まるのでは…。
- ・ 区政について知らない事が、多すぎたので、特に意見はありません。積極的に情報を発信していただけたらと思います。

- ・ 23 区内の色々な区の特別な活動などをテレビなどで知ることがあるが、大田区の事は何事も配信される事がないと云う事は、大した区ではないのではと不満と愚痴を並べています。
- ・ 区報の町会配布を新聞折込み、出張所に置く等に変更してください。町会通しての「行政消防、区自治会等」のお知らせがバラバラにくるので回覧がわずらわしい。月 1 回とか、まとめてください。
- ・ インターネット等には年輩者はなかなかついていきにくいので、やはり区報等、文字報道がまだまだ必要ではないでしょうか。
- ・ 正直、大田区に住んでいるが家にいることが少ないので、知る機会が全くなかったし、興味もなかったもので、どの事業も初めて知るものばかりだった。
- ・ 区議会や区政の今の課題や近未来の課題など区報にもう少し細かくのせてほしい。
- ・ 今の情報はインターネットとか、メールとか、パソコンを使っての情報が多いため、困ります。家では使っていないので…。
- ・ いい条例が制定されても守らなければ意味がないのかなと思わせる事が度々あります。「こんな条例があるのを知っていますか？守らないとこんなペナルティがありますよ。」と何例か、みんなの目に触れやすい所に貼り出してほしいです。
- ・ 大田区 Twitter があるのをはじめて知りました。良い取り組みだと思います。イベントの情報などは Facebook のほうが優れていると思うので Facebook も始めてほしいと思います。
- ・ 大田区の特徴（工場・空港など）を活かした PR ができるといいのでは。
- ・ 普段はあまり意識していませんが、必要な時に必要な情報が得られることと、必要でない時にも大切な情報が得られることが大切。

8. 広聴

- ・ とにかく、今回の設問は古いです！！何年何十年前の問題を今やっているのですか？全く信用できない区政です！
- ・ このアンケートの活かし方を知りたい！
- ・ このアンケートの質問事項を見て大田区の行政のレベルの低さに驚愕した。

9. 職員

- ・ 納税の相談の際、男性職員の方の高圧的な話し方にショックを受けた。
- ・ 区役所の対応が部門によって不親切。不要な人材は、カットし区政の為に予算を回してほしい。
- ・ 区役所職員の対応が、人それぞれに大きな違いがありすぎ。個々の性格などもあるとは思いますが、少なくとも知識の統一はしておいていただきたいです。
- ・ まずは職員の質を向上してください！

10. 税金

- ・ 住民税が高い。
- ・ これからの人口減に対し不要となったサービスを削減し住民税を下げることも考えてはどうか。
- ・ 区外で働いているため、区政の恩恵をまったく感じられません。住民税を納めていても、行政サービスも利用しないため何に使われているのかまったくわかりません。
- ・ 区役所の対応が丁寧だったり、図書館や区民ホール・公園などの施設が充実していて良いと思うが、区民税が高すぎると思う。多少であればサービスの質が下がっても構わないので、節約する努力をしていただきたい。

- ・ 住民税をもっと低くしてほしい。他自治体に比べ、高く感じる！！
- ・ 納めている住民税がどのように活用されているかに興味があるので、大田区の財政（決算）のバランスシートが見たい。財産目録が見たい。
- ・ 税金を無駄に使わないでほしい。
- ・ 子育て支援や、福祉の充実など税金を大切に使ってほしい。
- ・ オリンピック、パラリンピックと、さわいでいるのは一部の人のみ。住民の生活のために税金を使ってほしい。
- ・ 税金を支払っているわりには、何もいいことがない。取られてばかりでイヤになる。こんなことから区民税は支払いたくない。

11. 議会

- ・ 議会の内容がまったく入ってこない。
- ・ 議員の人数を減らす。
- ・ 区議会議員の報酬や政務活動費に対する徹底した情報公開を望む。
- ・ 区長も3期をむかえ、なお一層の活躍を期待します。区議会の活動がわかりづらいです。
- ・ 区議会議員が多すぎると思いますので、定数を削減して、その予算を力を入れるべき施策に回してほしいです。
- ・ 区議会の議員の数が多すぎると思います。

12. 選挙

- ・ 区議選の投票率の低さが気になりました。
- ・ 区議会議員選挙の際、いつも思うのですが、どういった政策、何に最も力を入れたいのか等、投票の参考にしたい情報が手に入られず困ります。例えば区報号外のような形で立候補者全員の紹介記事を作ってもらえると助かります。

13. 国保・年金

- ・ 1年分を通して、医療費のお知らせを随時もらえれば、国保の不正利用を阻止することもできるし、安心できます。早急に見直しを要求します。
- ・ 国民健康保険料が高額で区政は区民の本当の姿を理解しているのか……。現状をしっかりとみてほしい。

14. その他

- ・ パフォーマンスの様な施策でなく、実際に住民と地域に密着した施策の充実を。
- ・ 法の整備。
- ・ 事務的で頼りにならない。建前だけで無理。
- ・ 他自治体と比べると行政サービスが全体的に劣っていると思う。
- ・ 区の男女、老、若、子などに偏らない区政にしてほしい。
- ・ この調査に参加させていただきまして考えさせられる事が多く勉強になりました。なにしろ私は80才すぎ。今後の事は孫や子の事を願って生きる事です。政治、区政の事は国民の声を聞き穏やかに行ってくださる事を希望します。

- ・ 区民一人一人に、特に社会的弱者に寄り添ってくれるような温かな区であってほしいなと思います。
- ・ これからも住民にとって優しい大田区であってほしいです。
- ・ 無駄を省き区民のためになる区政をよろしくお願いします。
- ・ いざとなった時に区民が安心して頼れるよう、普段からしっかり働いてください。目に見えない事に対して努力する事は、むずかしいと思います。でも目に見えない安心安全に対して、税を払っている私達も同じです。いざとなった時に何をしてくれるか、楽しみです。
- ・ 羽田空港の国際化、オリンピックに便乗したお祭り騒ぎの場当たりの区政より、2020年以後を見据えた、区民の為の政策を実行してほしい。

IV 調査結果の概観

IV 調査結果の概観

1. 定住性

ここでは、定住意向（問2）と生活環境の満足度（問4）をクロス集計し、定住意向・転出意向を持つ区民の満足・不満足的项目を明らかにしていく。

問2の選択肢を下記に置き換えて集計する。

「ずっと住み続けたい」、「当分は住み続けたい」：定住意向のある人

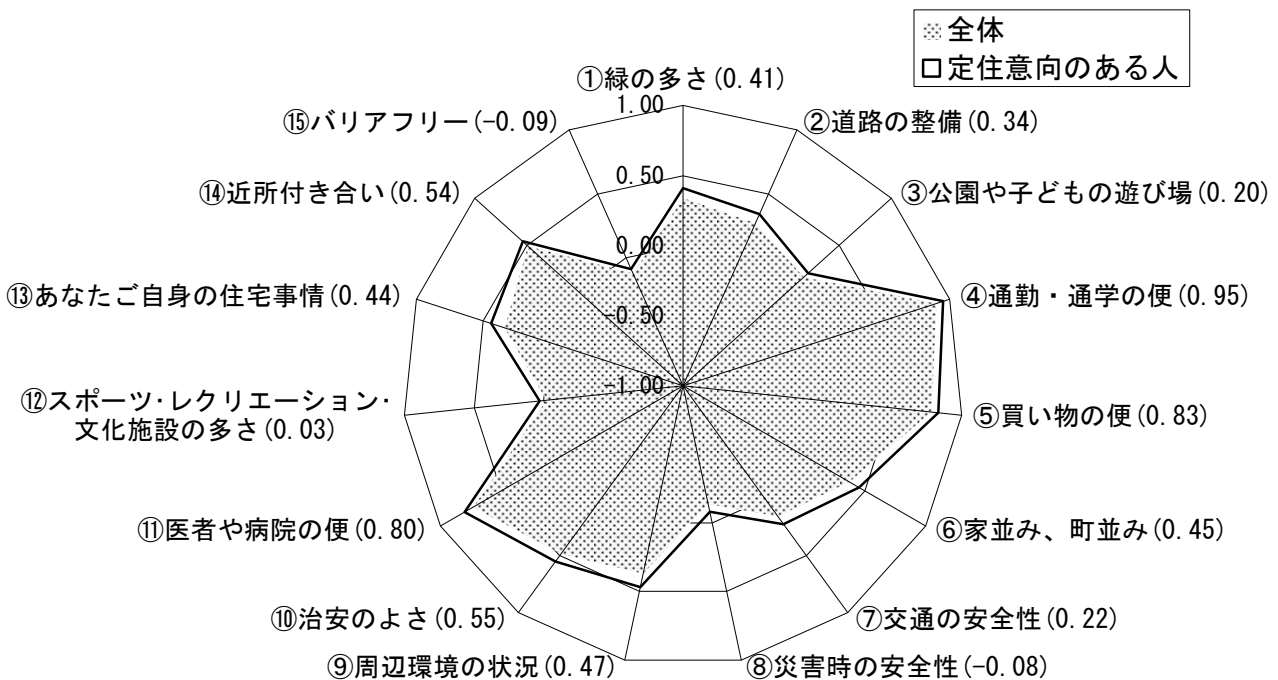
「できれば大田区外へ移りたい」、「大田区外へ移りたい」：転出意向のある人

また、46 ページで求めたと同様に、15項目にわたる生活環境の満足度の比較をしやすいするため、それぞれの回答を点数化し、下記の計算式で各項目の評価点を求めた。

$$\text{評価点} = \frac{(\text{再掲}) \text{「満足している」} \times 2 + \text{「ほぼ満足している」} \times 1 + \text{「少し不満である」} \times (-1) + \text{「不満である」} \times (-2)}{\text{回答者数}}$$

【定住意向のある人】

問2：「ずっと住み続けたい」、「当分は住み続けたい」と回答した人（n=929）

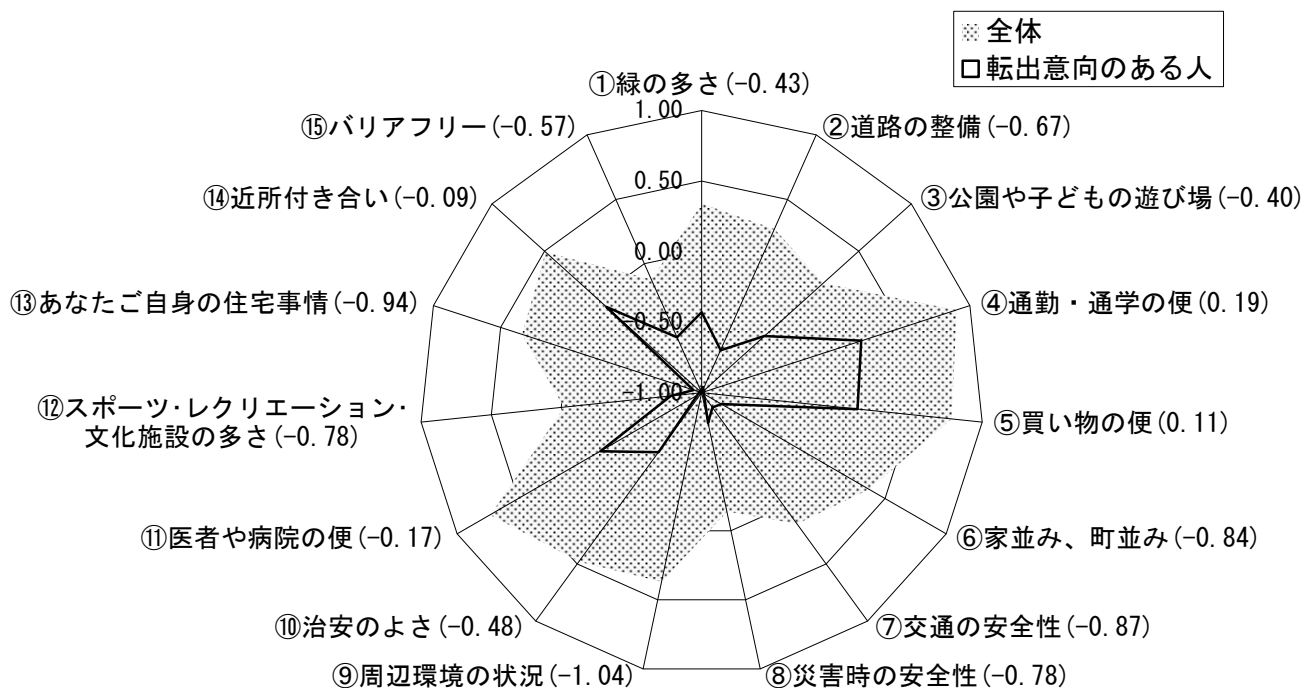


全ての項目で全体を上回っており、特に「周辺環境の状況」（0.47）と「あなたご自身の住宅事情」（0.44）がともに0.10ポイント上回っており、評価が高くなっている。

一方、全体より評価は高いものの、“定住意向のある人”の中で評価の低い項目は、「バリアフリー」（-0.09）、「災害時の安全性」（-0.08）、「スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ」（0.03）の順となっている。

【転出意向のある人】

問2：「できれば大田区外へ移りたい」、「大田区外へ移りたい」と回答した人（n=48）



全ての項目で全体を下回っており、特に「周辺環境の状況」(-1.04)が1.41ポイント、「あなたご自身の住宅事情」(-0.94)が1.28ポイント、「家並み、町並み」(-0.84)が1.21ポイント、「交通の安全性」(-0.87)がともに1.02ポイント下回っており、評価が低くなっている。

一方、全体より評価は低いものの、“転出意向のある人”の中で評価の高い項目は、「通勤・通学の便」(0.19)、「買い物の便」(0.11)、「近所付き合い」(-0.09)の順となっている。

【評価点一覧】

問4 生活環境の評価	全体 評価点	定住意向のある人 評価点	転出意向のある人 評価点
①緑の多さ	0.34	0.41	-0.43
②道路の整備	0.27	0.34	-0.67
③公園や子どもの遊び場	0.16	0.20	-0.40
④通勤・通学の便	0.90	0.95	0.19
⑤買い物の便	0.78	0.83	0.11
⑥家並み、町並み	0.37	0.45	-0.84
⑦交通の安全性	0.15	0.22	-0.87
⑧災害時の安全性	-0.14	-0.08	-0.78
⑨周辺環境の状況	0.37	0.47	-1.04
⑩治安のよさ	0.48	0.55	-0.48
⑪医者や病院の便	0.73	0.80	-0.17
⑫スポーツ・レクリエーション・ 文化施設の多さ	-0.02	0.03	-0.78
⑬あなたご自身の住宅事情	0.34	0.44	-0.94
⑭近所付き合い	0.49	0.54	-0.09
⑮バリアフリー	-0.12	-0.09	-0.57

「通勤・通学の便」、「買い物の便」は定住意向の有無にかかわらずプラスの評価となっており、今後もこの水準を維持していきたい点と考えられる。一方、「災害時の安全性」、「バリアフリー」は定住意向の有無にかかわらずマイナスの評価となっており、改善が必要な点と考えられる。

大田区政に関する世論調査

平成27年12月発行

発行 大田区 区長政策室 区民の声課

東京都大田区蒲田五丁目13番14号

電話：03-5744-1135

FAX：03-5744-1504

実施機関 株式会社エスピー研

東京都千代田区飯田橋三丁目11番20号

電話：03-3239-0071（代表）

FAX：03-3239-0072
